

# 人文社会学科

開設科目	人間論入門	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	アラム、脇條、古荘、高木、林(文)、豊澤、柏木				

- 授業の概要 この講義では、人間論コースの教員全員が交代で2回ずつ授業を担当します。それぞれの教員が専門とする学問分野が扱う実際の内容に接することが、人間論への最良の案内となると考えます。／  
検索キーワード 人間論、哲学、倫理学、宗教学、中国哲学、日本思想
- 授業の一般目標 人間論コースの各分野（哲学、倫理学、宗教学、中国哲学、日本思想）が扱うテーマとそれに対するアプローチの方法の概要を理解する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 各分野の扱うテーマとそれに対するアプローチの方法の概要を理解する。 思考・判断の観点： 各分野にふさわしい思考、判断ができるようになる。
- 授業の計画（全体） 哲学（脇條）、倫理学（古荘）、宗教学（アラム）、中国哲学（高木、林）、日本思想（豊澤、柏木）の各教員がそれぞれ2回の授業担当の予定。各教員の専門分野から入門に適した内容を取りあげて講義を行う。
- 成績評価方法（総合） 各教員ごとにレポート（あるいは試験）を課し、合計点を100点に換算する。出席80%程度必要。
- メッセージ 人間論ってどんな勉強をするんだろう、と思っている皆さんにより導入となる授業にしたいと思います。

開設科目	哲学概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	脇條靖弘				

- 授業の概要 この講義では西洋哲学の基本問題のいくつかを取り上げ、それぞれの問題において一体何が問われているのか、それに対して哲学者たちがどのような答えをしてきたのかを学びます。／検索キーワード 哲学、必然的真理、科学、自由、心と身体、神
- 授業の一般目標 最終的には受講生が各自でそれぞれの問題に関心を持ち、それに解決を与えようと努力すること、つまり「哲学すること」に向けての基盤作りができればと考えています。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 西洋哲学の基本問題を理解する。 思考・判断の観点： 哲学的な思考ができるようになる。
- 授業の計画（全体） 「必然的真理」、「科学的知識」、「因果と自由」、「心身問題」、「神の問題」などの基本的な哲学の問題を取り上げ、それに対する諸哲学者の試みを概観する。
- 成績評価方法（総合） 試験による。
- 教科書・参考書 教科書： プリントを配布する。
- 連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	脇條靖弘				

- 授業の概要 哲学の特定の問題を一つ取り上げ、諸哲学者の議論を手掛りにその解決の道を探究する。／  
検索キーワード 哲学
- 授業の一般目標 一つの哲学的問題について深く探究する
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： とりあげた問題とその解決の試みを理解する。 思考・判断の観点： その問題について哲学的考察を加える。
- 授業の計画（全体） 空間、時間は実体的なのかと関係的なのか、時間と因果性の方向性等、時間空間と時間に関する諸問題のうち、一つを取り上げて講義する。
- 成績評価方法（総合） レポートによる。
- 連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	脇條靖弘				

- 授業の概要 哲学の特定の問題を一つ取り上げ、諸哲学者の議論を手掛りにその解決の道を探究する。／  
検索キーワード 哲学
- 授業の一般目標 一つの哲学的問題について深く探究する
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： とりあげた問題とその解決の試みを理解する。 思考・判断の観点： その問題について哲学的考察を加える。
- 授業の計画（全体） 空間、時間は実体的なのかと関係的なのか、時間と因果性の方向性等、時間空間と時間に関する諸問題のうち、一つを取り上げて講義する。
- 成績評価方法（総合） レポートによる。
- 連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	脇條靖弘				

- 授業の概要 この授業では、英語で書かれた現代の哲学の文献を読みます。／検索キーワード 哲学
- 授業の一般目標 英語圏の哲学の文献を読むのに慣れる。哲学用語やそれが表現する哲学に特有の概念を理解し、議論の展開を追うことができるようになる。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 哲学用語や概念を理解する。 思考・判断の観点： 哲学的議論の展開を追うことができる。
- 授業の計画（全体） 何を取り上げるかは未定ですが、評価の高い基本的な論文を取り上げたいと思います。
- 成績評価方法（総合） レポートによる。
- 連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	脇條靖弘				

- 授業の概要 この授業では、英語で書かれた現代の哲学の文献を読みます。／検索キーワード 哲学
- 授業の一般目標 英語圏の哲学の文献を読むのに慣れる。哲学用語やそれが表現する哲学に特有の概念を理解し、議論の展開を追うことができるようになる。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 哲学用語や概念を理解する。 思考・判断の観点： 哲学的議論の展開を追うことができる。
- 授業の計画（全体） 何を取り上げるかは未定ですが、評価の高い基本的な論文を取り上げたいと思います。
- 成績評価方法（総合） レポートによる。
- 連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋哲学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	脇條靖弘				

- 授業の概要 プラトン、アリストテレスなど、古代ギリシア哲学の主要な文献を読みます。／検索キーワード 古代ギリシア哲学
- 授業の一般目標 古代ギリシアの哲学者の議論を綿密に追うことで、その思索の筋道を理解する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 取り上げた哲学的議論を理解する。 思考・判断の観点： 取り上げた問題について哲学的考察を加える。
- 授業の計画（全体） 前期は、主に日本語訳をもちいて学生がテキストを分担してレジュメを作成、発表した後、ディスカッションを行います。
- 成績評価方法（総合） 授業中の発表、あるいは、レポートによる。
- 連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	西洋哲学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	脇條靖弘				

- 授業の概要 前期に取り上げた古代ギリシアのテキストに関連する二次文献を読む。／検索キーワード 古代ギリシア哲学
- 授業の一般目標 古代の文献に関して現在なされている哲学的議論を理解する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 取り上げた二次文献の議論を理解する。 思考・判断の観点： 取り上げた文献について哲学的考察を加える。
- 授業の計画（全体） 各自が二次文献を一つ（ないし複数）担当し、要約を作成して授業中に発表する。
- 成績評価方法（総合） 授業中の発表、あるいは、レポートによる。
- 連絡先・オフィスアワー 人文学部 tel: 933-5222 e-mail: yasu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	倫理学概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	古荘真敬				

- 授業の概要 「善と悪」「正義」「幸福」「社会契約」「自由」等に関する西洋倫理思想史上の諸見解を批判的に検討しつつ、「倫理」をめぐる私たちの思考の隘路からの脱出口を探る。
- 授業の一般目標 「善悪」「幸福」「自由」をめぐる私たちの理解の根本前提をあらためて問いなおす。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 西洋倫理思想史に関する基礎的知識を獲得する。 思考・判断の観点： 「倫理」の基礎に関する原理的な思考をみずから展開する。
- 授業の計画（全体） 教科書を批判的に読解していく。
- 成績評価方法（総合） 期末試験で評価する。
- 教科書・参考書 教科書： 『倫理とは何か-猫のインジヒトの挑戦』, 永井均, 産業図書, 2003 年
- メッセージ 教科書の予習が必須です。
- 連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	倫理学原理論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	古荘真敬				

- 授業の概要 人間として生まれ、生き、死に逝く・・・とは、いったいどういうことなのだろうか。幾人かの論者たちによる問題提起を検討しながら、私たちの「生」と「死」をめぐる若干の原理的考察を試みたい。
- 授業の一般目標 生・死という観念のうちに映る私たちの現実を、哲学的に掘り下げる。
- 授業の計画（全体） 生と死をめぐる展開された幾つかの論考を紹介し、批判的に検討していく。
- 成績評価方法（総合） 期末レポートで評価する。
- 教科書・参考書 教科書：教科書は用いないが、授業中に指示する参考書を各自積極的に読解することが望ましい。／参考書：『無為の共同体』, J.-L. ナンシー, 以文社, 2001 年；『ホモ・サケル』, G. アガンベン, 以文社, 2003 年；『私的所有論』, 立岩真也, 勁草書房, 1997 年；その他、適宜紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	倫理学原理論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	古荘真敬				

- 授業の概要 人間として生まれ、生き、死に逝く・・・とは、いったいどういうことなのだろうか。幾人かの論者たちによる問題提起を検討しながら、私たちの「生」と「死」をめぐる若干の原理的考察を試みたい。
- 授業の一般目標 前期の授業に引き続き、生・死という観念のうちに映る私たちの現実を、哲学的に掘り下げる。
- 授業の計画（全体） 前期の授業に引き続き、生と死をめぐる展開された幾つかの論考を紹介し、批判的に検討していく。
- 成績評価方法（総合） 期末レポートで評価する。
- 教科書・参考書 教科書：教科書は用いないが、授業中に指示する参考書を各自積極的に読解することが望ましい。／参考書：『無為の共同体』, J.-L. ナンシー, 以文社, 2001 年；『ホモ・サケル』, G. アガンベン, 以文社, 2003 年；『私的所有論』, 立岩真也, 勁草書房, 1997 年；その他、適宜紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	倫理学原理論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	菊地恵善				

- 授業の概要 現代哲学に大きな影響を与えた哲学者ニーチェ（1844?1900）を取り上げ、認識論や存在論や倫理学などの基礎に対する、その根本的な問い直しの意義を検証する。特に、その後期の遺稿に注目して、そこにかがわれる思索の方向を見定めたい。／検索キーワード 価値、解釈、存在
- 授業の一般目標 テキストを読み解くことと、自分で考えることとを結びつけること。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：哲学的な問いを理解すること。 思考・判断の観点：その問いに参加して、自分の思考を進めること。
- 授業の計画（全体） おおよそ次の四つの段階で講義を進める。1．ニーチェの道徳批判、2．力への意志と遠近法主義、3．力への意志と永遠回帰思想の関連、4．現代哲学への影響。
- 成績評価方法（総合） レポートによる。但し、講義回数の半分以上に出席した者のみにレポート提出を認める。
- 教科書・参考書 教科書： 特になし。／参考書： ニーチェ全集（ちくま学芸文庫）など。
- 備考 集中授業

開設科目	倫理学講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	古荘真敬				

- 授業の概要 ハンナ・アレント『人間の条件』を読む。
- 授業の一般目標 ハンナ・アレント『人間の条件』の精密な読解を通じて、人間存在の本質をめぐる考察を深める。
- 授業の計画（全体） 毎回、レポーターを決め、テキストの担当箇所（あるいは課題）についての報告を行なってもらいながら、テキストを読み進めていく。
- 成績評価方法（総合） 授業内レポートによって評価する。
- 教科書・参考書 教科書：『人間の条件』, H. アレント, ちくま学芸文庫, 1994 年； 原書（英語）のコピーを適宜配布します。
- メッセージ 教科書の予習が必須です。
- 連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	倫理学講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	古荘真敬				

- 授業の概要 ハンナ・アレント『人間の条件』を読む。
- 授業の一般目標 ハンナ・アレント『人間の条件』の精密な読解を通じて、人間存在の本質をめぐる考察を深める。
- 授業の計画（全体） 毎回、レポーターを決め、テキストの担当箇所（あるいは課題）についての報告を行なってもらいながら、テキストを読み進めていく。
- 成績評価方法（総合） 授業内レポートによって評価する。
- 教科書・参考書 教科書：『人間の条件』, H. アレント, ちくま学芸文庫, 1994 年； 原書（英語）のコピーを適宜配布します。
- メッセージ 教科書の予習が必須です。
- 連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	西洋倫理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	古荘真敬				

- 授業の概要 ベルクソン『意識に直接与えられたものについての試論』を読む。
- 授業の一般目標 「時間」と「自由」についての哲学的考察を深める。
- 授業の計画（全体） 毎回、レポーターを決め、テキストの担当箇所（あるいは課題）についての報告を行なってもらいながら、テキストを読み進めていく。
- 成績評価方法（総合） 授業内レポートによって評価する。
- 教科書・参考書 教科書：『意識に直接与えられたものについての試論』, ベルクソン, ちくま学芸文庫, 2002 年； 原書（フランス語）のコピーを適宜配布する。
- メッセージ 教科書の予習が必須です。
- 連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	西洋倫理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	古荘真敬				

- 授業の概要 ベルクソン『意識に直接与えられたものについての試論』を読む。
- 授業の一般目標 「時間」と「自由」についての哲学的考察を深める。
- 授業の計画（全体） 毎回、レポーターを決め、テキストの担当箇所（あるいは課題）についての報告を行なってもらいながら、テキストを読み進めていく。
- 成績評価方法（総合） 授業内レポートによって評価する。
- 教科書・参考書 教科書：『意識に直接与えられたものについての試論』, ベルクソン, ちくま学芸文庫, 2002 年； 原書（フランス語）のコピーを適宜配布する。
- メッセージ 教科書の予習が必須です。
- 連絡先・オフィスアワー furusho@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	中国哲学史 III	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	高木智見				

- 授業の概要** まず古代中国を学ぶ目的や意義を明示し、さらに中国の新石器時代から漢代にかけての歴史・文化を、最新の出土資料ならびに伝来文献を用いて概観したうえで、諸子百家の思想を理解することにつとめる。中国の学問は、哲学、歴史、文学というように明確に区分できず、全てが渾然一体となっている。この授業では、将来どの専門に進む場合にも必要な中国文化の本質に関する基本的知識を提供する。  
／検索キーワード キーワード 古代中国、考古学、神話学、甲骨文、金文、木簡、四書五経、諸子百家
- 授業の一般目標** 中国文化が形成された先秦時代の各段階、すなわち原始村落（新石器時代）、邑制国家（夏殷周）、領域国家（春秋戦国）、統一帝国（秦漢以降）について明確なイメージを描き出し、中国古代の思想や文化を歴史的な文脈に即して理解できるようにする。
- 授業の到達目標**／知識・理解の観点：中国古代について全般的な知識を獲得する。漢文や中国語の原初の段階にさかのぼって、それらに慣れ親しむ、思考・判断の観点：中国古代の理解を例として、他者理解の前提は、自己の価値観から自由になるということであるという異文化理解の観点を学ぶ 関心・意欲の観点：いま盛んに持て囃されているのは、アメリカと現代であるが、中国、古代という対極にある世界にも、豊かで、深く、すばらしい文化が有ったことを感じ取り、人間の文化・社会全体に対する見方を広げる。
- 授業の計画（全体）** 新石器時代に関しては神話ならびに考古学、夏殷周については甲骨金文、春秋戦国については木竹簡、秦漢以降については帛書といった新出土史料を詳しく解説して時代状況を明らかにしたうえで、経書や諸子などの文献史料の内容を解釈・説明する。
- 成績評価方法（総合）** 基本的にレポートによる。講義の内容を咀嚼したうえで、論理力および構想力により、どれほど自らの意見を表現し得ているかによって評価する
- 教科書・参考書** 教科書：プリント配布
- メッセージ** 原史料に直接触れて、古代中国の世界を身近に感じられる講義を目指す。
- 連絡先・オフィスアワー** 連絡先・オフィスアワー 人文学部5階 金曜日15時から16時

開設科目	中国哲学史 IV	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	林文孝				

●授業の概要 中国歴代の政治思想から時代を追って特徴的なトピックスを取り上げ、権力をめぐる思考の痕跡を確認していく。

●授業の一般目標 1. 政治思想の側面から見た中国思想史の概要を理解する。2. 中国思想において、権力をめぐる思考された個々の問題を理解する。3. 異文化の思想伝統に触れることをつうじて、人間にとって知的営為が持ちうる意味と可能性を考える姿勢を養う。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 中国思想史の通説的時期区分を説明できる。2. 授業で取り上げる個々の問題について、政治思想上の意味を説明できる。思考・判断の観点：1. 授業で取り上げる個々の思想的営為について、その論理を再構成し、批判的に検討できる。2. 異文化の思想をつうじて、自分の思考の暗黙の前提を自覚し、相対化できる。関心・意欲の観点：1. 異文化の思想伝統に関心をもつ。

●授業の計画（全体）序論につづき、一回に一つの話題を取り上げていく。前回の復習を兼ねて授業内レポートを実施する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序論
- 第 2 回 項目 天下統一の思想
- 第 3 回 項目 いわゆる儒教の国教化について
- 第 4 回 項目 無の政治学
- 第 5 回 項目 仏教・道教と政治
- 第 6 回 項目 権力の歴史性について
- 第 7 回 項目 復古主義の可能性
- 第 8 回 項目 修己治人の思想
- 第 9 回 項目 天下・国・家の行方
- 第 10 回 項目 公・私の再定義
- 第 11 回 項目 「封建・郡県」論
- 第 12 回 項目 欲望は調整できるか
- 第 13 回 項目 大同主義の困難
- 第 14 回 項目 予備日
- 第 15 回 項目 試験

●成績評価方法（総合）1. 知識・理解の確認のため授業内レポートを実施し、計 30 % で評価する。2. 期末試験を行い、70 % で評価する。3. 欠席回数が 5 回以上の者には単位を与えない。

●教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。／参考書：儒教史, 戸川芳郎他, 山川出版社, 1987 年

●連絡先・オフィスアワー fumitaka@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 5 階

開設科目	中国思想史論	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	高木智見				

- 授業の概要 先秦時代の様々な個別の事象を、大きな歴史的背景の中に位置づけて理解する。言うまでもなく、先秦時代は、時代・地域・民族という三重の意味で異文化世界に属する。そのような世界の人々の行動や言説を理解するには、一旦、現代人としての価値観を棚上げにして、当時の人々の論理に即して理解する必要がある。本講義は、このような意味において、異文化理解の一つの試みである。本年度は、前年に引き続き、当時の祭祀、戦争などの具体的な状況を明らかにすることにより、国家ならびに支配者と民衆の関係を、その親和的側面に着目して考察する予定である。この講義は、私の日々の研究の内容をそのまま提示して、研究論文の作成の一例としても見てもらいたい。／検索キーワード 古代中国、国家共同体、君主、民衆、
- 授業の一般目標 講義を通じて、つまり史料の解読を通じて、先秦時代というはるか彼方の世界の人々が作りあげていた社会に入り込み、実際に体験して、再び現代世界に戻ってくるといった実感を持つことが出来るようにしたい。先秦時代は、中国文化の「核心」が形成された時期であり、この時代に対する十全な理解がなければ、真の意味での中国理解はできない、というのが私の考えである。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 左伝や国語などの伝来文献、金文や木竹簡などの出土文献を日常的に読むことによって、史料から何をどのように汲み取るのかということを理解する。 思考・判断の観点： 構想に基づき史料を読み込み、立論していく過程を示し、研究論文作成に必要な一連の事柄を理解する。 関心・意欲の観点： 思想史学、歴史学、文学、考古学のいずれの分野であろうと、古代中国の様々な事象に対して、興味を感じることができるようになる。
- 授業の計画（全体） 当時の人々の観念の中における社会のイメージを明らかにし、特に君主の役割、民衆との関係などに焦点を当てて、中国における国家共同体の原初的なあり方について考える。この問題についても、春秋時代以前と戦国時代以降において、その性格や様相が全く異なっていたことを確認することになると思われる。今年度は、とくに中国の研究者 晁福林氏の研究を意識して授業を進める。
- 成績評価方法（総合） レポートにおけるテーマの選択、構想力、論理力などを見て、総合的に判断する。
- 教科書・参考書 教科書： 特になし／参考書： 授業の中で指示する
- メッセージ 何を語っているのかではなく、史料をどのように読み、そこから何を語ろうとしているのか、その過程を見ていただきたい。
- 連絡先・オフィスアワー 人文5階 金曜日15時から16時

開設科目	中国思想史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	高木智見				

- 授業の概要 前期と同じ／検索キーワード 前期と同じ
- 授業の一般目標 前期と同じ
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 前期と同じ 思考・判断の観点： 前期と同じ 関心・意欲の観点： 前期と同じ
- 授業の計画（全体） 前期と同じ
- 成績評価方法（総合） 前期と同じ
- 教科書・参考書 教科書： 前期と同じ／参考書： 前期と同じ
- メッセージ 前期と同じ
- 連絡先・オフィスアワー 前期と同じ

開設科目	中国思想史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	李 承律				

●授業の概要 中国古代史や古代思想史の描き方は、それを描く歴史家や思想史家によって千差万別である。勿論共通の認識が全くないわけではない。しかしながら、描く側の能力や問題意識、資料の選び方、方法論、ひいてはその人の価値観や世界観によって、それぞれ全く違ったものとして描き出される例は枚挙に暇ないほど多い。例えば、戦国時代の歴史や思想のことを例にしてみると、漢代人の描き方や唐宋・明清時代の人の描き方、あるいは近代的な教育を受けた我々現代人の描き方は、共通する部分より、むしろ全く違った姿・様子を呈する場合ははるかに多い。その原因は色々様々であろうが、簡単に言うと、描く側の主観が入るからに違いない。勿論、主観が入っているからといって価値のないものとは限らない。見方を変えれば、むしろ主観が入っているからこそ面白みが感じられるかも知れない。ところで、最近古代人が中国古代史を描いた貴重な文献が発見された。上海博物館蔵戦国楚竹書『容成氏』がそれである。それは1994年に香港の文物市場で発見されたが、戦国時代の楚系文字で書かれており、伝説の時代から堯舜・夏殷周三代の王朝の歴史が叙述されている。戦国時代の楚系文字で書かれているわけだから、作者は勿論漢代以前の人物である。漢代に書かれた古代の歴史書と言えば、我々が真っ先に思い出すのは司馬遷の『史記』であろう。この『容成氏』という書物はそれより約200～150年前に書かれたものと推定されているので、当然司馬遷とは違った政治社会・思想文化の背景のもとで書かれたはずである。では、そこには一体どのような作者の主観（主体と言ってもよい）が入っているのだろうか。そこに盛り込まれている思想を、中国古代思想史の全体の中で、なるべくわかりやすく紹介・説明することが今回の講義の主な目的である。／検索キーワード 出土資料、楚簡、上海博物館蔵戦国楚竹書、上海博楚簡、上博楚簡、郭店楚墓竹簡、郭店楚簡、中国、古代、思想史、古代王朝史、容成氏、堯舜禹、啓、桀、湯、受、紂、文王、武王、禪讓、篡奪、放伐、誅伐

●授業の一般目標 1. 本授業のメインテーマに入る前に楚簡とは何か、ひいては出土資料とは何かを知る。2. 楚簡研究は、単に楚簡を読むだけで終わるのではなく、文献資料と比較考察することによってはじめて楚簡そのものの価値やその資料的性格、位置づけ、研究意義などが判明することを理解する。3. 楚簡を研究することが今後の中国古代思想史研究においてどれほど重要なのか、その価値を認める。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 出土資料（特に楚簡）研究の必要性や重要性を説明できる。2. 文献資料とどのように関係づけられるかその方法論を習得する。 思考・判断の観点： 1. 文献資料のみによってなされた従来の中国古代思想史研究の諸問題を指摘する。 関心・意欲の観点： 1. 中国古代思想のみならず、出土資料を利用した新しい中国古代思想史研究にも興味を持つ。 態度の観点： 1. 既存の研究成果を無批判的に鵜呑みにする態度を止揚する。2. 常に「発想の転換」に心がける。

●授業の計画（全体） まず最初に楚簡を中心とした出土資料の概況について説明し、次に上海博楚簡『容成氏』について講義する。上海博楚簡『容成氏』には中国古代王朝の興亡盛衰の歴史が書かれているが、それを大ざっぱに言うと、禪讓→篡奪→誅伐の歴史が書かれている。本講義では文献資料や他の出土資料（例えば郭店楚簡）と比較しながら、その歴史叙述や歴史観、思想的特徴、思想史的位置・意義などについて説明する。

●成績評価方法（総合） 1. 毎回質問要旨に質問を書いて提出する。

●教科書・参考書 教科書：『上海博物館蔵戦国楚竹書（二）』，馬承源主編，上海古籍出版社，2002年／参考書： 1. 李承律「先秦古佚書の宝庫（信陽楚簡・郭店楚簡・上海楚簡）」（『東方』276、2004年2月） 2. 李承律「上海博物館蔵戦国楚竹書『容成氏』の古帝王帝位継承説話研究」（『大巡思想論叢』17、韓国、大巡思想学術院、2004年6月） 3. 李承律「上海博楚簡『容成氏』の堯舜禹禪讓の歴史」（『中国研究集刊』36、2004年12月） 4. 姜広輝「上博蔵簡『容成氏』的思想史意義—上海博物館蔵戦国楚竹書（二）『容成氏』初読印象札記—」（簡帛研究網站、2003年1月9日） 5. 李存山「反思經史關係：從“啓攻益”説起」（簡帛研究網站、2003年1月20日／『中国社会科学』2003-3、2003年5月／『中国哲学』2003-8、2003年8月） 6. 趙平安「楚竹書《容成氏》的篇名及其性質」（饒宗頤主編『華學』6、2003年

6月) 7. 邱徳修「従上博〈容成氏〉簡掲開大禹治水之謎」(簡帛研究網站、2003年1月31日) 8. 晏昌貴「上博簡《容成氏》九州東積」(簡帛研究網站、2003年4月6日) 9. 朱淵清「禹画九州論」(簡帛研究網站、2003年8月2日) 10. 陳偉「禹之九州与武王伐商的路綫—以竹書(容成氏)為例看楚簡的資料的価値—」(『国際シンポジウム「アジア地域文化学の構築」資料集』、早稲田大学21世紀COEプログラム アジア地域文化エンハンシング研究センター、2003年12月) 11. 陳偉「竹書《容成氏》共、滕二地小考」(『文物』2003-12、2003年12月) 12. 朱淵清・廖名春主編『上博館蔵戦国楚竹書研究続編』(上海書店出版社、2004年7月)所収の『容成氏』関係論文 13. 浅野裕一「孔子は『易』を学んだか?—新出土資料による古代中国思想史の再検討」(『図書』656、2003年12月/『戦国楚系文字資料の研究』、平成12年度~平成15年度科学研究費補助金基盤研究(B)研究成果報告書、2004年3月/浅野裕一・湯浅邦弘『諸子百家〈再発見〉掘り起こされる古代中国思想』、岩波書店、2004年8月) 14. 浅野裕一「上博楚簡『容成氏』における禪譲と放伐」(『中国研究集刊』36、2004年12月)

●連絡先・オフィスアワー sungryul@hotmail.com

●備考 集中授業

開設科目	儒・仏・道三教比較交渉論	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	林文孝				

- 授業の概要 学ぶこと、悟ることをめぐる三教の教説の比較と、相互影響関係の考察を行う。
- 授業の一般目標 1. 中国思想の問題を考えるに際して儒・仏・道三教のにわたる基礎知識と広い視野を獲得する。 2. さまざまな問題をめぐる思想間の異同をふまえて、問題の多面的な考察ができるようになる。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 1. 儒・仏・道三教あるいはそれらを捉える理論的枠組みについて、論題に必要な限りでの基礎的事項を説明できる。 思考・判断の観点： 1. 特定の問題をめぐる思想間の異同を、自分なりの観点から指摘できる。 2. 思想間の異同をふまえながら、自分なりの批判的考察を行うことができる。 関心・意欲の観点： 1. 一つの問題をめぐる多様な考え方の存在に関心をもつ。
- 授業の計画（全体） 概要に掲げたテーマに従って、重要な原典資料を読解しながら進行する。
- 成績評価方法（総合） 期末レポート 80 %、質疑応答・討論への参加 20 %。
- 教科書・参考書 教科書： なし。資料を適宜配布する。／ 参考書： 適宜紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー fumitaka@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 5 階



開設科目	儒・仏・道三教比較交渉論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	林文孝				

- 授業の概要 前期に引き続き、学ぶこと、悟ることをめぐる三教の教説の比較と、相互影響関係の考察を行う。
- 授業の一般目標 1. 中国思想の問題を考えるに際して儒・仏・道三教のにわたる基礎知識と広い視野を獲得する。 2. さまざまな問題をめぐる思想間の異同をふまえて、問題の多面的な考察ができるようになる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 儒・仏・道三教あるいはそれらを捉える理論的枠組みについて、論題に必要な限りでの基礎的事項を説明できる。 思考・判断の観点： 1. 特定の問題をめぐる思想間の異同を、自分なりの観点から指摘できる。 2. 思想間の異同をふまえながら、自分なりの批判的考察を行うことができる。 関心・意欲の観点： 1. 一つの問題をめぐる多様な考え方の存在に関心をもつ。
- 授業の計画（全体） 前期に引き続き、概要に掲げたテーマに従って、重要な原典資料を読解しながら進行する。
- 成績評価方法（総合） 期末レポート 80 %、質疑応答・討論への参加 20 %。
- 教科書・参考書 教科書： なし。資料を適宜配布する。／ 参考書： 適宜紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー fumitaka@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 5 階

開設科目	中国思想史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	高木智見				

- 授業の概要 司馬遷の史記を精読する。昨年に引き続き、仲尼弟子列伝を読む。テキストは瀧川亀太郎の史記会注考証を使用し、当然のことながら、史記集解、史記索隱、史記正義、さらに考証の見解と論理をその引用書物にわたって詳しく検討する。中国古来のいわゆる注疏の学を、史部の書の読解を通じて学ぶ。／検索キーワード 史記、孔子の弟子 春秋時代 歴史、思想 人物
- 授業の一般目標 自分の力で古代中国の資料を読み進める様々な能力ならびに意欲を獲得する。一見難しい漢文史料には、歴代学者達の真理の追求に対するすざましいエネルギーが、充ち満ちている。それを感じ取ることも重要な目標である。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：古代中国語の文法、語彙の理解の方法、調べ方など古典理解の一般的方法を身に付けて、他の分野や時代の書物に臨んでも、自分なりの対処が出来るような力を獲得したい。思考・判断の観点：一つの文字や単語の理解の仕方如何で、全文の解釈が変わってしまうといった古代中国語理解の困難さを面白いと感じられるような思考力を養う。関心・意欲の観点：いわゆる漢文史料を見ても、調べれば理解できるという自信をつける
- 授業の計画（全体）史記の原文、歴代の注釈を順に読み進めていく。史記の原史料とかつての日本人が行った訓読読みの資料を配布して、毎週、議論しながら少しずつ読み進めていく。進度は、原史料に応じて、また学生の能力に応じて、当然一定ではない。一字の解釈で2時間使うことも考えられる。
- 成績評価方法（総合）日常的な授業への取り組み姿勢、ならびにレポートによって、古代世界を理解しようとする積極性を基準にする
- 教科書・参考書 教科書：テキストはプリントを配布します／参考書：授業の中で指示
- メッセージ 古典は、帰納的な意味解釈を重ねていけば、誰でも理解できます。難しくはありません。要するに、自分の頭で自分の読み方をすれば良いのであって、やる気と根性のみが問題です。
- 連絡先・オフィスアワー 人文学部5階510研究室 金曜15時から16時

開設科目	中国思想史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	高木智見				

- 授業の概要 前期と同じ／検索キーワード 前期と同じ
- 授業の一般目標 前期と同じ
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 前期と同じ 思考・判断の観点： 前期と同じ 関心・意欲の観点： 前期と同じ
- 授業の計画（全体） 前期と同じ
- 成績評価方法（総合） 前期と同じ
- 教科書・参考書 教科書： 前期と同じ／参考書： 前期と同じ
- メッセージ 前期と同じ
- 連絡先・オフィスアワー 人文学部5階510研究室 金曜日15時から16時

開設科目	中国思想史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	林文孝				

- 授業の概要 中国の代表的もしくは特色ある思想文献を読解し、その内容を理解するとともに、解説・研究の文献をも参照することで理解を深めていく。 今年度は黄宗羲『明文授読』所収の議論文を読む予定。
- 授業の一般目標 1. 高校漢文もしくは初級中国語の知識を前提に、構文の把握、語義の調査などをつうじて中国語史料を現代日本語に訳出するための基礎力を養う。 2. 原典とその著者の思想について、解説・研究の文献を検討することで理解を深め、かつ批判的考察の端緒を得る。 3. 原典読解、文献検索、報告やレポート作成などの各段階で必要な、パソコンや目録・索引類といった工具書の利用法を身に付ける。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 1. 中国の思想文献の読解に必要な語学的知識を身につける。 2. 読解対象の文献と著者について基本的事項を理解できる。 3. 文献史料に語られた思想内容を理解できる。 4. 辞書、目録、索引などの工具書の使い方を理解できる。 思考・判断の観点： 1. 史料に語られた思想内容について、自分なりの視角から批判的に吟味できる。 関心・意欲の観点： 1. 異文化の発想法、思考法に関心をもつ。 態度の観点： 1. 読解作業にまじめに取り組むことができる。 技能・表現の観点： 1. 語学知識や文脈の把握をつうじて古代漢語の文章を読解できる。 2. 読解の結果を現代日本語の文章に定着させることができる。 3. 工具書を活用できる。
- 授業の計画（全体） 第1回で参加者の顔合わせ、使用するテキストの説明、進め方の説明、当面の分担の割り当てなどを行う。第2回から講読を進めていく。
- 成績評価方法（総合） 発表 40 %、授業への参加度 20 %、授業外レポート 40 %。
- 教科書・参考書 教科書： コピーを配布する。／ 参考書： 適宜紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー fumitaka@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部5階

開設科目	中国思想史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	林文孝				

- 授業の概要 中国の代表的もしくは特色ある思想文献を読解し、その内容を理解するとともに、解説・研究の文献をも参照することで理解を深めていく。今年度は黄宗羲『明文授読』所収の議論文を中心に読む予定。
- 授業の一般目標 1. 高校漢文もしくは初級中国語の知識を前提に、構文の把握、語義の調査などをつうじて中国語史料を現代日本語に訳出するための基礎力を養う。2. 原典とその著者の思想について、解説・研究の文献を検討することで理解を深め、かつ批判的考察の端緒を得る。3. 原典読解、文献検索、報告やレポート作成などの各段階で必要な、パソコンや目録・索引類といった工具書の利用法を身に付ける。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 中国の思想文献の読解に必要な語学的知識を身につける。2. 読解対象の文献と著者について基本的事項を理解できる。3. 文献史料に語られた思想内容を理解できる。4. 辞書、目録、索引などの工具書の使い方を理解できる。思考・判断の観点：1. 史料に語られた思想内容について、自分なりの視角から批判的に吟味できる。関心・意欲の観点：1. 異文化の発想法、思考法に関心をもつ。態度の観点：1. 読解作業にまじめに取り組むことができる。技能・表現の観点：1. 語学知識や文脈の把握をつうじて古代漢語の文章を読解できる。2. 読解の結果を現代日本語の文章に定着させることができる。3. 工具書を活用できる。
- 授業の計画（全体）第1回で参加者の顔合わせ、使用するテキストの説明、進め方の説明、当面の分担の割り当てなどを行う。第2回から講読を進めていく。
- 成績評価方法（総合）発表 40 %、授業への参加度 20 %、授業外レポート 40 %。
- 教科書・参考書 教科書：コピーを配布する。／参考書：適宜紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー fumitaka@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部 5 階

開設科目	中国思想演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	高木智見				

- 授業の概要 中国語によって書かれた論文を読み進め、中国語の語学的能力を向上させるとともに、引用されている古代漢文をも丁寧に読み、その読解能力をも養う。／検索キーワード 中国語、思想、身体、気功
- 授業の一般目標 中国語の論文に対する抵抗感を少なくする。ある程度難しい論文でも、最後まで読み切る能力と意欲を作り出す。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：現代中国語の文法、語彙の理解の方法、調べ方などに加えて、古代漢語理解の一般的方法を身に付けて、他の分野や時代の書物に臨んでも、自分なりの対処が出来るような力を獲得する 思考・判断の観点：中国語の文章の論理展開に慣れ、自分で読みとることが可能になるようにする。 関心・意欲の観点：中国語の文章や漢文史料を見ても、調べれば理解できるという自信をつける
- 授業の計画（全体）中国語の論文を順に読み進めていく。資料を配布して、毎週、議論しながら、なるべく多くの文章を丁寧に読み進めていく。ただし進度は、文章に応じて、また学生の能力に応じて、当然一定ではない。
- 成績評価方法（総合）日常的な授業への取り組み姿勢、ならびにレポートによって、受講生の学問に対する積極性を判断して、評価する
- 教科書・参考書 教科書：プリント配布
- メッセージ 読む文章は、受講生と話し合っ決めてつもりですが、第一候補は気功・養生法に関する文章を考えています。
- 連絡先・オフィスアワー 人文5階 高木研究室 金曜日15時から16時

開設科目	中国思想演習（3・4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	高木智見				

- 授業の概要 中国哲学の論文作成を目指す学生が、具体的なテーマの決定、先行研究の有無の確認ならびに検索方法、関連史・資料の収集、論文の構想ならびに論理構成などについて、それぞれの段階において報告し、参加者全員で討論しつつ授業を進めていく。／検索キーワード 卒論、資料収集、構想、討論
- 授業の一般目標 与えられたものを型どおりに消化する姿勢ではなく、各自が何を知りたいのか自分自身に問いかけ、求める物を明確にした上で、自らの力でそれを追求するという積極的な姿勢が望まれる。卒論の完成度は、この授業への取り組み方によって大きく異なるはずである。3年生は、先輩の論文作成作業の進め方を間近で観察し、様々な教訓を得て、実際の作成作業に生かす。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：自らのテーマを確定することが出来る。史料状況を明確に把握する。過去の研究の蓄積を把握、消化する。思考・判断の観点：自分の考えを明確にして、論理的に文章表現できるようにする。関心・意欲の観点：自らが問題を発見し、自らの力で解決していく積極的な姿勢をもてるようにする。
- 授業の計画（全体） 学生諸君の様々な条件により、授業の進め方は様々に変わってくる。しかし、5月中には、テーマを具体化して、論文の骨組みを作り、夏休みにそれについて各自が研究する。10月には論文の構想を明確化して、それ以降、軌道修正などを行い、12月半ばで9割の完成度を目指す。
- 成績評価方法（総合） 日常的な授業における姿勢、ならびにレポートの完成度により、判断する。
- 教科書・参考書 教科書：特になし／参考書：授業の中で指示
- メッセージ 研究は、積極性とねばり強さだけでほとんどが決まる。
- 連絡先・オフィスアワー 5階 金曜日15時から16時

開設科目	中国思想演習（3・4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	高木智見				

- 授業の概要 前期と同じ／検索キーワード 前期と同じ
- 授業の一般目標 前期と同じ
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：前期と同じ 思考・判断の観点：前期と同じ 関心・意欲の観点：前期と同じ
- 授業の計画（全体） 前期と同じ
- 成績評価方法（総合） 前期と同じ
- 教科書・参考書 教科書：特になし／参考書：授業中に指示
- メッセージ 前期と同じ
- 連絡先・オフィスアワー 5階 金曜日15時から16時



開設科目	中国思想演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	林文孝				

- 授業の概要 現代中国語で書かれた中国思想関係の入門書や論文から、比較的平易なものを選んで読んでいく。余力があれば、そのテーマに関連してどのようなことが研究されており、どのようなことが問題となるのかについて発表と討論を行う。
- 授業の一般目標 1. 論文調の現代中国語の読解力をつける。 2. 多様な論文テーマに触れることにより、自らの研究テーマ選択へのヒントを得る。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： ・現代中国語の中でも論文で頻用される表現を理解する。 思考・判断の観点： ・テキストの内容について、自分なりの観点から吟味できる。 関心・意欲の観点： ・多様な研究テーマに関心をもつ。 ・自分なりの問題意識に即して先行研究を探索する意欲をもつ。 態度の観点： ・発表や討議に積極的に参加できる。 技能・表現の観点： ・論文調の現代中国語について、日本語の訳文を作成できる。
- 授業の計画（全体） 第1回に進め方の説明、当面使用するテキストの配付と担当の割り当てなど、導入を行い、翌週から演習に入る。
- 成績評価方法（総合） 発表 40 %、授業への参加度 20 %、授業外レポート 40 %。
- 教科書・参考書 教科書： 担当教員が用意し、プリントを配付する。受講者が自分で見つけてもよい。／ 参考書： なし

開設科目	中国思想演習（3・4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	林文孝				

- 授業の概要 中国哲学をテーマとして卒業論文を書こうとする学生のための卒論演習である。受講者は、テーマ決定、論文検索、資料収集、構想、論理構成などの各段階において報告し、それについて参加者全員で討論する。
- 授業の一般目標 ・4年生：卒業論文題目を確定し、初歩的な構想を立てる。 ・3年生：4年生の報告に触れ、討論に参加することを通じて、自らの問題意識を明確化する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： ・自分の研究テーマについて必要な事項を調査・理解できる。 思考・判断の観点： ・自分の研究テーマを適切に意味づけることができる。 ・テーマにふさわしい構想を立てることができる。 関心・意欲の観点： ・自分の問題意識を洗練し、問いとして定式化できる。 ・他の参加者のテーマにも広く興味をもつ。 態度の観点： ・口頭発表や討議に積極的に参加できる。 技能・表現の観点： ・口頭報告、レポートにおいて適切な表現ができる。
- 授業の計画（全体） 第1回で顔合わせを行う。参加者がそれぞれの問題関心を簡潔に述べた後、発表予定などを決める。第2回以降、演習に入る。
- 成績評価方法（総合） 発表、参加度、授業外レポートを総合評価する。観点別割合は目安である。
- 教科書・参考書 教科書： なし。／ 参考書： なし。

開設科目	中国思想演習（3・4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	林文孝				

- 授業の概要 中国哲学をテーマとして卒業論文を書こうとする学生のための卒論演習である。受講者は、テーマ決定、論文検索、資料収集、構想、論理構成などの各段階において報告し、それについて参加者全員で討論する。
- 授業の一般目標 ・4年生：卒論執筆過程の各段階で問題点を克服しながら論文を完成させる。執筆後においては自らの到達点と不十分だった点を明確に把握する。 ・3年生：論文執筆過程での必要事項を認識する。自らの問題に関連した資料収集などを進め、おおよそのテーマを決定する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： ・自分の研究テーマについて必要な事項を調査・理解できる。 思考・判断の観点： ・自分の研究テーマを適切に意味づけることができる。 ・テーマにふさわしい構想を立てることができる。 関心・意欲の観点： ・自分の問題意識を洗練し、問いとして定式化できる。 ・他の参加者のテーマにも広く興味をもつ。 態度の観点： ・口頭発表や討議に積極的に参加できる。 技能・表現の観点： ・口頭報告、レポートにおいて適切な表現ができる。
- 授業の計画（全体） 第1回で、それぞれの卒業論文に関する進捗状況を報告した後、発表予定を決める。第2回以降、演習に入る。
- 成績評価方法（総合） 発表、参加度、授業外レポートを総合評価する。観点別割合は目安である。
- 教科書・参考書 教科書：なし。／参考書：なし。

開設科目	日本倫理思想史 III	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	豊澤一				

●授業の概要 「武士道を考える」 最近、どういうことでしょうか、新渡戸稲造『武士道』が読み直されているそうです。あれは明治に創作された「武士道」イメージです、とよく言われますが、それでは、それ以前の武士道はどうだったのでしょうか。武士の君臣関係は「ご恩と奉公」の経済的關係に尽きるのでしょうか。「切り取り強盗は武士の習い」で、武士など野蛮きわまりないものだ、「武士道と云は、死ぬ事と見付たり」とは何たる奴隷根性だ、と言っておけばそれで済むのでしょうか。そうしたことを考察します。／検索キーワード 武士道

●授業の一般目標 (1) さまざまな武士道論書の内容の要点を正確に理解し、自らの先入見を打破すること。(2) 武士道に関する俗説を、俗説として認識し、それと距離を置くこと。(3) 武士道に関する自らの見解を構成すること。

●授業の計画(全体) テキスト『武士道の逆襲』(講談社現代新書 1741) に沿いながら、軍記物語(『平家物語』など)、『甲陽軍鑑』、『三河物語』、『葉隠』、『武道初心集』等を見ていきます。

●成績評価方法(総合) 授業内小レポートと期末試験

●教科書・参考書 教科書: 『武士道』(岩波文庫), 新渡戸稲造, 岩波書店, 1938 年; 『武士道の逆襲』(講談社現代新書 1741), 菅野覚明, 講談社, 2004 年 / 参考書: 参考書は、講義の際に、適宜紹介いたします。

●メッセージ 新渡戸稲造『武士道』(岩波文庫) は、各自、予め読んでおいてください。

●連絡先・オフィスアワー 研究室: 人文学部棟 409 号研究室 オフィスアワー: 金曜日 12:50~14:20

開設科目	日本倫理思想史 IV	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	柏木寧子				

- 授業の概要 —神道思想入門— 古代から現代に至る神道思想史を概観します。習俗・景観としてすでに馴染みのあるものでありながら、必ずしもその思想内容をよく知っているとはいえないのが、神道ではないでしょうか。神仏分離や政教分離をへて、今私たちが神道についてもイメージは、近世までの人々が生きていた思想としての神道と、かなりかけ離れたものとなっています。好悪や共感・反発はひとまず措き、人々によって生きられてきた思想としての神道について、もっとも基本的な知識を整理し、理解を試みたいと考えます。／検索キーワード 神道
- 授業の一般目標 日本における神道思想について、基本的な知識を得ること、正しく理解すること、また、その歴史的流れと現状に関し、かりに求められたとすれば概略を説明できるようになること。
- 授業の計画（全体） 基本的に教科書を読み進めつつ、適宜他の資料をも参照します。教科書の各章につき1, 2週を充て、半期で読み終えたいと考えます。受講者には毎回教科書の該当箇所を予習して授業に臨むこと、毎授業の終了時に10分程度で小レポートを書き提出すること、が課せられます。
- 成績評価方法（総合）(1) 授業内の小レポート（論理的な思考と文章表現、および、自発的に問いを見出し追求する姿勢を求めます）。(2) 期末試験（基本的なことがらについての知識と理解を求めます）。なお、出席が所定の回数に満たない場合は期末試験を受けることができません。
- 教科書・参考書 教科書：『神道』（シリーズ世界の宗教）、ポーラ・R・ハーツ (Paula R. Hartz) 著、山内春光訳、青土社、2004年；その他の参照資料についてはプリントを配付します。／参考書：授業中に随時紹介します。
- 連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部4階410研究室

開設科目	比較思想論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	豊澤一				

- 授業の概要 「近世初期の儒学思想」 近世のさまざまな儒学思想は、眼前の人間関係の尊重、天地自然に対する信頼、学知の重視等々、現代の世俗的な思考の素地を提供しています。現代のわれわれ自身の先入主を超え、さらにどうしても感ぜざるを得ない異和感をかみしめていくなれば、儒者たちが案外卑近なことがらを自己の課題として引き受けていたことが分かります。また、彼等の思考は中国の朱子学・陽明学をどう咀嚼するかにかかっていた。彼等は、何をどう理解したのか、どう理解できなかったのか、を考えつつ進めます。／検索キーワード 近世儒学
- 授業の一般目標 (1) 先入主を超え、過去の思想を内在的に理解する姿勢を養うこと。(2) 過去の思想に照らして、自己自身の思想を自覚すること。
- 授業の計画(全体) 儒学思想のさまざまなテキストを読解しつつ、考察を加えます。
- 成績評価方法(総合) 授業内小レポートと期末試験
- 教科書・参考書 教科書：適宜、原典資料の複写を配付します。／参考書：適宜、紹介します。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部棟 409 号研究室 オフィスアワー：金曜日 12:50～14:20

開設科目	日本思想論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	柏木寧子				

●授業の概要 —〈物語〉とは何かを考える— 物語とは何か、物語を制作・享受するとはいかなる経験か、を考えていきます。一口に物語といっても、その形態・内容は多様です。古代・中世の神話・説話・歴史物語と近現代の小説・反小説とを一括りにすることは乱暴に過ぎるでしょう。他方、それでも「物語」という言葉が何かしら意味をもって通用しているという事実があり、人の一生はそれぞれに「物語」である、というような表現もしばしば耳にします。授業では、哲学・倫理的な物語論を参照しながら、具体的テキストを採り上げ、〈物語〉という問いにいささかでも接近する端緒を探ってみたいと考えます。具体的テキストとしては、浦嶋説話や御伽草子の諸作品を予定しています。／検索キーワード 〈物語〉

●授業の一般目標 〈物語〉の思想に対する関心を懐き（あるいは広げ・深め）、〈物語〉とは何かを問うための基本的視点・論点について、知識と理解をもつこと。

●授業の計画（全体） 物語論の紹介・検討と、具体的物語作品の読解を行います。あらかじめ資料を配付し、各自目を通して疑問点等明確にした上で授業に臨むこと、という課題を出す場合もあります。毎授業の終わりには小レポートを書き、提出していただきます。

●成績評価方法（総合）(1) 授業内の小レポート（論理的な思考と文章表現、および、自発的に問いを見出し追求する姿勢を求めます）。(2) 期末試験（基本的なことがらについての知識と理解を求めます）。なお、出席が所定の回数に満たない場合は期末試験を受けることができません。

●教科書・参考書 教科書：プリントを配付する予定です。／参考書：参考書は授業中随時紹介します。

●連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 4階 410 研究室

開設科目	日本思想文献講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	豊澤 一				

- 授業の概要 「仏教書を読む」 懐奘（道元述）『正法眼蔵随聞記』、唯円（親鸞述）『歎異抄』、鈴木正三『万民徳用』等、比較的入りやすい仏教書を読みます。受講者からの希望によっては、別のテキストを読むことも考えられます。／検索キーワード 仏教、道元、親鸞、鈴木正三
- 授業の一般目標 仏教書をテキストに内在的に読む姿勢を養います。
- 授業の計画（全体） 懐奘（道元述）『正法眼蔵随聞記』、唯円（親鸞述）『歎異抄』、鈴木正三『万民徳用』等、比較的入りやすい仏教書を読みます。多分、『正法眼蔵随聞記』に前期を費やすことになるでしょう。
- 成績評価方法（総合） 期末レポートを課します。また、レポーター、司会の任を課します。
- 教科書・参考書 教科書：『正法眼蔵随聞記』（ちくま学芸文庫）、道元述、懐奘編、筑摩書房、1992年；『新註歎異抄』（朝日文庫）、親鸞述、唯円編、朝日新聞社、1994年／参考書：講義の際に、適宜、紹介します。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室:人文学部棟 409号研究室 オフィスアワー：金曜日 12:50～14:20



開設科目	日本思想文献講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	豊澤 一				

- 授業の概要 「仏教書を読む」 前期から引き続き、比較的入りやすい仏教書を読みます。後期は、唯円（親鸞述）『歎異抄』、鈴木正三『万民徳用』等、を予定していますが、受講者からの希望によっては、別のテキストを読むことも考えられます。／検索キーワード 仏教、親鸞、鈴木正三
- 授業の一般目標 仏教書をテキストに内在的に読む姿勢を養います。
- 授業の計画（全体） 後期は、唯円（親鸞述）『歎異抄』、鈴木正三『万民徳用』等、を予定しています。
- 成績評価方法（総合） 期末レポートを課します。また、レポーター，司会の任を課します。
- 教科書・参考書 教科書：『新註歎異抄』（朝日文庫），親鸞述、唯円編，朝日新聞社，1994年／参考書：講義の際に，適宜，紹介します。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部棟 409 号研究室 オフィスアワー：金曜日 12:50～14:20

開設科目	日本思想文献講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	柏木寧子				

- 授業の概要 —『源氏物語』を読む— 目下（2004 年 12 月時点）、前年度に引き続き『源氏物語』を読み進める予定です。「梅枝」以降「藤裏葉」「若菜上・下」と読みながら、物語の思想に少しでも近づけるよう試みます。／検索キーワード 『源氏物語』
- 授業の一般目標 恣意を排し、かつ主体的にテキストを読む姿勢・素養を涵養すること。
- 授業の計画（全体） 全員があらかじめテキストを読み、問題点を考えて授業に臨みます。受講者は当番制で報告者となり、読解上の要点や疑問点を示し、それをめぐる自分の考えも述べます。その後全員で議論をしながら読解を深めます。なお、予習時点で考えたことをカードに記し、授業後に提出することとします。
- 成績評価方法（総合）(1) 授業内の報告（テキストの精読、自分なりの視点を定めて問いを発見する姿勢、論理的な思考と文章表現、を求めます）。(2) 期末レポート（ただし、授業内の報告を所定の回数以上行った場合は課しません）。なお、出席が所定の回数に満たない場合は単位を取得できません。
- 教科書・参考書 教科書：『源氏物語 3』（新編日本古典文学全集 22）、阿部秋生ほか校注・訳、小学館、1996 年；『源氏物語 4』（新編日本古典文学全集 23）、阿部秋生ほか校注・訳、小学館、1996 年；『源氏物語 3』（梅枝・藤裏葉）についてはコピー配付。『源氏物語 4』（若菜以降）は、文栄堂にて販売、定価 4,700 円程度。／参考書：『源氏物語の鑑賞と基礎知識』（ほぼ巻ごとにあります）、至文堂；『源氏物語評釈』（全 14 巻）、玉上琢彌、角川書店；『窯変源氏物語』（全 14 冊）、橋本治、中公文庫；『「源氏物語」がわかる。』（AERA MOOK27）、朝日新聞社、1997 年
- メッセージ 初回授業には必ず出席して下さい。テキストを確定し、報告者の順番を割り振ります。やむを得ず欠席した場合は、二回目の授業以前に受講意思を告げに来て下さい（テキストを入手して、予習の上授業に臨んで下さい）。無断欠席はしないで下さい。進度など、授業計画にかかわる要望・意見はいつでも遠慮なくお寄せください。
- 連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部 4 階 410 研究室

開設科目	日本思想文献講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	柏木寧子				

- 授業の概要 —『源氏物語』を読む— 目下（2004年12月時点）、前年度および前期に引き続き『源氏物語』を読み進める予定です。主に宇治十帖と呼ばれる巻々を読みながら、物語の思想に少しでも近づけるよう試みます。／検索キーワード 『源氏物語』
- 授業の一般目標 恣意を排し、かつ主体的にテキストを読む姿勢・素養を涵養すること。
- 授業の計画（全体） 全員があらかじめテキストを読み、問題点を考えて授業に臨みます。受講者は当番制で報告者となり、読解上の要点や疑問点を示し、それをめぐる自分の考えも述べます。その後全員で議論をしながら読解を深めます。なお、予習時点で考えたことをカードに記し、授業後に提出することとします。場合によっては、途中で関連論文を読む回を設けることもあります。
- 成績評価方法（総合）(1) 授業内の報告（テキストの精読、自分なりの視点を定めて問いを発見する姿勢、柔軟な思考と論理的な文章表現、を求めます）。(2) 期末レポート（ただし、授業内の報告を所定の回数以上行った場合は課しません）。なお、出席が所定の回数に満たない場合は単位を取得できません。
- 教科書・参考書 教科書：『源氏物語 5』（新編日本古典文学全集24）、阿部秋生ほか校注・訳、小学館、1997年；『源氏物語 6』（新編日本古典文学全集25）、阿部秋生ほか校注・訳、小学館、1998年；文栄堂にて販売。各巻定価4,700円から4,900円程度。／参考書：『源氏物語の鑑賞と基礎知識』（ほぼ巻ごとにあります）、至文堂；『源氏物語評釈』（全14巻）、玉上琢彌、角川書店；『窯変源氏物語』（全14冊）、橋本治、中公文庫；『「源氏物語」がわかる。』（AERA MOOK27）、朝日新聞社、1997年
- メッセージ 初回授業には必ず出席して下さい。テキストを確定し、報告者の順番を割り振ります。やむを得ず欠席した場合は、二回目の授業以前に受講意思を告げに来て下さい（テキストを入手して、予習の上授業に臨んで下さい）。無断欠席はしないで下さい。進度など、授業計画にかかわる要望・意見はいつでも遠慮なくお寄せください。
- 連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部4階410研究室

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	豊澤 一				

- 授業の概要 『『正法眼蔵』研究』 前期の柏木先生の後を承けて、『正法眼蔵』を読みます。『正法眼蔵』は難解でわたくしには歯が立ちませんが、学生諸君と一緒に読めば何かが見えてくるかも知れないと期待しています。(柏木先生の前期の講義概要を参照してください。) / 検索キーワード 『正法眼蔵』
- 授業の一般目標 先入見を超え、テキストに内在的に読む姿勢を養います。
- 授業の計画(全体) 前期を踏襲します。
- 成績評価方法(総合) 期末レポートを課します。また、レポーター、司会の任を課します。
- 教科書・参考書 教科書：前期を踏襲します。 / 参考書：『禅学大辞典』, , 大修館書店, 1985年; (前期参照)
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部棟 409号研究室 オフィスアワー：金曜日 12:50~14:20

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	柏木寧子				

- 授業の概要 — 『現代文訳 正法眼蔵』を読む— テキストについては、受講生の希望も聞いた上で決定したいと考えますが、目下（2004年12月現在）の予定では道元の主著『正法眼蔵』を現代文訳で読みます。原文を読むことが思想史研究の基本であることはいうまでもありません。しかし、原文の近寄りかたさのために一巻もひもとかず終るくらいなら、いささか邪道であっても、訳本を用い、ある程度の巻数を読んでみてはいかがかと思えます。あるいは、読み進めるうちに、いまひとつ手応えがはっきりしないもどかしさを感じたり、気になる箇所でもっとじっくり考えてみたくなる方もあるかもしれません。そのような場合は、ぜひ原文・注釈・辞書類にあたって味読することに挑戦してみてください。授業では一回一巻のペースで読んでいく予定です。／検索キーワード 『正法眼蔵』
- 授業の一般目標 恣意を排し、かつ主体的にテキストを読む姿勢・素養を涵養すること。
- 授業の計画（全体） 全員があらかじめテキストを読み、問題点を考えて授業に臨みます。受講者は当番制で報告者となり、読解上の要点や疑問点を示し、それをめぐる自分の考えも述べます。その後全員で議論をしながら読解を深めます。なお、予習時点で考えたことをカードに記し、授業後に提出することとします。
- 成績評価方法（総合）(1) 授業内の報告（テキストの精読、自分なりの視点を定めて問いを発見する姿勢、論理的な思考と文章表現、を求めます）。(2) 期末レポート（ただし、授業内の報告を所定の回数以上行った場合は課しません）。なお、出席が所定の回数に満たない場合は単位を取得できません。
- 教科書・参考書 教科書：『現代文訳 正法眼蔵 1』、道元著、石井恭二訳、河出文庫、2004年；販売店：文栄堂。¥1,000／参考書：『正法眼蔵 1』、道元著、石井恭二注釈・現代語訳、河出書房新社、1996年；『岩波仏教辞典』、中村元ほか編、岩波書店、2002年；『仏教学辞典』、多屋頼俊ほか編、法蔵館、1995年；『禅語辞典』、古賀英彦編著、入矢義高監修、思文閣出版、1991年
- メッセージ 初回授業には必ず出席して下さい。テキストを確定し、報告者の順番を割り振ります。初回にやむを得ず欠席した場合は、二回目の授業以前に一言知らせに来て下さい（テキストについて確認し、予習カード等を受け取り、予習をして授業に臨んで下さい）。無断欠席はしないで下さい。進度など、授業計画にかかわる要望・意見はいつでも遠慮なくお寄せください。
- 連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp 人文学部4階410研究室

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	豊澤 一				

- 授業の概要 「卒業論文執筆のための演習」 日本思想を卒業論文のテーマとする3, 4年生を対象として、研究を具体的に指導します。受講生は、各自のテーマについて定期的に発表します。他の受講生は、その発表を聴いて知見を共有するとともに、そのテーマについて討論します。また、期末レポート相互に批評します。
- 授業の一般目標 ○ 論文執筆の作法を身につけることを目指します。○ 日本思想に関する知見を広め、幅広い考え方ができることを目指します。○ 学友の前で研究の成果を発表し、質疑応答の場を経験することによって、より柔軟な態度を涵養することを目指します。
- 授業の計画(全体) ○ 論文執筆作法、また研究作法の書物を数冊読みます。○ 受講生は、自らのテーマについての研究成果を発表します。○ 他の受講生は、その成果発表に質問をします。
- 成績評価方法(総合) 各自のテーマに応じた研究成果発表を課します。その成果を文章化する期末レポートを課します。
- 教科書・参考書 教科書：未定／参考書：参考文献リストを配付します。
- 連絡先・オフィスアワー 大抵の時間は研究室にいますので、いつでもどうぞ。

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	豊澤 一				

- 授業の概要 前期を参照
- 授業の一般目標 前期を参照
- 授業の計画（全体） 前期を参照
- 成績評価方法（総合） 前期を参照
- 教科書・参考書 教科書：前期を参照／参考書：前期を参照
- 連絡先・オフィスアワー 前期を参照

開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	柏木寧子				

- 授業の概要 —卒業論文演習— 日本思想に関わるテーマで卒業論文を執筆する3, 4年次生を対象として、各自の研究を具体的に指導します。受講生には、数週間毎に研究の途中経過を口頭報告すること、当番の回以外にも出席して議論に参加すること、を義務として課します。時には受講生同士、互いの期末レポートを読み合い、質疑応答を行う機会も設けます。／検索キーワード 卒業論文
- 授業の一般目標 2年間で各自の卒業論文を仕上げるために必要・十分なもろもろの過程を積み重ねることを目指します。各人のペースで研究を進めることが大切なのは言うまでもありませんが、授業の場で互いに率直に批評し合う経験を通じ、より柔軟な発想、精密な推論、広い視野、有機的な関心、明晰な文章、等々を獲得していけるよう、目指します。
- 授業の計画（全体） 受講生各自が数週間に一度ずつ当番となり、卒論研究の途中経過を口頭報告します。受講生からの希望があれば、何らかの論文作法の本も併行して読み進めます。
- 成績評価方法（総合）(1) 授業中の口頭発表。(2) 期末レポート（3000字程度）。
- 教科書・参考書 教科書：受講者からの希望があれば、論文作法について何らかの本を読み進めます。書名等は授業中に知らせます。／参考書：参考文献リストは授業中に配付します。
- メッセージ 無断欠席はしないで下さい。研究上の疑問等は授業時間外でも随時相談に来て下さい。
- 連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	日本思想論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	柏木寧子				

- 授業の概要 —卒業論文演習— 日本思想に関わるテーマで卒業論文を執筆する3, 4年次生を対象として、各自の研究を具体的に指導します。受講生には、数週間毎に研究の途中経過を口頭報告すること、当番の回以外にも出席して議論に参加すること、を義務として課します。時には受講生同士、期末レポートを読み合い質疑応答を行う機会も設けます。／検索キーワード 卒業論文
- 授業の一般目標 2年間で各自の卒業論文を仕上げるために必要・十分な、もろもろの過程を積み重ねることを目指します。各人のペースで研究を進めることが大切なのは言うまでもありませんが、授業の場で互いに率直に批評し合う経験を通じ、より柔軟な発想、精密な推論、広い視野、有機的な関心、明晰な文章、等を獲得していけるよう目指します。
- 授業の計画（全体） 受講生各自が数週間に一度ずつ当番となり、卒論研究の途中経過を口頭報告します。受講生からの希望があれば、何らかの論文作法の本も併行して読み進めます。
- 成績評価方法（総合）(1) 授業中の口頭発表。(2) 期末レポート（3000字程度）。
- 教科書・参考書 教科書：受講者からの希望があれば、論文作法について何らかの本を読み進めます。書名等は授業中に知らせます。／参考書：参考文献リストは授業中に配付します。
- メッセージ 無断欠席はしないで下さい。研究上の疑問等は授業時間外でも随時相談に来て下さい。
- 連絡先・オフィスアワー kashiwg@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	宗教学概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	ジュマリ・アラム				

- 授業の概要** 宗教学における基礎理論と主要なテーマを知ることからはじめ、宗教的な現象と表象の「理解」とそのための「方法」について考察する。宗教に特有かつ普遍的な事象を、宗教学および関連領域（宗教社会学、宗教心理学、宗教人類学など）の古典的な理論と方法論の視点から分析し、人間が全体としてどのようにして自らの宗教的行為、宗教的観念、宗教的様式、宗教的規範、宗教的経験などを構成したり位置付けたり認知したり具体化したりしているのかについて包括的・体系的に考察する。／検索キーワード 宗教、宗教学、宗教社会学、宗教心理学、宗教人類学、民族宗教、民間信仰・民俗宗教、国教、世界宗教、シャーマニズム、呪術、アニミズム、自然崇拜、トーテミズム
- 授業の一般目標** 宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。
- 授業の到達目標**／知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。技能・表現の観点：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。
- 授業の計画（全体）** 授業は時間的にはぎっしり詰めて行うが、リラックスした雰囲気の中で行う。宗教現象を捉える論理的思考のみならず、感性と印象の面を重視する。毎回の授業は、レジュメと映像的な資料に沿って進める。
- 成績評価方法（総合）** 1. 出席は10回を単位取得の条件とする。出欠は主に以下の小テストでとる。2. 小テストは13回（ほぼ毎回）行うが、10回の参加を単位取得の条件とする。小テストは毎回採点し、翌週に返す。3. 筆記試験を学期末の試験期間中に行う。
- 教科書・参考書** 教科書：授業のレジュメを毎回配布する／参考書：参考書は授業中に適宜案内する
- メッセージ** 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。
- 連絡先・オフィスアワー** ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室

開設科目	比較宗教論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	ジュマリ・アラム				

- 授業の概要** 今年度前期の特殊講義は「宗教と女性」をテーマとする。次のような問いを扱う。シャーマン（巫女など）や呪術師・妖術師（魔女など）の担い手とされるのはなぜ女性が多いのか？なぜ「母なる大地」と呼ばれるのか？男神にはなぜ、その力を上回る神妃や女神が常につくのか？性差と宗教的な表現には、何か相関関係があるのか？男性は、女性に何の宗教的・神秘的な力を見るのか？彼らは何を恐れて女性を支配したがるのか？／検索キーワード 宗教、女性、シャーマン、巫女、呪術、妖術、魔女、女神、神秘、性差
- 授業の一般目標** 「宗教と女性」の課題について、資料的な情報を知って考えるだけでなく、深く想像して顧みながら、その本質の体系化を試みる。最終的には、宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。
- 授業の到達目標**／ 知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 技能・表現の観点：宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。
- 授業の計画（全体）** 授業は時間的にはぎっしり詰めて行うが、リラックスした雰囲気の中で行う。宗教現象を捉える論理的思考のみならず、感性と印象の面を重視する。毎回の授業は、およそ以下三つのパートからなる。・映像（VHS／DVD）・解説・フリーディスカッション
- 成績評価方法（総合）** 1. 出席は10回を単位取得の条件とする。 2. 中間レポートを一回課す。 3. 学期末の試験期間中に最終レポートを課す。
- 教科書・参考書** 教科書：授業のレジュメを毎回配布する／参考書：参考書は授業中に適宜案内する
- メッセージ** 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。
- 連絡先・オフィスアワー** ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室

開設科目	比較宗教論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	ジュマリ・アラム				

- 授業の概要** 今年度後期の特殊講義は「宗教とアート」をテーマとする。次のような問いを出発点とする。おおよそすべての宗教的現象にはアートの要素が含まれ、またおおよそすべてのアートには宗教的な要素が含まれるのはなぜなのか？宗教もアートも人間の心に内在する本性として、何か隠れた共通点をもっているのではないか？それは機能なのか、実体なのか？各地の宗教とアートはどのように、なぜ、何のために結びついているのか？宗教とアートはどこへ、どのように、なぜ変容するのか？／検索キーワード 宗教、アート、芸術、美術、芸能、舞踊、舞踏、絵画、彫刻、シャーマニズム、呪術、観光、放浪芸
- 授業の一般目標** 「宗教とアート」の課題について、資料的な情報を知って考えるだけでなく、深く想像して顧みながら、その本質の体系化を試みる。最終的には、宗教学という学問分野と宗教とは何かという課題について、一定の図式と枠組みを身につけ、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。
- 授業の到達目標**／ 知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 技能・表現の観点：宗教現象に関する記述力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。
- 授業の計画（全体）** 授業は時間的にはぎっしり詰めて行うが、リラックスした雰囲気の中で行う。宗教現象を捉える論理的思考のみならず、感性と印象の面を重視する。毎回の授業は、おおよそ以下三つのパートからなる。・映像（VHS／DVD）・解説・フリーディスカッション
- 成績評価方法（総合）** 1. 出席は10回を単位取得の条件とする。 2. 中間レポートを一回課す。 3. 学期末の試験期間中に最終レポートを課す。
- 教科書・参考書** 教科書：授業のレジメを毎回配布する／参考書：参考書は授業中に適宜案内する
- メッセージ** 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。
- 連絡先・オフィスアワー** ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室

開設科目	比較宗教論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	白川 琢磨				

●授業の概要 宗教は私たちの社会的現実 (social reality) の重要な一角を構成している。今日、私たちは「神社」や「寺院」といった長く慣れ親しんだ宗教環境の下で、神の前では拍手し、仏の前では合掌するという「当たり前」の行為を繰り返しているが、こうした習慣は一体いつ形成され、そこから導かれる漠然とした神仏の観念はどのように構成されてきたのか。宗教人類学は宗教を鍵概念として社会や文化を読み解いていく知の営みである。まず世界宗教のうち、私たちにとって異質性の大きいユダヤ教－キリスト教－イスラム教といった預言者型一神教を概説し、その論理構造を文化的背景をもとに捉えていく。次にそれと対比させるヒンドゥー教－仏教というアジア宗教の特徴を述べ、最後にそうした知識を前提に日本宗教を位置づけ、「神」と「仏」の関係を軸に身近なフィールドから解明していく。フィールド調査の具体的な手順や実践を習得することも目標の一つである。／検索キーワード 宗教人類学、世界宗教、フィールド調査、神仏分離、神仏習合

●授業の一般目標 世界宗教と呼ばれる主な宗教について概略的な知識を身につけ、曖昧とされる日本人の宗教及び宗教観を、客観的に位置づけることが第一目標である。次に、神仏分離という日本の近代化に関わる宗教変革がどのように行なわれたか、そしてそれが私たちの宗教観をどのように構成しているかを考える。そして、答えの定まらない問いかけに答えていく一つのやり方として、フィールド調査の手順を学び、実践する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：世界宗教に対する知識と理解を図り、日本宗教の客観的な位置づけができること。思考・判断の観点：神仏習合・神仏分離といった宗教史上の出来事が日本宗教の構成にいかに関連しているかを思考する。政教分離や靖国問題などに対して客観的な論理的思考に基く判断ができるかを目標とする。関心・意欲の観点：身近な宗教環境にいかに関心を持ち、具体的なフィールド調査でどの位各自が設定した問題を明らかにできるかを評価する。態度の観点：授業中の質問や態度。

●授業の計画（全体）全体を3段階に分け、まず、講義によって世界宗教を概説する。預言者型一神教の共通性と分岐を把握し、次に、アジア宗教のあり方を対比する。3段階目に応用問題として、日本宗教を取り上げる。ここからは質疑時間を拡大する。神仏分離・神仏習合の概略的な説明を終了し、各自が調査課題を提出し、調査計画を策定する。各自の調査結果を報告し、質疑を踏まえて、各自の調査レポートを提出する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 世界宗教 内容 宗教とは何か？
- 第 2 回 項目 世界宗教 内容 アブラハム信仰の論理と構造
- 第 3 回 項目 世界宗教 内容 ユダヤ教とキリスト教
- 第 4 回 項目 世界宗教 内容 イスラム教と西欧社会
- 第 5 回 項目 世界宗教 内容 ヒンドゥー＝仏教とアジア社会 授業外指示 第 1 回レポート提出
- 第 6 回 項目 日本宗教 内容 日本宗教をどう捉えるか？
- 第 7 回 項目 日本宗教 内容 「靈魂」と「死」の関係
- 第 8 回 項目 日本宗教 内容 仏教と神道
- 第 9 回 項目 日本宗教 内容 神仏分離と現代社会
- 第 10 回 項目 日本宗教 内容 神仏習合と宗教民俗 授業外指示 第 2 回レポート提出
- 第 11 回 項目 宗教民俗調査の実践 内容 フィールド調査の手順
- 第 12 回 項目 宗教民俗調査の実践 内容 宗教民俗の調査事例
- 第 13 回 項目 宗教民俗調査の実践 内容 調査報告と質疑 (1)
- 第 14 回 項目 宗教民俗調査の実践 内容 調査報告と質疑 (2)
- 第 15 回 項目 宗教民俗調査の実践 内容 全体のまとめと総括 授業外指示 調査レポートの提出

- 成績評価方法 (総合) レポートが70%、質疑が20%、出席・態度その他を10%で評価する。
- 教科書・参考書 教科書：教科書は用いない。授業中に適宜プリントを配布する。理解を深めるために一部ビデオ教材も使用する。／参考書：宗教人類学入門, 関一敏・大塚和夫編, 弘文堂, 2004年；カミとヒトの解剖学, 養老孟司, ちくま学芸文庫, 2002年；Seven Theories of Religion, Pals, D. L., Oxford U. P., 1996年；神々の明治維新—神仏分離と廃仏毀釈, 安丸良夫, 岩波新書, 1979年；フィールドワーク—書を持って街へ出よう, 佐藤郁哉, 新曜社, 1992年；その他、授業の中で適宜紹介する。
- メッセージ 強い関心と意欲をもった学生の履修を望みます。
- 連絡先・オフィスアワー E-mail: tshirak@cis.fukuoka-u.ac.jp
- 備考 集中授業

開設科目	宗教学文献講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	ジュマリ・アラム				

- 授業の概要 宗教学の基本文献を講読し理解し、個々の研究への適用を試みる。今回は、エリアーデの著作（『宗教学概論』、ほか）を読む。／検索キーワード 宗教、宗教学、エリアーデ、聖性、ヒエロファニー、聖俗
- 授業の一般目標 宗教学の理論と方法論について学び、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：宗教学の主要な理論と方法論を身につけること。思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。技能・表現の観点：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。
- 授業の計画（全体）講読箇所は主に日本語訳を扱うが、英語の場合もある。講読範囲は、和文の場合は毎回20～30ページ、英文の場合は4～5ページとする。順番方式のレポートは行わない。毎回、次週のための講読箇所を指定し、それに対するいくつかの問い／課題を設定する。当日の授業では、そうした問い／課題を中心にディスカッションと解説を行う。
- 成績評価方法（総合）1. 出席は10回を単位取得の条件とする。2. 筆記試験を学期末の試験期間中に一回行う。
- 教科書・参考書 教科書：教科書（エリアーデの著作）は比較的入手が困難で値段が高いため、該当箇所のコピーを毎回配布する。
- メッセージ 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。
- 連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ / 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部413号室

開設科目	宗教学文献講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	ジュマリ・アラム				

- 授業の概要 宗教学の基本文献を講読し理解し、個々の研究への適用を試みる。今回は、エリアーデの著作（『宗教学概論』、ほか）を読む。／検索キーワード 宗教、宗教学、エリアーデ、聖性、ヒエロファニー、聖俗
- 授業の一般目標 宗教学の理論と方法論について学び、個々の宗教現象を一定の視点をもって捉えたり分析したりできるようになることを目指す。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：宗教学の主要な理論と方法論を身につけること。思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。技能・表現の観点：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。
- 授業の計画（全体）講読箇所は主に日本語訳を扱うが、英語の場合もある。講読範囲は、和文の場合は毎回20～30ページ、英文の場合は4～5ページとする。順番方式のレポートは行わない。毎回、次週のための講読箇所を指定し、それに対するいくつかの問い／課題を設定する。当日の授業では、そうした問い／課題を中心にディスカッションと解説を行う。
- 成績評価方法（総合）1. 出席は10回を単位取得の条件とする。2. 筆記試験を学期末の試験期間中に一回行う。
- 教科書・参考書 教科書：教科書（エリアーデの著作）は比較的入手が困難で値段が高いため、該当箇所のコピーを毎回配布する。
- メッセージ 授業はできるだけ体系的にわかりやすく、範囲を限定して行う。授業に出ることによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収することを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回の授業に出席し、多少の予習と復習をする必要がある。
- 連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：<http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/> / 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部 413 号室



開設科目	宗教学研究実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	ジュマリ・アラム				

- 授業の概要 基本的には、参加者各自が研究したい、または関心のある宗教現象を取り上げ、宗教学的な考察と分析を行う。ただし研究実習として、個別テーマのほかに、全員の共通テーマを定める。個別テーマは共通テーマの一環となってもよい。共通テーマは参加者と相談して決めるが、およそ山口県内の宗教現象や信仰文化・伝統に関することを取りあげる。調査の実施方法に関しても、参加者と相談して決める。一つの選択は、各自が独自で行う方式である。もう一つの選択は、夏休み期間中に参加者全員が県内の一定の地域を拠点とする場所に調査に出向き、周辺地域で行われるさまざまな宗教現象（祭り、神楽、放浪芸、年間行事、例祭、個々の宗教意識等）を観察・記録する、という方式である。個別テーマにしても共通テーマにしても、宗教学的な視点・枠組み・理論・方法論が十分に活かされるように、調査の準備段階からデータ収集とプレゼンテーションの段階まで、教員が関わって指導する。／検索キーワード 宗教、宗教学
- 授業の一般目標 宗教という単純なカテゴリーや固定観念にとらわれず、宗教のもっとも自然なかたちを、その本質と表象の両面から捉える、宗教学的な枠組みと視点を身につけた上で、それを実際の研究に応用できるようにすることを目標とする。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。 思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。 関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。 態度の観点：宗教に関するいろいろな課題について積極的に知ろうとすること。 技能・表現の観点：宗教現象を研究・調査するスキルを身につけ、それを記述・表現する力を養うこと。 その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。
- 授業の計画（全体） 授業は全14回行う。方式は参加者と個別テーマ・共通テーマを話し合ってから決める。
- 成績評価方法（総合） 1. 出席は10回を単位取得の条件とする。 2. プレゼンテーションは各参加者に2回行ってもらう予定である（初回と2回目の間に一ヶ月以上の期間をあける）。 3. プレゼンテーションの順番でないセッションには、できるだけディスカッションに積極的に参加する（毎回発言がなくてもよいが、2・3回に一度の発言を期待する）。 4. 学期末の試験期間中にレポートを一回課す。
- 教科書・参考書 参考書：各テーマに対し、必要に応じて適宜案内する
- メッセージ 授業・演習に参加することによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収したり新たな視点や情報を身につけたりすることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回出席し、演習に積極的に参加する必要がある。宗教学研究室や人間論コース以外の学生も、広い意味での宗教に関心があれば参加できる（大歓迎）。
- 連絡先・オフィスアワー ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部413号室

開設科目	宗教学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	ジュマリ・アラム				

- 授業の概要** 参加者各自が研究したい、または関心のある宗教現象を取り上げ、宗教学的な考察と分析を行う。宗教学の領域範囲内の自由発表形式となるが、宗教学的な視点・枠組み・理論・方法論が十分に活かされるように、プレゼンテーションの準備段階または初回のプレゼンテーションで、個別的な指導やアドバイスをを行い、実際のプレゼンテーションや次回のプレゼンテーションにおいて反映されるようにする。／検索キーワード 宗教、宗教学
- 授業の一般目標** 宗教という単純なカテゴリーや固定観念にとらわれず、宗教のもっとも自然なかたちを、その本質と表象の両面から捉える、宗教学的な枠組みと視点を身につけた上で、それを実際の研究に応用できるようにすることを目標とする。
- 授業の到達目標**／知識・理解の観点：宗教学に関する主要な課題について一定の理解と知識を身につけること。思考・判断の観点：個々の宗教現象について、一定の視点から分析できるようになること。関心・意欲の観点：身近な宗教現象について関心を抱くこと。態度の観点：宗教に関するいろいろな課題について積極的に知ろうとすること。技能・表現の観点：宗教学の理論・学説および宗教現象に関する記述力を養うこと。その他の観点：宗教現象を捉える感性を磨くこと。
- 授業の計画（全体）** 授業は全14回行い、毎回の授業では、二つのプレゼンテーションを行う。
- 成績評価方法（総合）** 1. 出席は10回を単位取得の条件とする。2. プレゼンテーションは各参加者に2回行ってもらう予定である（初回と2回目の間に一ヶ月以上の期間をあける）。3. プレゼンテーションの順番でないセッションには、できるだけディスカッションに積極的に参加する（毎回発言がなくてもよいが、2・3回に一度の発言を期待する）。4. 学期末の試験期間中にレポートを一回課す。
- 教科書・参考書** 参考書：各テーマに対し、必要に応じて適宜案内する
- メッセージ** 授業・演習に参加することによって参加者が、毎回または全体として、宗教学に関する一定の内容を吸収したり新たな視点や情報を身につけたりすることを目指す。そのためには、参加者のほうも、毎回出席し、演習に積極的に参加する必要がある。宗教学研究室や人間論コース以外の学生も、広い意味での宗教に関心があれば参加できる（大歓迎）。
- 連絡先・オフィスアワー** ジュマリ・アラム / 電子メール：djumali@yamaguchi-u.ac.jp / ホームページ：http://alam.hmt.yamaguchi-u.ac.jp/ 電話（研究室）：083-933-5220 / 研究室：人文学部413号室

開設科目	史学概論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	橋本義則				

- 授業の概要 日本古代史研究において研究の対象となる様々な史料を、それが書かれた素材別に取り上げ、それぞれの史料としての性格や史料として扱う際の問題点、特に史料としてどのようにして今日に残ったのか、あるいは残されたのかに留意しながら、それらを用いて史実を確定してゆく方法について述べる。そしてこの改訂を通じて歴史とはいかなるものであるのかにも説き及ぶことができればよいと考えている。／検索キーワード 史料、史学研究法
- 授業の一般目標 日本古代の史料を解釈し、当該時代の様相を復元する方法を学ぶことを通じて、歴史学の方法を学び、歴史的な考え方を理解する。
- 授業の到達目標／ 思考・判断の観点：史料を解釈した上で、そこから論理的に様々な史実を導き出す論理的な思考を学ぶ。 関心・意欲の観点：歴史的な考え方を理解し、身につけるよう努力する。
- 授業の計画（全体） 以下順不同。随時変更の可能性もある。 1. 紙に書かれた史料（典籍・古文書・記録・絵図等） 2. 布に書かれた史料（絵図等） 3. 木に書かれた史料（木簡等） 4. 金属や石に書かれた史料（金石文） 5. 土地に刻まれ遺された史料（遺跡・遺構、地名）。
- 成績評価方法（総合） 学期末に試験を行う。
- 教科書・参考書 教科書：指定されたホームページにアクセスして講義レジュメをダウンロードする必要がある。／参考書：授業中に適宜指摘する。
- メッセージ 講義レジュメのダウンロードと受講のためにノートパソコンが必携である。
- 連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・木の5時 40分～6時 40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	史学概論 V	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	滝野正二郎				

●授業の概要 歴史学とはどういう学問であるかという問題について、「ありのまま」に認識することは可能か、その場にいれば全てを理解できるか、歴史は必ず進歩するものか、歴史は繰り返すか、偉人・偉業はどのような条件がそろったとき成立するか、個人を歴史学はどう描くべきか、歴史が展開される場は国家だけか、などという問題を投げかけながら、時には学生諸君に小論文を書いてもらいつつ、担当教員が講義を行っていく。／検索キーワード 歴史学、歴史、歴史叙述、歴史的事実、間主観性、現在と過去との対話

●授業の一般目標 歴史学とはどういう学問であるかを、担当教員の示す諸点を考慮に入れた上で自分なりに理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：人間の認識における間主観性と歴史学という学問の性格について理解する。思考・判断の観点：歴史学の根本について思考する。関心・意欲の観点：人間の認識、歴史学の根本など根元的な問題に関心を持つ。

●授業の計画（全体）歴史学とはどんな学問かというテーマについて、トピック的にいくつかの問題を取り上げ、受講生の小論文を交えながら、担当教員が論じていく。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序論 内容 (1) 授業の概要 (2) 「史学概論」とは何か
- 第 2 回 項目 「ありのまま」に認識することは可能か 内容 歴史における事実の選択性と間主観性
- 第 3 回 項目 歴史と歴史学 内容 (1) 歴史と歴史学 (2) 歴史的事実
- 第 4 回 項目 その場にいれば全てを理解できるか 内容 歴史学と時間的距離
- 第 5 回 項目 発展の学としての歴史学と比較文化論的歴史学 内容 (1) 発展の学としての歴史学 (2) 比較文化論的歴史学
- 第 6 回 項目 歴史は必ず進歩するものか 内容 進歩史観批判
- 第 7 回 項目 「歴史に学ぶ」か 内容 (1) 歴史に学ぶこと (2) 歴史は繰り返すか (3) 歴史に学べるか
- 第 8 回 項目 歴史学と善悪 内容 歴史学と善悪の判断
- 第 9 回 項目 個人と社会 1 内容 偉人・偉業が成立する条件
- 第 10 回 項目 個人と社会 2 内容 個人を歴史学はどう描くべきか
- 第 11 回 項目 歴史を考える「場」 内容 歴史を考える空間スケール
- 第 12 回 項目 史料との対し方 内容 史料との対し方
- 第 13 回 項目 歴史学と隣接諸科学 内容 隣接諸科学と、総合の学としての歴史学
- 第 14 回 項目 環境・技術と歴史 内容 自然・社会・文化と技術
- 第 15 回 項目 試験 内容 論説試験

●成績評価方法（総合）授業中に書いてもらう小論文と学期末試験の際に書いてもらう小論文の合計で判定する。

●教科書・参考書 教科書：なし。必要に応じてプリントを配付する。／参考書：歴史とは何か, E.H. カー, 岩波書店, 1963 年；史学概論, 林健太郎, 有斐閣, 1970 年；歴史学概論, 増田四郎, 講談社, 1994 年；新しい科学論, 村上陽一郎, 講談社, 1979 年；地中海, F. ブローデル, 藤原書店, 1991 年；不確定性原理, 都筑卓司, 講談社, 1970, 個人的知識, マイケル・ポラニー, ハーベスト社, 1985, 歴史哲学, ヘーゲル, 岩波書店, 1971

●メッセージ 史学概論とは歴史学に関する哲学と方法論、そして史学史をあわせたものです。本授業では前二者を中心とします。受講生にはこうした問題に関する思考を重ねられることを要求します。

●連絡先・オフィスアワー 研究室:人文学部 517 号室、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー  
月曜 9/10 時限

開設科目	日本史概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	真木隆行				

- 授業の概要 日本中世の国家・社会・宗教をめぐる諸問題についてお話する。
- 授業の一般目標 ・歴史学の研究方法の一端を理解する。 ・日本中世の全体史像の捉え方をめぐって考究する。 ・身近な地域から歴史を捉える。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 日本中世に関する基本的な事実関係について説明できる。 日本中世史の捉え方をめぐる諸論点について理解する。 思考・判断の観点： 史料・先行研究・通説を独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。 関心・意欲の観点： 関心あるテーマに即してとことん問題を掘り下げる。 技能・表現の観点： 自分なりの見解を論理的にとりまとめて論述できる。
- 授業の計画（全体） 当面、次のようなテーマを考えている。 〈前半〉 山口周辺地域から見る中世。 〈後半〉 中世における「国家史」的視点をめぐって。 詳細については、初回講義で提示したい。
- 成績評価方法（総合） 出席点、授業内レポートの内容、定期試験、それらから総合的に立って評価する。
- 教科書・参考書 教科書： 中世に国家はあったか, 新田一郎, 山川出版社, 2004 年／ 参考書： 講義時間内に紹介する。

開設科目	日本史概論 III	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	田中誠二				

- 授業の概要 日本近世史について概説する。他の時代と比較しての近世社会の特質を説明する。日本近世の政治・経済・社会にわたる固有の相を説明する。日本近世の時期を追っての変化を説明する。／検索キーワード 日本近世史、歴史学、概論
- 授業の一般目標 1. 近代と前近代の論理的対比、日本史上における近世という時代の特徴を理解する。 2. 日本近世の政治・経済・社会の基本的知識を得る。 3. 日本近世の時期を追っての流れを理解する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 日本近世の政治・経済・社会の基本的事実を説明できる。 2. 日本史上における近世という時代の特徴を説明できる。 思考・判断の観点： 1. 歴史の流れをマクロ的に把握する力を培う。 2. ものごとを批判的に見る眼を養う。 技能・表現の観点： 1. 自分の見解を論理的に文章で表現できる。
- 授業の計画（全体） 歴史学の方法、日本史上の近世という時代の特徴、兵農分離・石高制・鎖国、将軍権力の確立、幕藩関係、知行制、検地と年貢、近世村落、近世都市、藩財政、貨幣・流通、藩政改革、等にわたって講義を行う。
- 成績評価方法（総合） 定期試験によって成績評価を行う。試験は論述問題である。
- 教科書・参考書 教科書： なし。適宜プリントを配布する。／参考書： 朝尾直弘『朝尾直弘著作集』（岩波書店）。

開設科目	古文書・古記録	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	橋本義則				

- 授業の概要** この授業では平安時代の貴族が記した日記を翻刻されたテキストに従いつつ読み進めていきます。撰関時代に活躍した藤原実資の日記『小右記』を読んでいます。この授業は史料講読に準ずる内容のものであり、それと同様に受講者が分担して史料を読み、それに基づく解説を行います。担当した個所についてはレジュメの作成が必須です。また、レジュメの作成に当たっては当時の貴族の世界を詳しく知るために図面や系図、あるいは儀式書や法制書などからの引用が必要になってきます。授業では受講生全員が担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要で、しばしば指名して意見を求めます。／検索キーワード 日本古代史、平安時代、文献史料、漢文史料、日記、古記録、貴族、小右記
- 授業の一般目標** 平安時代の標準的史料である貴族の日記を読解する力を養成する。
- 授業の到達目標**／ 知識・理解の観点：平安時代の貴族の日記を読みこなすための基礎的知識を獲得する。 思考・判断の観点：様々な史料を用いて日記の内容を論理的に解釈する力を身につける。 関心・意欲の観点：古代貴族の日常生活に関心・興味を抱く。 態度の観点：学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。 技能・表現の観点：1, 古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。
- 授業の計画（全体）** この授業では平安時代の貴族が記した日記を翻刻されたテキストに従いつつ読み進めていきます。撰関時代に活躍した藤原実資の日記『小右記』を読んでいます。この授業は史料講読に準ずる内容のものであり、それと同様に受講者が分担して史料を読み、それに基づく解説を行います。担当した個所についてはレジュメの作成が必須です。また、レジュメの作成に当たっては当時の貴族の世界を詳しく知るために図面や系図、あるいは儀式書や法制書などからの引用が必要になってきます。授業では受講生全員が担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要で、しばしば指名して意見を求めます。
- 成績評価方法（総合）** 1, 学期末試験期間に試験を実施する。2, 出席が所定の回数に満たないものには試験を受ける資格を与えない。
- 教科書・参考書** 教科書：なし。最初の授業で指示する。／参考書：なし。
- メッセージ** 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。
- 連絡先・オフィスアワー** y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・木の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも



開設科目	古文書・古記録	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	橋本義則				

- 授業の概要** この授業では平安時代の貴族が記した日記を翻刻されたテキストに従いつつ読み進めて行きます。撰閲時代に活躍した藤原実資の日記『小右記』を読んでいます。この授業は史料講読に準ずる内容のものであり、それと同様に受講者が分担して史料を読み、それに基づく解説を行います。担当した個所についてはレジュメの作成が必須です。また、レジュメの作成に当たっては当時の貴族の世界を詳しく知るために図面や系図、あるいは儀式書や法制書などからの引用が必要になってきます。授業では受講生全員が担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要で、しばしば指名して意見を求めます。／検索キーワード 日本古代史、平安時代、文献史料、漢文史料、日記、古記録、貴族、小右記
- 授業の一般目標** 平安時代の標準的史料である貴族の日記を読解する力を養成する。
- 授業の到達目標**／ 知識・理解の観点：平安時代の貴族の日記を読みこなすための基礎的知識を獲得する。 思考・判断の観点：様々な史料を用いて日記の内容を論理的に解釈する力を身につける。 関心・意欲の観点：古代貴族の日常生活に関心・興味を抱く。 態度の観点：学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。 技能・表現の観点：1, 古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。
- 授業の計画（全体）** この授業では平安時代の貴族が記した日記を翻刻されたテキストに従いつつ読み進めて行きます。撰閲時代に活躍した藤原実資の日記『小右記』を読んでいます。この授業は史料講読に準ずる内容のものであり、それと同様に受講者が分担して史料を読み、それに基づく解説を行います。担当した個所についてはレジュメの作成が必須です。また、レジュメの作成に当たっては当時の貴族の世界を詳しく知るために図面や系図、あるいは儀式書や法制書などからの引用が必要になってきます。授業では受講生全員が担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要で、しばしば指名して意見を求めます。
- 成績評価方法（総合）** 1, 学期末試験期間に試験を実施する。2, 出席が所定の回数に満たないものには試験を受ける資格を与えない。
- 教科書・参考書** 教科書：なし。最初の授業で指示する。／参考書：なし
- メッセージ** 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。
- 連絡先・オフィスアワー** y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・木の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	古文書・古記録	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	真木隆行				

- 授業の概要 題目：中世の古文書（前期） 概要：中世文書の写真コピーを使い、文書様式の基礎も踏まえながら読解を行う。
- 授業の一般目標 ・中世の古文書について、くずし字判読能力を養う。 ・中世の古文書について、内容解釈力を養う。 ・中世の文書様式の基礎を学ぶ。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： ・中世のくずし字をある程度判読できる。 ・中世の古文書を読解するために必要な知識を得る。 思考・判断の観点： ・より深く、より興味深い内容解釈ができるよう努める。 技能・表現の観点： 古文書の釈文を正確に記し、読点・返り点・送り仮名を適切に付すことができる。
- 授業の計画（全体） 宗像大社文書の中世文書を読みすすめる予定。受講生が読解を分担して原稿を作成し、それに基づいて検討し、復習を重ねる。
- 成績評価方法（総合） 定期試験において、3通の古文書を出題する。そのうち2通は、授業時間内に検討済みのものからそのまま出題。片方は、くずし字を楷書体に改めるのみ、もう片方は、楷書体に改めた上で、それに読点・返り点・送り仮名をつける。残り1通は、未検討の古文書から出題し、楷書体に改める。採点は減点方式とし、80点以上を優、70～79点を良、60～69点を可、59点以下を不可とする。
- 教科書・参考書 教科書：写真コピーを配布する。／参考書：(1)くずし字用例辞典, 児玉幸多, 東京堂出版 (2)くずし字解読辞典, 児玉幸多, 東京堂出版 (1)(2)の購入はいずれかでよい。(1)(¥5,800)のひき方は、漢和辞書に近い。(2)(¥2,200)は、一筆目の形からひくことができる。私は(1)を薦めたい。この他、漢和辞書（例えば『角川新字源』など）や日本史事典（『角川日本史辞典』など）・日本史年表（歴史学研究会編『新版日本史年表』岩波書店など）を持っておくと便利。
- メッセージ はじめは慣れないかもしれませんが、復習を繰り返せば、確実に読めるようになります。

開設科目	古文書・古記録	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	真木隆行				

- 授業の概要 題目：中世の古文書（後期） 概要：中世文書の写真コピーを使い、文書様式の基礎も踏まえながら読解を行う。
- 授業の一般目標 ・中世の古文書について、くずし字判読能力を養う。 ・中世の古文書について、内容解釈力を養う。 ・中世の文書様式の基礎を学ぶ。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： ・中世のくずし字をある程度判読できる。 ・中世の古文書を読解するために必要な知識を得る。 思考・判断の観点： ・より深く、より興味深い内容解釈ができるよう努める。 技能・表現の観点： 古文書の釈文を正確に記し、読点・返り点・送り仮名を適切に付すことができる。
- 授業の計画（全体） 身近な地域の中世文書を読みすすめる予定。受講生が読解を分担して原稿を作成し、それに基づいて検討し、復習を重ねる。
- 成績評価方法（総合） 定期試験において、3通の古文書を出題する。そのうち2通は、授業時間内に検討済みのものからそのまま出題。片方は、くずし字を楷書体に改めるのみ、もう片方は、楷書体に改めた上で、それに読点・返り点・送り仮名をつける。残り1通は、未検討の古文書から出題し、楷書体に改める。採点は減点方式とし、80点以上を優、70～79点を良、60～69点を可、59点以下を不可とする。
- 教科書・参考書 教科書：写真コピーを配布する。／参考書：(1)くずし字用例辞典, 児玉幸多, 東京堂出版 (2)くずし字解説辞典, 児玉幸多, 東京堂出版 (1)(2)の購入はいずれかでよい。(1)(¥5,800)のひき方は、漢和辞書に近い。(2)(¥2,200)は、一筆目の形からひくことができる。私は(1)を薦めたい。この他、漢和辞書（例えば『角川新字源』など）や日本史事典（『角川日本史辞典』など）・日本史年表（歴史学研究会編『新版日本史年表』岩波書店など）を持っておくと便利。
- メッセージ はじめは慣れないかもしれませんが、復習を繰り返せば、確実に読めるようになります。

開設科目	古文書・古記録	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	田中誠二				

- 授業の概要 1. 近世のくずし字で書かれた史料を読解する能力を養う授業である。 2. 近世の基本的用語の読み・意味を説明する。／検索キーワード 古文書、くずし字、史料
- 授業の一般目標 1. 1年間で、近世史料の簡単なくずし字であれば、読解できる。 2. 近世の基本的用語の読み・意味を説明できる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 近世史料の簡単なくずし字を読解できる。 2. 近世史料の基本的用語の読み・意味を説明できる。 関心・意欲の観点： 1. 近世史料を原本で読解する醍醐味を味わう。
- 授業の計画（全体） 最初の3コマくらいは、平仮名のくずし字に慣れる。4コマ目から毛利家文庫史料の写真版を用いて、くずし字の読解能力を養う。担当箇所を当てるので、当たった学生はパソコンで積文を作成し、読みかつ現代語訳を行う。これを訂正しつつ授業を進める。
- 成績評価方法（総合） 定期試験によって成績評価を行う。減点法による足きり（41箇所間違いがあれば不可とする）がある。
- 教科書・参考書 教科書：なし。適宜プリントを配布する。／参考書：古文書解読辞典を各自持つこと。例えば、児玉幸多編『くずし字解読辞典』（東京堂出版）、同編『くずし字用例辞典』など。
- 連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜昼休み

開設科目	古文書・古記録	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	田中誠二				

- 授業の概要 1. 近世のくずし字で書かれた史料を読解する能力を養う授業である。 2. 近世の基本的用語の読み・意味を説明する。／検索キーワード 古文書、くずし字、史料
- 授業の一般目標 1. 1年間で、近世史料の簡単なくずし字であれば読解できる。 2. 近世の基本的用語の読み・意味を説明できる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 近世史料の簡単なくずし字を読解できる。 2. 近世史料の基本的用語の読み・意味を説明できる。
- 授業の計画（全体） 毛利家文庫史料の写真版を用いて、くずし字の読解能力を養う。前期よりも少し難度の高い史料の写真版を用いる。担当箇所を当てるので、当たった学生はパソコンで釈文を作成し、読みかつ現代語訳を行う。これを訂正しつつ授業を進める。
- 成績評価方法（総合） 定期試験によって成績評価を行う。減点法による足きり（4 1箇所間違いがあれば不可とする）がある。
- 教科書・参考書 教科書： なし。適宜プリントを配布する。／参考書： 古文書読解辞典を各自持つこと。
- 連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜の昼休み。

開設科目	日本政治・社会史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	橋本義則				

- 授業の概要** 日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度については、考古学や民族学の調査・研究成果を踏まえつつ、主として所謂大化前代を対象に研究が行われ、多くの成果を上げてきました。しかし律令を基本とした古代国家が成立した8世紀以降の喪葬に関する研究はまだ少なく、またそれらの研究は極めて不十分なものでしかないと思われます。本講義では、このような研究の現状に鑑み、まず8世紀の喪葬の具体的な様相について貴族階級を対象をおいてできる限り明かにし、次いで律令国家の喪葬政策やそれをめぐる政治・社会状況を考えることにしたいと思います。そしてこれらの検討を通じて律令国家の喪葬に対する政策の意図やその変化、さらにそれを推し進め、貴族社会の変化などについても考えてみたいと思っています。昨年度は喪葬のうち「喪」について話しました。本年度は引き続き「葬」について話し、まとめに入る予定です。／検索キーワード 日本古代史、貴族社会、喪葬、墳墓
- 授業の一般目標** 日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度とその成立の経緯を理解することを通じて、日本古代の貴族社会について理解を深める。
- 授業の到達目標**／ 知識・理解の観点：古代の喪葬制度とその背景にある政治・社会状況を説明できる。  
 思考・判断の観点：史料や資料を用いて、古代貴族社会の実態を論理的に解釈する能力を身につける。  
 関心・意欲の観点：古代貴族社会に関心・興味を抱く。 態度の観点：学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。 技能・表現の観点：1, 古代の史料・資料を博捜し、正しく解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。
- 授業の計画（全体）** 日本古代の喪葬儀礼や喪葬に関わる制度については、考古学や民族学の調査・研究成果を踏まえつつ、主として所謂大化前代を対象に研究が行われ、多くの成果を上げてきました。しかし律令を基本とした古代国家が成立した8世紀以降の喪葬に関する研究はまだ少なく、またそれらの研究は極めて不十分なものでしかないと思われます。本講義では、このような研究の現状に鑑み、まず8世紀の喪葬の具体的な様相について貴族階級を対象をおいてできる限り明かにし、次いで律令国家の喪葬政策やそれをめぐる政治・社会状況を考えることにしたいと思います。そしてこれらの検討を通じて律令国家の喪葬に対する政策の意図やその変化、さらにそれを推し進め、貴族社会の変化などについても考えてみたいと思っています。
- 成績評価方法（総合）** 1. 学期末にレポートを提出する。2. レポートの分量と内容については別途指示する。
- 教科書・参考書** 教科書：指定されたホームページにアクセスして講義レジュメをダウンロードする必要がある。／参考書：授業中に適宜指摘する。
- メッセージ** 日本史概説を受講し、飛鳥・奈良・平安の各時代についてやや詳しい知識をもっていることが望ましい。また講義レジュメのダウンロードと受講のためにノートパソコンが必携である。
- 連絡先・オフィスアワー** y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・木の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本政治・社会史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	真木隆行				

●授業の概要 講義題目：法親王の成立と展開 ―中世における貴種僧秩序の一側面― 講義概要：天皇の子の中には、親王（皇子）・内親王（皇女）のほか、かつて「法親王」というものも存在した時代があった。法親王とは、天皇の子弟が出家した後も親王としての待遇を有する僧侶のことである。平安時代末期に成立した後、中世・近世を通じて存続したが、近代化と神仏分離の風潮の中で消滅した。つまり天皇と仏教との関わりが深かった中世・近世特有の存在だと評することができる。なぜこのような法親王制が生まれたか、またそれはいかに展開し、いかに質的変貌を遂げたか、それらの実態や意義について明らかにしながら、とりわけ日本中世社会の特質について逆照射したい。／検索キーワード 法親王 親王宣下 品位 法親王庁 入道親王 准后 貴種僧 門跡 真言宗 天台宗 天皇家

●授業の一般目標 ・法親王制の成立やその変質過程の意義について理解する。 ・中世の天皇家と仏教との密接な関係について理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： ・法親王とそれをめぐる諸問題について理解する。 ・中世の天皇家と仏教との密接な関係について理解する。 思考・判断の観点： 史料・先行研究・通説・講義内容について独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。 技能・表現の観点： 自分なりの見解を論理的にとりまとめて論述できる。

●授業の計画（全体） はじめに I. 成立期の法親王 II. 法親王制成立の歴史的前提 III. 中世前期の天皇家と法親王 . 法親王をめぐる諸相 V. 中世後期以降の展望 むすびにかえて

●成績評価方法 (総合) 授業内レポートと期末レポートによって評価する。

●教科書・参考書 教科書： プリントを配布する。／参考書： 講義時間中に紹介する。

開設科目	日本政治・社会史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	田中誠二				

- 授業の概要 「萩藩の家臣団編成と加判役の成立」という主題で講義を行う。従来、どのように家臣団が編成され定着するか、またそれを進める上でなにが重要契機となり、誰がそれを担ったかについて、解明が進んでいない。家臣団編成については、大組八組の成立の経緯と歴史的意義を解明し、加判役の成立については、家臣団の編成に果たした役割と機構上の特質を解明する。／検索キーワード 萩藩、藩主権力、家臣団編成、加判役、主従制
- 授業の一般目標 1. 初期藩政の動向のなかでの藩主権力と家臣団編成（主従制的支配）について、構造的に理解する。 2. 17世紀前半の時代相と政治を知る。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 近世の政治について基本的知識を得る。 2. 時期的な特徴を理解する。 思考・判断の観点： 1. 重要要素の連関を把握する。 2. 自分の見解を論理的に述べる力を培う。 技能・表現の観点： 1. 理解したことを文章で適切に表現できる。
- 授業の計画（全体） 「萩藩の家臣団編成と加判役の成立」という主題について、(1) 近世初期の藩政の構造的特徴、(2) 藩主権力と家臣団編成のあり方、(3) 幕府政治の影響、(4) 萩藩権力機構の内の加判役の位置と役割、(5) 主従制的支配と統治権的支配の関係、(6) 諸職の成立と家臣団編成の関係、等にわたって解明する。
- 成績評価方法（総合） 定期試験をレポートにかえ、その内容によって成績評価を行う。レポートは、4000字詰10枚以上。
- 教科書・参考書 教科書： なし。適宜プリントを配布する。
- 連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・木曜昼休み。



開設科目	日本政治・社会史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	横田冬彦				

●授業の概要 講義の主題は、「日本近世の出版文化と村落社会」である。講義内容は以下の通りである。近世の出版文化は、これまで町人文化とみなされてきた。しかし兵農分離にもとづく近世村落社会もまた、村役人をはじめとした読書階層をもっていた。これら村落読者層の実像と、彼らの読書行為の意味について論じたい。キーワード：近世村落、書物史、読者論、ナショナリズム

●教科書・参考書 参考書：日本の歴史16 天下泰平, 横田冬彦, 講談社, 2002年

●備考 集中授業

開設科目	日本政治・社会史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	武田佐知子				

●備考 集中授業

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	橋本義則				

●授業の概要 古代の史料を正確に読み解く力を身につけるために、その代表的な史料、つまり典型的な漢文史料を選んで読み進めてゆきます。この授業では『類聚三代格』を読んでいます。授業で『類聚三代格』を取り上げた理由は、それが奈良時代から平安時代に出された諸種多様な法令を集大成したものであり、また奈良・平安時代の最も典型的な漢文史料であることにあります。授業では受講者が分担して史料解読の報告を行い、解読の正否を含めて検討を加えます。本授業の受講生は、全員が3～4回程度報告することになります。報告に当たっては丹念な史料収集を行った上でのレジュメの作成が義務づけられます。また授業では報告者を含めた受講生全員に積極的に発言を求めたり、あるいは指名して意見を求めたりします。従って受講生は担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要となります。なお、この授業は外国語の授業と同じ、所謂語学の授業でもありますから、史料を読解する力を養うため根気強く辞書を引くことが必須となります。／検索キーワード 日本古代史、奈良時代、平安時代、文献史料、漢文史料、法制史料、類聚三代格

●授業の一般目標 典型的な漢文史料を読解する力を養成する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：奈良時代・平安時代の法制史料（法律）を正確に解釈するための基礎的知識を獲得する。思考・判断の観点：様々な史料を用いて法制史料（法律）の内容を論理的に解釈する力を身につける。関心・意欲の観点：古代法制書の世界、政治制度の変遷に関心・興味を抱く。態度の観点：学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。技能・表現の観点：1, 古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

●授業の計画（全体） 古代の史料を正確に読み解く力を身につけるために、その代表的な史料、つまり典型的な漢文史料を選んで読み進めてゆきます。この授業では『類聚三代格』を読んでいます。授業で『類聚三代格』を取り上げた理由は、それが奈良時代から平安時代に出された諸種多様な法令を集大成したものであり、また奈良・平安時代の最も典型的な漢文史料であることにあります。授業では受講者が分担して史料解読の報告を行い、解読の正否を含めて検討を加えます。本授業の受講生は、全員が3～4回程度報告することになります。報告に当たっては丹念な史料収集を行った上でのレジュメの作成が義務づけられます。また授業では報告者を含めた受講生全員に積極的に発言を求めたり、あるいは指名して意見を求めたりします。従って受講生は担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要となります。なお、この授業は外国語の授業と同じ、所謂語学の授業でもありますから、史料を読解する力を養うため根気強く辞書を引くことが必須となります。

●成績評価方法（総合） 1, 学期末試験期間に試験を実施する。2, 出席が所定の回数に満たないものには試験を受ける資格を与えない。

●教科書・参考書 教科書：教科書に関する自由記述コメント：／参考書：なし

●メッセージ 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

●連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・木の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	橋本義則				

●授業の概要 古代の史料を正確に読み解く力を身につけるために、その代表的な史料、つまり典型的な漢文史料を選んで読み進めてゆきます。この授業では『類聚三代格』を読んでいます。授業で『類聚三代格』を取り上げた理由は、それが奈良時代から平安時代に出された諸種多様な法令を集大成したものであり、また奈良・平安時代の最も典型的な漢文史料であることにあります。授業では受講者が分担して史料解読の報告を行い、解読の正否を含めて検討を加えます。本授業の受講生は、全員が3～4回程度報告することになります。報告に当たっては丹念な史料収集を行った上でのレジュメの作成が義務づけられます。また授業では報告者を含めた受講生全員に積極的に発言を求めたり、あるいは指名して意見を求めたりします。従って受講生は担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要となります。なお、この授業は外国語の授業と同じ、所謂語学の授業でもありますから、史料を読解する力を養うため根気強く辞書を引くことが必須となります。／検索キーワード 日本古代史、奈良時代、平安時代、文献史料、漢文史料、法制史料、類聚三代格

●授業の一般目標 典型的な漢文史料を読解する力を養成する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：奈良時代・平安時代の法制史料（法律）を正確に解釈するための基礎的知識を獲得する。思考・判断の観点：様々な史料を用いて法制史料（法律）の内容を論理的に解釈する力を身につける。関心・意欲の観点：古代法制書の世界、政治制度の変遷に関心・興味を抱く。態度の観点：学問上の常識や通説を疑う姿勢を養う。技能・表現の観点：1, 古代の典型的漢文史料を正しく訓読・読み下し及び解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

●授業の計画（全体） 古代の史料を正確に読み解く力を身につけるために、その代表的な史料、つまり典型的な漢文史料を選んで読み進めてゆきます。この授業では『類聚三代格』を読んでいます。授業で『類聚三代格』を取り上げた理由は、それが奈良時代から平安時代に出された諸種多様な法令を集大成したものであり、また奈良・平安時代の最も典型的な漢文史料であることにあります。授業では受講者が分担して史料解読の報告を行い、解読の正否を含めて検討を加えます。本授業の受講生は、全員が3～4回程度報告することになります。報告に当たっては丹念な史料収集を行った上でのレジュメの作成が義務づけられます。また授業では報告者を含めた受講生全員に積極的に発言を求めたり、あるいは指名して意見を求めたりします。従って受講生は担当の有無に関わりなく、毎回十分な下調べをした上で出席することが必要となります。なお、この授業は外国語の授業と同じ、所謂語学の授業でもありますから、史料を読解する力を養うため根気強く辞書を引くことが必須となります。

●成績評価方法（総合） 1, 学期末試験期間に試験を実施する。2, 出席が所定の回数に満たないものには試験を受ける資格を与えない。

●教科書・参考書 教科書：なし／参考書：なし

●メッセージ 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが期待される。毎回の担当者はあらかじめワードを用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に参加者全員にワードのファイルで配布することが義務づけられる。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

●連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・木の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	真木隆行				

- 授業の概要 題目：貴族日記『勘仲記』を読む（8） 概要：『勘仲記』は、鎌倉後期中流貴族、勘解由小路兼仲（1244～1308）の日記であり、質量共に鎌倉時代を代表する記録史料の一つである。兼仲は、撰閲家の家司をつとめ、朝廷では蔵人・弁官を歴任し、やがて公卿となって権中納言まで昇進する。この史料講読では、兼仲が蔵人となる以前の段階、撰閲家の家司としての活動が中心であった頃の記事を対象としてこれまで輪読してきた。今期はひきつづき弘安6（1283）2月条の記事を検討する予定。テキストには史料大成本を使用するとともに、兼仲の自筆本の写真版コピーで校訂を行いながら輪読する。
- 授業の一般目標 ・史料の読解力を養う。 ・日本中世史の研究方法の一端を学ぶ。 ・関心ある論点を見つけ、とことん問題を掘り下げる。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： ・中世の史料を読解できる。 ・中世の史料を読解するために必要な知識を得る。 思考・判断の観点： より深く、より興味深い内容解釈ができるよう努める。 関心・意欲の観点： 関心ある論点を見つけて十分に調査し、とことん問題を掘り下げる。 技能・表現の観点： 漢文体史料の書き下し文や内容解釈文を適切に書く。
- 授業の計画（全体） 受講者全員が分担して校合・読解をおこない、その報告にもとづき検討する。
- 成績評価方法（総合） 定期試験を実施する。授業時間内に検討した史料を抜粋し、それに基づき出題する。
- 教科書・参考書 教科書：活字版・写真版のコピーを配布する。／参考書：人文学部所在の図書や付属図書館内の図書をはじめとし、場合によっては山口県立図書館や山口市立図書館の図書も活用しながら、十分な報告準備をおこなう必要がある。また、東京大学史料編纂所が公開しているサイトも利用させていただく必要がある。
- メッセージ ゼミナール形式で行います。基本的事項の説明にとどまるのではなく、なんらかの検討課題を独自に発見し、深く掘り下げられた報告を求めます。

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	真木隆行				

- 授業の概要 題目：貴族日記『勘仲記』を読む（9） 概要：『勘仲記』は、鎌倉後期中流貴族、勘解由小路兼仲（1244～1308）の日記であり、質量共に鎌倉時代を代表する記録史料の一つである。兼仲は、摂関家の家司をつとめ、朝廷では蔵人・弁官を歴任し、やがて公卿となって権中納言まで昇進する。この史料講読では、兼仲が蔵人となる以前の段階、摂関家の家司としての活動が中心であった頃の記事を対象としてこれまで輪読してきた。今期は前期にひきつづき弘安6（1283）の記事を検討する予定。テキストには史料大成本を使用するとともに、兼仲の自筆本の写真版コピーで校訂を行いながら輪読する。
- 授業の一般目標 ・史料の読解力を養う。 ・日本中世史の研究方法の一端を学ぶ。 ・関心あるテーマに即してとことん問題を掘り下げる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： ・中世の史料を読解できる。 ・中世の史料を読解するために必要な知識を得る。 思考・判断の観点： より深く、より興味深い内容解釈ができるよう努める。 関心・意欲の観点： 関心ある論点を見つけて十分に調査し、とことん問題を掘り下げる。 技能・表現の観点： 漢文体史料の書き下し文や内容解釈文を適切に書く。
- 授業の計画（全体） 受講者全員が分担して校合・読解をおこない、その報告にもとづき検討する。
- 成績評価方法（総合） 定期試験を実施する。授業時間内に検討した史料を抜粋し、それに基づき出題する。
- 教科書・参考書 教科書：活字版・写真版のコピーを配布する。／参考書：人文学部所在の図書や付属図書館内の図書をはじめとし、場合によっては山口県立図書館や山口市立図書館の図書も活用しながら、十分な報告準備をおこなう必要がある。また、東京大学史料編纂所が公開しているサイトも利用させていただく必要がある。
- メッセージ ゼミナール形式で行います。基本的事項の説明にとどまるのではなく、なんらかの検討課題を独自に発見し、深く掘り下げられた報告を求めます。

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	田中誠二				

- 授業の概要 萩藩法制史料を精読する。基本的用語の読み・意味を正確に身につけさせ、時代背景・機構・変化を読み取っていく。／検索キーワード 史料講読、法制史料、萩藩
- 授業の一般目標 1. 萩藩法制史料を講読し、近世法制の内容や権力機構・時代背景を理解する。 2. 近世の基本的用語の読み・意味を知り、近世史料を用いて研究・考察する力を培う。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 近世の基本的用語の読み・意味を正確に理解する。 2. 近世の法制について理解を深める。 思考・判断の観点： 1. 法制史料に現れる一定の法則性を把握し、それを論理的に説明できる力を培う。
- 授業の計画（全体） 授業は、史料の講読とその解釈という形で進める。担当箇所を当てるので、当たった箇所を読み上げ、解釈を加える。それを訂正し解説を加える形で授業を進める。
- 成績評価方法（総合） 定期試験によって成績評価を行う。減点法による足きり（4 1 箇所以上の間違いがあれば不可とする）がある。
- 教科書・参考書 教科書： なし。適宜プリントを配布する。
- 連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・金曜昼休み。

開設科目	日本史史料講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	田中誠二				

- 授業の概要 萩藩政治史史料を精読する。基本的用語の読み・意味を正確に身につけさせ、時代背景・権力機構の特質を読み取っていく。／検索キーワード 萩藩、政治史史料、史料講読
- 授業の一般目標 1. 萩藩政治史史料を講読し、近世政治権力の機構・実態を理解する。 2. 近世の基本的用語の読み・意味を知り、近世史料を用いて研究・考察する力を培う。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 近世の基本的用語の読み・意味を正確に理解する。 2. 近世政治史の課題について理解を深める。 思考・判断の観点： 1. 近世政治史史料に現れる一定の法則性・連関を把握し、それを論理的に説明する力を養う。
- 授業の計画（全体） 授業は、史料の講読とその解釈という形で進める。担当箇所を当てるので、当たった箇所を読み上げ、解釈を加える。それを訂正し解説を加える形で授業を進める。
- 成績評価方法（総合） 定期試験によって成績評価を行う。減点法による足きり（41箇所以上の間違いがあれば不可とする）がある。
- 教科書・参考書 教科書： なし。適宜プリントを配布する。
- 連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・木曜昼休み。



開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	橋本義則				

- 授業の概要 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい卒業論文の作成を目指したいと考えています。／検索キーワード よりよい卒業論文の作成を目指す。
- 授業の一般目標 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい卒業論文の作成を目指したいと考えています。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点：卒業論文作成に必要な日本古代史に関する知識を獲得する。 思考・判断の観点：卒業論文作成に必要な論理的考察力を獲得する。 関心・意欲の観点：卒業論文作成に当たり、自らの興味・関心に基づいて、問題を設定する力をつける。 態度の観点：卒業論文の作成を通じて、自ら学問上の常識や通説を疑い、解決しようとする姿勢を養う。 技能・表現の観点：1, 論文作成に必要な史料を正確に解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。
- 授業の計画（全体） 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。
- 成績評価方法（総合） 1. 学期末に半期かかって報告した研究内容についてレポートを提出する。 2. レポートの分量については別途指示する。
- 教科書・参考書 教科書：なし／参考書：なし
- メッセージ 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが必須とされる。また毎回の研究報告発表者はあらかじめワープロソフト（ワード）を用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に教官および受講生全員に資料をワードのファイルで配布することが義務付けられます。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。
- 連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・木の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	橋本義則				

●授業の概要 受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい卒業論文の作成を目指したいと考えています。／検索キーワード 卒業論文

●授業の一般目標 よりよい卒業論文の作成を目指す。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：卒業論文作成に必要な日本古代史に関するより高度な知識を獲得する。思考・判断の観点：卒業論文作成に必要な論理的考察力を獲得する。関心・意欲の観点：1, 卒業論文作成に当たり、自らの興味・関心に基づいて、問題を設定する力をつける。2, 先学の研究を十分に咀嚼して自らの問題設定との関係を明確に把握できる力をつける。態度の観点：卒業論文の作成を通じて、学問上の常識や通説を疑い、かつそれを明確に指摘しうる姿勢を養う。技能・表現の観点：1, 論文作成に必要な史料を正確に解釈できる。2, 正しい日本語（書き言葉）で自分の意見を論理的に表現できる。

●授業の計画（全体）受講生は自らが関心を持つ日本古代史上の種々のテーマについて、具体的な史料を用いながら調査・研究を進め、毎々その成果を報告してもらいます。報告終了後、まず提示された史料解釈の妥当性を中心にして検討を行い、さらにその研究史上における問題や論理の展開などについて討議、検討を加えます。この過程を通じてよりよい修士論文の作成を目指したいと考えています。

●成績評価方法（総合）1. 学期末に半期かかって報告した研究内容についてレポートを提出する。2. レポートの分量については別途指示する。

●教科書・参考書 教科書：なし／参考書：なし

●メッセージ 本授業では授業時に受講生全員がパソコンを持ち込み、使用することが必須とされる。また毎回の研究報告発表者はあらかじめワープロソフト（ワード）を用いて報告に必要な配布資料を作成し、授業時に教官および受講生全員に資料をワードのファイルで配布することが義務付けられます。また資料の作成に当たってはスキャナーなどの周辺機器の活用も必要とされる。

●連絡先・オフィスアワー y-hasi@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー：一応、月・木の5時40分～6時40分、しかし時間のあるときはいつでも

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	真木隆行				

- 授業の概要 題目：日本中世史の諸問題 概要：日本中世史を専攻する3・4回生を対象とし、卒業論文の作成に向けた指導を行う。報告担当者は各自の関心を深めて、充実した研究報告を行う。報告担当者以外の参加者も、報告内容をめぐって活発に議論し、中世史の諸問題を掘り下げていてもらいたい。
- 授業の一般目標 卒業論文作成につながるような研究成果を重ねる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：・関係史料や先行研究について把握する。・関心ある事象の時代背景を把握する。 思考・判断の観点：史料・先行研究・通説などを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。 関心・意欲の観点：関心あるテーマを見つけ、とことん問題を掘り下げる。 態度の観点：一研究者としての誇りを持つ。 技能・表現の観点：自分なりの見解を論理的にとりまとめ、よりよい報告や論述ができる。
- 授業の計画（全体）各自が設定した卒業論文のテーマを掘り下げ、研究報告を行う。
- 成績評価方法（総合）演習時間内の報告内容と、提出レポートで評価する。
- メッセージ いい卒業論文を読ませてください。
- 連絡先・オフィスアワー ご来訪ご質問は、いつでも歓迎する。いっぽう、ゼミの無断欠席は厳禁につき、やむを得ない欠席の場合には事前連絡（場合により事後承諾）を要する。電話・E-mailは研究室名簿参照。

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	真木隆行				

- 授業の概要 題目：日本中世史の諸問題 概要：日本中世史を専攻する3・4回生を対象とし、卒業論文の作成に向けた指導を行う。報告担当者は各自の関心を深めて、充実した研究報告を行う。報告担当者以外の参加者も、報告内容をめぐって活発に議論し、中世史の諸問題を掘り下げていてもらいたい。
- 授業の一般目標 卒業論文作成につながるような研究成果を重ねる。とりわけ4回生は、よりよい卒業論文にしあげて提出する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：・関係史料や先行研究について把握する。・関心ある事象の時代背景を把握する。 思考・判断の観点：史料・先行研究・通説などを独自の視点で捉え直し、自分なりの見解を導き出す。 関心・意欲の観点：関心あるテーマを見つけ、とことん問題を掘り下げる。 態度の観点：一研究者としての誇りを持つ。 技能・表現の観点：自分なりの見解を論理的にとりまとめ、よりよい報告や論述ができる。
- 授業の計画（全体）各自が設定した卒業論文のテーマを掘り下げ、研究報告を行う。
- 成績評価方法（総合）演習時間内の報告内容と、提出レポートで評価する。
- メッセージ いい卒業論文を読ませてください。
- 連絡先・オフィスアワー ご来訪ご質問は、いつでも歓迎する。いっぽう、ゼミの無断欠席は厳禁につき、やむを得ない欠席の場合には事前連絡（場合により事後承諾）を要する。電話・E-mailは研究室名簿参照。

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	田中誠二				

- 授業の概要 日本近世史を専攻する学生が、日本史上の諸問題について、各自の立てた主題にしたがって報告を行い、討論を行って、研究内容を深化させる授業である。／検索キーワード 日本近世史、歴史学、演習
- 授業の一般目標 1. 各自の立てた主題についての研究史を整理する。 2. 史料を提示し、正確に解釈し、立論する。 3. 自分の見解を論理的に述べる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 時代背景について理解を深める。 2. 各自の主題についての基礎知識を得る。 思考・判断の観点： 1. 各自の主題についての研究史の現状を把握し、自分の見解を論理的に述べる力を養う。 2. 史料を使って論証する力を培う。 技能・表現の観点： 1. 考察した結果を述べたり、文章で適切に表現できる。
- 授業の計画（全体） 各自の立てた主題について報告し、討論を行う。
- 成績評価方法（総合） 定期試験にかえてレポートを提出させ、その内容によって成績評価を行う。授業での報告内容 も加味した評価を行う。
- 教科書・参考書 教科書： なし。適宜レジュメを配布する。
- 連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・木曜の昼休み。

開設科目	日本史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	田中誠二				

- 授業の概要 日本近世史を専攻する学生が、日本史上の諸問題について、各自の立てた主題にしたがって報告を行い、討論を行って、研究内容を深めていく授業である。／検索キーワード 日本近世史、歴史学、演習
- 授業の一般目標 1. 各自の立てた主題についての研究史を整理する。 2. 史料を提示し、正確に解釈し、立論する。 3. 自分の見解を論理的に述べる。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 1. 時代背景についての理解を深める。 2. 各自の主題についての基礎知識を得る。 思考・判断の観点： 1. 各自の主題についての研究史の現状を把握し、自分の見解を論理的に述べる力を培う。 2. 史料を使って論証する力を培う。 技能・表現の観点： 1. 考察した結果を述べたり、文章で適切に表現できる。
- 授業の計画（全体） 各自の立てた主題について報告し、討論を行う。
- 成績評価方法（総合） 定期試験にかえてレポートを提出させ、その内容によって成績評価を行う。授業での報告内容も加味する。
- 教科書・参考書 教科書： なし。適宜レジュメを配布する。
- 連絡先・オフィスアワー オフィスアワー月曜・木曜昼休み。

開設科目	東洋史概説 III	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	馬彪				

●授業の概要 秦と漢の時代（BC.221～AD.220）は、中国古代帝国の形成期にあたる。秦は最初の皇帝の始皇帝が作った帝国で、漢は秦に創造された皇帝制・郡県制・官僚制などを継続し、武帝の時にその盛時を迎えた。その時代の中国人は、帝国より統一された社会生活の面でさらにあゆみより、民族意識も強化してきて、漢民族は形成されていったのである。／検索キーワード 上古・秦・漢

●授業の一般目標 本講義では長い中国歴史の一段階、即ち秦漢時代の歴史のみを紹介するに止めるが、最新の出土文物までを利用して漢民族や漢文化や皇帝制度や郡県制度などの形成史を説明することを目標とする。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：中国古代における秦漢帝国に関する知識を説明できる。思考・判断の観点：秦漢時代は中国史上に於いて重要な位置を指摘できる。関心・意欲の観点：受講生は中国古代文明への関心を一層喚起するのを寄与できる。態度の観点：討論の参加でき、質問の応答を協調できる。

●授業の計画（全体） 計画は、秦・前漢・新・後漢という4つの王朝に対して、出土文物を主な史料として利用して15時限程度で中国史上初めの帝国時代、約440年間の歴史を教えて上げよう。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目1、序言：内容 秦と漢時代の諸特徴
- 第2回 項目 第一章 始皇帝の作った秦の帝国 2、内容 始皇帝の都城と宮殿
- 第3回 項目3、内容 帝国制度の草創
- 第4回 項目4、内容 兵馬俑で守られる御陵
- 第5回 項目 第二章 盛時を迎えた前漢王朝 5、内容 西京の長安から各地方へ
- 第6回 項目6、内容 貴族的な豪華な生活
- 第7回 項目7、内容 漢の武帝と匈奴の戦い
- 第8回 項目8、内容 西域へのシルクロード
- 第9回 項目9、内容 庶民の世界：都市と農村
- 第10回 項目10、内容 王莽の改革と失敗
- 第11回 項目 第三章 中世に上げた後漢時代 11、内容 東京の「帝城」と南陽の「帝郷」
- 第12回 項目12、内容 外戚・宦官・士大夫の朝廷闘争
- 第13回 項目13、内容 後漢王朝と周辺民族の関係
- 第14回 項目14、内容 民間宗教と帝国の崩壊
- 第15回 項目15、内容 中世への入り口

●成績評価方法（総合）成績評価は基本的に、出席（30％）と試験（70％）で行う。

開設科目	東洋史概説 IV	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	滝野正二郎				
<p>●授業の概要 中国史の各時代（特に唐代から清代）において特徴的な開発史上の問題を取り上げ、最終的には、それが移住民社会としての中国の形成、さらには天下観にまで関係していることを示す。／検索キーワード 開発、自然、環境、技術、応働関係、黄土、デルタ、う田、山区経済、移住、移住民社会</p> <p>●授業の一般目標 中国の開発の歴史を検討することによって、中国社会の移住民社会的特質を理解し、人間—環境間の応働関係を歴史的に理解する。</p> <p>●授業の到達目標／知識・理解の観点：中国の開発について通時的に理解する。思考・判断の観点：人類史を、自然環境・技術・文化との関わりの上に立って考える。関心・意欲の観点：歴史における自然的・技術的要因にも関心を持つ。態度の観点：学問を文系と理系に分けるのではなく、全ての要素の総合として歴史を考える態度を持つ。</p> <p>●授業の計画（全体）中国史の各時代（特に唐代から清代）において特徴的な開発史上の問題を取り上げ、最終的には、それが移住民社会としての中国の形成、さらには天下観にまで関係していることを講義していく。</p> <p>●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 序論 1 内容 アジア・東洋・東洋史学</p> <p>第 2 回 項目 序論 2 内容 「開発」とは何か。なぜ「開発」が問題になるか。</p> <p>第 3 回 項目 中国の地理環境 内容 地勢・気候・植生・文化</p> <p>第 4 回 項目 中国における人口の変遷 内容 人口数・人口分布の変遷</p> <p>第 5 回 項目 古代中国における開発 内容 黄土地帯の開発</p> <p>第 6 回 項目 江南デルタの開発 1 内容 う田・囲田の開発</p> <p>第 7 回 項目 江南デルタの開発 2 内容 占城稲の導入</p> <p>第 8 回 項目 中国南部・長江中流域へのデルタ開発の拡大 内容 珠江デルタ・湖広地域のデルタ開発</p> <p>第 9 回 項目 台湾・西南地域・東北の開発と移住 内容 漢民族居住地域の拡大</p> <p>第 10 回 項目 清代における山地の開発と移住 内容 トウモロコシ・サツマイモ等アメリカ大陸産作物の導入と域内辺境の消滅</p> <p>第 11 回 項目 移住民による秩序形成 内容 上層移住民と宗族</p> <p>第 12 回 項目 嘉慶白蓮教徒の叛乱 内容 下層移住民の宗教結社と叛乱</p> <p>第 13 回 項目 漢民族の海外移住 内容 南洋華僑の発生</p> <p>第 14 回 項目 中国人の「天下観」と開発・移住 内容 漢民族による開発・移住が海外にまで及ぶ現象と伝統的世界観との関係</p> <p>第 15 回 項目 期末試験 内容 論文形式の試験。手書きノート、配付プリント持ち込み可。</p> <p>●成績評価方法（総合） 期末試験によって評価する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：なし。適宜、プリントを配付する。／参考書：アジア的農法と農業社会, 西山武一, 東京大学出版会, 1969 年；世界史への問い 1 歴史における自然, 柴田三千雄ほか編, 岩波書店, 1989 年；中国江南の稲作文化, 渡部忠世・桜井由躬雄編, 日本放送出版会, 1984 年；中国民衆反乱史 3, 谷川道雄・森正夫編, 平凡社, 1982 年；移住民の秩序—清代四川地域社会史研究一, 山田賢, 名古屋大学出版会, 1995 年；Studies of the Population of China, Ping-ti Ho, Harvard University Press, 1959 中国の社会, ロイド・E・イーストマン, 平凡社, 1994 「代珠江下流域の沙田について」西川喜久子『東洋学報』63-1, 1981 年 「明末清初広東珠江デルタの沙田開発と郷紳支配の形成過程」松田吉郎『社会経済史学』46-6, 1981 年</p> <p>●連絡先・オフィスアワー 研究室:人文学部 517 号室、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー 月曜 9/10 時限</p>					



開設科目	中国社会・経済史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	馬彪				

- 授業の概要 百年前、甲骨文の発見と同じく意味していて、20C 末～21C の初、中国古代の秦漢時代（BC.220～AD.220）の出土文字資料——簡牘を大量に発見したのは、中国歴史学上に画期的な時代を迎えています。世界の第八大奇観と呼ばれている秦始皇帝の兵馬俑は考古学の大発見ですが、残念ながら今のところには文字史料が発見されていない。これと違う、出土した簡牘の史料文字は、すでに百万字を超えました。この数は『史記』の 50 万字の倍以上になる貴重な史料です。本講義は辺境簡と内地簡の二部構造に分けて、紹介したいと計画する。／検索キーワード 木簡・竹簡
- 授業の一般目標 出土文字の研究によって、21 世紀における中国史研究の先端動態を説明できる目標である。
- 成績評価方法 (総合) レポート。

開設科目	中国社会・経済史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	滝野正二郎				

- 授業の概要 山口大学の図書館には『新刻客商一覽醒迷天下水陸路程』という17世紀前半の「旅行ガイド」あるいは「商人教訓書」ともいふべき本が所蔵されている（ただし、図書館の所蔵目録上は『水陸路程』という書名になっている）。世界中にこれ1セットしかないと言われる山口大学の宝である。これらの「旅行ガイド」・「商人教訓書」を一般には『路程書』・『商業書』というが、『新刻客商一覽醒迷天下水陸路程』その他の『路程書』『商業書』を用いてその地理的記述や商業指南の仕方、商業倫理について検討する。／検索キーワード 路程書、商業書、商業指南、商人倫理、『新刻客商一覽醒迷天下水陸路程』
- 授業の一般目標 （1）明清時代の商業書について一応の知識を得る。（2）当時の商業路について理解する。（3）当時の地理的な記述の特徴を理解する。（4）当時の商人倫理について理解する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：（1）明清時代の商業書について一応の知識を得る。（2）当時の商業路について理解する。（3）当時の地理的な記述の特徴を理解する。（4）当時の商人倫理について理解する。 思考・判断の観点：商人の日常的な活動について思考する。 関心・意欲の観点：当時の商人の日常的な活動、商業地理に関心を持つ。
- 授業の計画（全体） 『新刻客商一覽醒迷天下水陸路程』その他の『路程書』『商業書』を用いてその地理的記述や商業指南の仕方、商業倫理について検討する。
- 成績評価方法（総合） 学期末に提出するレポートによって評価する。
- 教科書・参考書 教科書：なし。授業中にプリントを配布する。／参考書：「商業書にみる商人と商業」、寺田隆信、『山西商人の研究』（東洋史研究会）、1972年；「『新刻客商一覽醒迷天下水陸路程』について」、斯波義信、『森三樹三郎博士頌寿記念東洋学論集』、1979年；「商賈便覧について」、森田明、『福岡大学研究所報』16、1972年；「『新安原板士商類要』について」、水野正明、『東方学』60、1980年；『明清時期商業書及商人書之研究』、陳学文、中華發展基金管理委員会・洪葉文化事業有限公司、1997年
- メッセージ 漢文史料を紹介しつつ授業を進めるので、漢文史料に興味のある学生の聴講を望む。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部517号室、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日 12:30～14:00

開設科目	中国社会・経済史論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	鶴間和幸				

- 授業の概要 中国史上最初に成立した帝国である秦漢という時代を見ていく。始皇帝が戦国時代を終焉させ、文字・度量衡・車軌などの統一の事業を行ったことは、よく知られている。しかしその実態は、近年の出土資料によってようやくわかってきた。地方官吏の墓から出土した竹簡文書は、中央では残されなかった貴重な行政関係の史料となる。また秦漢の皇帝を埋葬した陵墓は、始皇帝陵や漢代の景帝の陽陵などが一部発掘されている。専制権力といわれてきた皇帝権力の実態をさぐっていききたい。
- 授業の一般目標 中国史は、文献だけでなく、考古資料や現地調査の成果によって記述される時代に入っている。司馬遷の『史記』は第一級の史料であるが、考古学などが歴史学にどれほど貢献してきたのかに注目してほしい。
- 授業の到達目標／ 思考・判断の観点： いまからさかのぼること2千年前の時代をどのように認識できるのか。その時代から現代につながる歴史を読み解いてほしい。歴史はたんなる知識の集積ではない。
- 成績評価方法 (総合) 講義への出席とレポート
- 教科書・参考書 参考書： ファーストエンペラーの遺産 秦漢帝国, 鶴間和幸, 講談社, 2004 年； 秦漢帝国へのアプローチ, 鶴間和幸, 山川出版社, 1996 年
- 備考 集中授業

開設科目	アジア文化交流史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	馬彪				

●授業の概要 仏教文化圏の形成及びその拡大という課題によって、インダス文明と仏教文化圏のアジア全域への伝播を紹介する授業である。／検索キーワード 仏教・文化・伝播

●授業の一般目標 アジア文明や文化の交流史を重要性を解明したい目標を目指す。

●授業の計画（全体） まず、仏教の形成とその伝播経路を説明し、その後仏教文化伝播の意義を説明する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 導入：インダス文明と仏教文化

第 2 回 項目 仏教の形成

第 3 回 項目 伝播の段階

第 4 回 項目 砂漠の道

第 5 回 項目 大雪山の道

第 6 回 項目 草原の道

第 7 回 項目 北方中国の仏教

第 8 回 項目 朝鮮半島の仏教

第 9 回 項目 日本への仏教伝来

第 10 回 項目 海と森の道

第 11 回 項目 南方中国の仏教

第 12 回 項目 東南アジアの仏教

第 13 回 項目 帝王と仏教

第 14 回 項目 士大夫と仏教

第 15 回 項目 民間社会の仏教

●成績評価方法（総合）成績評価は基本的に出席（30 %）と試験（70 %）で行う。

開設科目	東洋史史料講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	馬彪				

- 授業の概要 講義は東洋史を学びたい学生が必ず読まなければならない中国古典名著から引き取った名篇をテキストとして、担当教官の指導の下、学生たちが担当にしたがって予習し、それをレジメに書いて発表する。
- 授業の一般目標 学生の古代漢語を読解する能力や史料を搜集する能力を一層高めることを目標とする。
- 成績評価方法 (総合) 筆記試験。

開設科目	東洋史史料講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	馬彪				

- 授業の概要 講義は東洋史を学びたい学生が必ず読まなければならない中国古典名著から引き取った名篇をテキストとして、担当教官の指導の下、学生たちが担当にしたがって予習し、それをレジメに書いて発表する。
- 授業の一般目標 学生の古代漢語を読解する能力や史料を搜集する能力を一層高めることを目標とする。
- 成績評価方法 (総合) 筆記試験。

開設科目	東洋史史料講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	滝野正二郎				

●授業の概要 王慶雲著『石渠余記』講読。王慶雲は清代道光9年の進士。順天府尹・戸部侍郎・両広総督・工部尚書などを歴任した。この筆記は清代の行政・財政・経済に特に詳しい。本書の標点本を受講学生が中心となって読み、担当教員がそれに解説を加えていく。／検索キーワード 『石渠余記』、筆記、財政、行政、政治制度、訓読、読解、解説

●授業の一般目標 (1) 漢文史料の基礎的読解力を涵養する。(2) 清代基本史料の収集・操作力を涵養する。(3) 清代の基本的政治制度について理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：清代の行政制度および史料読解に必要な知識をもつ。思考・判断の観点：史料から歴史的事実を思考し、判断して抜き出す。関心・意欲の観点：原史料に関心を持つ。態度の観点：原史料を自分の力で読んでいこうとする態度をとる。技能・表現の観点：漢文史料を読解する技能をもつ。

●授業の計画(全体) 受講学生ごとに担当箇所を分担し、それを学生が読解し、別系統の史料と比較検討することによって分析していく。教員はそれに解説を加える。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 史料解題 内容 石渠余記とその著者王慶雲について説明する。

第2回 項目 講読 内容 学生が史料を読み、教員が解説を加えていく。

第3回 項目 同上 内容 同上

第4回 項目 同上 内容 同上

第5回 項目 同上 内容 同上

第6回 項目 同上 内容 同上

第7回 項目 同上 内容 同上

第8回 項目 同上 内容 同上

第9回 項目 同上 内容 同上

第10回 項目 同上 内容 同上

第11回 項目 同上 内容 同上

第12回 項目 同上 内容 同上

第13回 項目 同上 内容 同上

第14回 項目 同上 内容 同上

第15回 項目 試験 内容 試験

●成績評価方法(総合) 期末試験と分担部分に関する発表によって評価する。

●教科書・参考書 教科書：石渠余記, 王慶雲, 北京古籍出版社, 1985年; テキストのコピーを配布する。／参考書：清実録, 奉勅撰, 中華書局, 1985年; 光緒欽定大清会典・会典事例, 崑岡等, 中華書局, 1963年; 清史稿, 趙爾巽等, 中華書局, 1977年; 清国行政法, 織田萬, 大安, 1965年

●メッセージ 歴史学の基礎は正確な史料読解、史料操作である。この史料講読という授業はその能力を養成する授業である。地域歴史文化論コースの東洋史分野を専攻しようとする学生にとって本授業は必須である。積極的な参加を期待している。上述のように、本分野を専攻しようとする学生にとって不可欠であり、また 予め分担を決め、学生が中心となって授業を進めていくので、欠席・中途脱落は厳に慎むこと。

●連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517号室、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日9/10時限

開設科目	東洋史史料講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	滝野正二郎				

●授業の概要 王慶雲著『石渠余記』講読。王慶雲は清代道光9年の進士。順天府尹・戸部侍郎・両広総督・工部尚書などを歴任した。この筆記は清代の行政・財政・経済に特に詳しい。本書の標点本を受講学生が中心となって読み、担当教員がそれに解説を加えていく。／検索キーワード 『石渠余記』、筆記、財政、行政、政治制度、訓読、読解、解説

●授業の一般目標 (1) 漢文史料の基礎的読解力を涵養する。(2) 清代基本史料の収集・操作力を涵養する。(3) 清代の基本的政治制度について理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：清代の行政制度および史料読解に必要な知識をもつ。思考・判断の観点：史料から歴史的事実を思考し、判断して抜き出す。関心・意欲の観点：原史料に関心を持つ。態度の観点：原史料を自分の力で読んでいこうとする態度をとる。技能・表現の観点：漢文史料を読解する技能をもつ。

●授業の計画（全体）受講学生ごとに担当箇所を分担し、それを学生が読解し、別系統の史料と比較検討することによって分析していく。教員はそれに解説を加える。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 史料解題 内容 石渠余記と著者王慶雲について解説する。
- 第 2 回 項目 講読 内容 学生が担当部分について発表し、教師が解説を加えていく。
- 第 3 回 項目 同上 内容 同上
- 第 4 回 項目 同上 内容 同上
- 第 5 回 項目 同上 内容 同上
- 第 6 回 項目 同上 内容 同上
- 第 7 回 項目 同上 内容 同上
- 第 8 回 項目 同上 内容 同上
- 第 9 回 項目 同上 内容 同上
- 第 10 回 項目 同上 内容 同上
- 第 11 回 項目 同上 内容 同上
- 第 12 回 項目 同上 内容 同上
- 第 13 回 項目 同上 内容 同上
- 第 14 回 項目 同上 内容 同上
- 第 15 回 項目 試験 内容 試験

●成績評価方法（総合）授業中の発表に対する態度および学期末の試験で成績を評価する。

●教科書・参考書 教科書：石渠余記, 王慶雲, 北京古籍出版社, 1985 年；テキストのコピーを配布する。／参考書：清実録, 奉勅修, 中華書局, 1985 年；光緒欽定大清会典・会典事例, 崑岡等, 中華書局, 1963 年；清史稿, 趙爾巽等, 中華書局, 1977 年；清国行政法, 織田萬, 大安, 1965 年

●メッセージ 歴史学の基礎は正確な史料読解、史料操作である。この史料講読という授業はその能力を養成する授業である。地域歴史文化論コースの東洋史分野を専攻しようとする学生にとって本授業は必須である。積極的な参加を期待している。上述のように、本分野を専攻しようとする学生にとって不可欠であり、また、予め分担を決め、学生が中心となって授業を進めていくので、欠席・中途脱落は厳に慎むこと。

●連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517 号室、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜日 12:30～14:00



開設科目	中国史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	馬彪				

- 授業の概要 近年来大量に出土した秦漢時代の木（竹）簡より、代表的な書類（法律文書・官署簿籍・古い書・詩賦など）を引き出して、テキストとして、簡牘学の知識を勉強しながら、学生自身が原始写真を参照して、古代文字の資料を読み、発表、討論を行う演習で構成される。
- 授業の一般目標 学生に文献史料以外出土した「第一手資料」と呼ばれる簡牘文字資料を読ませて、一層東洋史に対する研究の興味を喚起することを目標とする。
- 成績評価方法 (総合) レポート。

開設科目	中国史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	馬彪				

- 授業の概要 近年来大量に出土した秦漢時代の木（竹）簡より、代表的な書類（法律文書・官署簿籍・古い書・詩賦など）を引き出して、テキストとして、簡牘学の知識を勉強しながら、学生自身が原始写真を参照して、古代文字の資料を読み、発表、討論を行う演習で構成される。
- 授業の一般目標 学生に文献史料以外出土した「第一手資料」と呼ばれる簡牘文字資料を読ませて、一層東洋史に対する研究の興味を喚起することを目標とする。
- 成績評価方法 (総合) レポート。

開設科目	中国史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	滝野正二郎				

●授業の概要 清代行政文書の研究。清代の行政文書「奏摺」を読み、そこから清代中期の時代像を構築する。史料のテーマは受講予定学生との相談によって決める。／検索キーワード 清代、奏摺、社会、行政、議論

●授業の一般目標 清朝の行政文書を読み、その基礎的読解力を獲得するとともに、中国清代の社会の性質、社会と国家の関係について理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：清朝の行政文書に関する基礎的知識を獲得する。清代の社会の性質、社会と国家の関係について理解する。思考・判断の観点：中国清代の社会の性質、社会と国家の関係について考える。関心・意欲の観点：清代の社会、行政、社会と国家の関係に関心を持つ。態度の観点：行政文書から社会を見通す態度をもつ。技能・表現の観点：清朝の行政文書を扱う基礎的スキルを獲得する。

●授業の計画（全体）史料を受講生が分担して読み、そこから受講生が担当者とともに議論して当該時代の社会に関する歴史像を構築する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 史料解題 内容 清代の档案、奏摺について説明する。

第 2 回 項目 演習 内容 担当の史料について学生が発表し、その史料に語られる問題について議論する。

第 3 回 項目 同上 内容 同上

第 4 回 項目 同上 内容 同上

第 5 回 項目 同上 内容 同上

第 6 回 項目 同上 内容 同上

第 7 回 項目 同上 内容 同上

第 8 回 項目 同上 内容 同上

第 9 回 項目 同上 内容 同上

第 10 回 項目 同上 内容 同上

第 11 回 項目 同上 内容 同上

第 12 回 項目 同上 内容 同上

第 13 回 項目 同上 内容 同上

第 14 回 項目 同上 内容 同上

第 15 回 項目 同上 内容 同上

●成績評価方法（総合）授業における発表と期末レポートで成績を評価する。

●教科書・参考書 教科書：宮中档雍正朝奏摺, 国立故宫博物院, 国立故宫博物院, 1977 年；宮中档乾隆朝奏摺, 国立故宫博物院, 国立故宫博物院, 1982 年；テキストのコピーを配布する。／参考書：清実録, 奉勅修, 中華書局, 1985 年；光緒欽定大清会典・会典事例, 崑岡等, 中華書局, 1963 年；清国行政法, 織田萬, 大安, 1965 年

●メッセージ 受講生諸君の積極的な史料調査、発表、議論参加が必須である。

●連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517 号室、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー（前期）月曜日 9/10 時限

開設科目	中国史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	滝野正二郎				

●授業の概要 清代行政文書の研究。清代の行政文書「奏摺」を読み、そこから清代中期の時代像を構築する。史料のテーマは受講予定学生との相談によって決める。／検索キーワード 清代、奏摺、社会、行政、議論

●授業の一般目標 清朝の行政文書を読み、その基礎的読解力を獲得するとともに、中国清代の社会の性質、社会と国家の関係について理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：清朝の行政文書に関する基礎的知識を獲得する。清代の社会の性質、社会と国家の関係について理解する。思考・判断の観点：中国清代の社会の性質、社会と国家の関係について考える。関心・意欲の観点：中国清代の社会の性質、社会と国家の関係について考える態度の観点：行政文書から社会を見通す態度をもつ。技能・表現の観点：清朝の行政文書を扱う基礎的技能を獲得する。

●授業の計画（全体）史料を受講生が分担して読み、担当者とともに議論してそこから当該時代の農業社会に関する歴史像を構築する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 史料解題 内容 清代の档案、奏摺について説明する。

第 2 回 項目 演習 内容 担当の史料について学生が発表し、その史料に語られる問題について議論する。

第 3 回 項目 同上 内容 同上

第 4 回 項目 同上 内容 同上

第 5 回 項目 同上 内容 同上

第 6 回 項目 同上 内容 同上

第 7 回 項目 同上 内容 同上

第 8 回 項目 同上 内容 同上

第 9 回 項目 同上 内容 同上

第 10 回 項目 同上 内容 同上

第 11 回 項目 同上 内容 同上

第 12 回 項目 同上 内容 同上

第 13 回 項目 同上 内容 同上

第 14 回 項目 同上 内容 同上

第 15 回 項目 同上 内容 同上

●成績評価方法（総合）授業における発表と期末レポートで成績を評価する。

●教科書・参考書 教科書：宮中档雍正朝奏摺, 国立故宫博物院, 国立故宫博物院, 1977 年；宮中档乾隆朝奏摺, 国立故宫博物院, 国立故宫博物院, 1982 年；テキストのコピーを配布する。／参考書：清実録, 奉勅修, 中華書局, 1985 年；光緒欽定大清会典・会典事例, 崑岡等, 中華書局, 1963 年；清国行政法, 織田萬, 大安, 1965 年

●メッセージ 受講生諸君の積極的な史料調査、発表、議論参加が必須である。

●連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 517 号室、E-mail:stakino@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー（後期）木曜日 5/6 時限

開設科目	西洋史概説 III	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	藤永康政				

●授業の概要 今年の西洋史概説では、黒人、インディアン、ラティーノ、女性、アジア系の歴史に重きをおきながら、1年を通して建国期からクリントン政権期までのアメリカ社会を考察する。

●授業の一般目標 ・歴史学の方法論について理解を深める ・今日の歴史学が進んでいる方向への理解を深める ・アメリカ社会への理解を深める

●授業の到達目標／知識・理解の観点：アメリカ史・アメリカ文化の特徴を説明できる 思考・判断の観点：既存の学説にとらわれることなく、それを理解しつつも乗り越えていく思考法を身につける 関心・意欲の観点：歴史、わけてもマイノリティの歴史に興味をもつ 態度の観点：積極的に発言し、意見を交換することが自分の学問的知を拡大するものだという「思考法」を身につける

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション
- 第 2 回 項目 ヒップホップ文化とアメリカ黒人の運動 (1) 内容 ヒップホップの歴史と現代アメリカ社会
- 第 3 回 項目 ヒップホップ文化とアメリカ黒人の運動 (2) 内容 映画 Tupac Ressurrection 鑑賞
- 第 4 回 項目 ヒップホップ文化とアメリカ黒人の運動 内容 黒人社会の分極化
- 第 5 回 項目 植民地期のアメリカと独立革命
- 第 6 回 項目 アメリカ合衆国憲法の史的意義
- 第 7 回 項目 比較奴隷制史とアンテベラム南部 内容 南北戦争以前の南部社会
- 第 8 回 項目 大陸国家の誕生 内容 インディアン政策
- 第 9 回 項目 南北戦争
- 第 10 回 項目 南部再建期 内容 南北戦争の「戦後処理」
- 第 11 回 項目 『金ぴか時代のアメリカ』 内容 東南欧系移民の歴史と労働運動
- 第 12 回 項目 ブッカー・T・ワシントンの黒人教育論
- 第 13 回 項目 デュボイス・ワシントン論争 内容 黒人運動指導者のヴィジョンとその対立
- 第 14 回 項目 デュボイス・ワシントン論争 (2) 内容 ディベート
- 第 15 回 項目 予備日

●成績評価方法 (総合) (1) 小レポートを求めるときがある (2) 授業末にレポートの提出を求める

●メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

●連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

開設科目	西洋史概説 IV	区分	演習	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	藤永康政				

●授業の概要 今年の西洋史概説では、黒人、インディアン、ラティーノ、女性、アジア系の歴史に重きをおきながら、1年を通して建国期からクリントン政権期までのアメリカ社会を考察する。／検索キーワード 奴隷制度、近代、アメリカ

●授業の一般目標 ・歴史学の方法論について理解を深める ・今日の歴史学が進んでいる方向への理解を深める ・アメリカ社会への理解を深める

●授業の到達目標／知識・理解の観点：アメリカ史・アメリカ文化の特徴を説明できる 思考・判断の観点：既存の学説にとらわれることなく、それを理解しつつも乗り越えていく思考法を身につける 関心・意欲の観点：歴史、わけてもマイノリティの歴史に興味をもつ 態度の観点：積極的に発言し、意見を交換することが自分の学問的知を拡大するものだという「思考法」を身につける

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション
- 第 2 回 項目 前期の授業のまとめ
- 第 3 回 項目 革新主義の時代
- 第 4 回 項目 「帝国主義」の時代におけるアメリカ
- 第 5 回 項目 第 1 次世界大戦
- 第 6 回 項目 黒人人口の大移動 (1) 内容 人口移動の社会政治的背景
- 第 7 回 項目 黒人人口の大移動 (2) 内容 ガーヴィ主義の擡頭
- 第 8 回 項目 アメリカのナショナル・アイデンティティの変化 内容 文化多元主義の登場
- 第 9 回 項目 ジャズエイジのアメリカ 内容 1920 年代のアメリカ社会の変化
- 第 10 回 項目 第 2 次世界大戦――黒人運動の視点から
- 第 11 回 項目 公民権運動 (1) 内容 南部公民権運動について
- 第 12 回 項目 公民権運動 (2) 内容 学生非暴力調整委員会とマーティン・ルーサー・キング
- 第 13 回 項目 公民権運動 (3) 内容 北部での運動とマルコム X
- 第 14 回 項目 ハリウッド映画にみる公民権運動の表象 内容 映画『マルコム X』鑑賞
- 第 15 回 項目 予備日

●成績評価方法 (総合) (1) 小レポートを求めるときがある (2) 授業末にレポートの提出を求める

●メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

●連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yfuji@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

開設科目	ヨーロッパ史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	尼川創二				

●授業の概要 【19世紀末までのロシア史の展開】9世紀のキエフ国家の成立から反体制知識人たちが「人民主義」の革命運動を開始し挫折した19世紀末のロシア帝国の状況までのロシア史を通観するが、ロシアの反体制知識人たちが常に意識した西ヨーロッパの国家・社会の歴史とロシアのそれとの対比も絶えず行うようにしたい。

●授業の一般目標 専制正治と農奴制を特徴とするロシア帝国が何ゆえ、またどのようにして形成されたのか、そして19世紀末に始まりもなく挫折する人民主義者の革命運動がいかなる問題点を内包していたかについての理解を深める。西ヨーロッパとロシアでの国家・社会の形成課程および反体制運動の類似点と相違点にも留意する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：授業の一般目標の点について知識をもち、理解する。 思考・判断の観点：授業の一般目標の点について自分で深く考えて見る。 関心・意欲の観点：ロシアとヨーロッパの歴史について強い関心を持つ。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 はじめに
- 第2回 項目 ロシアの自然環境とその影響 1
- 第3回 項目 ロシアの自然環境とその影響 2
- 第4回 項目 キエフ国家の成立
- 第5回 項目 キエフ国家の崩壊
- 第6回 項目 モスクワ国家からロシア帝国へ 1 軍事的中央集権国家の出現
- 第7回 項目 モスクワ国家からロシア帝国へ 2 農奴制の形成
- 第8回 項目 モスクワ国家からロシア帝国へ 3 農奴制の確立
- 第9回 項目 皇帝と貴族
- 第10回 項目 ラジーシチェフとデカブリストたち
- 第11回 項目 スラブ主義者対西欧主義者の大論争
- 第12回 項目 ゲルツェン「ロシア社会主義」論
- 第13回 項目 農奴開放と人民主義運動
- 第14回 項目 人民主義の思想家たち
- 第15回 項目 人民主義運動の展開と挫折

●成績評価方法 (総合) 授業外レポート100点。無断欠席1回につきマイナス5点。

●教科書・参考書 教科書：用いない。適宜プリントを配布する。／参考書：授業中に適宜紹介する。

●連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部4階407号室 (TEL: 933-5227/ E-mail: amak@yamaguchi-u.ac.jp)

開設科目	ヨーロッパ史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	尼川創二				

●授業の概要 【ロシア革命の考察】19世紀の末に人民主義に代わってマルクス主義がロシアの革命的 インテリゲンツィアの心を捉え始めたのはなぜなのか。1902年にレーニンが提起した党 組織論はどのような問題点を孕んでいたか。社会主義革命が、資本主義の発達した西欧 においてではなく、発展途上国ロシアで達成されたのはなぜなのか。そもそも西欧で社会主義革命を目指す大きな動きが生じなかったのはなぜだろう。レーニンに率いられた ボリシェヴィキ党（共産党の前身）がロシアの革命勢力の中心になりえたのはなぜか。同党とロシアの労働者、農民、少数民族との関係はどのようであったか。同党が革命体制形成過程で逢着した問題はなんであったのか。その革命体制はのちに出現するスター リンの強権的政治体制とどの点でつながり、どの点で断絶しているのか。——こうした 問題を考えてみたい。

●授業の一般目標 概要に記したような諸問題の考察を通じて、ロシア革命についての理解を深める。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： ロシア革命について知識を得、理解を深める。 思考・判断の観点： ロシア革命の原因・経過・結果について自分で考えてみる。 関心・意欲の観点： ロシアとヨーロッパの歴史に強い関心をもつ。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ロシアにおける マルクス主義の 受容と拡大 内容 「マルクス主義の 受容と拡大」等々のテーマを順次取り上げる
- 第 2 回 項目 ロシアにおける マルクス主義の 受容と拡大 内容 「マルクス主義の 受容と拡大」等々のテーマを順次取り上げる
- 第 3 回 項目 レーニンの党組 織論 内容 「レーニンの党組 織論」等々のテーマを順次取り上げる
- 第 4 回 項目 ボリシェヴィキ とメンシェヴィキ 内容 「ボリシェヴィキ とメンシェヴィキ」等々のテーマを順次取り上げる
- 第 5 回 項目 西欧における革 命運動の退潮～ 内容 「西欧における革 命運動の退潮～」等々のテーマを順次取り上げる
- 第 6 回 項目 1905年革命 内容 「1905年革命」等々のテーマを順次取り上げる
- 第 7 回 項目 1917年の2 月革命 内容 「1917年の2 月革命」等々のテーマを順次取り上げる
- 第 8 回 項目 2月革命から1 0月革命へ 内容 「2月革命から1 0月革命へ」等々のテーマを順次取り上げる
- 第 9 回 項目 創建期ソヴィエ ト政府の諸政策 内容 「創建期ソヴィエ ト政府の諸政策」等々のテーマを順次取り上げる
- 第10回 項目 内戦の勃発 内容 「内戦の勃発」等々のテーマを順次取り上げる
- 第11回 項目 「戦時共産主義」 内容 「戦時共産主義」等々のテーマを順次取り上げる
- 第12回 項目 内戦の終結、「戦時共産主義」の続行、農民反乱 内容 「内戦の終結、「戦時共産主義」の続行、農民反乱」等々のテーマを順次取り上げる
- 第13回 項目 ネット（新経済政策）への転換、共産党一党独裁の完成 内容 「ネット（新経済政策）への転換、共産党一党独裁の完成」等々のテーマを順次取り上げる
- 第14回 項目 まとめ
- 第15回 項目 予備日

●成績評価方法 (総合) 授業外レポート 100 点。無断欠席 1 回につきマイナス 5 点。

●教科書・参考書 教科書： 用いない。適宜プリントを配付する。／ 参考書： 授業中に適宜紹介する。

●連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部 4 階 407 号室 (TEL: 933-5227/ E-mail: amak@yamaguchi-u.ac.jp)



開設科目	アメリカ史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	藤永康政				

●授業の概要 アメリカの人種関係を根底から変化させた1960年代の公民権運動について、史料をもとに、考察を深めていく。また多くの映像史料と映画での表象を比較や、現代のアメリカ文化やアメリカ社会への理解を深めながら、「60年代」が今日においていかなる意味をもつのかについて考えていく。  
／検索キーワード アメリカ、黒人。社会運動

●授業の一般目標 (1) 史料を論理的に且つイマジネーション豊かに解釈していく力を学ぶ (2) 現代史特有の問題点に関し理解を含める

●授業の到達目標／知識・理解の観点：運動の年代記だけでなく、その社会政治経済的背景への理解を深める 思考・判断の観点：既存の学説にとらわれることなく斬新的な解釈をする力を身につける 関心・意欲の観点：現代社会の諸事情と現代史の関係について理解を深める 態度の観点：積極的に発言し、意見を交換することが学問的知を拡大するものだという「思考法」を身につける

●授業の計画（全体）できれば前・後期通年の受講が望ましい

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション
- 第 2 回 項目 今日のアメリカの人種関係
- 第 3 回 項目 ブラックパンサー党の歴史（映画『パンサー』）
- 第 4 回 項目 ブラックパンサー党の歴史（映画『パンサー』の討論）
- 第 5 回 項目 ヒップホップ文化考察 (1)
- 第 6 回 項目 ヒップホップ文化考察 (2)
- 第 7 回 項目 ヒップホップ文化考察 (3)
- 第 8 回 項目 ヒップホップ文化考察 (4)
- 第 9 回 項目 第 2 次世界大戦と公民権運動 (1)
- 第 10 回 項目 第 2 次世界大戦と公民権運動 (2)
- 第 11 回 項目 冷戦、脱植民地化と公民権運動の関係
- 第 12 回 項目 『ブラウン』判決とその社会政治的反響
- 第 13 回 項目 今日のアメリカにおける人種隔離 (1)
- 第 14 回 項目 今日のアメリカにおける人種隔離 (2)
- 第 15 回 項目 予備日

●成績評価方法（総合）毎回課題の読書箇所を指示し、それに基づいて発言をしてもらう。その発言の内容がもっとも重視される。予習なしには当然質問に答えられるはずがなく、単なる出席は評価しない。

●教科書・参考書 教科書：Eyes on the Prize Civil Rights Reader, Clayborne Carson, Penguin, 1991 年；  
教科書販売場所：大学生協

●メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。（ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること）

●連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

開設科目	アメリカ史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	藤永康政				

●授業の概要 アメリカの人種関係を根底から変化させた1960年代の公民権運動について、史料をもとに、考察を深めていく。また多くの映像史料と映画での表象を比較や、現代のアメリカ文化やアメリカ社会への理解を深めながら、「60年代」が今日においていかなる意味をもつのかについて考えていく。  
／検索キーワード アメリカ、黒人、社会運動

●授業の一般目標 (1) 史料を論理的に且つイマジネーション豊かに解釈していく力を学ぶ (2) 現代史特有の問題点に関し理解を含める

●授業の到達目標／知識・理解の観点：運動の年代記だけでなく、その社会政治経済的背景への理解を深める 思考・判断の観点：既存の学説にとらわれることなく斬新的な解釈をする力を身につける 関心・意欲の観点：現代社会の諸事情と現代史の関係について理解を深める 態度の観点：積極的に発言し、意見を交換することが学問的知を拡大するものだという「思考法」を身につける

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODakション
- 第 2 回 項目 シット・インと学生非暴力調整委員会
- 第 3 回 項目 フリーダム・ライド運動
- 第 4 回 項目 バーミングハム闘争
- 第 5 回 項目 ネイション・オヴ・イスラームの歴史
- 第 6 回 項目 マルコムX
- 第 7 回 項目 イコンとしてのモハメド・アリ
- 第 8 回 項目 モハメド・アリの表象(1)
- 第 9 回 項目 モハメド・アリの表象(2)
- 第 10 回 項目 ミシシッピ・フリーダム・サマー(1)
- 第 11 回 項目 ミシシッピ・フリーダム・サマー(2)
- 第 12 回 項目 ミシシッピ・フリーダム・サマー(3)
- 第 13 回 項目 公民権法制定後のアメリカ黒人の政治運動(1)
- 第 14 回 項目 公民権法制定後のアメリカ黒人の政治運動(2)
- 第 15 回 項目 予備日

●成績評価方法(総合) 毎回課題の読書箇所を指示し、それに基づいて発言をしてもらう。その発言の内容がもっとも重視される。予習なしには当然質問に答えられるはずがなく、単なる出席は評価しない。

●教科書・参考書 教科書：Eyes on the Prize Civil Rights Reader, Clayborne Carson, Penguin, 1991年；  
教科書販売場所：大学生協

●メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

●連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

開設科目	アメリカ史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	松原弘文				

開設科目	西洋史学講読（英語）	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	藤永康政				

●授業の概要 公民権運動の主要論文、ならびにその論文に使われた史資料を併せて読む。論文の読み方と史料の読み方の違いを把握し、英語読解能力を高める。／検索キーワード 英語、アメリカ史

●授業の一般目標 (1) 英語を英語で理解し、速読ができるようになる (2) 史料と論文の読み方の違いを体得する

●授業の到達目標／知識・理解の観点：論文の主な論点を早くつかめるようになる。思考・判断の観点：論文の構造、論理を理解できるようになる

●授業の計画（全体）できれば前期・後期通年での受講が望ましい

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 イントロダクション

第 2 回 項目 翻訳の技法 (1)

第 3 回 項目 翻訳の技法 (2)

第 4 回 項目 論文読解 (1) 内容 W. L. Van DeBurg, "New Day inn Babylon 講読

第 5 回 項目 論文読解 (2) 内容 W. L. Van DeBurg, "New Day inn Babylon 講読

第 6 回 項目 論文読解 (3) 内容 W. L. Van DeBurg, "New Day inn Babylon 講読

第 7 回 項目 論文読解 (4) 内容 W. L. Van DeBurg, "New Day inn Babylon 講読

第 8 回 項目 論文読解 (5) 内容 W. L. Van DeBurg, "New Day inn Babylon 講読

第 9 回 項目 論文読解 (6) 内容 W. L. Van DeBurg, "New Day inn Babylon 講読

第 10 回 項目 論文読解 (7) 内容 W. L. Van DeBurg, "New Day inn Babylon 講読

第 11 回 項目 論文読解 (8) 内容 W. L. Van DeBurg, "New Day inn Babylon 講読

第 12 回 項目 論文読解 (9) 内容 W. L. Van DeBurg, "New Day inn Babylon 講読

第 13 回 項目 史料読解 (1) 内容 S. Carmachael, "Black Power" 精読

第 14 回 項目 史料読解 (2) 内容 S. Carmachael, "Black Power" 精読

第 15 回 項目 予備日

●成績評価方法（総合）授業での発言を何よりも重視する。したがって、予習なしに出席し、質問・問いかけに答えられない場合、出席とはみなさないし、単なる「出席点」は与えない。

●教科書・参考書 教科書：The Civil Rights Movement, Jack E. Davis, Blackwell, 2001 年；翻訳の方法, 川本皓嗣, 東京大学出版会, 1997 年；教科書販売場所：大学生協

●メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡しえください。（ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること）

●連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yfuji@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

開設科目	西洋史学講読（英語）	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	藤永康政				

●授業の概要 公民権運動の主要論文、ならびにその論文に使われた史資料を併せて読む。論文の読み方と史料の読み方の違いを把握し、英語読解能力を高める。／検索キーワード 英語、アメリカ史

●授業の一般目標 (1) 英語を英語で理解し、速読ができるようになる (2) 史料と論文の読み方の違いを体得する

●授業の到達目標／知識・理解の観点：論文の主な論点を早くつかめるようになる。思考・判断の観点：論文の構造、論理を理解できるようになる

●授業の計画（全体）できれば前期・後期通年での受講が望ましい

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 インTRODakション

第 2 回 項目 翻訳の技法 (1)

第 3 回 項目 翻訳の技法 (2)

第 4 回 項目 論文読解 (1) 内容 R. H Bayor, The Civil Rights Movement as Urban Reform 講読

第 5 回 項目 論文読解 (2) 内容 R. H Bayor, The Civil Rights Movement as Urban Reform 講読

第 6 回 項目 論文読解 (3) 内容 R. H Bayor, The Civil Rights Movement as Urban Reform 講読

第 7 回 項目 論文読解 (4) 内容 R. H Bayor, The Civil Rights Movement as Urban Reform 講読

第 8 回 項目 論文読解 (5) 内容 R. H Bayor, The Civil Rights Movement as Urban Reform 講読

第 9 回 項目 論文読解 (6) 内容 R. H Bayor, The Civil Rights Movement as Urban Reform 講読

第 10 回 項目 論文読解 (7) 内容 R. H Bayor, The Civil Rights Movement as Urban Reform 講読

第 11 回 項目 論文読解 (8) 内容 R. H Bayor, The Civil Rights Movement as Urban Reform 講読

第 12 回 項目 論文読解 (9) 内容 R. H Bayor, The Civil Rights Movement as Urban Reform 講読

第 13 回 項目 史料読解 (1) 内容 シカゴ公共住宅関連の 1 次史料精読

第 14 回 項目 史料読解 (2) 内容 シカゴ公共住宅関連の 1 次史料精読

第 15 回 項目 予備日

●成績評価方法（総合）授業中の発言を最重視する。したがって、予習もせずに授業に参加しても、質問や問いかけに答えられないならば、出席とはみなさない。

●教科書・参考書 教科書：The Civil Rights Movement, Jack E. Davis, Blackwell, 2001 年；翻訳の方法, 川本皓嗣, 東京大学出版会, 1997 年；教科書販売場所：大学会館内ブックセンター（紀伊國屋書店）

●メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡しえください。（ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること）

●連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yfuji nag@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

開設科目	西洋史学講読（ドイツ語）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	松永和生				

●備考 集中授業

開設科目	西洋史学講読 (ドイツ語)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	尼川創二				

- 授業の概要 前期と同じ。
- 授業の一般目標 前期と同じ。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 前期と同じ。
- 授業の計画（全体） 前期と同じ（続き）。
- 成績評価方法（総合） 試験と出席点（無断欠席1回につきマイナス5点）。
- 教科書・参考書 教科書： 前期と同じ（続き）。／ 参考書： 適宜紹介する。

開設科目	西洋史学講読（フランス語）	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	尼川創二				

- 授業の概要 学生諸君はおそらくフランス語を学び始めたばかりであろうから、史料や研究書ではなく、比較的平易なフランスの高等学校の歴史教科書を読んでいく。テキストは前年度に引き続き Jean- Michel Lambin (dir.), Histoire Seconde, Paris, Hachette, 2001 である。
- 授業の一般目標 辞書を用いて初・中級程度のフランス語の文章を正確にそして早く読み取ることができるようになる。—これが第1の目標である。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点：（1）フランス語の読解能力を高める。（2）ヨーロッパ史、特にフランス史の基礎知識を習得する。
- 授業の計画（全体） テキストのコピーを受講生に配付し、充分予習させた上で、14週にわたって読み進む。最後に期末試験（仏和辞典持込可）を行なう。
- 教科書・参考書 教科書：上記のとおり。／ 参考書：適宜紹介する。



開設科目	西洋史学講読 (フランス語)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	尼川創二				

- 授業の概要 前期と同じ。
- 授業の一般目標 前期と同じ。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 前期と同じ。
- 授業の計画（全体） 前期と同じ（続き）。
- 成績評価方法（総合） 期末試験と出席点（無断欠席1回につきマイナス5点）。
- 教科書・参考書 教科書： 前期と同じ（続き）。／ 参考書： 適宜紹介する。

開設科目	西洋史学講読（ロシア語）	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	尼川創二				

- 授業の概要 受講生はロシア語の初級文法を習得しておいていただきたい。テキストについては、ロシアで現在使用されている歴史の教科書などを考えているが、4月の最初の授業のさいに受講生と話し合っ  
て決定する。
- 授業の一般目標 ロシア語の初・中級程度の文章を、辞書を用いて、正確に早く読み取ることができるよ  
うになる。—これが第1の目標である。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：（1）ロシア語の読解力を高める。（2）ロシア史についての基  
礎知識を習得する。
- 授業の計画（全体） テキストのコピーを受講生に配付し、充分予習させた上で、14週にわたって読み進  
む。最後に期末試験（露和辞典持込可）を行なう。
- 成績評価方法（総合） 期末試験と出席点（無断欠席は1回につきマイナス5点）。
- 教科書・参考書 教科書：上記のとおり。／参考書：適宜紹介する。

開設科目	西洋史学講読（ロシア語）	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	尼川創二				

- 授業の概要 前期の概要を参照のこと。
- 授業の一般目標 前期と同じ。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：前期と同じ。
- 授業の計画（全体） 前期と同じ（続き）。
- 教科書・参考書 教科書：前期と同じ（続き）。／参考書：適宜紹介する。

開設科目	西洋史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	尼川創二				

- 授業の概要 3・4年生を対象としている。毎回各自が関心をもっているテーマについて発表してもらい、それぞれの発表ののち、研究史の把握、問題点の摘出、素材の使い方、論のはこび方、等々について出席者全員で討議し、検討する。
- 授業の一般目標 学生の自発的な研究意欲を高めるとともに、相互批判を通じてそれぞれの研究を改善し深化させていくこと、
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 各自の発表テーマについての知識・理解が充分であること。 思考・判断の観点： 問題点を見出すことができ、それについて深く考え、的確な判断をくだせること。 関心・意欲の観点： 研究対象に強い関心をもっていること。 技能・表現の観点： 適切な発表の仕方を心得ていること。
- 授業の計画（全体） 毎回1人または2人の学生に発表してもらおう。期末試験は実施しないが、最後に各自の それまでの研究のまとめと今後の展望を記したレポートを提出してもらおう。
- 成績評価方法（総合） 平常点が90点。レポートが10点。無断欠席1回につきマイナス5点。

開設科目	西洋史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	尼川創二				

- 授業の概要 前期と同じ。
- 授業の一般目標 前期と同じ。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 各自の発表テーマについての知識・理解が充分であること。 思考・判断の観点： 問題点を見出すことができ、それについて深く考え、的確な判断をくだせること。 関心・意欲の観点： 研究対象に強い関心をもっていること。 技能・表現の観点： 適切な発表の仕方を心得ていること。
- 授業の計画（全体） 前期と同じ。ただし、4年生については学期末のレポートを免除する。
- 成績評価方法（総合） 3年生：平常点 90 点。レポート 10 点。 4年生：平常点 100 点。 無断欠席 1 回につきマイナス 5 点。

開設科目	西洋史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	藤永康政				

●授業の概要 3, 4年生を対象(それ以外の学年でも、単位は与えないが、傍聴は歓迎する)とし、米英諸地域の歴史について演習を行う。3年生は、現在最先端の歴史学認識を把握することを目的に、学術論文を精読する。4年生は、卒業論文の研究報告をお粉ル。なお講読論文は、参加者の関心にしたがって決定する/検索キーワード ゼミ、アメリカ史

●授業の一般目標 (1) 歴史学諸理論の把握 (2) 理解した理論をいかに展開していくかを学ぶ (3) 時代錯誤の研究、背理の考察、イデオロギーに染まりきった設問を考察することにならないように、「問い」のたてかたを学ぶ

●授業の到達目標/ 知識・理解の観点: 現代思想と歴史議論、現代社会と歴史学との関係について理解を深める 思考・判断の観点: 歴史学理論の展開の仕方を会得し、それに則った論理的思考を身につける

●授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODク ション
- 第 2 回 項目 日本語論文を 読む
- 第 3 回 項目 日本語論文を 読む
- 第 4 回 項目 日本語論文を 読む
- 第 5 回 項目 日本語論文を 読む
- 第 6 回 項目 英語論文を 読む
- 第 7 回 項目 英語論文を 読む
- 第 8 回 項目 英語論文を 読む
- 第 9 回 項目 英語論文を 読む
- 第 10 回 項目 英語論文を 読む
- 第 11 回 項目 英語論文を 読む
- 第 12 回 項目 英語論文を 読む
- 第 13 回 項目 英語論文を 読む
- 第 14 回 項目 英語論文を 読む
- 第 15 回 項目 英語論文を 読む

●成績評価方法(総合) 授業での報告、ならびに参加者の報告に対する議論等々、積極的な授業参加を求め、そのみを評価基準とする。

●メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。(ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること)

●連絡先・オフィスアワー メールアドレス: yfujinag@yamaguchi-u.ac.jp 水: 11時50分から12時50分

開設科目	西洋史演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	藤永康政				

●授業の概要 3. 4年生を対象（それ以外の学年でも、単位は与えないが、「傍聴」は歓迎する）とし、米英諸地域の歴史について演習を行う。3年生は、現在最先端の歴史学理論を把握することを目的に、学術論文を読む。4年生は、卒業論文の研究の報告を行う。なお論文は、参加者の関心にしたがって決定する。／検索キーワード ゼミ、アメリカ史

●授業の一般目標 (1) 歴史学諸理論の把握 (2) 理解した理論をいかに展開していくかを学ぶ (3) 時代錯誤の研究、背理の考察、イデオロギーに染まりきった設問を考察することにならないように、「問い」のたてかたを学ぶ (4) 4年生は卒業論文を完成する

●授業の到達目標／知識・理解の観点：現代思想と歴史議論、現代社会と歴史学との関係について理解を深める 思考・判断の観点：歴史学理論の展開の仕方を会得し、それに則った論理的思考を身につける

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODク ション
- 第 2 回 項目 卒業論文中間 発表
- 第 3 回 項目 卒業論文中間 発表
- 第 4 回 項目 卒業論文中間 発表
- 第 5 回 項目 英語論文を読む
- 第 6 回 項目 英語論文を読む
- 第 7 回 項目 英語論文を読む
- 第 8 回 項目 英語論文を読む
- 第 9 回 項目 卒業論文中間 発表
- 第 10 回 項目 卒業論文中間 発表
- 第 11 回 項目 卒業論文中間 発表
- 第 12 回 項目 英語論文を読む
- 第 13 回 項目 英語論文を読む
- 第 14 回 項目 英語論文を読む
- 第 15 回 項目 英語論文を読む

●成績評価方法（総合）授業での報告、ならびに参加者の報告に対する議論等々、積極的な授業参加を求め、そのみを評価基準とする。

●メッセージ 質問などがあれば気楽にメールで連絡してください。（ただし、携帯電話からのメールの場合、冒頭に学年所属氏名を明記すること）

●連絡先・オフィスアワー メールアドレス：yfuinag@yamaguchi-u.ac.jp 水：11時50分から12時50分

開設科目	社会学概論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	横田尚俊				

●授業の概要 社会学における基本概念と理論的視角、並びにそれらを通して現実の社会や具体的な社会現象がどのように分析・解明されるのかという点を学ぶ。前期には、主に現代産業社会のマクロな構造と過程について概観する。／検索キーワード 社会的行為、社会構造、社会変動、近代化、社会階層、官僚制、情報化・消費化社会

●授業の一般目標 (1) 社会学の基本概念や理論的視角を学ぶ。(2) 社会学の概念と方法を用いて、現代社会の構造と変動を解明する。

●授業の計画(全体) 社会学の歴史、基本概念、現代社会の構造と変動について学んでいく。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会学の研究对象としての「社会」
- 第 2 回 項目 社会学の誕生
- 第 3 回 項目 社会学の成立と発展
- 第 4 回 項目 社会学の成立と発展(2)
- 第 5 回 項目 社会学の成立と発展(3)
- 第 6 回 項目 近代化と産業化
- 第 7 回 項目 産業社会と階級・階層
- 第 8 回 項目 産業社会と階級・階層(2)
- 第 9 回 項目 産業社会と官僚制組織
- 第 10 回 項目 高度産業化と「ゆたかな社会」
- 第 11 回 項目 産業社会における中心的価値観の変容
- 第 12 回 項目 「情報化・消費化社会」の成立
- 第 13 回 項目 高度産業社会のゆくえ
- 第 14 回 項目 高度産業社会のゆくえ(2)
- 第 15 回 項目 試験

●成績評価方法(総合) 定期試験 50% 出席 40% 小レポート・授業への参加度 10%

●教科書・参考書 教科書: 教科書を使用せず、資料のプリントにそって授業を進める。／参考書: 社会学小辞典, 浜嶋朗ほか, 有斐閣, 1997年; 社会学講義, 富永健一, 中央公論新社(中公新書), 1995年; 現代社会学講義, 佐藤慶幸, 有斐閣, 1999年; 社会学(改訂第3版), A. ギデンズ, 而立書房, 1998年; クロニクル社会学, 那須壽, 有斐閣, 1997年; できるだけ『社会学小辞典』を用意し、授業に出てくる用語、人名などを各自で調べてほしい。その他の参考文献は、授業のなかで適宜紹介する。

●メッセージ 社会学概論の講義内容は、前期と後期で相互に関連しているので、できれば年間を通して受講することが望ましい。

●連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室



開設科目	社会学概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	小谷典子				

●授業の概要 社会学に特徴的な研究方法としての社会調査とはどのようなものか、その基本を理解しながら、社会的なものを見方を知る。社会学に関する基本的知識を、社会学の特徴的な研究方法としての社会調査を駆使してまとめられた研究成果を用いて身につけることを目標にする。社会問題や社会現象が社会調査によって切り取れること可能性について考える。／検索キーワード 社会学、社会調査、統計的調査、質的調査、事例調査、フィールドワーク

●授業の一般目標 社会学とはどのような学問であるかを理解する。社会学に特徴的な研究方法としての社会調査について基本的な理解ができる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：社会学に関する基本的知識を身につける 社会調査に関する基本的知識を身につける 思考・判断の観点：社会現象が社会調査によって切り取れる可能性について考える 関心・意欲の観点：社会問題や社会現象を分析する意欲を持つ 態度の観点：社会を体験的に理解することに関心を持つ

●授業の計画（全体）社会学に固有の社会調査の基礎を学びつつ、現代社会の仕組みや問題点を探る。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会学の方法としての社会調査
- 第 2 回 項目 社会調査の歴史
- 第 3 回 項目 中範囲理論と社会的想像力 内容 科学的目的の社会調査
- 第 4 回 項目 量的調査と質的調査 内容 社会調査方法の選択
- 第 5 回 項目 統計調査に見る家族の変容 内容 官庁統計・統計データ
- 第 6 回 項目 現代家族の諸問題 内容 質的調査の実際
- 第 7 回 項目 統計調査にみる地域社会の変容 内容 官庁統計・統計データ
- 第 8 回 項目 都市社会のモノグラフ（シカゴ学派の事例研究） 内容 事例調査の実際
- 第 9 回 項目 スラム社会の社会構造（ストリートコーナースァエティ） 内容 参与観察の実際
- 第 10 回 項目 現代都市の諸問題 内容 質的調査の実
- 第 11 回 項目 社会階層と社会移動（SSM調査から） 内容 統計的調査の実際
- 第 12 回 項目 社会移動と生活構造 内容 統計的調査の実際
- 第 13 回 項目 生活意識と生活問題 内容 統計的調査の実際
- 第 14 回 項目 フィールド調査の楽しみと調査倫理 内容 社会調査の責任と貢献
- 第 15 回 項目 社会学と社会調査

●成績評価方法（総合）出席と小レポートと期末試験で総合的に評価する

●教科書・参考書 参考書：講義中に適宜紹介する

●メッセージ 参考書をできるだけ読んでほしい

●連絡先・オフィスアワー otani@yamauguchi-u.ac.jp

開設科目	現代社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	小谷典子				

●授業の概要 企業の社会的貢献活動（企業メセナ、企業フィランソロピー）を中心に、企業組織とコミュニティの関わりを、具体的な事例を紹介しながら考察する／検索キーワード 企業メセナ、企業フィランソロピー、社是・社訓、企業組織、企業の社会的責任、コミュニティ

●授業の一般目標 現代社会における企業組織の社会的責任や企業の社会貢献活動の実態を知り、企業組織とコミュニティのかかわりを認識し、よりよいまちづくりについて考える

●授業の到達目標／知識・理解の観点：企業組の社会活動についての理解を深める 思考・判断の観点：コミュニティとアソシエーションの関係について考える 関心・意欲の観点：身近な地域社会の社会問題についてに関心を持つ 態度の観点：身近な地域に目を向けるようになる

●授業の計画（全体） 企業の社会的責任や企業組織と地域社会のかかわりにおける企業の社会貢献活動の実態について紹介し、地域形成に関する理解を深める。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 コミュニティとアソシエーション

第 2 回 項目 企業と都市の関わり（1）

第 3 回 項目 企業と都市の関わり（2）

第 4 回 項目 地場企業と地域形成（1）

第 5 回 項目 地場企業と地域形成（2）

第 6 回 項目 企業の社会的責任

第 7 回 項目 企業の環境対策

第 8 回 項目 企業家精神（1）

第 9 回 項目 企業家精神（2）

第 10 回 項目 社是・社訓の研究

第 11 回 項目 経営者団体の社会貢献活動

第 12 回 項目 企業メセナ

第 13 回 項目 企業文化と地域社会

第 14 回 項目 企業の社会貢献

第 15 回 項目 企業組織とコミュニティ

●成績評価方法（総合） 出席と小レポートと期末テストで総合的に判断する

●教科書・参考書 参考書：企業の社会貢献とコミュニティ、三浦典子、ミネルヴァ書房、2004年；その他適宜紹介する

●メッセージ できれば前期・後期続けて受講してほしい

●連絡先・オフィスアワー otani@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	小谷典子				

●授業の概要 企業の社会的貢献活動（企業メセナ、企業フィランソロピー）を中心に、企業組織とコミュニティの関わりを、具体的な事例を紹介しながら考察する／検索キーワード 企業組織、企業の社会貢献、企業メセナ、コミュニティ

●授業の一般目標 現代社会における企業組織の社会的責任や企業の社会貢献活動の実態を知り、企業組織とコミュニティのかかわりを認識し、よりよいまちづくりについて考える 産業都市の企業組織とコミュニティのかかわりを認識し、よりよいまちづくりについて考える。後期は特に企業の地域社会への社会貢献に焦点をおく

●授業の到達目標／知識・理解の観点：企業の社会貢献についての理解を深める 思考・判断の観点：コミュニティとアソシエーションの関係について考える 関心・意欲の観点：身近な地域社会の企業の社会貢献活動についてに関心を持つ 態度の観点：身近な地域社会の企業活動に目を向けるようになる

●授業の計画（全体） 具体的な都市の企業組織と地域社会のかかわりについて紹介し、地域形成に関する理解を深める。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 企業の経営理念 と社会貢献活動
- 第 2 回 項目 企業の社会貢献 活動（1）
- 第 3 回 項目 企業の社会貢献 活動（2）
- 第 4 回 項目 山口県における 企業の社会貢献 活動（1）
- 第 5 回 項目 山口県における 企業の社会貢献 活動（2）
- 第 6 回 項目 防府市における 企業の社会貢献 活動（1）
- 第 7 回 項目 防府市における 企業の社会貢献 活動（2）
- 第 8 回 項目 防府市における 企業の社会貢献 活動（1）
- 第 9 回 項目 宇部市における 企業文化の形成
- 第 10 回 項目 宇部市における 企業の社会貢献 活動（1）
- 第 11 回 項目 宇部市における 企業の社会貢献 活動（2）
- 第 12 回 項目 山口市における 企業の社会貢献 活動（1）
- 第 13 回 項目 山口市における まちづくり活動
- 第 14 回 項目 企業組織とコミュニティ
- 第 15 回 項目 企業と都市の関わりを考える

●成績評価方法 (総合) 出席と小レポートと期末テストで総合的に判断する

●教科書・参考書 参考書：企業の社会貢献とコミュニティ, 三浦典子, ミネルヴァ書房, 2004 年; その他適宜紹介する

●メッセージ 前期・後期続けて受講してほしい

●連絡先・オフィスアワー otani@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	庄司興吉				

●授業の概要 現代社会の広がり（外延）がますます大きくなり、地球社会という概念を必要としてきているという考えから、その中味（内包）をどうとらえたらよいか検討する。「どう」ということの中かには方法と理論とが含まれるので、それらにたいする検討も含む。また、対象が大きくなると話が抽象的になりやすく、自分との関係がとらえにくくなるという問題もあるので、大きなもの（マクロ）と小さなもの（ミクロ）とをどう関連づけて理解する（媒介するか）という問題にたいする検討も行う。／検索キーワード 現代社会、市民社会、地球社会

●授業の一般目標 自分が生きている社会をそのなかにあってとらえるとはどういうことか、ということにたいする理解を深める。できあがった知識を学習して身につけるというのではなく、むしろそれらの不十分さをたえず疑いながら、生きている自分の身体で自分の世界をどうとらえたらいいのかを学ぶのが目標である。現代社会の混沌を見つめ、いつの間にか身につけている多くの憶説（ドクサ）を洗い落としながら、つねに新鮮な知を構築し直すことの大切さを理解する。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 知識を身につけそれで自分の生きている世界の理解に役立てる  
思考・判断の観点： 自分の生きている社会を的確に把握できる 関心・意欲の観点： 現代社会に関心を持ち、やる気をもつ

●授業の計画（全体） テキストを活用して、講義する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに
- 第 2 回 項目 現代社会への視座
- 第 3 回 項目 地球社会の現代的生成
- 第 4 回 項目 地球社会の現代的生成
- 第 5 回 項目 新日本主義と地球社会
- 第 6 回 項目 新日本主義と地球社会
- 第 7 回 項目 風土・民族・普遍人類性
- 第 8 回 項目 風土・民族・普遍人類性
- 第 9 回 項目 日本人から地球市民へ
- 第 10 回 項目 市民社会から地球共生社会へ
- 第 11 回 項目 地球社会の構造と主体
- 第 12 回 項目 地球社会の構造と主体
- 第 13 回 項目 市民運動から市民連携へ
- 第 14 回 項目 市民運動から市民連携へ
- 第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合） 授業期間中に何回か小テスト・授業内レポートと宿題・授業外レポートを行い、授業終了後に一定期間をおいて総括レポートを出してもらう

●教科書・参考書 教科書： 地球社会と市民連帯, 庄司興吉, 有斐閣, 1999 年

●備考 集中授業

開設科目	現代政治社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	瀬瀬厚				

●授業の概要 戦後日本社会の急激な変容は、戦後日本人の意識構造にも決定的な影響を及ぼした。本講義では、そのなかで特に戦争観や平和観の変容に焦点を当て、考察を加えていく。それは同時に戦後日本人の政治観や国家観をも問う試みでもある。そのことを通して、最終的には国家と人間、市民社会と市民の相互関係の理想的かつ合理的な関係を模索していきたい。／検索キーワード 戦争認識 平和認識 歴史認識 意識変容

●授業の一般目標 (1) 戦争観や平和観が何を媒介として形成されていくか認識を深める。(2) 国家や社会を対象化する手法を獲得していく。(3) 自らの言葉で戦争・平和・国家・社会を語れる素養を身につける。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 戦争や平和の歴史事実を再確認し、論証することができる。 2. 本テーマで主体的な議論を展開できる。 3. 本テーマについて、独自性ある小論文を作成できる。  
 思考・判断の観点： 1. 戦争や平和が国家による恣意的な判断によってのみ結果されるものではなく、そこに民衆の意識が介在していることが指摘できる。 2. 戦争や平和の内実を決定するのは、民衆自身であることが自覚できる。 関心・意欲の観点： 1. 自らの社会的立場を客観的に把握する手段として、現代史への関心と社会事象への興味を持つ。 2. 21世紀が再び戦争の時代であるとする認識を持つ。 態度の観点： 1. 既存の歴史認識や社会認識の有り様に疑問を持つ。 2. 他者との言語や文章を媒体とするコミュニケーションに関心を持つ。

●授業の計画(全体) 戦後日本に表出した戦争観や平和観の変容を具体的に例示する。それを踏まえて、より多くの文献・資料を活用しながら、そこに見出される日本人の意識構造を浮き彫りにしていく。テキストは、瀬瀬厚著『侵略戦争 歴史事実と歴史認識』(筑摩書房、1999年刊)など。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 日本人の戦争観の変容(1) 内容 1) 戦争観の転換を迫る者 2) 日本人の戦争観の実際 3) 時代と戦争観の変容 授業外指示 テキスト『侵略戦争』の精読と配布レジュメによる事前学習(以下、毎回同様の指示をする)
- 第 2 回 項目 日本人の戦争観の変容(2) 内容 4) 戦争観の形成と政治的文化的状況 5) 戦争認識を阻害するもの
- 第 3 回 項目 時代の変容と戦争認識の変容 内容 1) 1950年代の特色 2) 風化の政治的時代的背景と原因
- 第 4 回 項目 アジア太平洋戦争の総括をめぐって 内容 1) 「太平洋戦争の呼称をめぐって 2) 解放戦争論の登場
- 第 5 回 項目 戦後の戦争と日本人 内容 1) 朝鮮戦争論 2) ベトナム戦争論
- 第 6 回 項目 日本再軍備をめぐる国論の動き 内容 1) 戦争アレルギーと軍隊アレルギー 2) 日米安保の受容過程
- 第 7 回 項目 戦争責任論の登場とアジア民衆からの批判 内容 1) 戦争責任論 2) 過去の克服
- 第 8 回 項目 軍隊慰安婦問題への反応 内容 1) いま、なぜ軍隊慰安婦問題か 2) アジア民衆の対日批判
- 第 9 回 項目 教科書問題に示された日本の戦争・平和観(1) 内容 1) 教科書問題 2) 歴史修正主義グループの意味
- 第 10 回 項目 教科書問題に示された日本の戦争・平和観(2) 内容 3) 歴史修正主義批判の展開 4) 教科書問題への世論の動き
- 第 11 回 項目 湾岸戦争とイラク戦争時における日本人の戦争観(1) 内容 1) 戦後日本人の戦争観の変容から現代の戦争への視点を探る

- 第12回 項目 湾岸戦争とイラク戦争時における戦争観(2) 内容 2) 現代の戦争観を通して保守化・右傾化する日本人の政治歴史意識の実際を検証する
- 第13回 項目 総括と補論(1) 内容 1) 歴史は乗り越えられないのか～歴史の克服と清算の問題に触れて～
- 第14回 項目 総括と補論(2) 内容 2) 歴史創造の主体と客体という問題
- 第15回 項目 総括と補論(3) 内容 3) 社会科学は何処まで政治から自由であるのか

●成績評価方法(総合) 何よりも、自らの言葉と論理で課題の説明と展開を説得的に論述できる能力を身につけているかを重視します。そこでは、講義の理解と事前学習によって蓄積された知識や情報を消化する技量が問われます。

●教科書・参考書 教科書：侵略戦争, 瀬藤厚, 筑摩書房, 1999年; 有事体制論, 瀬藤厚, インパクト出版会, 2004年; 現代の戦争, 瀬藤厚他, 岩波書店, 2003年 / 参考書：現代政治の課題, 瀬藤厚, 北樹出版, 1994年; 周辺事態法, 瀬藤厚, 社会評論社, 1999年; 検証・新ガイドライン安保体制, 瀬藤厚, インパクト出版会, 1998年; 有事法制とは何か, 瀬藤厚, インパクト出版会, 2002年; 有事法制の罠にだまされるな, 瀬藤厚, 凱風社, 2002年

●メッセージ 現代社会に内在する矛盾をどこまで指摘可能か思考せよ

●連絡先・オフィスアワー 瀬藤厚 koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.PM 1:00-2:30

開設科目	現代政治社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	瀬瀬厚				

●授業の概要 現代の政治社会における人間の所在と位置について考察していく。ここでは国家と人間、社会と人間、組織と人間などを大きなテーマとして設定しつつ、現代社会における人間の営みの理想型を模索していく。／検索キーワード 政治的人間 政治の人間化 国家・社会と人間

●授業の一般目標 「人間は政治的かつ社会的な存在」である限り、私たちは政治とは無縁で有り得ない。まらば、政治社会にあって、これと豊かにコミットしていくための処方箋が不可欠である。本講義は、言うならばその処方箋探しの場となるであろう。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： この社会に生きる全ての人間は「政治的人間」あることを理解する。すなわち、複雑化する一方の現代社会にあって、政治との正面からの向き合いなしには、自らの生存も精神も、そして、思想や行動の自由を獲得できないことを自覚することである。 思考・判断の観点： 他者同調型ではなく、自立・自由・自治の観点からする思考・判断が、いまほど求められている時代はないがゆえに、そのための学習の深化を期待したい。 関心・意欲の観点： あらゆる社会事象に鋭い嗅覚を持って対峙し、的確な選択を実行するためには、あらゆる事象への関心を抱き、解析する意欲を内在化させる方法を発見することである。 態度の観点： 自らが得た知識・情報の的確性を確認するためには他者との相互的交流が不可欠である。その意味で積極的に他者との関わりを持続すべきことの大切さを身につけたい。 技能・表現の観点： 自ら取得した知識・情報を他者に向けて発信するための表現能力の向上が強く求められている。書く力、読む力、伝える力をあらゆる機会を通して獲得すべきである。

●授業の計画（全体） 多義にわたるテーマ及び課題を提示していくので、毎回レジュメを配布していく。受講生諸君は講義に臨むにあたって事前にレジュメの精読が求められる。レジュメと講義と自らの思考という循環によって、政治社会に果敢にコミットし、豊かなコミュニケーション能力を獲得して欲しい。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 国家・社会・組織と人間の関わり方とは 内容 国家とは何かをめぐって
- 第 2 回 項目 「政治社会」とはどのような社会を言うのか 内容 国家・社会とのスタンスの取り方
- 第 3 回 項目 企業社会と人間を結ぶもの 内容 企業社会の中で
- 第 4 回 項目 企業国家と日本人 内容 日本株式会社を超えて
- 第 5 回 項目 近代化・資本主義化と人間 内容 上からの近代化と共同体秩序の形成
- 第 6 回 項目 国家主義・愛国主義・愛郷主義と人間 内容 ファシズム・イデオロギーへの取り込み
- 第 7 回 項目 戦後民主主義の変容と展望 内容 戦後民主主義は人間を解放したか
- 第 8 回 項目 自由・安全・平等の思想と観念のゆくへ 内容 動員・統制・管理の思想と観念との対抗
- 第 9 回 項目 高度経済成長と成長神話のなかで 内容 大国ナショナリズムの形成から私生活主義まで
- 第 10 回 項目 競争社会と差別社会の諸相 内容 競争と差別が生み出される戦後日本の意識
- 第 11 回 項目 学歴社会と階層社会の実態 内容 高度学歴社会化と階層社会化の帰結
- 第 12 回 項目 政治の人間化と人間の政治化との間（1） 内容 政治と人間の対抗と融合をめぐって
- 第 13 回 項目 政治の人間化と人間の政治化との間（2） 内容 政治と人間の対抗融合をめぐって
- 第 14 回 項目 全体の纏めと討論（1）
- 第 15 回 項目 全体の纏めと討論（2）

●成績評価方法（総合） 何よりも、自らの言葉と論理で課題の説明と展開を説得的に論述できる能力を身につけているかを重視します。ここでは、講義の理解と事前学習によって蓄積された知識や情報を消化する技量が問われます。

●教科書・参考書 教科書：現代政治の課題，瀬瀬 厚，北樹出版，2001 年／参考書：現代の戦争，瀬瀬 厚，岩波書店，2003 年；侵略戦争～歴史認事実歴史認識～，瀬瀬 厚，筑摩書房，1999 年；有事体制論，瀬瀬 厚，インパクト出版会，2004 年；文民統制，瀬瀬 厚，岩波書店，2005 年

●メッセージ 君は、政治の解体と創造への道程をどうつけるのか

●連絡先・オフィスアワー E-mail koketu@yamaguti-u.ac.jp、電話 933 - 5278、研究室 411 - 2、オフィスアワー木曜日PM 1:00 - 2:30



開設科目	現代政治社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	野村真理				

- 授業の概要 授業の前半では、古代から近代にいたるまで、ヨーロッパのユダヤ人問題の歴史的、思想史的展開を概観する。授業の後半では、20世紀のユダヤ人の運命に決定的な影響をおよぼしたシオニズムとナチズムを検討する。また中東問題も取り上げる予定である。／検索キーワード ユダヤ人、民族問題、ナチズム、シオニズム
- 授業の一般目標 ヨーロッパにおけるユダヤ人問題の歴史的展開を学ぶことにより、マイノリティ問題を考えるさいの方法的視野を広げる。
- 授業の計画（全体） 1. ユダヤ人とは誰のことか 2. 古代ユダヤ人の国家喪失と離散までの歴史的経緯 3. キリスト教ヨーロッパ世界の成立とユダヤ人 4. 西欧におけるユダヤ人の法的解放 5. 近代的反ユダヤ主義 6. 東欧ユダヤ人問題とは何か 7. シオニズムの歴史 8. ナチズムとホロコースト 9. イスラエルの建国とパレスティナ問題
- 成績評価方法（総合） 試験によって評価する。場合によってはレポートの提出を求め、評価の参考とする。
- 教科書・参考書 教科書：教科書は使用しない。プリントを用意する。／参考書：授業時間中に紹介する。
- 備考 集中授業

開設科目	コミュニティ論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	横田尚俊				

●授業の概要 地震、噴火、風水害、大火災といった災害が社会を襲った場合、人々や集団・組織はどのように対応するのか。災害情報の収集・伝達はどのように行われるのか。災害はコミュニティの社会構造にどのような影響を及ぼすのか。この講義では、これら災害の社会過程をめぐるテーマに検討を加えるとともに、災害社会学の基本的な視座や研究枠組みについて説明する。／検索キーワード 都市災害、災害情報、防災対策、援助行動、ボランティア、集合行動、パニック、避難行動、コミュニティ

●授業の一般目標 (1) 災害社会学の基本的な視座や研究方法を理解する。(2) 災害の特質を現代社会の構造・変動との関連で捉え、災害に強い社会をどう構築していくかという課題について考える。

●授業の計画(全体) 現代社会における災害の特質や社会学における災害研究の諸相を概観していく。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODakション(授業の進め方についての説明)、災害をどう捉えるか
- 第 2 回 項目 災害の社会学的定義、都市災害の特質
- 第 3 回 項目 災害社会(心理)学の展開
- 第 4 回 項目 災害警報と人間行動
- 第 5 回 項目 災害警報と人間行動(続き)
- 第 6 回 項目 災害と集合行動
- 第 7 回 項目 災害と集合行動(続き)
- 第 8 回 項目 災害と避難行動
- 第 9 回 項目 災害と援助行動
- 第 10 回 項目 災害と援助行動(続き)
- 第 11 回 項目 災害と組織—災害時における組織の対応—
- 第 12 回 項目 災害と組織(続き)
- 第 13 回 項目 災害と社会変動
- 第 14 回 項目 災害と社会変動
- 第 15 回 項目 試験

●成績評価方法(総合) 定期試験(論述式) 50% 出席 40% 小レポート・授業参加度 10%

●教科書・参考書 教科書: 教科書は特に使用しない。／参考書: 防災白書(平成 16 年版), 国土交通省, ぎょうせい, 2004 年; 都市防災, 吉井博明, 講談社(現代新書), 1996 年; 災害に出会うとき, 広瀬弘忠, 朝日新聞社, 1996 年; 阪神・淡路大震災の社会学(全 3 巻), 岩崎信彦ほか, 昭和堂, 1999 年; 震災ボランティアの社会学, 山下祐介ほか, ミネルヴァ書房, 2002 年; その他の参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する。

●メッセージ 時間的に余裕があれば、テーマに関連するビデオ映像なども積極的に利用したい。

●連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟 3 階 307 室

開設科目	社会学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	小谷典子				

●授業の概要 日本の近代化と社会変動に関する文献を分担して、各自レポートし、それぞれの研究課題について議論しながら、現代社会に関する関心を深める。各自の研究テーマを明確にし、テーマに基づく文献を読む／検索キーワード 近代化、都市化、社会変動、社会階層

●授業の一般目標 現代社会の構造と変動を理解し、そこから派生する関心ある社会問題を見つけ出し、社会学的な分析方法を身につける

●授業の到達目標／知識・理解の観点：現代社会に関する知識と理解を深める 思考・判断の観点：現代社会に関する現状を判断する 関心・意欲の観点：現代社会に関する関心を深める 研究テーマを明確化する

●授業の計画（全体） 研究課題に関連する文献を分担して、レポートし、その研究課題について議論していく

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 授業の概要

第 2 回 項目 課題報告 1

第 3 回 項目 課題報告 2

第 4 回 項目 課題報告 3

第 5 回 項目 課題報告 4

第 6 回 項目 課題報告 5

第 7 回 項目 課題報告 6

第 8 回 項目 研究テーマ中間 報告

第 9 回 項目 課題報告 7

第 10 回 項目 課題報告 8

第 11 回 項目 課題報告 9

第 12 回 項目 課題報告 1 0

第 13 回 項目 課題報告 1 1

第 14 回 項目 課題報告 1 2

第 15 回 項目 日本の近代化と 社会変動を総括 する

●成績評価方法 (総合) 出席、報告、最終レポートを総合的に評価する

●教科書・参考書 参考書：適宜紹介する

●メッセージ 小谷を指導教官とする 4 年生は必ず受講すること

開設科目	社会学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	小谷典子				

- 授業の概要 各自の研究テーマを明確にし、テーマに基づく文献を読み、レポートし、研究課題について議論しながら、現代社会に関する関心を深める。／検索キーワード 近代化、都市化、社会変動、現代社会 社会問題
- 授業の一般目標 現代社会と社会問題に関する文献を各自読み込み、理解し、各自の研究テーマを明確化する
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 現代社会に関する知識と理解を深める 思考・判断の観点： 現代社会と社会問題に関する現状を判断する 関心・意欲の観点： 現代社会に関する関心を深める 研究テーマを明確化する
- 授業の計画（全体） 参考文献についてレポートし、研究課題について議論していく
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等
  - 第 1 回 項目 授業の概要
  - 第 2 回 項目 課題報告 1
  - 第 3 回 項目 課題報告 2
  - 第 4 回 項目 課題報告 3
  - 第 5 回 項目 課題報告 4
  - 第 6 回 項目 課題報告 5
  - 第 7 回 項目 課題報告 6
  - 第 8 回 項目 研究課題中間報告会
  - 第 9 回 項目 課題報告 7
  - 第 10 回 項目 課題報告 8
  - 第 11 回 項目 課題報告 9
  - 第 12 回 項目 課題報告 1 0
  - 第 13 回 項目 課題報告 1 1
  - 第 14 回 項目 課題報告 1 2
  - 第 15 回 項目 現代社会と社会 変動を総括 する
- 成績評価方法（総合） 出席、報告、最終レポートを総合的に評価する
- 教科書・参考書 参考書： 適宜紹介する
- メッセージ 小谷を指導教官とする 4 年生は必ず受講すること

開設科目	社会学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	横田尚俊				

- 授業の概要 環境社会学の基本文献を取り上げ、受講生全員で読んでいく。環境社会学の視点や研究領域などについて学習しながら、環境保全のためにどのような取り組みが行われており、市民・住民、行政、企業といった各主体が今後どのような役割を果たし、いかに連携すべきなのか、といった点を皆で議論しながら考えていく。並行して、4年生には各自の卒論テーマに基づく報告をもらい、他の受講生との間で質疑・応答を行う。／検索キーワード 環境問題、環境社会学、生活環境主義、NPO、ボランティア、地域住民組織、卒業論文
- 授業の一般目標 (1) 環境問題の現状や問題点などを、社会学の視点から理解する。(2) 環境保全への取り組みの現状・課題を理解するとともに、環境問題とその解決への道筋を、われわれの日常生活世界のありようと関連づけて考える。(3) 卒業論文のテーマを設定し、論文作成に必要な文献・データを収集する(4年生)。
- 授業の計画(全体) 以下のテキストの中から2冊を選んで、受講生全員で読んでいく。授業は、受講生による報告、質疑、討論によって進められていく。また、時間があれば、環境保全活動に取り組んでいる人々にお話を伺う機会をつくりたいと考えている。4年生には、各自の卒論のテーマに基づく研究成果を披露してもらう。
- 成績評価方法(総合) 出席 40% 報告・授業参加度 40% 課題レポート(必須) 20%
- 教科書・参考書 教科書：環境社会学，鳥越皓之，東京大学出版会，2004年；コモンズの社会学，鳥越皓之ほか，新曜社，2001年；歴史的環境の社会学，片桐新自ほか，新曜社，2000年；観光と環境の社会学，古川彰ほか，新曜社，2003年／参考書：参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する
- メッセージ 初回の授業で、テキストの入手法や授業の進め方などについて説明するので、必ず初回に出席すること。
- 連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室

開設科目	社会学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	横田尚俊				

- 授業の概要** 現代都市社会の諸相に社会学的な考察を加える。具体的には、都市と階層、都市の消費生活、まちづくりと都市計画、まちなみ保存、環境、災害、ホームレス問題などをとりあげる。テキストを読みながら、受講生自身による報告と質疑、討論によって授業は進められていく。同時に、3年生には、卒業論文作成に備えて、各自の研究テーマに沿った研究報告をしてもらう。／検索キーワード 都市社会、リスク、都市生活、まちづくり、都市計画、環境問題、災害
- 授業の一般目標** (1) 現代都市の社会構造や生活システム、社会問題などを社会学的に分析し理解することを目標とする。(2) 各自の研究テーマを深め、卒業論文作成の準備を進める。
- 授業の計画(全体)** 以下のテキストを受講生全員で読んでいく。授業は、受講生による報告、質疑、討論によって進められていく。時間があれば、自治体のまちづくり拠点などを訪問して、見学したりお話をうかがったりする機会をつくりたいと考えている。また、3年生には、授業の後半に、卒業論文の作成をにらんで、各自の研究テーマに基づく報告をしてもらう予定である。
- 成績評価方法(総合)** 出席 40% 報告・授業への参加度 40% 課題レポート(必須) 20%
- 教科書・参考書** 教科書：都市社会とリスク, 藤田弘夫ほか, 東信堂, 2005年 / 参考書：参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する。
- メッセージ** 初回の授業で、テキストの入手法や授業の進め方などについて説明するので、必ず初回に出席すること。
- 連絡先・オフィスアワー メール・アドレス** n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室

開設科目	社会学演習(4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	横田尚俊				

- 授業の概要 本演習では、4年生の卒業論文作成に向けた指導を行う。／検索キーワード 卒業論文、社会学
- 授業の一般目標 受講生が、自分自身で設定した研究課題にしたがって、卒業論文を執筆できるようにする。
- 授業の計画(全体) 受講生には、卒業論文作成に必要な資料・データや文献を渉猟した上で、研究報告をしてもらう。報告に対して、受講生全員で質疑と討論を行い、卒業論文の構想と内容を肉付けしていく。後期には、報告と並行して、実際に卒業論文の執筆に入ってもらう。
- 成績評価方法(総合) 出席・報告 100%
- 教科書・参考書 教科書：教科書は特に使用しない。／参考書：参考文献に関しては、授業の中で適宜紹介する。
- メッセージ 受講生の卒業論文提出のスケジュールに鑑みて、正規の演習は12月初旬で終了し、以降は各自の進度に応じた個別指導を実施する。
- 連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室

開設科目	現代政治社会学演習（3年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	瀬瀬厚				

●授業の概要 いま、日本社会はポスト冷戦の時代と言う名の「第二の戦後」を迎えている。1950年代以降の日本社会は、冷戦構造に規定されてきた特殊日本的な社会構造を特質としている。その社会構造のなかで現行憲法の平和主義に形骸化が公然と進められ、安保が憲法に優越する存在としてすら存在してきた。同時に、冷戦構造に後押しされた戦後日本の保守体制と保守思想は、日本社会をして”経済的繁栄”を結果させる一方で、種々の非人権的な諸相を様々な領域で露呈させる要因ともなった。唯一の「冷戦構造の受益者」としての日本人は、冷戦構造を背景として成立した軍事政権の権威主義的支配に苦しめられているアジア民衆との間に埋めがたい距離を創り上げてきた。その日本人も、戦後社会に冷戦構造を支えにもたらされた高度成長経済体制のなか、企業によって支配された日本国家に対置する自己を確立し得ないまま、依然として「市民」としての意識も行動力も持ち得ていない。本演習では、こうした問題意識を念頭に据えつつ、以下のようなテーマで出席者全員で報告と討論を重ねていきたいと思う。／検索キーワード 国家 社会 市民

●授業の一般目標 出席者が現状分析において明確に自己の見解を表明できるようになること、相互のコミュニケーションに果敢に取り組むスタンスを身につけることを第一の目標としていきたい。そして、論旨が明快な文章執筆能力の向上に資するために新聞記事の解読など並行して進めていく。

●授業の計画（全体） 3年次演習の成果として年度末には瀬瀬ゼミ誌『現代政治社会学論集』への寄稿を義務づける。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 戦後保守体制論
- 第2回 項目 保守イデオロギーと国家イデオロギー
- 第3回 項目 権威的支配構造と企業社会論
- 第4回 項目 日本株式会社論を超えて
- 第5回 項目 国家暴力装置の実態
- 第6回 項目 現代官僚制の問題点
- 第7回 項目 安保体制・安保構造・安保文化
- 第8回 項目 安保と憲法の強制的共存
- 第9回 項目 戦後国家論の展開
- 第10回 項目 閉塞する戦後日本社会
- 第11回 項目 日本人の国際認識
- 第12回 項目 現代マスコミの課題と展望
- 第13回 項目 マス・メディアとジャーナリズム
- 第14回 項目 情報社会と人権
- 第15回 項目 世論とマスコミ

●成績評価方法（総合） 報告内容と討論への参加態度

●教科書・参考書 教科書：現代の戦争，瀬瀬厚，岩波書店，2002年／参考書：検証・新ガイドライン安保体制，瀬瀬厚，インパクト出版会，1998年；周辺事態法，瀬瀬厚，社会評論社，2000年；現代政治の課題，瀬瀬厚，北樹出版，2001年；有事法制とは何か，瀬瀬厚，インパクト出版会，2002年；有事法制の罅にだまされるな，瀬瀬厚，凱風社，2002年

●メッセージ 徹底した議論と思考の向こうに見えるものは何か

●連絡先・オフィスアワー E-mail koketu@yamaguchi-u.ac.jp、電話 933 - 5278、研究室 411 - 2、オフィスアワー木曜日PM 1:00 - 2:30



開設科目	現代政治社会学演習（3年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	瀬瀬厚				

●授業の概要 前期での報告を踏まえて、年度末までに以下の日程で瀬瀬ゼミ誌『現代政治社会科学論集』に寄稿する小論種の執筆に全力をあげる。従って、後期の報告内容は、小論文の区尾性内容を前提としたものとする。／検索キーワード 説得的かつ論理的な論述

●授業の一般目標 10月より各自の報告を行う。12月8日（日米開戦日）までに草稿を完成させる。1月28日までに完全原稿を提出する。2月から編集作業を開始し、3月初旬に発行する。

●授業の計画（全体） 報告内容と小論集で評価する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 報告者のテーマ設定と報告の順番を決定する。

第2回

第3回

第4回

第5回

第6回

第7回

第8回

第9回

第10回

第11回

第12回

第13回

第14回

第15回

●メッセージ 書くことの喜びを共に分かち合おう1

●連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.PM1:00-2:30 研究室 TEL.933-5278

開設科目	現代政治社会学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	瀬瀬厚				

●授業の概要 演習参加者各自の問題意識がクリアに反映された課題を設定し、文献・資料を収集・精読する作業を通して卒業論文の作成を目標とする。

●授業の一般目標 社会学領域の論文の執筆活動を通して、将来逞しい「市民」として自立していくための機会とする。そこでは大いなる批判精神や説明能力の習得を求めたい。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 報告者の順番を決定。

第 2 回 項目 以下、順次報告と討論を重ねていく。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

●メッセージ 逞しい「市民」への第一歩を！

●連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.PM1:00-2:30 TEL/933-5278

開設科目	現代政治社会学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	瀬瀬厚				

●授業の概要 説得的かつろんりてきな論文の執筆

●授業の一般目標 論文の作成とゼミ誌『現代政治社会論』の発行

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 各自のテーマ設定と広告順の決定

第 2 回 項目 以下、報告

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

●連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.PM1:00-2:30 TEL/933-5278

開設科目	現代政治社会学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	山本真弓				

●授業の概要 3年生対象。卒論執筆のために論文の書き方を学ぶ。実際のテーマ選びと方法論の決定、目次作成などを通して、各自が自らの論の構成を披露し、参加者が質問するなどして詰めて行く。

●授業の一般目標 卒業論文のたたき台になるようなレポート作成を目標とする。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：自らの論の背景となる一般的知識を獲得し、理解していること。

思考・判断の観点：論理的思考ができること。 関心・意欲の観点：問題意識が明確であること。

態度の観点：自らの研究だけでなく、他人の研究発表にも積極的に関与し、意見を述べること。 技能・

表現の観点：社会科学用語が使いこなせていて、かつ論理的文章表現ができること。

●授業の計画（全体）各自が自分のテーマに関する研究史、研究論文を発表し、自らの研究課題について報告する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 各自の研究テーマに添った関係論文の報告 1

第 2 回 項目 各自の研究テーマに添った関係論文の報告 2

第 3 回 項目 各自の研究テーマに添った関係論文の報告 3

第 4 回 項目 各自の研究テーマに添った関係論文の報告 4

第 5 回 項目 各自の研究テーマに添った関係論文の報告 5

第 6 回 項目 各自の研究発表と討論 1

第 7 回 項目 各自の研究発表と討論 2

第 8 回 項目 各自の研究発表と討論 3

第 9 回 項目 各自の研究発表と討論 4

第 10 回 項目 各自の研究発表と討論 5

第 11 回 項目 各自の研究発表と討論 6

第 12 回 項目 各自の研究発表と討論 7

第 13 回 項目 各自の研究発表と討論 8

第 14 回 項目 各自の研究発表と討論 9

第 15 回 項目 全体討論と今後の予定

●成績評価方法（総合）出席、授業への参加度、期末のレポートによる総合的評価。

開設科目	現代政治社会学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	山本真弓				

●授業の概要 3年生対象で、題材は「民族」問題。特に、9・11を視野に入れたグローバル化した紛争をとりあげる。具体的には、3～4冊の本を読んで、著者の論の展開を理解し、自分の文章でまとめること。そのようにしてまとめた各自の文章をもとに、議論すること。

●授業の一般目標 今日の西欧社会が抱える国内問題としての「民族」問題と、グローバル化した「民族」問題の関連を理解すること。非ヨーロッパ世界（特に、イスラーム世界）の論理を理解すること。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：本を読んで、内容を理解し、文章で表現できること。関心・意欲の観点：不明点を積極的に自分で調べること。態度の観点：授業に出席し、議論に積極的に参加すること。発表、提出物など、役割をきちんと果たすこと。技能・表現の観点：口頭による発表がきちんと行なえること。論理的な文章表現ができること。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに
- 第 2 回 項目 講義 1
- 第 3 回 項目 発表 1
- 第 4 回 項目 討論 1
- 第 5 回 項目 講義 2
- 第 6 回 項目 発表 2
- 第 7 回 項目 討論 2
- 第 8 回 項目 講義 3
- 第 9 回 項目 発表 3
- 第 10 回 項目 討論 3
- 第 11 回 項目 講義 4
- 第 12 回 項目 発表 4
- 第 13 回 項目 討論 4
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 予備

●成績評価方法（総合）出席、および授業への参加、ならびに最後のレポートを含めて総合的に判断する。

●教科書・参考書 教科書：ヨーロッパとイスラーム、内藤正典、岩波新書；パレスチナ 新版、広河隆一、岩波新書；揺れるユダヤ人国家、立山良司、文春新書；イラクとアメリカ、酒井啓子、岩波新書；民族とは何か、関廣野、講談社現代新書

開設科目	現代政治社会学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	山本真弓				

- 授業の概要 4年生の卒論演習。
- 授業の一般目標 問題設定を明確にし、方法論とテーマの整合性を図る。
- 成績評価方法 (総合) 出席と卒論予備レポートの提出

開設科目	現代政治社会学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	山本真弓				

- 授業の概要 4年生の卒論演習
- 授業の一般目標 論理がきちんと展開されていて、論文としての文章がきちんと書けていること
- 成績評価方法 (総合) 出席

開設科目	社会学調査実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	小谷典子				

●授業の概要 社会学的社会調査の方法を学び、仮説の検証のための社会調査を実施する。／検索キーワード 社会調査、統計的調査、事例調査、調査票作成、フィールド調査

●授業の一般目標 研究目的の社会調査を経験することによって、社会調査の目的・方法・結果の利用を学習する

●授業の到達目標／知識・理解の観点：社会調査の概要について理解する 思考・判断の観点：仮説の検証の方法の有効性を考える 関心・意欲の観点：社会現象を切り取る方法に関心を持つ 技能・表現の観点：社会調査の実践の技術を身につける

●授業の計画（全体） 仮説を設定し、それにふさわしい社会調査の方法を決定し、調査の対象を設定し、社会調査を実践する。調査結果の利用を考えながら、調査結果の集計、整理を行う

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会調査の設計 1 内容 問題の決定と調査方法の検討
- 第 2 回 項目 社会調査の対象 内容 具体的な調査対象の決定
- 第 3 回 項目 社会調査の方法 の 1 内容 先行研究を検討
- 第 4 回 項目 社会調査の方法 2 内容 先行研究の検討 から仮説を設定し調査方法を確定する
- 第 5 回 項目 社会調査の計画 1 内容 調査票の検討
- 第 6 回 項目 社会調査の計画 2 内容 調査票の検討
- 第 7 回 項目 社会調査の計画 3 内容 調査票の作成
- 第 8 回 項目 社会調査の計画 4 内容 調査対象のサンプリング
- 第 9 回 項目 社会調査の実施 1 内容 フィールド調査の計画
- 第 10 回 項目 社会調査の実施 2 内容 フィールド調査の実施
- 第 11 回 項目 社会調査の実施 3 内容 フィールド調査の実施
- 第 12 回 項目 社会調査の実施 4 内容 フィールド調査の総括
- 第 13 回 項目 調査結果の集約 1 内容 データ処理の方法を学ぶ
- 第 14 回 項目 調査結果の集約 2 内容 データ処理
- 第 15 回 項目 調査結果の集約 3 内容 調査結果のまとめ

●成績評価方法（総合） 出席と、社会調査実習への参加、調査結果のとりまとめを総合的に評価する

●教科書・参考書 参考書：大谷信介ほか編『社会調査へのアプローチ』ミネルヴァ書房 1999 年

●メッセージ 出席と実習への参加を義務とする



開設科目	社会学調査実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	横田尚俊				

●授業の概要 具体的な調査テーマを設定し、社会調査の方法にしたがって、調査を実施する。調査テーマの設定、テーマにかかわる資料収集と事前学習、調査手法の検討、調査票の設計、ラポール、調査によるデータの収集と整理・分析、調査報告書の執筆、という一連のプロセスを、実習形式で修得していく。なお、本年度は、「河川環境保全と地域社会」、または「自発的市民活動に取り組む人々」をテーマに、主として、市民活動グループおよびその参加者を対象に、聞き取り調査を実施する予定である（なお、テーマについてはあくまで予定であり、変更する場合もありうるが、いずれにせよ調査手法としては質的調査〔聞き取り調査〕を採用する）。／検索キーワード 社会調査、質的調査、聞き取り調査、調査項目、調査票

●授業の一般目標 社会調査の方法を学習し、受講生自身が、グループで協力しあいながら、社会調査を企画・実践できるようにする。

●授業の計画（全体） 社会調査の一連の過程を実践する。受講生各自で分担して調査データを分析し、調査報告書の形にまとめる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イン트로ダクション（授業の進め方についての説明）
- 第 2 回 項目 調査テーマの設定と確認／調査スケジュールの検討
- 第 3 回 項目 調査テーマに関する資料収集、事前学習
- 第 4 回 項目 調査テーマに関する資料収集、調査方法の検討、調査倫理について
- 第 5 回 項目 調査項目の検討と抽出
- 第 6 回 項目 調査票の作成
- 第 7 回 項目 調査票の設計と再検討
- 第 8 回 項目 調査スケジュールの検討及びラポール
- 第 9 回 項目 調査によるデータ収集
- 第 10 回 項目 調査によるデータ収集
- 第 11 回 項目 調査によるデータ収集
- 第 12 回 項目 調査データの処理・整理
- 第 13 回 項目 調査データの処理・整理
- 第 14 回 項目 調査データの分析／報告書目次（案）と執筆分担の決定
- 第 15 回 項目 調査データの分析／報告書の執筆

●成績評価方法（総合） 授業への参加度（調査のプロセス・作業への参加） 50％ 授業内での発表 20％ 調査レポート 30％

●教科書・参考書 教科書：テキストは特に使用しない。／参考書：社会学小辞典，浜嶋朗ほか，有斐閣，1997年；社会調査へのアプローチ，大谷信介ほか，ミネルヴァ書房，1999年；ガイドブック 社会調査，森岡清志，日本評論社，1998年；その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

●メッセージ 調査実施期間中は、正規の授業時間以外にもある程度の時間を費やさなければならない。受講生には、あらかじめこの点を了解してほしい。

●連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟3階307室

開設科目	社会心理学概論 I	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	高橋征仁				

●授業の概要 社会心理学は、社会学や心理学のみならず、人類学、政治学等々の学問からなる非常に学際的な研究領域である。この講義では、「ケータイ」という日常的な題材を取り上げながら、これまでの社会心理学研究における基本的問題や知見について紹介していく。／検索キーワード 社会心理学 コミュニケーション ケータイ

●授業の一般目標 1) 社会心理学の基礎概念について学ぶ 2) 社会心理学の学説史を学ぶ 3) 社会心理学の多様なアプローチについて学ぶ 4) 現代社会の諸問題と社会心理学のかかわりを考える

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会心理学入門
- 第 2 回 項目 社会心理学の誕生
- 第 3 回 項目 社会心理学の課題
- 第 4 回 項目 ケータイから学ぶということ
- 第 5 回 項目 メディア変容へのアプローチ
- 第 6 回 項目 都市空間とケータイ
- 第 7 回 項目 ケータイ・コミュニケーションの特性
- 第 8 回 項目 中間考察
- 第 9 回 項目 ケータイに映る「わたし」
- 第 10 回 項目 ケータイ利用から見えるジェンダー
- 第 11 回 項目 ケータイの流行学
- 第 12 回 項目 ケータイとうわさ
- 第 13 回 項目 モバイル社会のゆくえ
- 第 14 回 項目 青少年とケータイ
- 第 15 回 項目 まとめ

●教科書・参考書 教科書：ケータイ学入門, 岡田朋之・松田美佐編, 有斐閣, 2002 年

開設科目	社会心理学概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	辻 正二				

●授業の概要 社会心理学においては、社会調査はきわめて重要な意味を持っている。本講義では、社会調査に必要な理論と技法について学ぶ。／検索キーワード 調査設計、仮説構成、質問文、標本調査、調査技法

●授業の一般目標 (1) 社会心理学に必要な社会調査の方法についての知識、技法について学ぶ。(2) 社会調査を実施するまでの基本的知識、調査票の作成方法、サンプリング方法などの知識・技法を修得する

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 社会心理学と調査（1） 内容 社会心理学と社会調査、社会調査はなぜ必要か
- 第 2 回 項目 現代社会と社会調査 内容 現代社会における調査の位置、政策形成と調査
- 第 3 回 項目 社会調査が抱える諸問題 内容 社会調査の現状、情報開示、プライバシー保護
- 第 4 回 項目 調査のための資料の探索 内容 情報の探し方、研究するための情報の入手、情報ソース（図書館、大学、マスコミ、政府など）統計の所在源、主要な官庁統計
- 第 5 回 項目 社会調査の基本（1） 内容 何のための社会調査か、記述と説明、概念構成と概念操作、概念の働き、操作概念
- 第 6 回 項目 社会調査の基本（2） 内容 変数とは、概念の変数化、従属変数、独立変数、媒介変数、問題意識と仮説
- 第 7 回 項目 尺度化とその種類 内容 測定概念、尺度の種類、内的尺度と外的尺度、名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度
- 第 8 回 項目 調査票の作り方（1） 内容 調査の種類、質問紙調査票、質問文の作成、質問文の種類、ワーディングの問題、作成の注意事項
- 第 9 回 項目 調査票の作り方（2） 内容 選択肢の作り方、自由回答、質問文の流れ、制限回答法の長所と短所
- 第 10 回 項目 調査票を作成する 内容 簡単な調査票の作成、ワークショップ形式で作成する。
- 第 11 回 項目 プレゼンテーション 内容 作成した調査票の発表と講評
- 第 12 回 項目 サンプリングの仕方（1） 内容 サンプリングの歴史、全数調査と標本調査、調査対象の定義、サンプリングの種類、単純無作為抽出法
- 第 13 回 項目 サンプリングの仕方（2） 内容 新しいサンプリング法、標本数の決め方、サンプリングの台帳の利用方法
- 第 14 回 項目 調査票調査とデータ化 内容 調査の流れ、調査法の種類とその長短、データ化の前に必要な作業
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 補足と全体のまとめ

●教科書・参考書 教科書：大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋・永野武編『社会調査へのアプローチ』（ミネルヴァ書房）1999年

●連絡先・オフィスアワー 人文学部辻研究室（309室）

開設科目	コミュニケーション論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	高橋征仁				

●授業の概要 コミュニケーションが問われる場合、「情報の共有」や「情緒的結合」が理念的前提とされていることが少なくない。しかし、こうした前提は、必ずしも現実的ではないし、諸々のコミュニケーション現象を説明する上で、困難に直面してしまうことになる。授業では、これらの観点から古典的コミュニケーション論の限界と、新しいコミュニケーション論の出発点について、検討を進めていく。／検索キーワード コミュニケーション、メディア、公共圏

●授業の一般目標 1. 古典的コミュニケーションモデルの限界を認識する 2. メディアの基本機能と新しいコミュニケーション論の基礎を検討する 3. 公共圏や民主主義、社会システムなどについて、新たな議論を展開するための基礎をつくる 4. パワーポイントを用いたプレゼンテーションやメーリングリストによる討論の方法を学ぶ

●授業の計画(全体) テキストを用いながら、N. ルーマンやJ. ハーバーマスらの新しいコミュニケーション論について学ぶ。

●授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 授業ガイダンス 内容 授業方法の解説 コミュニケーションをめぐるロマン主義的誤謬 授業外指示 メーリングリストの登録

第 2 回 項目 メディアの役割 内容 機械論的コミュニケーション論の限界 授業外指示 メーリングリストによる課題提出

第 3 回 項目 メディアとしての貨幣 内容 第 1 章 1, 2, 3 授業外指示 パワーポイント 資料作成

第 4 回 項目 現代社会におけるリスク 内容 第 1 章 4, 5 授業外指示 パワーポイント 資料作成

第 5 回 項目 パーソナル・メディア 内容 第 2 章 1, 2, 3 授業外指示 パワーポイント 資料作成

第 6 回 項目 マス・メディアと電子メディア 内容 第 2 章 4, 5 授業外指示 パワーポイント 資料作成

第 7 回 項目 第 1 中間考察 内容 ここまでの疑問点、問題点をめぐる質疑応答

第 8 回 項目 相互行為と間主観性 内容 第 3 章 1, 2 授業外指示 パワーポイント 資料作成

第 9 回 項目 コミュニケーションと合意 内容 第 3 章 3, 4, 5 授業外指示 パワーポイント 資料作成

第 10 回 項目 真理・規範・権力・影響力 内容 第 3 章 6, 7, 8 授業外指示 パワーポイント 資料作成

第 11 回 項目 第 2 中間考察 内容 ここまでの疑問点、問題点をめぐる質疑応答 授業外指示 パワーポイント 資料作成

第 12 回 項目 強制的権力と生成的権力 内容 第 4 章 1, 2 授業外指示 パワーポイント 資料作成

第 13 回 項目 「公共圏」の変容 内容 第 4 章 3, 4 授業外指示 パワーポイント 資料作成

第 14 回 項目 社会的コミュニケーションの構造 内容 第 5 章 1, 2 授業外指示 パワーポイント 資料作成

第 15 回 項目 原初的コミュニケーションによる自己組織化 内容 第 5 章 3, 4, 5 授業外指示 パワーポイント 資料作成

●教科書・参考書 教科書：コミュニケーション・メディア、正村俊之、世界思想社、2001 年

開設科目	現代社会意識論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	辻 正二				

●授業の概要 現代の日本社会は大きな変革期にかかっているが、そのために犯罪や自殺などの逸脱行動が多様化し深刻化もしている。こうした逸脱行動は、社会病理現象ともたらずが、この講義では社会病理や逸脱行動が何故生じるのか、逸脱行動の理論を通して学ぶ。／検索キーワード 逸脱行動、アノミー論、ラベリング論、サブカルチャー論、機会構造、状況規定

●授業の一般目標 1) 逸脱行動や社会病理の学説・理論について理解する。 2) それを生かして現実に起きている現象を如何に説明するかを学ぶ 3) こうしたさまざまな逸脱行動が生じないようにするにはどのようなことが必要かを学ぶ

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義のねらい 内容 今回の授業の狙いと全体の流れを説明する
- 第 2 回 項目 現代の社会問題 内容 現在の社会問題、理論と実証 論
- 第 3 回 項目 社会病理学の考え方 内容 社会病理現象を説明する理論の種類と歴史
- 第 4 回 項目 デュルケームの自殺論と病理的視点 内容 デュルケームの『自殺論』と彼の問題意識
- 第 5 回 項目 マートンのアノミー論
- 第 6 回 項目 マートン後のアノミー論
- 第 7 回 項目 シカゴ学派の逸脱論 内容 シカゴの都市研究と社会病理学（パーク、トーマスなど）
- 第 8 回 項目 分化接触論とサブカルチャー論
- 第 9 回 項目 サブカルチャー論と非行
- 第 10 回 項目 社会的相互作用と社会的反作用論
- 第 11 回 項目 ベッカーのラベリング論
- 第 12 回 項目 ベッカー後のラベリング論
- 第 13 回 項目 キツセの社会問題論
- 第 14 回 項目 構築主義の逸脱論の現在
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 講義の全体的なまとめ

●教科書・参考書 参考書：高原正興『社会病理学と少年非行』法政出版 デュルケーム『自殺論』中公文庫 マートン『社会理論と社会構造』みすず書房 ベッカー『アウトサイダーズ』新泉社 サザーランド『犯罪の原因 I・II』有信堂

●メッセージ 参考書は最低1冊は、該当箇所を読んでおくこと。

●連絡先・オフィスアワー 辻研究室（309室）

開設科目	現代社会意識論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	辻 正二				

●授業の概要 我が国は、1994年に高齢化率14%を超え、高齢社会に突入した。この高齢化は、今後ますます進行し、我が国の社会全体に大きな影響を及ぼしつつある。現在の我が国の深刻な社会問題（産業の空洞化、犯罪の凶悪化など）の中には国際化や情報化といった別の要因も関係しているが、高齢化の要因も無視できない。ところが、高齢化については、福祉や社会保障制度などに関しては論議されているが、高齢社会全体についてはあまり論議されていないのが実情である。この講義では、現在に高齢者か抱えている問題やこれまであまり触れられなかったエイジズム（老人差別）、高齢者と時間、生涯現役社会の構築といったことについて触れながら、社会老年学の知識を深めることを目指している。／検索キーワード 高齢化、少子化、生涯現役、エイジング、ライフサイクル、ラベリング

●授業の一般目標 (1) 高齢化がもたらす意味とその社会心理学的諸問題についての知識を身につける。(2) 高齢化社会の問題への対応を考え、それへの適切なあり方を考える態度を学ぶ。(3) 生涯現役に向けての諸方策を捉え、あるべき方向性を考える。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義の狙い 内容 高齢化社会とは何か、今期の授業の狙いを概説する
- 第 2 回 項目 高齢化社会とは何か 内容 しのび寄る超高齢化社会、高齢化社会の課題
- 第 3 回 項目 高齢者の自我
- 第 4 回 項目 高齢者の社会化
- 第 5 回 項目 高齢者文化と時間
- 第 6 回 項目 高齢者の人間関係
- 第 7 回 項目 高齢者の社会参加
- 第 8 回 項目 高齢者のグループ 活動 内容 日本と世界の老人クラブ、これからの老人クラブのあり方
- 第 9 回 項目 高齢者の生活意識
- 第 10 回 項目 高齢者の生きがい 論
- 第 11 回 項目 高齢者と死の問題
- 第 12 回 項目 老人差別と高齢者 ラベリング
- 第 13 回 項目 介護意識と福祉意識
- 第 14 回 項目 生涯現役社会づくりについて
- 第 15 回 項目 全体のまとめ

●教科書・参考書 教科書：辻正二・船津衛編『エイジングの社会心理学』北樹出版 2003年／参考書：辻正二『高齢者ラベリングの社会学』恒星社厚生閣 2000年 総務庁編『高齢社会白書』平成15年版

●メッセージ 授業は、テキストと資料を使って進行します。講義の前にテキストは必ず読んでおいてください。

●連絡先・オフィスアワー 辻研究室（309室）

開設科目	社会心理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	高橋征仁				

●授業の概要 日本人の性行動や性意識に関する経験的研究を収集し、分析する。日本において、性意識や性行動に関する経験的研究は、これまで十分に展開されてきたとはいいがたい。調査の実施やその結果発表が新たな性情報をもたらす危険性が懸念されるため調査が行われなかったり、行われた場合にも、＜性行動の低年齢化＞や＜性行動の活発化＞、＜性の商品化の進展＞などを問題視するステレオタイプの議論が展開されてきた。性行動を抑制すべきだとする立場の者も、性をロマンティック・ラブや自己決定の問題と結びつけて考える立場の者も、これらの認識を共有してきたように思われる。しかし、国際比較や時代比較を行うと、そうした認識が必ずしも適切ではないことがわかる。この授業では、そうしたイデオロギー対立をくぐり抜けて、新たな経験的知見を見だし、分析していくことの重要性を学ぶ。／検索キーワード 性、セクシュアリティ、近代社会、計量的分析

●授業の一般目標 1. 経験的研究をめぐる方法論的問題について把握する。 2. マクロデータの分析技法について学ぶ。 3. 性をめぐる政治的・道徳的争点を経験的知見から捉え返す。 4. 近代社会における性やセクシュアリティの機能とその変化を考察する。

●授業の計画（全体） 毎週4年生の卒論発表1名、3年生による教科書の報告2名（1章分）をもとに、全員で議論を進めていく。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 授業方法 年間予定 発表・報告方法 討論方法 等々
- 第 2 回 項目 ガイダンス 内容 辞書 文献検索 テキストの概要
- 第 3 回 項目 性行動全国調査 内容 第 1 章
- 第 4 回 項目 性行動の低年齢化？ 内容 第 2 章
- 第 5 回 項目 性と学校集団 内容 第 3 章
- 第 6 回 項目 性情報とメディア 内容 第 4 章
- 第 7 回 項目 性教育の現状 内容 第 5 章
- 第 8 回 項目 性被害とセクシュアリティ 内容 第 6 章
- 第 9 回 項目 各人発表
- 第 10 回 項目 卒論構想発表会 1 内容 卒論構想発表
- 第 11 回 項目 各人発表
- 第 12 回 項目 各人発表
- 第 13 回 項目 各人発表
- 第 14 回 項目 各人発表
- 第 15 回 項目 各人発表

●教科書・参考書 教科書：「若者の性」白書, 日本性教育協会, 小学館, 2001 年

開設科目	社会心理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	高橋征仁				

●授業の概要 3年生は卒論の執筆準備のための先行研究レビューを行う。4年生は資料、データの処理、分析、執筆報告を行う。／検索キーワード 卒論

●授業の一般目標 卒業論文を作成するための基本的ノウハウを学ぶ

●授業の計画（全体） 毎週4年生1名、3年生2名の報告を行う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス 内容 授業計画、卒論 執筆計画について
- 第 2 回 項目 先行研究および 卒論経過報告 内容 発表と討議
- 第 3 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 4 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 5 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 6 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 7 回 項目 中間報告会
- 第 8 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 9 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 10 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 11 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 12 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 13 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 14 回 項目 先行研究および 卒論経過報告
- 第 15 回 項目 最終報告会



開設科目	社会心理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	辻 正二				

- 授業の概要 3年生と4年生を対象にした演習形態の授業です。授業では、逸脱行動論の代表的な文献の幾つかを外書購読や訳書の購読から、それらの理論の特徴と問題点を洗い出し、現在の逸脱行動のなかで捉えることを学びます。／検索キーワード マートン、アノミー、ラベリング、構築主義
- 授業の一般目標 (1) レポートの課題を通して専門的な知識を学ぶとともに解釈の仕方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。(2) 専門的な知識を深めるとともに議論に参加し、自分の見解を述べる姿勢を身につける。
- 教科書・参考書 教科書：アウトサイダーズ, ベッカー, ; 社会理論と社会構造, マートン,

開設科目	社会心理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	辻正二				

- 授業の概要 3年生と4年生を対象にした演習形態の授業です。3年生は自分の問題意識の研究領域を発見し、それを深めていくことが課題になります。4年生は卒論の最後の仕上げの研究発表となります。3年生は4年生の卒論研究の問題関心や完成に向けてのプロセスを知ることができますし、4年生は3年生の研究への関与をすることによって自分の研究への広がりをもつことができます。
- 授業の一般目標 (1) レポートの課題を通して専門的な知識を学ぶとともに解釈の仕方やプレゼンテーションの方法について学ぶ。(2) 専門的な知識を深めるとともに議論に参加し、自分の見解を述べる姿勢を身につける。

開設科目	社会心理学調査実習	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	辻 正二				

●授業の概要 社会心理学調査実習は、既に学んできた社会調査法の知識と技法を生かして、具体的にフィールドワークなどの実習経験の中で社会調査を学ぶことを主たる狙いとする。／検索キーワード フィールドワーク、質的調査と量的調査、質問紙法、サンプリング、抽出法

●授業の一般目標 (1) 社会調査のための基礎的な知識を身につけ、問題意識、仮説、調査地の選定、調査票の作成等をおこなう。(2) 調査地との関係を形成して、実際にフィールドワークを経験し、調査研究の体得を行う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の狙いと今後の予定のガイダンス
- 第 2 回 項目 ワークショップ体験（何を調べるかを探す）
- 第 3 回 項目 調査対象の資料収集と整理
- 第 4 回 項目 調査対象の資料収集と整理
- 第 5 回 項目 問題意識から仮説構成へ
- 第 6 回 項目 調査票の作成（1）
- 第 7 回 項目 調査票の作成（2）
- 第 8 回 項目 調査票の作成（3）
- 第 9 回 項目 調査地の選定
- 第 10 回 項目 サンプリング及び対象者の選定
- 第 11 回 項目 調査の準備
- 第 12 回 項目 調査の実施 1
- 第 13 回 項目 調査の実施 2
- 第 14 回 項目 調査の実施 3
- 第 15 回 項目 調査の実施 4

開設科目	社会心理学調査実習	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	高橋征仁				

●授業の概要 この授業においては、前期の授業において収集した調査データについて、学生自身が実際に、記述や分析、報告を行う。また、必要な場合には、補足調査も行ったうえで、報告書を作成する。／検索キーワード 時間意識 生活時間 ドキュメント分析

●授業の一般目標 1. 実際に調査を企画し、実施し、報告書を作成するまでのプロセスを体験することによって、自らが調査を実施していく能力を身につける。 2. 調査データの性質や意味を十分考慮し、公平かつ客観的に現象を記述する態度を身につける。 3. 社会心理学の理論と調査研究とを相互に往復する思考様式を身につける。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 実習スケジュールの確認 資料・インタビュー記録の整理
- 第 2 回 項目 調査データのカード化とコーディング
- 第 3 回 項目 調査データのカード化とコーディング
- 第 4 回 項目 事実と物語の検討
- 第 5 回 項目 事実と物語の検討
- 第 6 回 項目 時間意識の再構成（解釈と発見）
- 第 7 回 項目 中間報告会による問題提起
- 第 8 回 項目 補足調査の企画
- 第 9 回 項目 補足調査の実施
- 第 10 回 項目 補足調査の実施
- 第 11 回 項目 補足調査データのまとめ
- 第 12 回 項目 解釈・知見の修正
- 第 13 回 項目 各人の担当箇所についての報告書作成
- 第 14 回 項目 報告書の各班ごとの担当部分の編集、完成
- 第 15 回 項目 報告書編集全体調整

●教科書・参考書 教科書：社会調査へのアプローチ，大谷信介ほか編著，ミネルヴァ書房，1999 年／参考書：実践フィールドワーク入門，佐藤郁哉，有斐閣，2002 年

開設科目	社会調査データ解析法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	高橋征仁				

●授業の概要 社会調査におけるデータは、はじめから「客観性」を保証されているわけではない。調査項目やサンプリングの方法、質問文の表現や回答法、データの分析技法やその解釈等々によって、巨大な「ウソ」が作られることは、決して珍しいことではない。日本社会においては、予算や補助金獲得のために、または問題隠蔽や責任回避のために、あるいはイデオロギーの補強のために、連日のように「ウソ」が量産されているのが実情である。授業では、そうしたデータの産出を批判的に吟味するとともに、調査データに関する基本的な取り扱い方法について学ぶ。／検索キーワード 測定水準 クロス集計 相関係数

●授業の一般目標 1. 官庁統計や簡単な調査報告書・フィールドワーク論文が読めるための基礎的知識を習得する。 2. 度数分布やクロス集計、相関係数などについて、それらの計算や図表作成を実際に行う技能を身につける。 3. 調査データに対する、社会学者としての倫理観、責任感を養う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 社会調査におけるデータの多様性
- 第 3 回 項目 理論命題と操作 仮説、測定水準
- 第 4 回 項目 度数分布表の作成と代表値
- 第 5 回 項目 クロス集計表と カイ二乗検定 1
- 第 6 回 項目 クロス集計表と カイ二乗検定 2
- 第 7 回 項目 疑似相関と交互作用
- 第 8 回 項目 小テストと復習
- 第 9 回 項目 統計的推測と仮説検定
- 第 10 回 項目 平均の差の検定
- 第 11 回 項目 相関係数
- 第 12 回 項目 回帰分析の基礎
- 第 13 回 項目 多変量解析の考え方 1 内容 重回帰分析
- 第 14 回 項目 多変量解析の考え方 2 内容 因子分析
- 第 15 回 項目 まとめと復習

●教科書・参考書 教科書：社会調査へのアプローチ, 大谷信介ほか編著, ミネルヴァ書房, 1999 年／参考書：社会統計学, ボーンシュテット&ノーキ, ハーベスト社, 1990 年

開設科目	質的調査データ解析法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	横田尚俊				

●授業の概要 社会調査のうち、質的調査 (qualitative survey) によるデータ収集・解析の手法について、基本的な知識を学ぶ。質的調査の方法的特徴、データ収集の技法、調査方法としてのメリットと留意点、データから知見を導き出す手法 (分析方法)、などについて、社会学における先行研究の事例を参照しながら、学習していく。特に、調査実習や卒業論文の作成などにおいて最も利用価値が大きいと考えられる聞き取り調査の方法について、技術的な諸点も含め、詳しく講義する。／検索キーワード 社会調査、質的調査、事例調査、生活史記録、聞き取り調査、参与観察法、ドキュメント分析

●授業の一般目標 社会調査における質的調査の特徴やデータ収集・解析の方法について、基本的な知識を身につける。

●授業の計画 (全体) 質的調査の特徴、技法を概観していく。

●授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 インTRODクシヨンー授業の目的・内容と進め方についてー

第 2 回 項目 1 質的調査とは何か 内容 社会調査における質的調査の位置づけ、質的調査の利用法、質的データの素材

第 3 回 項目 1 質的調査とは何か (続き) 内容 質的調査の技法、質的調査のメリットと留意点、調査倫理について

第 4 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 内容 聞き取り調査の技法と手順

第 5 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 聞き取り調査の実践 1 : 災害調査の事例から

第 6 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 同上 (続き)

第 7 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 同上 (続き)

第 8 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 同上 (続き)

第 9 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 聞き取り調査の実践 2 : 生活史データの収集と分析

第 10 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 同上 (続き)

第 11 回 項目 2 聞き取り調査の方法と実践 (続き) 内容 同上 (続き)

第 12 回 項目 3 参与観察の方法

第 13 回 項目 3 参与観察の方法 (続き) 4 ドキュメント分析の方法

第 14 回 項目 4 ドキュメント分析の方法 (続き)

第 15 回 項目 試験

●成績評価方法 (総合) 授業への出席および参加度 40 % 定期試験 30 % 授業内小レポート及び課題レポート 30 %

●教科書・参考書 教科書: 社会調査へのアプローチ, 大谷信介ほか, ミネルヴァ書房, 1999 年 / 参考書: 生活記録の社会学, ケン・プラマー, 光生館, 1991 年; ライフ・ヒストリーを学ぶ人のために, 谷富夫, 世界思想社, 1996 年; その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

●連絡先・オフィスアワー メール・アドレス n.y@yamaguchi-u.ac.jp 研究室 人文棟 3 階 307 室

開設科目	比較社会文化論 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	山本真弓				

●授業の概要 ことばは単にコミュニケーションの手段ではなく、個人のアイデンティティーや、文学などを通じた言語共同体の文化そのものを形成している。このようなことばの多面的な側面を、世界のさまざまなことばを通じて紹介し、ことばと人間とのかかわり、ことばと社会とのかかわり、ことばの政治性などについて明らかにしていく。ここでは、ことばの言語学的側面ではなく、社会的 政治的側面に焦点を置いた講義を行なう。／検索キーワード ひとつの言語、言語の呼称、言語共同体、国家語、母語、母国語

●授業の一般目標 日本社会に生きてると、ことばについてさまざまな誤解や幻想を抱いている。それは、日本社会がいわゆる単一言語社会と形容されるような言語状況にあることと無関係ではない。したがって、ここでは多言語社会と形容されるさまざまな地域の事例を通じて、ことばをめぐる人間の能力の可能性を認識することを目標とする。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：言語は社会や政治と切り離されて存在しているものではないことを、論理的に理解する。思考・判断の観点：ヨーロッパ近代言語学の成立の背景を踏まえて、言語とはなにか？について、自らの視点で考える 関心・意欲の観点：自らの問題として考えつつも、身の回りの事象のみにとらわれず、積極的に異なる言語状況にある社会を知ろうとする 態度の観点：出席と質問（授業の最後に質問票を配布する）

●授業の計画（全体）基本的に教科書に添って進むが、昨年度と異なり、まず第二章ことばについて〈われわれ〉が語ってきたこと、をそれぞれの言語的経験に即して議論し、次に第1回から第五回までで、第一章言語的近代の成り立ち、を考え、第六回から第十回までで、第11回から第15回までで、言語的近代を超える営みとしての、手話、文学言語、〈国際語〉について考える予定である。なお、内容が多岐にわたっているため、第三章を扱えるかどうかは、授業の進行状況に依拠する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 「母語」「ネイティブ」という概念について
- 第2回 項目 <やさしい言語><むずかしい>言語とはどういうことか
- 第3回 項目 ことばが<通じる><通じない>とはどういうことか？
- 第4回 項目 ことばが<できる><できない>とはどういうことか？
- 第5回 項目 ことばの乱れとことばの変化はどうちがうのか？
- 第6回 項目 言語の呼称
- 第7回 項目 言語的近代の成り立ちと日本
- 第8回 項目 南アジアの多言語状況と言語的近代の受容過程
- 第9回 項目 ロシア語を話すユダヤ人は、ロシア人か？ユダヤ人か？
- 第10回 項目 言語は土地に根ざすのか？それともヒトに根ざすのか？
- 第11回 項目 近代言語学が言語とみなしてこなかった言語：手話とろう者について
- 第12回 項目 母語以外の言語で執筆する作家たち
- 第13回 項目 <国際語>概念の解体と<国際語>の内実
- 第14回 項目 ヨーロッパの多言語状況の動向
- 第15回 項目 予備

●成績評価方法（総合）出席および授業内レポートと定期試験を総合して評価する。

●教科書・参考書 教科書：言語的近代を超えて～<多言語状況>を生きるために～，山本真弓編著，明石書店，2004年

開設科目	比較社会文化論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	湯川洋司				
<p>●授業の概要 「伝統」、「伝統文化」について考えます。「伝統」とはよく使われる言葉ですが、どういふものを「伝統」というのでしょうか、また「伝統を守る」という言い方もよく見られますが、それはどういふことをいうのでしょうか、私の専門としている民俗学の立場から、各地に伝えられてきた芸能や行事、技術などを見渡し、それらを比較することを通じて、現代における「伝統」の意味や意義について考えます。／検索キーワード 伝統 民俗 比較</p> <p>●授業の一般目標 1.「伝統」とは何かについて考え、理解する。 2. 各地に伝わる「伝統」の諸相を具体的に知る 3.「比較する」という方法が、思考を深める手段としてどのように有効か考える。</p> <p>●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1.「伝統」的と言われることからの諸相を知る。 2.「伝統」を支えている人々の様相を理解する。 思考・判断の観点： 1.「伝統を守る」とはどういうことを考える。 2. 比較することの役割と意義を理解する。 関心・意欲の観点： 1. 知識の習得に積極的に取り組む。 態度の観点： 1. 授業によく出席し、毎回、授業後のコメントを提出する。</p> <p>●授業の計画（全体） 1.「伝統」についての仮規定を行い、本授業で扱う「伝統」の概要及び授業計画と方法を説明する。 2.「伝統的」と考えられている民俗伝承の実態を具体的に知り（ビデオ等を使用）、伝統的とされる理由を考え、理解する。 3.「伝統」とは何か、現代における「伝統」の意義とは何か、考える。 各回の具体的な内容については、初回の授業時に説明します。できるだけ初回から出席してください。</p> <p>●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 はじめに一授業の進め方の説明—</p> <p>第 2 回 項目 民俗芸能について（1）</p> <p>第 3 回 項目 民俗芸能について（2）</p> <p>第 4 回 項目 民俗芸能について（3）</p> <p>第 5 回 項目 民俗技術について（1）</p> <p>第 6 回 項目 民俗技術について（2）</p> <p>第 7 回 項目 民俗技術について（3）</p> <p>第 8 回 項目 民俗行事について（1）</p> <p>第 9 回 項目 民俗行事について（2）</p> <p>第 10 回 項目 民俗行事について（3）</p> <p>第 11 回 項目 暮らしの伝統について（1）</p> <p>第 12 回 項目 暮らしの伝統について（2）</p> <p>第 13 回 項目 暮らしの伝統について（3）</p> <p>第 14 回 項目 まとめ 内容 伝統とは何か、現代における伝統の意義とは何か</p> <p>第 15 回 項目 試験</p> <p>●成績評価方法（総合） 1. 毎回の授業終了後に、その授業内容に関して提出したコメントの内容評価（全体の 30 %） 2. 随時に課す授業外レポートの内容評価（全体の 30 %） 3. 期末試験の評価（全体の 40 %） 4. 欠席は欠格条項（全体の 75 %以上の出席がないと期末試験受験資格がありません）</p> <p>●教科書・参考書 教科書： 用いない。必要に応じてプリントを配付します。／参考書： 授業中に随時紹介します。</p> <p>●メッセージ 何気なく使う「伝統」という言葉について、一度自分なりの見方を作ってみるのもよいのではないのでしょうか。</p> <p>●連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟 2 階 2 1 0 号室 オフィスアワー：原則、毎日の昼休み。その他、いつでも随時訪ねください</p>					



開設科目	アジア比較社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	山本真弓				

- 授業の概要 インド独立の父と言われるガンディーの思想と実践、および、最終的にガンディーと対立したパキスタン独立の父と言われるジンナーの人間像、さらに、独立インド初代首相ネルーの思想を追いつつ、近代ヨーロッパの「普遍的価値」といわれるものが、南アジアをどのように規定しているかを、ナショナリズムを中心に考える。
- 授業の一般目標 20世紀最大の思想家のひとりとして評価されるガンディーを中心に、南アジアの思想家・政治家たちの活動と社会的功績を比較検討し、核兵器をもつに至った現在のインドを理解するための一助とすること。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 授業内容をきちんと理解できているか。 関心・意欲の観点： 南アジアに関心をもって授業に臨んでいるか。 態度の観点： 出席の有無と質問。
- 授業の計画（全体） 最初に、印パ分離独立に関する基本的な歴史を押さえる。そのうえで、ガンディー、ジンナー等、個々の政治家について見ていく。
- 成績評価方法（総合） 出席を兼ねて、毎回、授業の終わりの約20～30分を使って、小レポートを提出してもらう。これらの小レポートと試験を総合して評価する。
- 教科書・参考書 参考書： ガンディー, 長崎暢子, 岩波書店； インド 国境を越えるナショナリズム, 長崎暢子, 岩波書店

開設科目	アジア比較社会論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	山本真弓				

●授業の概要 いわゆるヨーロッパ近代国家とは異なる歴史を経つつも、政教分離で世界最大の民主主義国家を誇るインドの現在を、宗教、言語、カースト、民主主義、憲法、外交および国際関係を通して包括的に見ていく。

●授業の一般目標 インドの現代社会を等身大に理解すること、および、国際政治におけるインドの国家理念、政治文化が占める位置について、新しい視点をもつことを目標とする。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：自らの（あるいは、日本社会全般に蔓延する）南アジア世界への偏見にとらわれずに、授業内容を理解できているか。思考・判断の観点：自らが生きる世界（日本社会と日本がその一部をなす西欧近代の価値を絶対とする世界観）と関連づけてインド社会を捉えることができるか。関心・意欲の観点：わからないところを積極的に自分で調べるなどして、意欲的に取り組んでいるか。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 言語 1
- 第 2 回 項目 言語 2
- 第 3 回 項目 宗教 1
- 第 4 回 項目 宗教 2
- 第 5 回 項目 カースト 1
- 第 6 回 項目 カースト 2
- 第 7 回 項目 憲法 1
- 第 8 回 項目 憲法 2
- 第 9 回 項目 民主主義 1
- 第 10 回 項目 民主主義 2
- 第 11 回 項目 外交 1
- 第 12 回 項目 外交 2
- 第 13 回 項目 国際関係 1
- 第 14 回 項目 国際関係 2
- 第 15 回 項目 予備

●成績評価方法（総合） 毎回、授業時間中に小レポートを課し、それらと期末試験を総合して評価する。

●教科書・参考書 参考書：現代南アジア (1), , 東京大学出版会；現代南アジア (3), , 東京大学出版会；現代南アジア (5), , 東京大学出版会

開設科目	現代民俗論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	湯川洋司				

●授業の概要 現代民俗論は、民俗を通じて現代社会のありようを考えることをめざしています。この授業では、里山と森の民俗を取り上げ、ビデオ等の映像を用いつつ、山・森・里・川とつながる流域の相互的関係について紹介するとともに、現代における「流域の思想」の重要性を理解します。／検索キーワード 民俗 里山 森 流域

●授業の一般目標 1. 里山と森にかかわる民俗を知り、その意義を理解する。 2. 山と里、森と川の暮らしにおける相互的関係の実態を知る。 3. 「流域」という地域社会の把握法を知るとともに、「流域の思想」の意義を理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 山の森の民俗を知る。 2. 「流域」という考え方を理解する。  
 思考・判断の観点： 1. 開発と環境保全の観点から、「流域の思想」を理解する。 関心・意欲の観点： 1. 授業によく出席し、毎回、授業後のコメントを提出する。 態度の観点： 1. 授業によく出席し、毎回、授業後のコメントを提出する。

●授業の計画（全体） 「開発と環境」というテーマを意識して「里山と森の話」として、授業を構想する。具体的には、(1) 問題設定、(2) 里山とは、(3) 森のしくみ (4) 里山と森の暮らしと民俗、(5) 山と川と里が結ぶ暮らしと民俗、(6) 流域の思想、(7) まとめ、という構成にする。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 授業の趣旨（問題設定）と授業方法についての説明 明
- 第 2 回 項目 里山とは（1） 内容 里山の定義、「里山」概念の歴史
- 第 3 回 項目 里山とは（2） 内容 里山の暮らしの様子
- 第 4 回 項目 森のしくみ（1） 内容 森の生態
- 第 5 回 項目 森のしくみ（2） 内容 森のバランスが崩れると発生する災害等の事態
- 第 6 回 項目 里山と森の暮らしと民俗（1） 内容 木を利用した暮らし
- 第 7 回 項目 里山と森の暮らしと民俗（2） 内容 野生動物と人の暮らし
- 第 8 回 項目 里山と森の暮らしと民俗（3） 内容 山の神さまたち
- 第 9 回 項目 里山と森の暮らしと民俗（4） 内容 里山と森の空間認識と利用法
- 第 10 回 項目 山と川と里が結ぶ暮らしと民俗（1） 内容 川漁など生業の場としての川
- 第 11 回 項目 山と川と里が結ぶ暮らしと民俗（2） 内容 交通路としての川
- 第 12 回 項目 山と川と里が結ぶ暮らしと民俗（3） 内容 洪水と治水の歴史と民俗
- 第 13 回 項目 流域の思想（1） 内容 「流域」の概念と事例
- 第 14 回 項目 まとめ（流域の思想（2）） 内容 全体のまとめ、「流域の思想」の意義
- 第 15 回 項目 試験 内容 筆記試験

●成績評価方法（総合） 1. 毎回の授業終了後に、その授業内容に関して提出したコメントの内容評価（全体の 30 %） 2. 随時に課す授業外レポートの内容評価（全体の 30 %） 3. 期末試験の評価（全体の 40 %） 4. 欠席は欠格条項（全体の 75 % 以上の出席がないと期末試験受験資格がありません）

●教科書・参考書 教科書： 用いない。必要に応じて資料をプリンして配付します。／参考書： 授業中に適宜紹介する。

●連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟 2 階 2 1 0 号室 オフィスアワー：原則、毎日の昼休み。その他、いつでも随時訪ねください

開設科目	現代民俗論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	湯川洋司				

●授業の概要 現代民俗論は、民俗を通じて現代社会のありようを考えることをめざしています。この授業では、前期の授業を受け継ぐ形で、「山・川の開発の光と影」と題して、山・川の開発の歴史と民俗を踏まえて開発の功罪を考え、現代における開発のあり方について考察を深めます。／検索キーワード 民俗 山と川の暮らし 開発の是非

●授業の一般目標 1. 暮らしの歴史や民俗から、開発の問題にアプローチできることを理解する。 2. 山・川の開発の歴史と民俗を具体的に知る。 3. 開発行為がもつ功罪—二面性—を理解し、開発の質の重要性を知る。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 開発の具体例を知る。 2. 山・川をめぐる暮らしの具体像を知る。 思考・判断の観点： 1. 開発には光と影が伴うことを理解する。 関心・意欲の観点： 1. 授業によく出席し、毎回、授業後のコメントを提出する。 態度の観点： 1. 授業によく出席し、毎回、授業後のコメントを提出する。

●授業の計画（全体） 「山・川の開発の光と影」題して、授業を構想する。具体的には、(1) 問題設定、(2) 開発の功罪、(3) 山・川をめぐる開発の歴史と民俗—九州山地を事例に一、(4) ダム開発とその問題点、(5) まとめ、という構成にする。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめに 内容 授業の趣旨と授業 方法についての説明（問題設定）
- 第 2 回 項目 山と川と流域 内容 山川を流域として捉える視点
- 第 3 回 項目 開発をめぐる議論（1） 内容 民俗学における従来の議論の紹介
- 第 4 回 項目 開発をめぐる議論（2） 内容 文化人類学における従来の議論の紹介
- 第 5 回 項目 開発の光と影（1） 内容 鉱害事件の歴史—土呂久を事例に一
- 第 6 回 項目 開発の光と影（2） 内容 開発と経済的な豊かさの達成
- 第 7 回 項目 開発の光と影（3） 内容 開発と旧来の暮らしや文化の変容・喪失
- 第 8 回 項目 山・川をめぐる開発（1） 内容 自然の恵みと開発
- 第 9 回 項目 山・川をめぐる開発（2） 内容 公的開発の論理と地域の暮らし-蜂ノ巣城攻防戦-
- 第 10 回 項目 山・川をめぐる開発（3） 内容 開発の手法と地域社会の変容
- 第 11 回 項目 川辺川ダム問題（1） 内容 公共事業としてのあり方を問う
- 第 12 回 項目 川辺川ダム問題（2） 内容 地域再編の観点から問う
- 第 13 回 項目 いま、開発とは 内容 開発の功罪論議を踏まえて、今後の方向を考える
- 第 14 回 項目 まとめ 内容 開発に自分はどの向き合うか
- 第 15 回 項目 試験 内容 筆記試験

●成績評価方法（総合） 1. 毎回の授業終了後に提出するコメントの内容評価（全体の 30 %） 2. 随時提出する授業外レポートの内容評価（全体の 30 %） 3. 期末試験の評価（全体の 40 %）

●教科書・参考書 教科書：用いない。必要に応じてプリント資料を配付する。／参考書：授業中に適宜紹介する。

●連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟 2 階 2 1 0 号室 オフィスアワー：原則、毎日の昼休み。その他、いつでも随時訪ねください

開設科目	現代民俗論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	篠原徹				

●授業の概要 文化とは、学習され共有され伝達される事象の総体を指しますが、私たちの身の回りには教育機関や文字によらずになんとなく身につけている文化が実に多いことに気がつきます。こうした文化を民俗といいます。民俗は家族や共同体また地域社会でしらすらにおこなっている社会的行為そのものですが、これを伝達という側面からみると伝承という社会的行為になります。この現代民俗論は、日本の社会を中心に、中国やアフリカの事例も考慮にいれながら、私たちがあたりまえのことと考えている社会的な行為を再考してみます。とくに「自然とつきあう」方法や技術のなかでこのことを講義してみたいと考えます。「農」における自然と人間、「漁」における自然と人間、「遊び」における人間と自然の関係を現代民俗論では照射します。／検索キーワード 自然、農業、漁業、狩猟採集、環境問題

●授業の一般目標 自然と人間の乖離が現代ほど問われていることは歴史上かつてなかったと思います。自然と人間を結びつけてきたのは食料獲得など衣食住に関わる技術や技能です。しかし、この技術や技能は分業化されてしまい、多くの人間の手を離れてしまいました。人間の生活を豊かにするための工業的世界の現出ですが、農業や漁業は直接自然と関わっているため工業化すれば大きな環境問題が生じてしまいました。なぜこんなに大きな環境問題が生じてしまったのか、その問題を「農」における自然と人間の関係、「漁」における自然と人間の関係の変化のなかを探ってみたいと思います。この授業での目標は、私たち現代に生きる人間が、日本という社会だけではなく地球上での「自然と人間の関係」のあるべき姿をひとりひとり模索することにあります。なにげなくおこなってきた「自然とつきあう」方法や技術を提示することによって、現在自然と人間の関係がどのように変化しているのか考えていただきます。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 「自然とつきあう」こととはどういうことか 内容 「農」や「漁」における技術と技能
- 第 2 回 項目 民俗的技術とは何か 内容 民俗学における技術論について講義する
- 第 3 回 項目 野生植物利用という環境利用と民俗 内容 ひとつの山村の野生植物利用を詳述する
- 第 4 回 項目 ヤマアテという技術と海という環境 内容 GPS とヤマアテはどちらが優れているか
- 第 5 回 項目 焼畑農耕とは何か 内容 焼畑農耕と環境問題
- 第 6 回 項目 中国・海南島の焼畑 内容 焼畑から常畑へ（換金作物と生活）
- 第 7 回 項目 中国・雲南省・者米の焼畑 内容 アグロフォリストリーと少数民族
- 第 8 回 項目 エチオピア・コンソの畑作農耕と環境 内容 ストーン・テラシングと環境
- 第 9 回 項目 自然の原型的利用 内容 ニホンミツバチという養蜂
- 第 10 回 項目 自然の変形的利用 内容 鶺鴒にみる人と自然
- 第 11 回 項目 自然の改良的利用 内容 養蚕にみる人と自然
- 第 12 回 項目 技術と技能について 内容 技術とは道具と生態的技能と身体的技能の総和であることの説明
- 第 13 回 項目 生態的技能とは何か 内容 いくつかの事例を紹介する
- 第 14 回 項目 身体的技能とは何か 内容 いくつかの事例を紹介する
- 第 15 回 項目 自然知と現代人 内容 自然知の復興について

●教科書・参考書 教科書：とくに教科書は指定しません。また参考書は講義中に必要に応じて提示します。講義は、講義者が調査してきた日本や中国、アフリカなどデータをプリントして配布します。

●メッセージ 現代に生きる私たちの「自然とつきあう」方法を再考しよう。

●備考 集中授業

開設科目	生活文化論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	坪郷英彦				

- 授業の概要 人間の暮らしをものの視点から考察する。文化人類学の物質文化研究、民俗学の民具研究の諸成果を示し、さらに現代の視点からの検討を加えながら授業を進めていきます。／検索キーワード 文化人類学、物質文化、住まい、環境、家族制度
- 授業の一般目標 人間が作り出した様々なものを社会的、システムの、技術的に読み解く力を養う。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 基本的理論、用語の説明ができる。 思考・判断の観点： 日常を機能・システムの視点から読み解くことができる。 関心・意欲の観点： 消費社会の表層と本質的な部分を読み分けることができる。 態度の観点： 日常のもの・ことに新たな視点で接することができる。 技能・表現の観点： 自分の考えを正確に論述できる。
- 授業の計画（全体） 人類の住文化について講義をします。私たちの住んでいる住まいは自然からの避難場所としてだけでなく、家族制度が反映され、社会的地位を表すモノでもありました。また自然環境に適応した形を備えてきました。それは世界の様々な環境や社会によってあり方が異なっていました。具体的事例を示しながら、人類の原初の住まいから諸民族文化の住まいの異同について講じます。
- 成績評価方法（総合） 出席と期末レポート及び数度の授業内レポートにより評価を行います。特に出席と期末レポートを重視します。
- 教科書・参考書 教科書： 教科書は使用しませんが、適宜必要な資料をコピーして配布します。／参考書： その都度紹介します。
- メッセージ できるだけ視覚情報を使って理解を助けます。
- 連絡先・オフィスアワー Email [hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp) 電話 5239 、研究室 213 オフィスアワー 木曜日 10：00～12：00

開設科目	生活文化論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	坪郷英彦				

- 授業の概要 人間の暮らしをものの視点から考察する。文化人類学の物質文化研究、民俗学の民具研究の諸成果を示し、さらに現代の視点からの検討を加えながら授業を進めていきます。／検索キーワード 文化人類学、物質文化研究、民俗学、民家、家族制度、暮らし、もの
- 授業の一般目標 人間が作り出した様々なものを社会的、システムの、技術的に読み解く力を養う。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 基本的理論、用語の説明ができる。 思考・判断の観点： 日常を機能・システムの視点から読み解くことができる。 関心・意欲の観点： 消費社会の表層と本質的な部分を読み分けることができる。 態度の観点： 日常のもの・ことに新たな視点で接することができる。 技能・表現の観点： 自分の考えを正確に論述できる。
- 授業の計画（全体） 人類の住文化について講義をします。私たちの住んでいる住まいは自然からの避難場所としてだけでなく、家族制度が反映され、社会的地位を表すモノでもありました。前期では世界の住まいについて示しながら、住まいの持つ役割について考えますが、後期は日本の環境下での住まいについて民家調査の事例を具体的に示しながら講じていきます。
- 成績評価方法（総合） 出席と期末レポート及び授業内レポートにより評価します。特に出席と期末レポートを重視します。
- 教科書・参考書 教科書： 教科書は使用しませんが、適宜必要な資料をコピーして配布します。／参考書： その都度紹介します。
- メッセージ 映像やスライドなど画像情報を用いてわかりやすく授業を行います。
- 連絡先・オフィスアワー Email [hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp) 電話 5239、研究室 213、オフィスアワー 木曜日 10：00～12：00

開設科目	文化人類学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	坪郷英彦				

- 授業の概要 文化的ひとともの関係について考える内容です。消費社会の現代ではものが記号的に扱われていますが、本来は身体の延長として実体を伴っていました。この授業ではもの とひとの基本的関係を知るための方法を学び、基本的関係について考察していきます。／検索キーワード ひとともの 文化的ひと 身体技法 技能
- 授業の一般目標 文化人類学の基本を理解すること。文化人類学的ひとの見方を把握すること。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 身体技法について説明できる。 思考・判断の観点： 文化相対主義の立場に立った、異文化理解と判断ができる。 関心・意欲の観点： 人々の日常を客観的な目で観察し、記録し、分からない原理は文献によって考える。この連関を繰り返す姿勢が身に付く。 態度の観点： 自らの考えを簡潔にまとめ、発表することができる。他の人との議論の中で 自分の意見をまとめることができる。 技能・表現の観点： 講読した内容を的確に要約し、人に伝えるための効果的なプレゼンテーションができる。自分の考えをまとめ人に伝えることができる。
- 授業の計画（全体） 身体技法は日常的に行われる無意識な動作や行動のことでその多くが文化的に規定され伝えられています。身体技法の視点を学ぶため次の2つの本を輪読形式で読んでいきます。1、「身ぶりとしぐさの人類学 野村雅一著」、2、「Material Culture /Henry Glassie」 1は分かりやすい入門書です。2は職人の技能について書かれているものです。
- 成績評価方法（総合） 出席を重視します。輪読の発表ではコンピュータによる分かりやすい表示方法を義務づけます。
- 教科書・参考書 教科書：身ぶりとしぐさの人類学, 野村雅一, 中公新書, 1999年； Material Culture, Henry Glassie, Indiana Univ. Press, 1999年； (1) 身ぶりとしぐさの人類学は各自購入のこと／ 参考書： 適宜紹介します。また、関連資料を配付します。
- メッセージ 各自の発表はプレゼンテーションソフトを用い、コンピュータを使用して行います。
- 連絡先・オフィスアワー E-mail hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp 電話 5239 研究室 213 オフィスアワー 木曜日 10：00～12：00



開設科目	文化人類学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	坪郷英彦				

- 授業の概要 文化的ひとともの関係について考える内容です。消費社会の現代ではものが記号的に扱われていますが、本来は身体の延長として実体を伴っていました。この授業ではもの とひとの基本的関係を知るための方法を学び、基本的関係について考察していきます。／検索キーワード 文化人類学 文化的ひと ひとともの 物質文化
- 授業の一般目標 文化人類学の基本を理解すること。文化人類学的ひとの見方を把握すること。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点：各自が設定したテーマについて基本的内容、用語の説明ができる。  
思考・判断の観点：各自が設定したテーマについて、自分の問題として理解し、次の行動を起こすことができる。 関心・意欲の観点：自ら積極的に関連文献を探して読むことができる。 態度の観点：自分の考えをまとめて発表できる。議論の中で自分の考えを組み立てていくことができる。 技能・表現の観点：効果的な発表手法の基本を理解する。
- 授業の計画（全体） 前半は物質文化に関する代表的論文を取り上げ輪読していきます。後半は各自の卒論に関連する文献を読み発表し、テーマを絞っていく時間に充てます。
- 教科書・参考書 教科書：講読資料はコピーを作成し配布します。／参考書：講読論文に関連する文献、卒論に関連する文献は適宜アドバイスします。
- メッセージ 卒論へ向けて自分の関心がまとまっていくことを期待します。プレゼンテーションはコンピュータを用いて行います。
- 連絡先・オフィスアワー E-mail [hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp) 電話 5239 研究室 213 オフィスアワー 木曜日 10：00～12：00

開設科目	民俗学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	湯川洋司				

●授業の概要 民俗映像論と題して、受講生各自が具体的な民俗映像（ビデオ作品）を素材にした学習成果を発表し合うことにより、その映像の対象となっている内容をよく理解することと、その作品の民俗映像としての出来映えについて独自の観点から批評することにより、民俗映像に関する理解を深めます。／  
検索キーワード 民俗学 演習 民俗映像

●授業の一般目標 1. 民俗映像の内容を分かりやすく紹介する。 2. 民俗映像について語ることのできる自分なりの見方を養う。 3. 受講生との討論を通じて、相互に啓発しあう人間（友人）関係を築く。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 民俗学の基本的概念や対象について理解する。 関心・意欲の観点： 1. 発表の課題を明確にして、よく準備をし、積極的に発表を行う。 2. 民俗映像に関する参考図書を自主的に探索して読む。 態度の観点： 1. 他者の発表をよく聞く。 2. 他者の発表に対して積極的に発言をする。 技能・表現の観点： 1. 分かりやすいレジュメを用意する。 2. 構成や文章表現の整ったレポートを作成する。

●授業の計画（全体） 1. 民俗映像のリストに基づき、取り上げる映像を選定する。 2. 取り上げる民俗映像のテーマに関する民俗学的な研究成果について、教員が解説する。 3. 発表スケジュールを定め、それに従い、発表の準備を授業時間外に自主的に行う。 4・レジュメを用意して発表を行う。 5. 発表内容及びコメントなどを参考にして、民俗映像に関するレポートを作成する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 授業の説明

第 2 回 項目 民俗映像ビデオを選ぶ 内容 ビデオを選び、発表スケジュールを定める。授業外指示 リストをもとにとりあげるビデオを考えておく。

第 3 回 項目 解説（1） 内容 映像内容の民俗学的解説を行なう。授業外指示 発表準備を進める

第 4 回 項目 解説（2） 内容 映像内容の民俗学的解説を行なう。授業外指示 発表準備を進める

第 5 回 項目 発表Ⅰ（1） 内容 各自の発表を進める。各週 1 名の予定。授業外指示 発表準備を進める

第 6 回 項目 発表Ⅰ（2） 内容 各自の発表を進める。各週 1 名の予定。授業外指示 発表準備を進める

第 7 回 項目 発表Ⅰ（3） 内容 各自の発表を進める。各週 1 名の予定。授業外指示 発表準備を進める

第 8 回 項目 発表Ⅰ（4） 内容 各自の発表を進める。各週 1 名の予定。授業外指示 発表準備を進める

第 9 回 項目 発表Ⅰ（5） 内容 各自の発表を進める。各週 1 名の予定。授業外指示 発表準備を進める

第 10 回 項目 中間まとめ 内容 映像に関する発表を踏まえて、問題点の整理をする。授業外指示 民俗映像論に関する文献を探索し読む。

第 11 回 項目 発表Ⅱ（1） 内容 民俗映像論に関する文献講読結果を報告する。授業外指示 民俗映像論に関する文献を探索し読む。

第 12 回 項目 発表Ⅱ（2） 内容 民俗映像論に関する文献講読結果を報告する。授業外指示 民俗映像論に関する文献を探索し読む。

第 13 回 項目 レポート作成（1） 内容 レポート作成作業を進める。授業外指示 レポートの構想を練る

第 14 回 項目 レポート作成（2） 内容 レポート作成作業を進める。授業外指示 レポートの文章化を進める

第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合） 1・出席をして、他の受講生の発表を聞いたり、自ら発表したりする態度や状況を重視する。 2. 発表当番の責任を十分に果たしたどうか。 3. 内容や表現のしっかりしたレポートを作成し提出できたか。

●教科書・参考書 教科書：用いない。民俗映像ビデオを素材にする。／参考書：授業中に適宜紹介する

●連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟2階210室 オフィスアワー：  
原則として昼休みには研究室にいますが、その他随時訪ねてください。

開設科目	民俗学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	湯川洋司				

●授業の概要 研究課題発見演習と題して、受講生各自が民俗博物館等が発行している民俗調査報告書や特別展・企画展の図録を素材にして、自らの研究課題を探ることになります。この結果は、4年生の卒業論文作成のための準備と位置付けます。／検索キーワード 民俗学 演習 研究課題発見

●授業の一般目標 1. 民俗調査報告書や図録のテーマを分かりやすく紹介する。 2. 自らの興味と関心をもって取り組めるテーマの発見と具体化に努める。 3. 受講生との討論を通じて、相互に啓発しあう人間（友人）関係を築く。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 民俗学の基本的概念や対象について理解する。 関心・意欲の観点： 1. 発表の課題を明確にして、よく準備をし、積極的に発表を行う。 2. 自らの研究課題の発見に真剣に取り組む。 態度の観点： 1. 他者の発表をよく聞く。 2. 他者の発表に対して積極的に発言をする。 技能・表現の観点： 1. 分かりやすいレジュメを用意する。 2. 構成や文章表現の整ったレポートを作成する。

●授業の計画（全体） 1. 受講生各自の現在の関心や興味を発表しあう。 2. 民俗報告書や図録を選ぶ。 3. 発表スケジュールを定め、それに従い、発表の準備を授業時間外に自主的に行う。 4・レジュメを用意して発表を行う。 5. 発表内容及びコメントなどを参考にして、研究課題に関するレポートを作成する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 授業の説明

第 2 回 項目 民俗報告書・図録を選ぶ 内容 素材を選び、発表スケジュールを定める。 授業外指示 リストをもとにとりあげるビデオを考えておく。

第 3 回 項目 解説（1） 内容 教員が民俗学の研究動向を解説する 授業外指示 発表準備を進める

第 4 回 項目 解説（2） 内容 教員が民俗学の研究動向を解説する 授業外指示 発表準備を進める

第 5 回 項目 発表Ⅰ（1） 内容 各自の発表を進める。各週 1 名の予定。 授業外指示 発表準備を進める

第 6 回 項目 発表Ⅰ（2） 内容 各自の発表を進める。各週 1 名の予定。 授業外指示 発表準備を進める

第 7 回 項目 発表Ⅰ（3） 内容 各自の発表を進める。各週 1 名の予定。 授業外指示 発表準備を進める

第 8 回 項目 発表Ⅰ（4） 内容 各自の発表を進める。各週 1 名の予定。 授業外指示 発表準備を進める

第 9 回 項目 発表Ⅰ（5） 内容 各自の発表を進める。各週 1 名の予定。 授業外指示 発表準備を進める

第 10 回 項目 中間まとめ 内容 研究課題候補を各自が絞り、その趣旨を説明する。 授業外指示 関連文献を探索し読む。

第 11 回 項目 発表Ⅱ（1） 内容 研究課題に関する文献講読結果を報告する。 授業外指示 関連文献を探索し読む。

第 12 回 項目 発表Ⅱ（2） 内容 研究課題に関する文献講読結果を報告する。 授業外指示 関連文献を探索し読む。

第 13 回 項目 レポート作成（1） 内容 レポート作成作業を進める。 授業外指示 レポートの構想を練る

第 14 回 項目 レポート作成（2） 内容 レポート作成作業を進める。 授業外指示 レポートの文章化を進める

第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合） 1・出席をして、他の受講生の発表を聞いたり、自ら発表したりする態度や状況を重視する。 2. 発表当番の責任を十分に果たしたどうか。 3. 内容や表現のしっかりしたレポートを作成し提出できたか。

●教科書・参考書 教科書： 共通した教科書は用いない。発表の素材として民俗調査報告書や図録を用いる。 教員が必要に応じて適宜な素材を提供することもある。／参考書： 授業中に適宜紹介する

●連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟2階210室 オフィスアワー：  
原則として昼休みには研究室にいますが、その他随時訪ねてください。

開設科目	民俗調査実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	湯川洋司				

●授業の概要 民俗調査を実施するための基礎的能力を養成します。調査を企画し、実施に向けた準備作業を経て、実際に調査を実施し、民俗調査の要領をのみこみます。その際、受講生全員の参加による集団的調査を行う中で、自らの役割を責任をもって担いつつ調査の全体像をつかむように努めます。／検索キーワード 民俗 調査 実習 民俗学

●授業の一般目標 1. 民俗調査の実施に関する一連の手順を理解する。 2. フィールドワークを実施するために必要な調査項目票等を作成する。 3. フィールドワークを実施するために必要な技能を学習する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 民俗調査の手順を理解する。 思考・判断の観点： 1. 民俗調査で得られるデータの質について考察する。 関心・意欲の観点： 1. 知りたいと思うテーマを明確に設定する。 2. テーマに接近するための方法をよく考え、準備する。 態度の観点： 1. 調査実施計画の立案に積極的に参加する。 2. 自らの興味を調査の場へ発展させる。 技能・表現の観点： 1. 聞きたいと知りたいことを明確に整理し、分かりやすく発表できる。

●授業の計画（全体） 民俗調査（夏休みに実施予定）に参加して調査ができるように準備を整える。(1) 調査対象地域の設定、(2) 調査テーマの設定、(3) 調査項目の作成、(4) 質問文案・調査票の作成、(5) フィールドワークの技能の学習、(6) 調査項目・調査票等による調査の具体的計画の発表、という順に構成する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 民俗調査実習のねらいのスケジュールの説明 内容 授業担当者による説明
- 第 2 回 項目 調査対象地域の設定（1） 内容 既刊の山口県内の民俗調査報告書を紹介する。
- 第 3 回 項目 調査対象地域の設定（2） 内容 既刊の山口県内の民俗調査報告書を整理して発表する。授業外指示 民俗調査報告書を読んでまとめる。探しておく。
- 第 4 回 項目 調査対象地域の設定（3） 内容 各自の発表を踏まえつつ意見交換をして対象地域を決定する。授業外指示 対象地域を検討しておく。
- 第 5 回 項目 受講生各自の調査テーマの企画(1) 内容 既刊の報告書・論文等の学習と発表を通じて調査テーマを考える。授業外指示 調査テーマを検討しておく。
- 第 6 回 項目 受講生各自の調査 受講生各自の調査テーマの企画(2) 内容 既刊の報告書・論文等の学習と発表を通じて調査テーマを考える。授業外指示 調査テーマを検討しておく。
- 第 7 回 項目 講生各自の調査テーマの企画(3) 内容 既刊の報告書・論文等の学習と発表を通じて調査テーマを考え、決定する。授業外指示 決まらない場合は、第8回までに決める。
- 第 8 回 項目 調査項目の作成 内容 各自のテーマに応じた調査項目を作成する。授業外指示 完成しない場合は、第9回までに完成させる。
- 第 9 回 項目 質問文案・調査票の作成（1） 内容 各自のテーマ・調査項目に即して必要になる質問文案・調査票を作成する。授業外指示 進捗状況に応じて、第10回に完成するように作業を行なう。
- 第10回 項目 質問文案・調査票の作成（2） 内容 質問文案・調査票を全体で検討し、修正等を行い完成させる。授業外指示 完成しない場合は、第11回までに完成させる。
- 第11回 項目 フィールドワークの方法を学ぶ（1） 内容 フィールドノートの役割・活用法・作成要領、調査データの整理法を説明する。
- 第12回 項目 フィールドワークの方法を学ぶ（2） 内容 写真撮影法と整理法を解説し、実習する。
- 第13回 項目 フィールドワークの方法を学ぶ（3） 内容 地図の利用法・略測図の作成法などを説明し、実習する。
- 第14回 項目 調査項目票の完成 内容 調査項目票を完成させるとともに、調査で実際に試みる方法と調査結果報告の構成（目次）案をまとめる。授業外指示 調査項目票を完成させる。

第 15 回 項目 調査方法と調査結果報告構成案の発表 内容 作成した調査項目票に基づき、実際に試みる調査方法と調査結果報告の構成案（目次案）を各自が順次発表し、全員で検討のうえ実地調査の準備を整える。授業外指示 調査方法と調査結果報告構成案の準備をしておく。

- 成績評価方法（総合） 1. 調査のための準備に積極的に取り組んだか。 2. 各作業が確実に実行できたか。
- 教科書・参考書 教科書：とくに用いない。適宜，必要な資料をプリントして配布する。／参考書：適宜紹介する。
- メッセージ 好奇心を形にする授業です。
- 連絡先・オフィスアワー yukawa@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部棟 2 階 2 1 0 号室 オフィスアワー：原則、毎日の昼休み。その他、いつでも随時訪ねてください

開設科目	民俗調査実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	坪郷英彦				

●授業の概要 民俗調査で得たデータを処理し報告文としてまとめる能力を養成します。聞き書き、スケッチ、写真撮影により収集されたデータをどのように処理すればよいか、チームによる調査で得られた多量のデータをどうまとめていくかについて、その方法を理解し実践します。最終的に報告文の形でまとめること、報告書作りのための編集を具体的に行います。／検索キーワード 民俗 調査 実習 民俗学

●授業の一般目標 1, 文字情報、画像情報のデジタル化の方法を習得します。 2, 集められた多くのデータをグルーピング等によってまとめる方法を習得します。 3, 自分の考えをまとめ、文章・図表・画像等で表すことを行います。 4, 報告書としてまとめるための編集技術を習得します。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： デジタル化、データの集約、表現方法、編集技術に関する基本的方法を説明できる。報告書作りのための作業全体の手順、関連性を把握する。 思考・判断の観点： 多量のデータの内容を判断し体系的分類ができる。 関心・意欲の観点： 自らテーマを設定し、明らかになったことを報告文としてまとめる。全体をまとめることで一地域総体の民俗理解に寄与できる。 態度の観点： 表現し、まとめるために積極的な授業参加となる。 技能・表現の観点： コンピュータによるデジタル処理ができる。個別的なデータをまとめテーマに沿った文章表現ができる。文章、図、表の表現手段を的確に選択し、表現ができる。

●授業の計画（全体） 夏休み期間中に行う調査で得たデータをまとめ、報告書にまとめるまでを行います。授業は大きく（1）データの共有化、（2）報告文の作成とデータの図表化、（3）報告書作りのための編集作業の3つに分かれます。（1）では聞き取りデータのカード化からエクセルへの入力までを学びます。（2）では文章表現方法とデータを図又は表の形でまとめ表現する方法を学びます。（3）ではコンピュータの編集ソフトを使い、データの入力とレイアウトの方法について学びます。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 民俗調査実習の 目標とスケ ジュールの説明 内容 スケジュール表 に沿った説明 授業外指示 コンピュータ等 授業外学習のた めの機器の確認
- 第 2 回 項目 フィールドデー タの処理 内容 調査データの カード化とグ ルーピングの方 法、エクセル への入力及び検索 方法を理解し作 業を行う。 授業外指示 調査データの エ クセル入力を各 自が行う。
- 第 3 回 項目 データ処理のた めのコンピュ ータソフトの理解 と相互の関連性 の理解 内容 テキスト・ 画像 データを扱うソ フトの操作を行 う。 授業外指示 調査データの エ クセル入力を各 自が行う。
- 第 4 回 項目 プレゼンテー ション技法の理 解 内容 経過発表に使う プレゼンテー ションソフトの 操作 授業外指示 調査データの エ クセル入力を各 自が行う。
- 第 5 回 項目 報告内容の企画 内容 個別データの集 約化と、これを 活用して各自の 報告内容の企画 を 立てる
- 第 6 回 項目 報告テーマとそ の要旨の発表 (1) 内容 個別に発表し、 これに対する意 見交換を行う。 授業外指示 プレゼンテー ションソフトを 使った発表のた めの準備
- 第 7 回 項目 報告文テーマと その要旨の発表 (2) 内容 個別に発表し、 これに対する意 見交換を行 う。 授業外指示 プレゼンテー ションソフトを 使った発表のた めの準備。
- 第 8 回 項目 報告文作成のた めの補足調査の 実施 内容 報告文テーマと その要旨の発表 で指摘された 疑問点を解決す るための現地調 査を行う。 授業外指示 事前に各自の調 査計画を立て、 イン フォマント への事前確認を 行う。
- 第 9 回 項目 補足調査データ のまとめ 内容 補足調査の結果 報告と情報交換 を行う。 授業外指示 調 査データの エ クセルへの追加 入力を行う。



- 第10回 項目 報告文の要旨発表と全体との調整(1) 内容 報告文作成のための詳細な報告を行う。図表の内容検討を行う。授業外指示 プレゼンテーションソフトを使った発表のための準備。報告文の作成。
- 第11回 項目 報告文の要旨発表と全体との調整(2) 内容 報告文作成のための詳細な報告を行う。図表の内容検討を行う。授業外指示 プレゼンテーションソフトを使った発表のための準備。報告文の作成。
- 第12回 項目 報告書編集のためのフォーマット作成 内容 個別に編集ソフトへの入力を行うためのレイアウト等のフォーマットを作成する。授業外指示 報告文の作成
- 第13回 項目 画像処理・編集・作図作表用のコンピュータソフトの理解と相互の関連性の理解 内容 画像・図表のデジタルデータを作成する。編集用ソフトへの画像・図表の入力を行う。授業外指示 報告文の作成
- 第14回 項目 報告書個別編集 内容 各自の報告文を編集する。授業外指示 各自の報告文を完成させる。
- 第15回 項目 報告書編集全体調整 内容 基本フォーマットを確認し、調整を行う。目次に沿って表題、ページ入力を行う。

●成績評価方法(総合) 様々なレベルの手法を学ぶ授業なので出席を重視します。また、各自の報告文を作成するために2回の中間報告を義務づけて、表現力を評価します。また、グループ作業なので積極的な参加態度を重視します。

●教科書・参考書 参考書：各自がまとめる報告分野にそって適宜指示する。

●メッセージ 授業ではコンピュータを多用します。各自のパソコンを持ってきてください。所持していない人はコースから借りることができます。ワード、エクセルなどに慣れておくことが望ましい。

●連絡先・オフィスアワー Email [hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp) 電話 5239 研究室 213 オフィスアワー 木曜日 10:00~12:00

開設科目	芸術論概説I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	奥津聖				

●授業の概要 イメージという言葉の意味は多義的です。従来のイメージの解釈学は、造形芸術におけるイメージの意味内容の解釈にその主題は限定されていました。この講義では、現代芸術一般を対象とすることの可能な広義の「イメージの解釈学」の構築を目指します。この講義では、ルネッサンスからバロックにかけての重要な作品に焦点を当てて、視覚芸術の基礎理論を学びます。／検索キーワード イメージ、解釈学、視覚的思索

●授業の一般目標 ルネッサンス以降の、視覚芸術の諸問題を考察することを通じて現代芸術に親しむための基礎を身につける。

●授業の到達目標／ 思考・判断の観点： イメージの解釈の実践 技能・表現の観点： レポート作成

●授業の計画（全体） イメージの解釈学とは何かを考察する

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 序論 オリエンテーション 内容 講義内容、履修方法等の説明。Web上の資料の活用。特に、Web Gallery of Artの利用法。

第2回 項目 ウェブサイトの利用法 内容 特に、Web Gallery of Artの具体的な利用法の解説

第3回 項目 絵を読むことールネッサンス以前の芸術 内容 読むために描かれたルネッサンス以前の芸術の構造を検証。

第4回 項目 絵を読むことから絵を視ることへの移行1 内容 前期ルネッサンス芸術の新たな試み。

第5回 項目 絵を読むことから絵を視ることへの移行2 内容 ミケランジェロのシスティナ礼拝堂天井画の構造。旧約聖書と新約聖書の神秘的統一の視覚化。

第6回 項目 視るための絵画 内容 レオナルド・ダ・ヴィンチの思考実験。空間の統一へ。

第7回 項目 室内空間全体のヴァーチャル化 内容 バロック芸術における幻想天井画

第8回 項目 イコロジー研究1 内容 パノフスキーの解釈の検討1

第9回 項目 イコロジー研究2 内容 パノフスキーの解釈の検討2

第10回 項目 イコロジー研究3 内容 パノフスキーの解釈の検討3

第11回 項目 イコロジー研究4 内容 パノフスキーの解釈の検討4

第12回 項目 イコロジー研究5 内容 パノフスキーの解釈の検討5

第13回 項目 イコロジー研究6 内容 パノフスキーの解釈の検討6

第14回 項目 新しい「イメージの解釈学」 内容 総合的な学としての新しい「イメージの解釈学」の成立に向けて。

第15回 項目 終論 エピローグ 内容 講義の補足と総括。

●成績評価方法（総合） レポートを随時提出

●教科書・参考書 教科書：プリントを配布。ホームページ上に随時資料を掲載。／参考書：参考文献は、講義中に提示する。

●メッセージ 教科書は無い。プリント資料を配布。

●連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

開設科目	芸術論概説 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	奥津聖				

●授業の概要 イメージという言葉の意味は多義的です。従来のイメージの解釈学は、造形芸術におけるイメージの意味内容の解釈にその主題は限定されていました。この講義では、現代芸術一般を対象とすることの可能な広義の「イメージの解釈学」の構築を目指します。前期の継続。／検索キーワード イメージ、解釈学、視覚的思索

●授業の一般目標 ルネッサンス以降の、視覚芸術の諸問題を考察することを通じて現代芸術に親しむための基礎を身につける。

●授業の到達目標／ 思考・判断の観点： イメージの解釈の実践 技能・表現の観点： レポート作成

●授業の計画（全体） イメージの解釈学とは何かを考察する

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 序論 オリエンテーション 内容 講義内容、履修方法等の説明。Web 上の資料の活用。特に、Web Gallery of Art の利用法。

第 2 回 項目 イメージとは何か 内容 イメージという言葉は多義的である。では、この講義で扱うイメージとは何か。言語の解釈学とイメージの解釈学について解説。

第 3 回 項目 イコノロジー研究 1 内容 前期のまとめ 1

第 4 回 項目 イコノロジー研究 2 内容 前期のまとめ 2

第 5 回 項目 イコノロジーとは異なる方法論 1 内容 ウイーンの形式分析学派 1

第 6 回 項目 イコノロジーとは異なる方法論 2 内容 ウイーンの形式分析学派 2

第 7 回 項目 イコノロジーとは異なる方法論 3 内容 ウイーンの形式分析学派 4

第 8 回 項目 イコノロジーとは異なる方法論 4 内容 イムダールのイコニック 1

第 9 回 項目 イコノロジーとは異なる方法論 5 索 2 内容 イムダールのイコニック 2

第 10 回 項目 イコノロジーとは異なる方法論 6 内容 イムダールのイコニック 3

第 11 回 項目 総合的図像解釈学 1 内容 ベツチュマンの試み 1

第 12 回 項目 総合的図像解釈学 2 内容 ベツチュマンの試み 2

第 13 回 項目 総合的図像解釈学 3 内容 ベツチュマンの試み 3

第 14 回 項目 総合的図像解釈学 4 内容 ベツチュマンの試み 4

第 15 回 項目 終論 エピローグ 内容 講義の補足と総括。

●成績評価方法（総合） レポートを随時提出

●教科書・参考書 教科書：プリントを配布。ホームページ上に随時資料を掲載。／参考書：参考文献は、講義中に提示する。

●メッセージ 教科書は無い。プリント資料を配布。

●連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

開設科目	美術史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	藤川哲				

●授業の概要 この講義では、「西欧美術史学」の歴史について講義します。日本の美術史学は、西欧美術史学から様々な問題意識を吸収してきました。グローバリゼーション時代に日本の大学で美術史を学ぶということについて受講生の皆さんとともに考えてみたいと思います。／検索キーワード 様式史、イコノロジー、芸術心理学、芸術社会学、フェミニズム、ポストコロニアリズム

●授業の一般目標 1. 西欧美術史学の知的遺産の基本部分を学ぶ。2. 西欧美術史学を相対化する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 西欧美術史学によって生み出された用語の意味が説明できる。  
 思考・判断の観点： 西欧美術史学の有用性と問題について、独自の見解を述べることができる。 関心・意欲の観点： 西欧美術史学の影響下に、現在さまざまな国で展開されている「美術史学」と 西欧美術史学、という構図から、自ら一步踏み出そうという知的意欲を持つ。 態度の観点： 「美術史とは何か」という問題意識をもって、さまざまな著作を渉猟し、独自の美術史観を育む。

●授業の計画（全体） 16 世紀イタリアで活躍したヴァザーリ以後、ポストコロニアリズムの現在まで、西欧美術史学の展開を追いつつ解説します。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 列伝史：ヴァザーリ
- 第 3 回 項目 考古学と美術史：ヴィンケルマン
- 第 4 回 項目 目利きと作品目録：モレッリー ベレンソン
- 第 5 回 項目 美術史の自律性：リーゲル
- 第 6 回 項目 様式史：ヴェルフリン
- 第 7 回 項目 イコノロジー：パノフスキー
- 第 8 回 項目 美術史学の拡散
- 第 9 回 項目 知覚心理学と美術史：ゴンブリッチ
- 第 10 回 項目 社会史・社会学と美術史：バクサンドール
- 第 11 回 項目 フェミニズムと美術史：ポロック
- 第 12 回 項目 ポストコロニアル研究と美術史
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

●成績評価方法（総合） (1) 期末試験による評価、(2) コメント票による評価、(3) 出席による評価

●教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。／参考書：講義の中で適宜紹介します。

●メッセージ 「見ること」を足場に私たちにはどれだけの知的冒険が可能だろうか？

●連絡先・オフィスアワー E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	美術史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	藤川哲				

●授業の概要 この講義では、メディア・アートの歴史を代表的な作品の紹介によって辿ります。ビデオ上映やウェブ上の作品体験、山口情報芸術センターの見学等を行います。／検索キーワード メディア・アート、山口情報芸術センター

●授業の一般目標 メディア・アートの歴史と代表作について簡単な解説ができる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：メディア・アートの歴史と代表作について簡単な解説ができる。  
 思考・判断の観点：メディア・アートの歴史から現状の問題点を指摘できる。 関心・意欲の観点：メディア・アートの面白さ、違いがわかる。 態度の観点：山口情報芸術センターのさまざまな機能を主体的に活用できる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 事例研究 1
- 第 3 回 項目 事例研究 2
- 第 4 回 項目 事例研究 3
- 第 5 回 項目 事例研究 4
- 第 6 回 項目 中間まとめ
- 第 7 回 項目 施設見学
- 第 8 回 項目 事例研究 5
- 第 9 回 項目 事例研究 6
- 第 10 回 項目 事例研究 7
- 第 11 回 項目 事例研究 8
- 第 12 回 項目 総括
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

●成績評価方法 (総合) (1) 期末試験による評価、(2) コメント票による評価、(3) 出席による評価

●教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。／参考書：講義の中で適宜紹介します。

●メッセージ 山口情報芸術センターが近くにオープンしたことは、今、山で美術史を学ぶ メリットの一つ。深く学んで積極的に活用しよう！

●連絡先・オフィスアワー E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	芸術論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	奥津 聖				

●授業の概要 イメージという言葉の意味は多義的です。従来のイメージの解釈学は、造形芸術におけるイメージの意味内容の解釈にその主題は限定されていました。この講義では、現代芸術一般を対象とすることの可能な広義の「イメージの解釈学」の構築を目指します。この講義では日本の美学に焦点を当てます。／検索キーワード イメージ、解釈学、視覚的思索、明治、日本の美学

●授業の一般目標 明治以降の日本の美学の読解を通じて、美学の基礎に通じること。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：明治時代の日本語の読解力を養う 思考・判断の観点：解釈の実践 技能・表現の観点：レポート作成

●授業の計画（全体） 明治の美学を読む

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 序論 オリエンテーション 内容 講義内容、履修方法等の説明。Web 上の美学関連資料の紹介。活用。

第 2 回 項目 美学とは何か 1 内容 簡単な美学の歴史の解説 1

第 3 回 項目 美学とは何か 2 内容 簡単な美学の歴史の解説 2

第 4 回 項目 美学とは何か 3 内容 簡単な美学の歴史の解説 3

第 5 回 項目 明治の美学 1 内容 西周の美妙學説を英訳を参照しつつ読む 1

第 6 回 項目 明治の美学 2 内容 西周の美妙學説を英訳を参照しつつ読む 2

第 7 回 項目 明治の美学 3 内容 西周の美妙學説を英訳を参照しつつ読む 3

第 8 回 項目 明治の美学 4 内容 逍遙を読む 1

第 9 回 項目 明治の美学 5 内容 逍遙を読む 2

第 10 回 項目 明治の美学 6 内容 天心を読む 1

第 11 回 項目 明治の美学 7 内容 天心を読む 2

第 12 回 項目 明治の美学 8 内容 樗牛を読む 1

第 13 回 項目 明治の美学 9 内容 樗牛を読む 2

第 14 回 項目 明治の美学 10 内容 樗牛を読む 3

第 15 回 項目 終論 エピローグ 内容 講義の補足と総括。

●成績評価方法（総合） レポートを随時提出

●教科書・参考書 教科書：教科書プリントを配布。ホームページ上に随時資料を掲載。／参考書：参考文献は、講義中に提示する。

●メッセージ 教科書は無い。プリント資料を配布。

●連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

開設科目	芸術論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	奥津 聖				

●授業の概要 イメージという言葉の意味は多義的です。従来のイメージの解釈学は、造形芸術におけるイメージの意味内容の解釈にその主題は限定されていました。この講義では、現代芸術一般を対象とすることの可能な広義の「イメージの解釈学」の構築を目指します。この講義では日本の美学に焦点を当てます。／検索キーワード イメージ、解釈学、視覚的思索、明治、日本の美学

●授業の一般目標 明治以降の日本の美学の読解を通じて、美学の基礎に通じること。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：明治時代の日本語の読解力を養う 思考・判断の観点：解釈の実践 技能・表現の観点：レポート作成

●授業の計画（全体） 明治の美学を読む

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 序論 オリエンテーション 内容 講義内容、履修方法等の説明。Web 上の美学関連資料の紹介。活用。

第 2 回 項目 明治の美学とは何か 1 内容 前期のまとめ 1

第 3 回 項目 明治の美学とは何か 2 内容 前期のまとめ 2

第 4 回 項目 明治の美学とは何か 3 内容 前期のまとめ 3

第 5 回 項目 明治の美学 1 内容 大西祝を読む 1

第 6 回 項目 明治の美学 2 内容 大西祝を読む 2

第 7 回 項目 明治の美学 3 内容 大西祝を読む 3

第 8 回 項目 明治の美学 4 内容 抱月を読む 1

第 9 回 項目 明治の美学 5 内容 抱月を読む 2

第 10 回 項目 明治の美学 6 内容 抱月を読む 3

第 11 回 項目 明治の美学 7 内容 抱月を読む 4

第 12 回 項目 明治の美学 8 内容 抱月を読む 5

第 13 回 項目 明治の美学 9 内容 抱月を読む 6

第 14 回 項目 明治の美学 10 内容 抱月を読む 7

第 15 回 項目 終論 エピローグ 内容 講義の補足と総括。

●成績評価方法（総合） レポートを随時提出

●教科書・参考書 教科書：教科書プリントを配布。ホームページ上に随時資料を掲載。／参考書：参考文献は、講義中に提示する。

●メッセージ 教科書は無い。プリント資料を配布。

●連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

開設科目	芸術論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	佐藤 文昭				

●授業の概要 この講義では、建築における美の捉え方について解説する。講義毎にキーワードを設定し、それを中心としながら、前近代、近代、ポスト近代のそれぞれの時代にみられる美の特徴を、多くの事例を用いながら解説する。さらに、今日の建築を取り巻く問題点について明らかにするとともに、芸術としての建築の重要性について言及する。

●授業の一般目標 芸術としての建築の捉え方について理解する。多様な角度から建築のもつ美しさに関心を持つ。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：・各キーワードからみた建築の特徴について理解する。・各時代の建築の特徴について理解する。思考・判断の観点：・各自の価値観に基づき、建築やそれがもつ美しさについて評価することが出来る。関心・意欲の観点：・身近にある建物の美しさに関心を持つ。・建築と社会との関係について興味を持つ。態度の観点：・国内の有名建築を訪ね、その美しさを体感する。

●授業の計画（全体）はじめに、建築とその空間が生み出す美について解説する。その内容を踏まえ、以下のキーワードについて、時代背景による特徴や、地域の風土や文化との関係などを比較しながら解説する。・強さ（構造）・形（スタイル）・場所と空間・光と影・歴史・経済

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 イントロダクション 内容 講義の目的や全体スケジュールなどについて紹介する。
- 第 2 回 項目 強さ（1） 内容 建築の構造や材料と、その組み合わせが生み出す美について解説する。
- 第 3 回 項目 強さ（2） 内容 同上
- 第 4 回 項目 形（1） 内容 建築様式の意味や、自然の形態の引用など、建築に関わる様々な形について解説する。
- 第 5 回 項目 形（2） 内容 同上
- 第 6 回 項目 場所と空間（1） 内容 建築を取り巻く環境や風土、場所のもつ力などとの関係について解説する。
- 第 7 回 項目 場所と空間（2） 内容 同上
- 第 8 回 項目 光と影（1） 内容 建築が生み出す光と影の美しさ、その中に込められた意味について解説する。
- 第 9 回 項目 光と影（2） 内容 同上
- 第 10 回 項目 歴史（1） 内容 建築デザインと過去の歴史との関係について解説する。
- 第 11 回 項目 歴史（2） 内容 同上
- 第 12 回 項目 経済（1） 内容 近代以降の資本主義社会における建築デザインの変容について解説する。
- 第 13 回 項目 経済（2） 内容 同上
- 第 14 回 項目 最終レポート 内容 時間内で、レポートを作成し、発表する。
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 これまでの講義内容についてまとめる。

●成績評価方法（総合）2回のレポート（中間と最終）により評価する。【全体】授業の内容を各自なりに咀嚼し、それに基づいて建築の体験をどのように分析しているかにより評価する。【観点別】○知識・理解の観点：各自の建築体験に基づき、各キーワードの意味を理解している。○思考・判断の観点：各自の建築体験を、自らの価値観に基づき評価している。

●教科書・参考書 参考書：参考書等は、各回の授業の中で紹介する、

●備考 集中授業



開設科目	芸術論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	藤川哲				

●授業の概要 この講義では、国内外で開催されている国際美術展の現況について解説します。デジタル画像やビデオの上映を交えながら国際美術展の歴史、代表的な国際美術展を紹介したのち、特に1990年代以降のグローバル化の影響について、ヨーロッパとアジアとの対比の中で見ていきます。／検索キーワード 国際美術展、現代美術、グローバル化、ビエンナーレ

●授業の一般目標 (1) 国際美術展の現況について理解する。(2) 現代美術に関心をもつ。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 現代美術の面白さ、展覧会の面白さがわかる。2. 代表的な国際美術展について簡単な説明ができる。思考・判断の観点：1. 幅広く深い教養を背景に、美術作品の好悪巧拙の判断ができる。2. 国際美術展について肯定的な側面と課題とを指摘できる。関心・意欲の観点：1. 自分の感性を絶えず磨き続ける。2. 幅広い教養を身につける。態度の観点：1. 国内で開催されている展覧会情報をチェックし、心の琴線に触れた展覧会には実際に出掛けてみる。2. 海外旅行に出掛ける際には、旅先の美術館や美術展を訪れる。

●授業の計画（全体）前半は、国際美術展の歴史、日本の参加・開催の経緯等について概観する。中盤は毎回1つの国際美術展を取り上げ、話題を集めた作品の紹介や、企画者の意図等の解説を行う。後半は、ヨーロッパとアジアとの対比の中で、国際美術展におけるグローバル化の問題を究明する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション
- 第2回 項目 事例研究1
- 第3回 項目 事例研究2
- 第4回 項目 事例研究3
- 第5回 項目 事例研究4
- 第6回 項目 中間まとめ
- 第7回 項目 事例研究5
- 第8回 項目 事例研究6
- 第9回 項目 事例研究7
- 第10回 項目 事例研究8
- 第11回 項目 事例研究9
- 第12回 項目 総括
- 第13回
- 第14回
- 第15回

●成績評価方法（総合）(1) 期末試験による評価、(2) コメント票による評価、(3) 出席による評価

●教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。／参考書：『12人の挑戦—大観から日比野まで』、茨城新聞社、2002年 石井元章『ヴェネツィアと日本—美術をめぐる交流』、ブリュッケ、1999年 『ヴェネツィア・ビエンナーレ—日本参加の40年』、国際交流基金、毎日新聞社、1995年、ほか講義の中で随時紹介します。

●メッセージ 「ビエンナーレ」という呼ばれ方で、アートの世界でもグローバル化が進んでいます。現代美術の明日はどっちだ!?

●連絡先・オフィスアワー E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	芸術論特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	藤川哲				

●授業の概要 この講義では、2004 年度に開催される展覧会を紹介します。特に、企画趣旨や出品作品、作家について解説します。／検索キーワード 展覧会企画、現代美術、近代美術、西欧美術

●授業の一般目標 (1) 各展覧会の企画趣旨について理解を深める。(2) 美術に関心をもつ。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 作品や展覧会の面白さがわかる。2. 美術史の基本的な用語を作品に即して説明できる。思考・判断の観点：1. 展覧会のテーマが社会に投げかける問いを読み解き、自らの考えを述べることができる。2. 展覧会企画における現実的な制約と先取的な企図とのせめぎあいを看取できる。関心・意欲の観点：1. 自分の感性を絶えず磨き続ける。2. 幅広い教養を身につける。態度の観点：1. 国内で開催されている展覧会情報をチェックし、心の琴線に触れた展覧会には実際に出掛けてみる。2. 海外旅行に出掛ける際には、旅先の美術館や美術展を訪れる。

●授業の計画（全体） 基本的に各週 1 つの展覧会を紹介します。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション

第 2 回 項目 事例研究 1

第 3 回 項目 事例研究 2

第 4 回 項目 事例研究 3

第 5 回 項目 事例研究 4

第 6 回 項目 事例研究 5

第 7 回 項目 事例研究 6

第 8 回 項目 事例研究 7

第 9 回 項目 事例研究 8

第 10 回 項目 事例研究 9

第 11 回 項目 事例研究 10

第 12 回 項目 総括

第 13 回

第 14 回

第 15 回

●成績評価方法（総合）(1) 期末試験による評価、(2) コメント票による評価、(3) 出席による評価

●メッセージ 実戦経験を積んで強くなってください。芸術論における実戦経験とは、すなわち、作品を前にあなたが何を感じるができるか、です。むしろあなたが作品から挑まれている、と想像してみてください。さあ、展覧会へ出掛けましょう！

●連絡先・オフィスアワー E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	美術史・芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	奥津 聖				

- 授業の概要 学生の発表と討論 卒論作成のための準備訓練と資料集積／検索キーワード 卒論、プレゼンテーション
- 授業の一般目標 卒論を書けるようにする プレゼンテーションの技術を身につける
- 授業の到達目標／ 思考・判断の観点：自ら問題を立てて解決する能力の養成 技能・表現の観点：レポート作成、論文作成能力の錬磨 プレゼンテーションの方法
- 授業の計画（全体） コロキウム形式であり、問題は個別にわたるので前もってのシラバス作成はできない。参加学生の個別指導となる。
- 成績評価方法（総合） 演習中のプレゼンテーション レポート
- 教科書・参考書 参考書：その都度指示する
- 連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

開設科目	美術史・芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	奥津 聖				

- 授業の概要 学生の発表と討論 卒論作成のための準備訓練と資料集積／検索キーワード 卒論、プレゼンテーション
- 授業の一般目標 卒論を書けるようにする プレゼンテーションの技術を身につける
- 授業の到達目標／ 思考・判断の観点：自ら問題を立てて解決する能力の養成 技能・表現の観点：レポート作成、論文作成能力の錬磨 プレゼンテーションの方法
- 授業の計画（全体） コロキウム形式であり、問題は個別にわたるので前もってのシラバス作成はできない。参加学生の個別指導となる。
- 成績評価方法（総合） 演習中のプレゼンテーション レポート
- 教科書・参考書 参考書：その都度指示する
- 連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

開設科目	美術史・芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	藤川哲				

●授業の概要 受講者の研究テーマによる発表と、発表に対する質問、討論を中心とした演習です。／検索キーワード 研究発表、討議

●授業の一般目標 1. 自分の考えを持つこと。それを人にわかりやすく発表できるようになること。2. 人の発表を聞いて、建設的な発言、討議ができるようになること。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 自らの研究テーマについて基礎的な知識を身につける。 思考・判断の観点： 他の受講生の研究テーマも含めた美術史・芸術論の全体像の中に、自らの研究テーマをイメージできる。 関心・意欲の観点： 美術史・芸術論をめぐるさまざまなテーマに関心をもつ。 態度の観点： 自分の関心の所在を見定め、必要な文献を収集し、考えを文章でまとめるができる。

●授業の計画（全体） 最初の週に、各自関心のあるテーマを発表してもらいます。その後は、順番を決め、各週 2 人ずつ発表の形式をとります。発表者はレジュメ作成のこと。発表、討議を経て内容を深めた期末レポートの提出を求めます。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション

第 2 回 項目 研究発表 1

第 3 回 項目 研究発表 2

第 4 回 項目 研究発表 3

第 5 回 項目 研究発表 4

第 6 回 項目 研究発表 5

第 7 回 項目 中間討議

第 8 回 項目 研究発表 6

第 9 回 項目 研究発表 7

第 10 回 項目 研究発表 8

第 11 回 項目 研究発表 9

第 12 回 項目 総括

第 13 回

第 14 回

第 15 回

●成績評価方法（総合）(1) 研究発表による評価、(2) 他の発表者への質問・意見等、討議への参加度による評価、(3) 期末レポートによる評価

●メッセージ 各自、自分が「言いたいことは何か」をはっきりさせて発表に臨んでください。関心のある作品や作家の「紹介」は発表として認めません。他の参加者は、発表者の「言いたいこと」に自分が賛成できるか出来ないか、しっかり自分の立場を確認しつつ発表を聞き、発言してください。前期の美術史実習を履修の上、Microsoft PowerPoint の操作に習熟しておいてください。

●連絡先・オフィスアワー E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	美術史・芸術論演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	藤川哲				

●授業の概要 受講者の研究テーマによる発表と、発表に対する質問、討論を中心とした演習です。／検索キーワード 研究発表、討議

●授業の一般目標 1. 自分の考えを持つこと。それを人にわかりやすく発表できるようになること。2. 人の発表を聞いて、建設的な発言、討議ができるようになること。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 自らの研究テーマについて基礎的な知識を身につける。 思考・判断の観点： 他の受講生の研究テーマも含めた美術史・芸術論の全体像の中に、自らの研究テーマをイメージできる。 関心・意欲の観点： 美術史・芸術論をめぐるさまざまなテーマに関心をもつ。 態度の観点： 自分の関心の所在を見定め、必要な文献を収集し、考えを文章でまとめるができる。

●授業の計画（全体） 最初の週に、各自関心のあるテーマを発表してもらいます。その後は、順番を決め、各週 2 人ずつ発表の形式をとります。発表者はレジュメ作成のこと。発表、討議を経て内容を深めた期末レポートの提出を求めます。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション

第 2 回 項目 研究発表 1

第 3 回 項目 研究発表 2

第 4 回 項目 研究発表 3

第 5 回 項目 研究発表 4

第 6 回 項目 研究発表 5

第 7 回 項目 中間討議

第 8 回 項目 研究発表 6

第 9 回 項目 研究発表 7

第 10 回 項目 研究発表 8

第 11 回 項目 研究発表 9

第 12 回 項目 総括

第 13 回

第 14 回

第 15 回

●成績評価方法（総合）(1) 研究発表による評価、(2) 他の発表者への質問・意見等、討議への参加度による評価、(3) 期末レポートによる評価

●メッセージ 各自、自分が「言いたいことは何か」をはっきりさせて発表に臨んでください。関心のある作品や作家の「紹介」は発表として認めません。他の参加者は、発表者の「言いたいこと」に自分が賛成できるか出来ないか、しっかり自分の立場を確認しつつ発表を聞き、発言してください。前期の美術史実習を履修の上、Microsoft PowerPoint の操作に習熟しておいてください。

●連絡先・オフィスアワー E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	美術史実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	奥津聖				

- 授業の概要 コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得／検索キーワード プレゼンテーション
- 授業の一般目標 コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得
- 授業の到達目標／ 技能・表現の観点： コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得
- 連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>

開設科目	美術史実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	奥津聖				

- 授業の概要 コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得／検索キーワード プレゼンテーション
- 授業の一般目標 コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得
- 授業の到達目標／ 技能・表現の観点： コンピュータを用いてプレゼンテーション、資料収集、Web 作成等の技法の獲得
- 連絡先・オフィスアワー okutsu@c-able.ne.jp <http://homepage.mac.com/kokutsu/Menu17.html>



開設科目	美術史実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	藤川哲				

●授業の概要 インターネットを活用したドキュメントの収集とウェブ・コンテンツ作成を中心とした実習です。／検索キーワード インターネット、ウェブ・コンテンツ作成

●授業の一般目標 各自、自分の研究テーマにあったインターネット活用法を身につける。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. インターネットを活用した情報収集ができる。2.HTMLの基本タグがタイプできる。思考・判断の観点：インターネットで可能なこと、不可能なことの見当がつく。関心・意欲の観点：自分の関心にあったポータルサイトを持つ。態度の観点：インターネットを活用して自らの知的生活を豊かにできる。技能・表現の観点：1. 検索サイトを効率よく活用できる。2. ウェブ・コンテンツ作成支援ソフトの基本操作ができる。

●授業の計画（全体） インターネット活用の概略、ウェブ・コンテンツ作成支援ソフト等を紹介したのち、班分けを行い、班毎に作業内容、目標を決めて、研究室で作成中のウェブ・ページを教材として、同ウェブの機能やコンテンツに関する提案、作成を行ってもらいます。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション

第 2 回 項目 実習指導 1

第 3 回 項目 実習指導 2

第 4 回 項目 実習指導 3

第 5 回 項目 実習指導 4

第 6 回 項目 実習指導 5

第 7 回 項目 中間発表

第 8 回 項目 実習指導 6

第 9 回 項目 実習指導 7

第 10 回 項目 実習指導 8

第 11 回 項目 実習指導 9

第 12 回 項目 最終発表

第 13 回

第 14 回

第 15 回

●メッセージ インターネットを「ゴミだめ」にするのも「宝石箱」にするのもあなた次第！

●連絡先・オフィスアワー E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	美術史実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	藤川哲				

●授業の概要 Microsoft PowerPoint を使った効果的なヴィジュアル・プレゼンテーションに習熟するための実習です。／検索キーワード プレゼンテーション、インターネット

●授業の一般目標 各自、自分の研究テーマに関連する素材を蓄積、テーマ毎に整理し、プレゼンテーション・ドキュメントを作成、発表する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：自分の発表テーマに必要な素材が準備できる。思考・判断の観点：簡潔で要領を得たプレゼンテーションができる。関心・意欲の観点：他の学生のプレゼンテーションから優れた点を学ぶよう心掛ける。態度の観点：テレビや映画をはじめとする日常生活の環境の中から、視覚的なコミュニケーションにおける手法上の工夫やトレンドを読み解くことができる。技能・表現の観点：1. スキャナーを使った画像の取り込みができる。2. OCR によるテキスト・データの作成と校正ができる。3. Microsoft PowerPoint の基本操作ができる。4. 効果的な視覚表現を工夫できる。

●授業の計画（全体）前半は、画像とテキストそれぞれのデータの作成方法について学びます。中盤は、それらを活用したプレゼンテーション・ドキュメントの作成方法を学び、同時に必要素材の整理・収集を行います。後半は各自、実際にプレゼンテーションを行ってもらい、より効果的な視覚表現のあり方について全員で討議・探究します。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション

第 2 回 項目 実習指導 1

第 3 回 項目 実習指導 2

第 4 回 項目 実習指導 3

第 5 回 項目 実習指導 4

第 6 回 項目 実習指導 5

第 7 回 項目 中間発表

第 8 回 項目 実習指導 6

第 9 回 項目 実習指導 7

第 10 回 項目 実習指導 8

第 11 回 項目 実習指導 9

第 12 回 項目 最終発表

第 13 回

第 14 回

第 15 回

●メッセージ ヴィジュアル・コミュニケーションの「作り手」の快感というものもあります。

●連絡先・オフィスアワー E-mail fujikawa@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー 人文学部の研究室 417 にて水曜日午後

開設科目	考古学概説 III	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	中村友博				

●授業の概要 日本考古学のなかで、石器時代の一般的な知識を講義する。／検索キーワード 旧石器時代、縄文文化

●授業の一般目標 日本列島における先史・原始文化を考古学がどのように解明してきたか、その成果と到達点を理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：考古学独自の専門用語について理解するとともに、日本先史文化が周辺の文化とどのように共通し、また相違するか、理解を深める。思考・判断の観点：考古学独自の方法について、その長所と短所を考える。関心・意欲の観点：日本列島の原始文化に関心をもつ。

●授業の計画（全体）考古学的な時代区分を述べ、年代の古い順に特定の主題について解説する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 旧石器文化 内容 旧石器時代の環境

第 2 回 内容 旧石器時代の住居

第 3 回 内容 旧石器時代の生業

第 4 回 内容 旧石器時代の交易・運搬

第 5 回 内容 旧石器時代の風俗

第 6 回 内容 大陸文化との関連

第 7 回 項目 縄文文化 内容 縄文時代の環境

第 8 回 内容 縄文時代の住居

第 9 回 内容 縄文時代の生業

第 10 回 内容 縄文時代の葬送

第 11 回 内容 縄文時代の土器

第 12 回 内容 縄文時代の交易・運搬

第 13 回 内容 縄文時代の習俗

第 14 回 内容 縄文時代の服飾・身体装飾

第 15 回 内容 縄文時代の人種

●成績評価方法（総合）日本考古学の基礎的な知識が習得できているかどうかを、試験によって判定する。

●教科書・参考書 教科書：指定しない。／参考書：指定しない。

●連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー金曜日 16:10～17.40

開設科目	考古学概説 IV	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	中村友博				
<p>●授業の概要 日本列島の原始文化である弥生文化について、一般的知識を講義する。／検索キーワード 弥生文化</p> <p>●授業の一般目標 日本列島の原始文化について、興味を持つとともに、基礎的な知識を身につける。</p> <p>●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 考古学独特の専門用語について基礎的な知識を得るとともに、弥生文化と周辺の文化との共通性や相違点を学ぶ。 思考・判断の観点： 考古学的方法の長所と短所について、考えを巡らす。 関心・意欲の観点： 日本の原始文化について、興味をいだき関心をもつ。</p> <p>●授業の計画（全体） 弥生文化全般にわたり、主題別に講義する。</p> <p>●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 弥生文化 内容 弥生時代の環境</p> <p>第 2 回 内容 弥生時代の住居</p> <p>第 3 回 内容 弥生時代の農業</p> <p>第 4 回 内容 弥生時代の生業</p> <p>第 5 回 内容 弥生時代の葬送</p> <p>第 6 回 内容 弥生時代の土器</p> <p>第 7 回 内容 弥生時代の軍事・武器</p> <p>第 8 回 内容 弥生時代の交易・運搬</p> <p>第 9 回 内容 弥生時代の金工</p> <p>第 10 回 内容 弥生時代の木工</p> <p>第 11 回 内容 弥生時代の習俗</p> <p>第 12 回 内容 弥生時代の宗教</p> <p>第 13 回 内容 弥生時代の服飾・身体装飾</p> <p>第 14 回 内容 弥生文化と大陸文化</p> <p>第 15 回 内容 弥生時代の人種</p> <p>●成績評価方法（総合） 日本の原始文化に関心を持っているか、基礎的な知識があるかどうかを試験によって判定する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書： 特に指定しない。／ 参考書： 特に指定しない。</p> <p>●連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー金曜日 16:10～17.40</p>					

開設科目	東アジア考古学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	村田裕一				

- 授業の概要 縄文時代から弥生時代への転換過程は、大陸からもたらされた文化要素を様々な形で受容することで成し遂げられる。講義では、特に石器と鉄器という物質文化に注目し、弥生社会の形成過程を概観する。具体的には、日本列島内における大陸系磨製石器の成立とその生産・流通、鉄器の流入と生産、石器から鉄器への転換過程といった問題について探求する。新来の要素の影響下に形成された弥生時代社会の側面を描き出す。本講義は、上記のテーマで複数年次にわたり継続的に取り組んでいるものであるが、取り扱う個別の考古資料および題材は、毎年・開講学期毎に異なる。／検索キーワード 考古学、石器、鉄器、弥生時代、生産と流通
- 授業の一般目標 1. 考古学の基礎の一つであるところの実測図に盛り込まれた情報を正確に読みとることができる力を養う。2. 遺物および遺構のデータの基礎的な操作方法、すなわち考古学の方法論の基礎について習得する。3. 学術論文を批判的に読解する力を養う。4. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会について学ぶ。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：A. 実測図に盛り込まれた情報を正確に読みとることができる。B. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会の事例を説明できる。思考・判断の観点：A. 学術論文を批判的に読解し問題点を抽出できる。B. 遺物および遺構のデータの基礎的な操作方法、すなわち考古学の方法論を、自分の選んだ考古学的題材に適用できる。関心・意欲の観点：A. 自分が関心を持つ考古資料をあげることができる。
- 授業の計画（全体）【弥生時代の石器・鉄器】弥生時代の社会構造を石器と鉄器に注目しながら読み解いてゆく。日本列島各地の遺跡および地域について取り上げ、石器と鉄器の特徴について詳細に検討する。その上で、集落の動態とあわせて石器・鉄器の地域性を抽出し、製作技術・生産と流通のシステムといった観点から社会構造の解明へと考察を深める。前期の講義では、遺物解釈のための基本的な事項の整理解説に重点を置きながら、山口県や福岡県西部地域の状況を中心に扱う。後期の講義では、前期に整理した基本的な事項を基礎として、九州全域から瀬戸内・山陰地域へと視野を拡大する。＜留意点＞開講期の設定は半期だが、講義の編成は実質的に通年であるため、通年受講が望ましい。前期に基礎的な事項を整理するので、後期だけの受講には理解に困難が伴うことが予想される。基本的には講義スタイルの授業だが、受講生の理解のために必要と判断すれば、遺物実測図の並べ替えといった、作業を伴うような時間を設定する。また、時間内に受講生に意見を求めることもあるので自分の考えをもって講義にのぞむように。考古学の基本知識を持っていることを前提として講義を進めるので、受講生は考古学概説の単位を取得しておくこと。
- 成績評価方法（総合）小テスト・授業内レポート 10%，授業外レポート 90%。
- 教科書・参考書 教科書：使用しない。講義プリントを配布する。／参考書：石器入門事典—先土器—・—縄文—、加藤晋平・鶴丸俊明・鈴木道之助、柏書房、1991年；考古資料大観 第9巻 弥生・古墳時代 石器・石製品・骨角器、北条芳隆・瀬田佳男 監修、小学館、2002年；倭人と鉄の考古学、村上恭通、青木書店、1998年；ここにあげたものは、特に代表的なものである。講義の中で他にも多数の文献を紹介する。
- メッセージ 石器や鉄器などの、個別の遺物について詳細に解説する場合や、あるいは統計学的手法の解説を行ったりする場合には、講義内容がやや難しくなることもあるかもしれません。解説のわかりにくいところ、あるいは意図のわかりにくいところなどは、講義時間の内外に関わらずどんどん質問してください。
- 連絡先・オフィスアワー E-mail：h-murata@yamaguchi-u.ac.jp，オフィスアワー：水曜日7・8時限

開設科目	東アジア考古学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	村田裕一				

●授業の概要 縄文時代から弥生時代への転換過程は、大陸からもたらされた文化要素を様々な形で受容することで成し遂げられる。講義では、特に石器と鉄器という物質文化に注目し、弥生社会の形成過程を概観する。具体的には、日本列島内における大陸系磨製石器の成立とその生産・流通、鉄器の流入と生産、石器から鉄器への転換過程といった問題について探求する。新来の要素の影響下に形成された弥生時代社会の側面を描き出す。本講義は、上記のテーマで複数年次にわたり継続的に取り組んでいるものであるが、取り扱う個別の考古資料および題材は、毎年・開講学期毎に異なる。／検索キーワード 考古学、石器、鉄器、弥生時代、生産と流通

●授業の一般目標 1. 考古学の基礎の一つであるところの実測図に盛り込まれた情報を正確に読みとることができる力を養う。2. 遺物および遺構のデータの基礎的な操作方法、すなわち考古学の方法論の基礎について習得する。3. 学術論文を批判的に読解する力を養う。4. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会について学ぶ。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：A. 実測図に盛り込まれた情報を正確に読みとることができる。B. 石器と鉄器を軸に描き出した弥生時代社会の事例を説明できる。思考・判断の観点：A. 学術論文を批判的に読解し問題点を抽出できる。B. 遺物および遺構のデータの基礎的な操作方法、すなわち考古学の方法論を、自分の選んだ考古学的題材に適用できる。関心・意欲の観点：A. 自分が関心を持つ考古資料をあげることができる。

●授業の計画（全体）【弥生時代の石器・鉄器】弥生時代の社会構造を石器と鉄器に注目しながら読み解いてゆく。日本列島各地の遺跡および地域について取り上げ、石器と鉄器の特徴について詳細に検討する。その上で、集落の動態とあわせて石器・鉄器の地域性を抽出し、製作技術・生産と流通のシステムといった観点から社会構造の解明へと考察を深める。前期の講義では、遺物解釈のための基本的な事項の整理解説に重点を置きながら、山口県や福岡県西部地域の状況を中心に扱う。後期の講義では、前期に整理した基本的な事項を基礎として、九州全域から瀬戸内・山陰地域へと視野を拡大する。＜留意点＞開講期の設定は半期だが、講義の編成は実質的に通年であるため、通年受講が望ましい。前期に基礎的な事項を整理するので、後期だけの受講には理解に困難が伴うことが予想される。基本的には講義スタイルの授業だが、受講生の理解のために必要と判断すれば、遺物実測図の並べ替えといった、作業を伴うような時間を設定する。また、時間内に受講生に意見を求めることもあるので自分の考えをもって講義にのぞむように。考古学の基本知識を持っていることを前提として講義を進めるので、受講生は考古学概説の単位を取得しておくこと。

●成績評価方法（総合）小テスト・授業内レポート 10%，授業外レポート 90%。

●教科書・参考書 教科書：使用しない。講義プリントを配布する。／参考書：石器入門事典—先土器—・—縄文—、加藤晋平・鶴丸俊明・鈴木道之助、柏書房、1991年；考古資料大観 第9巻 弥生・古墳時代 石器・石製品・骨角器、北条芳隆・瀬田佳男 監修、小学館、2002年；倭人と鉄の考古学、村上恭通、青木書店、1998年；ここにあげたものは、特に代表的なものである。講義の中で他にも多数の文献を紹介する。

●メッセージ 石器や鉄器などの、個別の遺物について詳細に解説する場合や、あるいは統計学的手法の解説を行ったりする場合には、講義内容がやや難しくなることもあるかもしれません。解説のわかりにくいところ、あるいは意図のわかりにくいところなどは、講義時間の内外に関わらずどんどん質問してください。

●連絡先・オフィスアワー E-mail：h-murata@yamaguchi-u.ac.jp，オフィスアワー：水曜日7・8時限

開設科目	比較考古学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	中村友博				

●授業の概要 縄紋・弥生過渡期の土器研究：各地の縄紋終末の土器と初期弥生土器を毎回プリントを教材として遺跡ごとに個別に検討する。今期は昨年の継続として伊勢湾の西方、三重県から始め、西の近畿地方に進む。今期は、弥生人の進入仮説というべき学説に留意しながら、土器を紹介する。／検索キーワード 水神平式土器 刻目突帯文土器 遠賀川式土器

●授業の一般目標 1. 考古学ではもっとも一般的な遺物である土器の資料化を修得する。 2. 考古学の方法論を実践的に修得する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：考古学の専門用語を修得する。 思考・判断の観点：型式学的方法を修得する。 関心・意欲の観点：先史学の基礎になる、土器の多様な変化に興味をもつ。

●授業の計画（全体）旧年の継続で、今回は伊勢湾の三重県からはじまり順次、近畿、中国地方へと出土土器を検討してゆく。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 永井遺跡の土器
- 第 2 回 項目 上箕田遺跡の土器
- 第 3 回 項目 杉沢遺跡の土器
- 第 4 回 項目 上出遺跡の土器
- 第 5 回 項目 服部遺跡の土器
- 第 6 回 項目 京大構内遺跡の土器
- 第 7 回 項目 太田遺跡の土器
- 第 8 回 項目 鬼塚遺跡の土器
- 第 9 回 項目 縄手遺跡の土器
- 第 10 回 項目 瀬戸遺跡の土器
- 第 11 回 項目 唐古遺跡の土器
- 第 12 回 項目 津島岡大遺跡の土器
- 第 13 回 項目 長瀬高浜遺跡の土器
- 第 14 回 項目 イキス遺跡の土器
- 第 15 回 項目 西川津遺跡の土器

●成績評価方法（総合）授業は専門的な分野であるから、成績は基本的に受講生の独自な分野の研究（ただし考古学に限定）をレポートとして提出していただき、判定することにする。個々の観点のうち、独創性を含めて得意な長所をできるだけ評価するが、みずから調べる努力の見られないものは評価しない。

●教科書・参考書 教科書：特になし。／参考書：授業中に言及する。

●連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー金曜日 16:10～17.40

開設科目	比較考古学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	中村友博				

●授業の概要 縄文・弥生過渡期の土器研究； 前期の続きで、縄文時代終末の土器と初期弥生土器を検討する。範囲は近畿地方から中・四国地方におよび、いちおう下の資料を予定している。／検索キーワード 刻目突帯文土器 遠賀川式土器

●授業の一般目標 1. 考古学の一般的な資料である土器の資料化を修得する。 2. 考古学の方法論を実践的に修得する。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： \* 弥生文化について理解する。 \* 考古学の専門用語を理解する。 思考・判断の観点： 型式学的な方法を修得する。 関心・意欲の観点： 先史土器の多様性について興味をもつ。

●授業の計画（全体） 前期の進行状況によるが、以下の内容を考えている。原則として1回1遺跡。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 佐太講武遺跡の土器
- 第 2 回 項目 水田の上遺跡 の土器
- 第 3 回 項目 イセ遺跡の土器
- 第 4 回 項目 高田遺跡 の土器
- 第 5 回 項目 岩田遺跡の土器
- 第 6 回 項目 奥正権寺遺跡出土の土器
- 第 7 回 項目 赤妻遺跡の土器
- 第 8 回 項目 小路遺跡 の土器
- 第 9 回 項目 吉田遺跡 の土器ほか
- 第 10 回 項目 西遺跡 の土器
- 第 11 回 項目 下右田 遺跡の土器
- 第 12 回 項目 月崎遺跡 の土器
- 第 13 回 項目 法仙庵遺跡 の土器
- 第 14 回 項目 川棚条里下層遺 跡の土器
- 第 15 回 項目 沖田遺跡 の土器

●成績評価方法（総合） 授業は専門的な分野であるから、成績は受講生の独自の分野の研究（ただし考古学に 限定）をレポートとして提出していただく。下のような個々の観点のうち、得意な長所 をできるだけ評価するが、みずから調べる努力のないものは評価しない。

●教科書・参考書 教科書： 特にない。／ 参考書： 授業中に言及する。

●連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー金曜日 16:10～17.40



開設科目	比較考古学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	山中一郎				

- 授業の概要 日本考古学の方法（型式学と技術学）； 考古学の方法とは先史考古学の方法でしかありませんが、その方法を確立させた Oscar MONTELIUS までのヨーロッパの作業を見たうえで、モンテリウス考古学の日本への導入と、その後の展開を概観して、日本考古学の方法論的問題を考えます。型式学を補完する別の体系を併用する必要を説き、ひとつの試みとして技術学の体系を探ります。／検索キーワード 型式学 動作連鎖 石器製作 造瓦 技術学
- 授業の一般目標 考古学の研究で分かることは何かを知ってもらいます。過去の世界や過去のヒトについて語るとき何を根拠にそう言えるのかと、根拠を懐疑的に求める姿勢を身につけましょう。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 過去を理解しようとするときにまず、なぜそう言えるのかと疑問を抱くこと。 思考・判断の観点： 石器、土器、瓦の見るべきところとその見方（授業でお話する主要点です）。 関心・意欲の観点： 提示されている考え方（通説）を懐疑的に捉えること。 技能・表現の観点： 考古資料に関わった過去のヒトのジェスチャーを重複させて資料を見ること。
- 授業の計画（全体） ドゥ・モルチエおよびモンテリウスに焦点を当てて、先史考古学の方法を説明し、モンテリウス型式学の日本への導入とその後の展開からの方法論的問題を指摘します。最後にその克服へのひとつの試みに技術学的な考古資料の見方があることを説きます。
- 成績評価方法（総合） 最終時間の試験で判定する。
- 教科書・参考書 教科書： なし。／ 参考書： 授業中に紹介します。
- 連絡先・オフィスアワー 考古学研究室・最後の授業時間（試験日を除く）の次の時間
- 備考 集中授業

開設科目	考古学演習 (4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	中村友博				

- 授業の概要 卒業論文作成のための演習である。問題点の明確化、資料の実体性などに加えて、論文執筆の要領を後期には教示する。／検索キーワード 卒業論文
- 授業の一般目標 卒業論文の完成を図る。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：従来の学説・研究を理解する。思考・判断の観点：問題点を設定できる。関心・意欲の観点：従来の研究を追跡、検討する。態度の観点：問題点を公共化できる。技能・表現の観点：資料の適正化をはかる。
- 授業の計画（全体）発表者をあらかじめ決め、各自の研究を口頭発表し、相互に論評する。
- 成績評価方法（総合）授業の発表、質問など平常の評価・採点をおこなう。自己の能力をフルに活用して問題探求、設定、解決に向かうかどうかを、重要なポリシーとする。
- 教科書・参考書 教科書：特にない。／参考書：発表者個々に指導する。
- 連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー金曜日 16:10～17.40

開設科目	考古学演習(4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	中村友博				

- 授業の概要 卒業論文作成のための演習である。発表者の研究発表の向上をはかるためには、問題の明確さ、資料の実体化、収集・検索能力、説得力、口頭発表の仕方などを指導する。／検索キーワード 卒業論文
- 授業の一般目標 卒業論文を作成する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：従来の研究を掌握する。 思考・判断の観点：問題の設定を適切に行う。 関心・意欲の観点：従来の研究を周到に検討する。 態度の観点：問題点を公共化できる。 技能・表現の観点：資料の適正化をはかる。
- 授業の計画(全体) 毎回、発表分担者を決めて、当事者は資料を添えて口頭発表する。事情で欠席するばあいは、事前に申し出て、順番を変更することができる。
- 成績評価方法(総合) 授業中の平常をもって評価・採点する。その時には、自己の能力をフルに活用して問題を解決するかどうか、決め手になり、計画的に課題を消化し、まとめる能力を重視する。また、口頭発表であるから文章能力よりも態度が要素に入るので注意すること。
- 教科書・参考書 教科書：指定せず／参考書：発表者個々に指導する。
- 連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー金曜日 16:10～17.40

開設科目	考古学演習(4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	村田裕一				

- 授業の概要** 卒業論文作成に向けての演習である。卒業論文では、自らが設定したテーマにそって研究を進め、論理を展開する必要がある。膨大な考古資料の中から、特定の資料を検索・抽出し、適切で正確かつ効果的な資料操作を行い、自説を構築しなければならない。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行うことで、よりよい卒業論文をなすための手助けを行う。
- 授業の一般目標** 卒業論文作成に向けての演習である。卒業論文では、自らが設定したテーマにそって研究を進め、論理を展開する必要がある。膨大な考古資料の中から、特定の資料を検索・抽出し、適切で正確かつ効果的な資料操作を行い、自説を構築しなければならない。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行うことで、よりよい卒業論文をなすための手助けを行う。
- 授業の到達目標**／ 関心・意欲の観点：A. 発表内容について討議できる。 技能・表現の観点：A. 論旨構築に必要な考古資料を抽出できる。 B. 抽出した考古資料を、適切に資料操作できる。資料操作は、考古学的手法・統計学的手法・理化学的手法などによる資料分析のことである。 C. 資料操作の過程、結果を図版・分析表などを効果的に使って説明できる。 D. 資料操作の結果に基づいて論旨を構築・発表できる。
- 授業の計画(全体)** 【考古学の諸問題】 受講生は、各自が設定したテーマにそって、基本的には2回程度の研究発表を行う。発表については、受講生全員で問題点などの討議を行うことで発表者はもちろんのこと討議参加者も研究内容を深めてゆく。
- 成績評価方法(総合)** 授業態度・授業への参加度 10%，受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品 90%。
- メッセージ** 大学内外所蔵の遺跡発掘調査報告書を基本文献として、研究を開始することになります。研究の進展にしたがい、学外の調査研究機関に資料調査に行く必要も生じます。研究は一朝一夕に進展するものではなく、各自の日頃の取り組みが重要なので地道に努力することが大切です。途中何度も突き当たる壁を自ら乗り越えてゆく気概が必要ですが、教官の助言が有効な場合もあります。相談は随時受け付けます。研究発表は十分な準備を行い、全力で行ってください。授業の性格上、無断欠席はしないでください。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail：h-murata@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー：水曜日7・8時限

開設科目	考古学演習(4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	村田裕一				

●授業の概要 卒業論文作成に向けての演習である。卒業論文では、自らが設定したテーマにそって研究を進め、論理を展開する必要がある。膨大な考古資料の中から、特定の資料を検索・抽出し、適切で正確かつ効果的な資料操作を行い、自説を構築しなければならない。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行うことで、よりよい卒業論文をなすための手助けを行う。

●授業の一般目標 卒業論文作成に向けての演習である。卒業論文では、自らが設定したテーマにそって研究を進め、論理を展開する必要がある。膨大な考古資料の中から、特定の資料を検索・抽出し、適切で正確かつ効果的な資料操作を行い、自説を構築しなければならない。授業では、受講生の研究の進捗状況を確認するとともに、考古学的方法論の指導、具体的な資料操作方法についての指導を行うことで、よりよい卒業論文をなすための手助けを行う。

●授業の到達目標／ 関心・意欲の観点：A. 発表内容について討議できる。 技能・表現の観点：A. 論旨構築に必要な考古資料を抽出できる。B. 抽出した考古資料を、適切に資料操作できる。資料操作は、考古学的手法・統計学的手法・理化学的手法などによる資料分析のことである。C. 資料操作の過程、結果を図版・分析表などを効果的に使って説明できる。D. 資料操作の結果に基づいて論旨を構築・発表できる。

●授業の計画(全体) 【考古学の諸問題】受講生は、各自が設定したテーマにそって、基本的には2回程度の研究発表を行う。発表については、受講生全員で問題点などの討議を行うことで発表者はもちろんのこと討議参加者も研究内容を深めてゆく。

●成績評価方法(総合) 授業態度・授業への参加度10%、受講者の発表(プレゼン)・授業内での制作作品90%。

●メッセージ 大学内外所蔵の遺跡発掘調査報告書を基本文献として、研究を開始することになります。研究の進展にしたがい、学外の調査研究機関に資料調査に行く必要も生じます。研究は一朝一夕に進展するものではなく、各自の日頃の取り組みが重要なので地道に努力することが大切です。途中何度も突き当たる壁を自ら乗り越えてゆく気概が必要ですが、教官の助言が有効な場合もあります。相談は随時受け付けます。研究発表は十分な準備を行い、全力で行ってください。授業の性格上、無断欠席はしないでください。

●連絡先・オフィスアワー E-mail: h-murata@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー: 水曜日7・8時限

開設科目	考古学実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教員	中村友博				

●授業の概要 この授業では、野外の発掘調査に不可欠な測量法を実習する。測量器械の操作方法と身のこなし方、計算法、作図法を教授する。ただし雨天のばあいは室内作業を実習する。／検索キーワード 発掘調査法

●授業の一般目標 1. 発掘調査に必要な測量ができるようになる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：測量の原理を理解する。思考・判断の観点：状況に応じた測量法を修得する。関心・意欲の観点：実技・作業の身のこなし方に興味をもつ。態度の観点：＊危険回避行動を身につける。＊チームワークを修得する。技能・表現の観点：線画の表現法を学ぶ。

●授業の計画（全体）考古学のうち、測量分野は座学、独学ができない実践分野で、特に発掘担当者を志望する者はこの実習で教える骨格測量の原理を理解していなければならない。要するに、だれも教えてくれないが、専門職に就けば、知って得する内容を初心者に教えます。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 測距 内容 スチール・テープの扱い方

第 2 回 項目 測距 内容 レベルによる標高計測

第 3 回 項目 測角 内容 トランシユットの扱い方

第 4 回 項目 測角 内容 三脚の据え方

第 5 回 項目 測角 内容 副尺の読み方

第 6 回 項目 測角 内容 上下のネジの操作法

第 7 回 項目 測角 内容 内外角による多角測量

第 8 回 項目 測角 内容 方位角による多角測量

第 9 回 項目 計算法 内容 図根点の作図

第 10 回 項目 地形測量 内容 平板の据え方

第 11 回 項目 地形測量 内容 等高線の求め方

第 12 回 項目 作図 内容 図面の整合法

第 13 回 項目 測角 内容 三角法

第 14 回 項目 細部測量 内容 やり方の設置

第 15 回 項目 細部測量 内容 やり方測量

●成績評価方法（総合）実習中の平常で評価・採点する。判定基準は実技が出来るか出来ないかであって、器用・不器用、上手・下手は、個性と経験によるからこの授業では重視しない。要するに、全員出来るようになってほしいし、全員できるまでやらせるので、資格のように判定する。

●教科書・参考書 教科書：測量学の図書はあるが、測量実技は図書からは学べないので、基本動作を体で覚えること。／参考書：特になし。

●メッセージ 考古学専攻の3年生に限る。また、授業前に全員そろって機材を用意しておくこと。さらに授業中には、交通事故などに注意すること。

●連絡先・オフィスアワー tomo@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：人文学部3階 オフィスアワー金曜日 16:10～17.40

開設科目	考古学実習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	後期
担当教員	村田裕一				

- 授業の概要** 考古学の基礎的技術である考古資料の取り扱いについて指導する。考古学の研究対象は過去の時代のモノ（遺構・遺物）である。その際、実物を取り扱うことが基本ではあるが、研究の大部分の段階では、二次的に加工された資料を取り扱うことが多い。この二次資料の代表的なものは図面や写真である。この授業では、考古学的な資料の取り扱いのための基礎的技術に習熟することを目的とする。この技術とは、下の一般目標に示す3項目であるが、2および3は表裏一体のものである。これらの技術はそれぞれ非常に高度な専門的技術であるため、その習得には受講生の多大な研鑽が必要とされるのは言うまでもない。考古学実習ではこれらの技術を習得するための初歩的な手ほどきを行うことで、考古遺物に対する理解を深める。／検索キーワード 考古学, 石器, 土器, 発掘調査, 資料調査, 実習, 実測
- 授業の一般目標** 1. 壊れやすく貴重な実物そのものを実際に取り扱うための技術を習得する。 2. 実物の資料化（実物から二次資料への変換）のための技術の初歩を習得する。 3. 二次資料（実測図・写真・拓本）に込められた情報を判読する技術を習得する。
- 授業の到達目標**／ 知識・理解の観点： A. 遺物取り扱いの留意点を状況に応じて具体的に指摘できる。 B. 遺物整理から報告書作成までの作業のアウトラインを説明できる。 思考・判断の観点： A. 遺物の解説を書くことができる。 B. 報告書を作成することができる。 技能・表現の観点： A. 遺物の実測図を作成することができる。 B. 遺物の写真を撮影することができる。 C. 遺物の拓本を採取することができる。
- 授業の計画（全体）** 【考古遺物の資料化】 1. ガイダンス \_\_\_\_ A. 道具の解説 2. 遺物洗浄 3. 接合・復元 4. 遺物実測 \_\_\_\_ A. 石器 \_\_\_\_ B. 土器 \_\_\_\_ C. 瓦 5. 拓本 6. 写真 7. 報告書作成 \_\_\_\_ A. DTP 全般 /// \* 上記は、カリキュラムの概要であるが、資料・天候などの都合のため、上記の順で授業が進行するわけではない。
- 成績評価方法（総合）** 宿題・授業外レポート 30%，受講者の発表（プレゼン）・授業内での制作作品 70%。基本的には、授業中に所定の技術水準を習得することを目標とするので、出席が所定の回数に満たない受講生には単位を与えない。出席が重要な成績評価基準になる。欠席4回で良。5回で可。7回で不可。また決められた課題を提出しないと評価が下がる。
- 教科書・参考書** 参考書： 授業の中で紹介する。
- メッセージ** 考古学に必要とされる基本的な技術の習得を目的として開講する授業科目である。目的達成のためには非常な修練が必要であり、率直に言って設定時間内だけで完全に習得することは不可能である。そのため、時間外での受講生の積極的な取り組みが必要となる。宿題もしばしば課される。
- 連絡先・オフィスアワー** E-mail：h-murata@yamaguchi-u.ac.jp, オフィスアワー：水曜日7・8時限

# 言語文化学科



開設科目	文学概論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	宮原一成				

●授業の概要 文体論的アプローチを借りながら、文や文章を「文学的」にしているものは何かを考えていきます。講義という分類の授業ですが、学生にも作業を求めたりして、教員－学生の双方向のコミュニケーションを取り入れたいと思います。

●授業の一般目標 文学を構成する要素について、基礎的な概念を身につける。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 修辞や文学作法の基礎用語や概念を使えるようになる。 思考・判断の観点： 上記で覚えた概念を、様々なテキストから見いだせるようになる。 関心・意欲の観点： 「文学的な文章」を、日常の中から見つけたり、自分でつくったりする。

●授業の計画（全体） テキストは、主に英文学を扱った教科書を使用するものの、講義の中ではできるだけ英米文学に偏らない例を独自に示す予定なので、英語について心配しすぎないように。教科書に沿って、1章ずつ進んでいく。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーションと第 1 章 内容 文体の味わい方

第 2 回 項目 第 2 章 内容 音

第 3 回 項目 第 4 章 内容 語彙

第 4 回 項目 第 5 章 内容 意味

第 5 回 項目 第 8 章 内容 テキスト

第 6 回 項目 第 9 章 内容 前景化

第 7 回 項目 第 10 章 内容 言語使用域

第 8 回 項目 第 11 章 内容 修辞法

第 9 回 項目 第 13 章 内容 語りの構造

第 10 回 項目 第 14 章 内容 視点

第 11 回 項目 第 15 章 内容 話法

第 12 回 項目 第 16 章 内容 時間の移動

第 13 回 項目 第 17 章 内容 テキスト間相互関連性

第 14 回 項目 第 18 賞 内容 メタフィクション

第 15 回

●成績評価方法（総合） ミニ・レポート 8 回（1 回 5 点）＋学期末筆記試験 60 点。

●教科書・参考書 教科書： 英語の作法, 斎藤兆史, 東京大学出版会, 2000 年

開設科目	文学概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	石井 勇				

- 授業の概要 夏目漱石が称賛したジェイン・オースティンの『自負と偏見』（1813）と彼自身の作品を  
いつか取り上げながら小説の主題と手法の問題について考えてみる。
- 授業の一般目標 （1）小説の語り方について認識を深める。（2）読者の役割について考える契機を与  
える。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：語り方における「視点」、「距離」などについて理解を深める。  
思考・判断の観点：読者に対する「活きた影響」（漱石の言葉）について考えを深める。 関心・意欲の  
観点：小説作品一般についても関心を強める。
- 授業の計画（全体）（1）『文学論』（1907）から小説の語り方に関わる部分、「間隔論」を概観する。  
（2）漱石が文字通り激賞した *Pride and Prejudice* の描写法について原文引用しながら要点をさぐる。  
（3）晩年の三作品『ころも』（1914）、『道草』（1915）、『明暗』（1916）を中心に人間観察  
と技法の変化について話を進める。原文からの引用を取り入れることを心がける。なお、受講者は上記  
三作のうち少なくとも一作は精読しておくことが望ましい。
- 成績評価方法（総合） 期末試験により評価する。
- 教科書・参考書 教科書：プリントを配付する。／参考書：講義の中で紹介する。
- 備考 集中授業

開設科目	日本語学 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	添田建治郎				

●授業の概要 「音声・音韻」 日本語の音声・音韻とは何か、その働きと特徴などについての理解を深める。

●授業の一般目標 日本語は「日本人・日本文化を映し出す鏡」だと言われている。その表現手段としての日本語の「音声・音韻」について学習して基礎的な知識を得るとともに、それに関わる諸問題について考える。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：日本語の「音声・音韻」に関する基本的な知識・理解が身についているかを判断する。思考・判断の観点：日本語の「音声・音韻」に関する基本的な知識に基づいて、日本語について考える姿勢を養う。関心・意欲の観点：授業に対する取組を判断する。

●授業の計画（全体） 日本語学の諸分野のうち、「音声・音韻」に関する問題について取り扱う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回	項目 第一週	日本語が伝えるもの
第 2 回	項目 第二週	日本語伝えるもの
第 3 回	項目 第三週	ことばの形成
第 4 回	項目 第四週	音声・音韻とは何か
第 5 回	項目 第五週	音声・音韻とは何か
第 6 回	項目 第六週	音韻の有する働き
第 7 回	項目 第七週	音韻の有する働き
第 8 回	項目 第八週	母音と子音の調音の方法
第 9 回	項目 第九週	母音と子音の調音の方法
第 10 回	項目 第十週	語頭と語中尾の調音
第 11 回	項目 第十一週	語頭と語中尾の調音
第 12 回	項目 第十二週	日本語の音声組織
第 13 回	項目 第十三週	日本語の音声組織
第 14 回	項目 第十四週	日本語の音声組織
第 15 回	項目 第十五週	筆記試験

●成績評価方法（総合） 試験 50%、関心・意欲 30%、出席 20%（質問カード）

●教科書・参考書 教科書：新しい国語学, 佐田智明、添田建治郎ほか, 朝倉書店, 1988 年；生協で購入、2 年生は共通教育の言語学で昨年購入したものと同一ものを使う。

●メッセージ 昨今押され気味の日本語の大切さを再認識しよう。

●連絡先・オフィスアワー 電話（933-5249）オフィスアワー：添田建治郎研究室（火曜日の 1 時～2 時 30 分）

開設科目	日本語学 II	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	添田建治郎				

- 授業の概要 「音声・音韻・文字」前期の継続。併せて「文字」の成立と展開にも言及する。
- 授業の一般目標 前期に同じ。新たに「文字」を加えて、いかに日本語が「日本人・日本文化を映し出す鏡」であるかを理解する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：日本語の「音声・音韻・文字」に関する基本的な知識・理解が身についているかを判断する。思考・判断の観点：日本語の「音声・音韻・文字」に関する基本的な知識に基づいて、日本語について考える姿勢を養う。関心・意欲の観点：授業に対する取組を判断する。
- 授業の計画（全体）日本語の諸分野のうち、「音声・音韻・文字」に関する問題について取り扱う。
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等
  - 第 1 回 項目 音素という単位
  - 第 2 回 項目 音素という単位
  - 第 3 回 項目 母音の無声化
  - 第 4 回 項目 母音の無声化
  - 第 5 回 項目 漢字の伝来
  - 第 6 回 項目 漢字の和化
  - 第 7 回 項目 万葉仮名の成立
  - 第 8 回 項目 万葉仮名の転用
  - 第 9 回 項目 宣命体の仮名表記
  - 第 10 回 項目 変体仮名の成立
  - 第 11 回 項目 変体仮名から片仮名へ
  - 第 12 回 項目 片仮名の成立
  - 第 13 回 項目 草仮名から平仮名へ
  - 第 14 回 項目 平仮名の成立
  - 第 15 回 項目 筆記試験
- 成績評価方法（総合）試験 50%、関心・意欲 30%、出席 20%（質問カード）
- 教科書・参考書 教科書：新しい国語学, 佐田智明、添田建治郎他, 朝倉書店, 1988 年；生協で購入。2 年生は共通教育の言語学で昨年購入したのと同じものを使う。
- メッセージ 昨今押され気味の日本語の大切さを再認識しよう。
- 連絡先・オフィスアワー 電話（933-5249）、オフィスアワー：添田建治郎研究室（火曜日の1時～2時30分）

開設科目	日本語史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	磯部佳宏				

- 授業の概要 ~文法史~ 主として、平安時代の文法と、現代語の文法を比較しながら、その歴史的变化について考える。
- 授業の一般目標 日本語の文法を通史的に概観することにより、日本語文法の本質的な特徴や問題点を考察する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 日本語の文法史に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。 思考・判断の観点： 日本語の文法史に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。 関心・意欲の観点： 授業に対する取り組みを判断する。
- 授業の計画（全体） ○動詞の活用の種類の変遷 ○活用形の用法の変遷 ○形容詞・形容動詞の変遷 ○主格に関わる助詞の用法の変遷 ○係り結びの変遷 ○文法史のまとめ
- 成績評価方法 (総合) 期末試験を主たる評価の対象とする。 毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。
- 教科書・参考書 教科書： 日本語史, 沖森卓也, おうふう, 1989 年； 教科書は生協で扱う。昨年度「日本語学」の授業で使用したものを継続使用。

開設科目	日本語史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	磯部佳宏				

- 授業の概要 ～待遇表現史～ 日本語の特色のひとつである「敬語」について、待遇表現の一部として扱い、その歴史について考察する。
- 授業の一般目標 日本語の敬語を通史的に概観することにより、その本質的な特徴や問題点を考察する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 日本語の待遇表現史に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。 思考・判断の観点： 日本語の待遇表現史に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。 関心・意欲の観点： 授業に対する取り組みを判断する。
- 授業の計画（全体） ○待遇表現とは ○敬語の分類 ○尊敬語の歴史 ○謙譲語の歴史 ○丁寧語の歴史 ○待遇表現史のまとめ
- 成績評価方法（総合） 期末試験を主たる評価の対象とする。 毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらおう。
- 教科書・参考書 教科書： 日本語史, 沖森卓也, おうふう, 1989 年； 教科書は生協で扱う。昨年度「日本語学」の授業で使用したものを継続使用。

開設科目	日本語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	添田建治郎				

●授業の概要 「アクセントの研究」 日本語のアクセントについて、その機能、成立と変遷、方言の実態・分布、調査法等を述べる。

●授業の一般目標 言語におけるアクセントの意義について理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：日本語のアクセントについて、その機能、特徴、成立と変遷等について理解する。 思考・判断の観点：日本語のアクセントを分析する視点を獲得する。 関心・意欲の観点：日本語のアクセントの意義を再認識する。

●授業の計画（全体） 日本語のアクセントの機能、特徴、成立と変遷、方言の実態・分布等を述べる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 導入
- 第 2 回 項目 アクセントとは何か
- 第 3 回 項目 アクセントの意義
- 第 4 回 項目 アクセントの意義
- 第 5 回 項目 アクセントとイントネーション
- 第 6 回 項目 日本語アクセントの特徴
- 第 7 回 項目 日本語アクセントの機能
- 第 8 回 項目 日本語アクセントの機能
- 第 9 回 項目 日本語アクセントの機能
- 第 10 回 項目 日本語アクセントの単位
- 第 11 回 項目 日本語アクセントの単位
- 第 12 回 項目 アクセントの型
- 第 13 回 項目 アクセントの成立・変遷
- 第 14 回 項目 アクセントの分布
- 第 15 回 項目 筆記試験

●成績評価方法（総合） 定期試験，質問カード，出席

●教科書・参考書 教科書：佐田智明他『新しい国語学』（朝倉書店）

●連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階（933-5249） オフィスアワー：火曜日1時～2時30分

開設科目	日本語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	林伸一				

●授業の概要 日本語教授法の一つとして考えた構成的グループ・エンカウンターについて体験的に理解する。実施の手順、留意点、効果などについて検討する。特にインストラクションの進め方、シェアリングのまとめかたなどについて、実際場面に近づけた形で実施しながら、授業参加者同士でディスカッションする。日本語教師になるための資質についても検討し、解説を加える。特に「言語と文化」の中では異文化間理解、「言語と教育」の分野では、第二言語習得の問題、「言語と心理」の中ではカウンセリングの分野を重点的に扱う。／検索キーワード 参加、体験、振り返り

●授業の一般目標 1、授業参加者間の人間関係・リレーションづくりを大切にする。2、授業を通しての自己理解、他者理解、相互理解を促進する。3、日本語教師・国語教師の役割と心構えなど教師論について考える。4、日本語を教えるとは、どういう意味をもつのかを検討する。5、適切なエクササイズを進め方、実施方法について考える。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1、構成的グループ・エンカウンターとは何か説明できる。2、人間関係づくり・リレーションづくりの大切さを体験的に理解する。思考・判断の観点：1、「言語と文化」の関係について考える。2、「言語と教育」の関係について考える。3、「言語と心理」の関係について考える。関心・意欲の観点：1、外国人に日本語を教えることに関心と意欲をもつ。2、日本人同士の中にある異文化に関心と興味をもつ。3、異文化とのコミュニケーションに意欲と関心をもつ。態度の観点：1、恥ずかしがらずに自己開示する。2、他者理解につとめ、他者を尊重する。技能・表現の観点：1、他者の立場を尊重しながらも、自己主張する。2、自分の考えを率直に簡潔に言い、書ける。3、適切な質問力を身につける。

●授業の計画（全体）上記の目標達成のため実習を中心に授業を進め、関連するエクササイズを参加体験型で実施する。シェアリングを通して、認知の修正、拡大をはかる。各回ごとに「ふりかえりシート」に記入し、質問があれば答えるようにする。

●成績評価方法（総合）主に授業内レポートと学期末レポートおよび出席により評価する。

●教科書・参考書 教科書：未定／参考書：未定

●メッセージ 教員志望者、留学生の参加を歓迎する。

●連絡先・オフィスアワー 人文学部 2 階 210-2 号室、オフィスアワー：木曜 11 時～12 時 E-mail:hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯：090-6415-8203



開設科目	日本語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	林伸一				

- 授業の概要 前期授業に準ずる。ただし、構成的グループ・エンカウンターを次の点で応用することを検討する。留学生支援の可能性、異文化間理解の可能性、キャリア教育の可能性など。日本語教師としての自己理解、他者理解、相互理解のためのエクササイズ開発の可能性についても検討する。ソーシャル・スキル・トレーニングと構成的グループエンカウンターの違いについても考える。／検索キーワード 参加、体験、振り返り、分かち合い
- 授業の一般目標 1、異文化間理解に役立つエンカウンター・エクササイズを実施し、検討する。2、キャリア教育に役立つエンカウンター・エクササイズを実施し、検討する。3、ソーシャル・スキル・トレーニングとエンカウンター・エクササイズの違いを理解する。4、ペアワークの可能性とインタビューにおける質問力について検討する。5、その他
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：1、内なる異文化：地域差、男女差、年齢差などについて理解する。2、生涯発達論の観点から、キャリア・デザインを考える。思考・判断の観点：1、類義語や類似表現について違いを考える。2、カタカナ語とその言い換え語について、その差異を考える。関心・意欲の観点：1、身の回りの日本語表現についての関心を高める。2、微妙なニュアンスの違いなどについて、調べてみる意欲をもつ。態度の観点：1、わからないことをそのままにしておかないで、積極的に調べたり、聞いたりする態度を形成する。2、授業内容に集中する態度を形成する。技能・表現の観点：1、他者理解のための質問力を身につける。2、他者の立場を尊重しながらも、自己主張できるようにする。
- 授業の計画（全体）上記の目標達成のために対話的な授業を行なう。参加体験型のコミュニケーション重視の授業を実施する。
- 成績評価方法（総合）出席、レポートを重視し、テストは行なわない。
- 教科書・参考書 教科書：未定／参考書：未定
- メッセージ 日本語教師志望者、留学生の参加を歓迎する。他学科、他コースの学生の参加を歓迎する。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部2階 210-2号室、オフィスアワー：木曜 11時～12時 E-mail: hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯：090-6415-8203

開設科目	日本語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	磯部佳宏				

- 授業の概要 ～文法論と文法学史～ 近世以前の文法学史を概観するとともに、近代以降の代表的な文法論を紹介しながら、日本語の文法研究史と、その特徴について考察する。
- 授業の一般目標 日本語の文法論と文法学史に関する基礎知識を身に付けるとともに、日本語の文法研究に関する諸問題について考える。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 日本語の文法論と文法学史に関する基本的な知識が身に付いているかを判断する。 思考・判断の観点： 日本語の文法論と文法学史に関する基本的な知識を使って、思考力を判断する。 関心・意欲の観点： 授業に対する取り組みを判断する。
- 授業の計画（全体） ○中世の「てにをは」研究 ○近世の文法研究－富士谷成章、本居宣長、鈴木胤、本居春庭、東条義門 ○近代の文法研究－大槻文彦、山田孝雄、松下大三郎、橋本進吉、時枝誠記
- 成績評価方法（総合） 期末試験を主たる評価の対象とする。 毎回、授業時に用紙を配布し、出席の確認を兼ねて、指示する内容について記入してもらう。
- 教科書・参考書 教科書： 国語文法論, 渡辺実, 笠間書院, 1974 年； 教科書は生協で扱う。

開設科目	日本語学講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	添田建治郎				

●授業の概要 万葉集の巻八～十所収の歌を対象に、万葉仮名で表記された本文の訓読に関して、従来の訓読説と新しく出た注釈書の訓みとを比較しながらその当否を考える。／検索キーワード 万葉仮名、訓読、古辞書

●授業の一般目標 古辞書の意義を理解しその活用方法に習熟しつつ、上代～中古の仮名文献から類例を検索して、万葉仮名で表記された歌謡本文の訓読についての従来説の再検討を試みる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：古辞書の意義を理解しその活用方法に習熟する。思考・判断の観点：古辞書の記述と類例とを対照させそれらを分析しながら、万葉仮名で表記された歌謡本文のあるべき訓読を考察する。関心・意欲の観点：各歌の歌謡本文における万葉仮名表記の意図を考える。

●授業の計画（全体）万葉集の巻八～十所収の歌の訓読に関して、受講者各自が、従来の訓読説と新しく出た注釈書の訓みとに相違のある箇所を探し、その当否を考える。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 導入（資料の扱いの指導）

第 2 回 項目 これ以下、万葉集巻八～十から各人1 課題を取り上げレポートする

第 3 回 項目 学生のレポート

第 4 回 項目 学生のレポート

第 5 回 項目 学生のレポート

第 6 回 項目 学生のレポート

第 7 回 項目 学生のレポート

第 8 回 項目 学生のレポート

第 9 回 項目 学生のレポート

第 10 回 項目 学生のレポート

第 11 回 項目 学生のレポート

第 12 回 項目 学生のレポート

第 13 回 項目 学生のレポート

第 14 回 項目 学生のレポート

第 15 回 項目 レポートの提出

●成績評価方法（総合）質問票，出席，レポートの内容

●教科書・参考書 教科書：佐竹昭広他『万葉集本文篇』（塙書房）

●連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階(933-5249) オフィスアワー：火曜日 1:00～2:30

開設科目	日本語学講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	添田建治郎				

●授業の概要 前半は前期の継続。後半は『日本言語地図』に見られる方言地図の分布について、その分布形成の過程の解明を試みる。／検索キーワード 方言地図, 方言語史, 分布解釈

●授業の一般目標 方言地図の分布には、日本語のたどってきた縦の歴史が、横に平面に分布している。方言分布の解釈から、日本語の語史を明らかにする。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：日本語の歴史に関心を寄せ、日本語の再発見に繋げる。思考・判断の観点：方言地図の分布をみて分布図を分析・解釈する能力を身につける。関心・意欲の観点：自国の言語に対する理解を深める。

●授業の計画（全体）各自が担当する地図を持ち寄り一人が一枚の地図を読む。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 前期に引き続き学生レポート

第 2 回 項目 学生レポート（万葉集）

第 3 回 項目 学生レポート（万葉集）

第 4 回 項目 学生レポート（万葉集）

第 5 回 項目 学生レポート（万葉集）

第 6 回 項目 学生レポート（万葉集）

第 7 回 項目 学生レポート（万葉集）

第 8 回 項目 学生レポート（言語地図）

第 9 回 項目 学生レポート（言語地図）

第 10 回 項目 学生レポート（言語地図）

第 11 回 項目 学生レポート（言語地図）

第 12 回 項目 学生レポート（言語地図）

第 13 回 項目 学生レポート（言語地図）

第 14 回 項目 学生レポート（言語地図）

第 15 回 項目 レポートの提出

●成績評価方法（総合）質問票，出席，レポートの内容

●教科書・参考書 教科書：研究室所蔵の国立国語研究所編『日本言語地図』／参考書：徳川宗賢編『日本の方言地図』（中央公論社）

●連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階(933-5249) オフィスアワー：火曜日 1:00～2:30

開設科目	日本語学講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	林伸一				

- 授業の概要 一方的な講義形式ではなく、テーマごとに参加者の発表形式で進めていく。日本語教師または国語教師としての教育実習のリハーサルになるような発表を試みる。発表は、模擬授業形式で、教案・教材をあらかじめ準備し、参加者を学習者に見立てて行なう。／検索キーワード 日本語教育、異文化理解、発表力、表現力
- 授業の一般目標 1、先輩の研究論文を先行研究として読み解いていく。2、すでに発表された論文でも批判的に読む。3、プレゼンテーションのしかたを体験的に学ぶ。4、フィードバックのしかたを体験的に学ぶ。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：1、引用のしかたを学ぶ 2、参考文献の提示のしかたを学ぶ 思考・判断の観点：1、先行研究を基に自論を展開できるようにする 2、先行研究を鵜呑みにするのではなく批判的に読む 関心・意欲の観点：1、自分の関心のある分野でレポートを書いてみる 2、振り返りを意欲的に実行する 態度の観点：1、まじめに課題に取り組む態度を養う。2、不明な点をじっくり調べる態度を養う。 技能・表現の観点：1、板書の仕方を工夫する 2、ハンドアウトの作り方を工夫し、わかりやすくする 3、パネルの提示の仕方を工夫する
- 授業の計画（全体）上記の目標達成のために対話的に授業を進めていく。分担者が発表し、参加が検討を加えていく。
- 成績評価方法（総合）出席と発表、レポートを重視し、テストはしない。
- 教科書・参考書 教科書：おいでませ山口1（2005）、日本語クラブ山口発行／参考書：しあわせます山口1、（山口県日本語教育ネットワーク発行）
- メッセージ 日本語教師、国語教師を目指す人を歓迎する。外国人留学生、日本人の海外派遣留学生の参加を歓迎する。
- 連絡先・オフィスアワー 木曜、3-4 時限目、人文棟 2 階 210-2 号室、hayashix@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	日本語学講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	林伸一				

- 授業の概要 日本語教育を異文化コミュニケーションの現場としてとらえ直すことによって、他者とのかわり方や自分自身のコミュニケーションスタイルなどについての「自己」への気づきを促す。／検索キーワード 自己理解、他者理解、異文化理解
- 授業の一般目標 1、異文化とは何か考える。2、自分とは何かを考える。3、イメージとステレオタイプについて考える。4、人と出会うということについて考える。5、人とコミュニケーションすることについて考える。6、非言語コミュニケーションについて考える。7、価値観の相違を考える。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：1、文化とは何か、異文化とは何かについて理解する 2、ジョハリの窓について知識と理解を深める 思考・判断の観点：1、ステレオタイプを崩していく 2、出会いと人生のドラマ 関心・意欲の観点：1、言語的コミュニケーションへの関心と意欲 2、非言語コミュニケーションへの関心と意欲 態度の観点：1、価値観が違う者への態度 2、多文化共生社会への態度 技能・表現の観点：1、自己開示、自己表現、自己主張能力 2、質問力
- 授業の計画（全体） 上記目標を達成するために対話的な授業を行なう。テキストの章ごとの発表をする。
- 成績評価方法（総合） 出席、発表、レポートを重視し、テストは行なわない。
- 教科書・参考書 教科書：おいでませ山口3（2005）、日本語クラブ山口発行／参考書：多文化共生時代の日本語教育、縫部義憲、瀝々社、2002年；多文化共生のコミュニケーション、徳井厚子、アルク、2002年
- メッセージ 日本語教師志望者・国語教師志望者・海外派遣留学生・外国人留学生歓迎
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部2階210-2号室、オフィスアワー：木曜11時～12時 E-mail:hayashix@yamaguchi-u.ac.jp 携帯：090-6415-8203

開設科目	日本語学講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	磯部佳宏				

●授業の概要 ～古文の文法～ 主として高校生や大学教養向けに執筆された古典文法のテキストの、「助動詞」「助詞」について説明された箇所を演習形式で購読する。

●授業の一般目標 古典語の「助動詞」「助詞」について、自発的に問題提起をし、調査発表をする。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 問題点の設定と取り組み。 思考・判断の観点： 発表資料のまとめ方。 関心・意欲の観点： 質疑応答への参加度。 技能・表現の観点： 口頭発表における技術、表現。

●授業の計画（全体） テキストにより提起されている問題点や、テキストとは異なる立場の学説などについて、調査を行い、資料を作成して口頭発表してもらう。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業ガイダンス（1）
- 第 2 回 項目 授業ガイダンス（2）
- 第 3 回 項目 演習形式による発表（1）
- 第 4 回 項目 演習形式による発表（2）
- 第 5 回 項目 演習形式による発表（3）
- 第 6 回 項目 演習形式による発表（4）
- 第 7 回 項目 演習形式による発表（5）
- 第 8 回 項目 演習形式による発表（6）
- 第 9 回 項目 演習形式による発表（7）
- 第 10 回 項目 演習形式による発表（8）
- 第 11 回 項目 演習形式による発表（9）
- 第 12 回 項目 演習形式による発表（10）
- 第 13 回 項目 演習形式による発表（11）
- 第 14 回 項目 演習形式による発表（12）
- 第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合） 授業時の口頭発表。 質疑応答への参加度。 テキストの例文の現代語訳。 期末レポート。（口頭発表が2度の場合は実施しない）

●教科書・参考書 教科書： 古文の文法, 馬淵和夫, 武蔵野書院, 1963 年； テキストは現在絶版のため、プリント配布。／ 参考書： 古典語現代語助詞助動詞詳説, 松村明, 学燈社； 国語助動詞の研究 体系と歴史, 此島正年, おうふう； 論集日本語研究7 助動詞, 有精堂； 国文法講座2, 明治書院； 岩波講座日本語7 文法 II, 岩波書店

開設科目	日本語学講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	磯部佳宏				

●授業の概要 ～古文の文法～ 主として高校生や大学教養向けに執筆された古典文法のテキストの、「助動詞」「助詞」について説明された箇所を演習形式で購読する。

●授業の一般目標 古典語の「助動詞」「助詞」について、自発的に問題提起をし、調査発表をする。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：問題点の設定と取り組み。思考・判断の観点：発表資料のまとめ方。関心・意欲の観点：質疑応答への参加度。技能・表現の観点：口頭発表における技術、表現。

●授業の計画（全体）テキストにより提起されている問題点や、テキストとは異なる立場の学説などについて、調査を行い、資料を作成して口頭発表してもらう。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業ガイダンス
- 第 2 回 項目 演習形式による発表（1）
- 第 3 回 項目 演習形式による発表（2）
- 第 4 回 項目 演習形式による発表（3）
- 第 5 回 項目 演習形式による発表（4）
- 第 6 回 項目 演習形式による発表（5）
- 第 7 回 項目 演習形式による発表（6）
- 第 8 回 項目 演習形式による発表（7）
- 第 9 回 項目 演習形式による発表（8）
- 第 10 回 項目 演習形式による発表（9）
- 第 11 回 項目 演習形式による発表（10）
- 第 12 回 項目 演習形式による発表（11）
- 第 13 回 項目 演習形式による発表（12）
- 第 14 回 項目 演習形式による発表（13）
- 第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合）授業時の口頭発表。質疑応答への参加度。テキストの例文の現代語訳。期末レポート。（口頭発表が2度の場合は実施しない）

●教科書・参考書 教科書：古文の文法, 馬淵和夫, 武蔵野書院, 1963 年；テキストは現在絶版のため、プリント配布。



開設科目	日本語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	添田建治郎				

- 授業の概要 狂言資料としての、鷺流の山口大学棲息堂文庫所蔵本を読む。中世日本語の語彙等の表記について考える。／検索キーワード 狂言, 鷺流, 中世日本語, 流派
- 授業の一般目標 山口大学棲息堂文庫所蔵本の本文の表記の確認, 鷺流諸本の比較と他流派の本文との系統関係について考察する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：中世日本語の語彙, 文法について考える。思考・判断の観点：鷺流諸本の比較と他流派の本文との系統関係について考える。関心・意欲の観点：自国の言語の歴史を考える。
- 授業の計画（全体）山口大学棲息堂文庫所蔵本の本文を一人1ページ宛て読み1課題を報告する。
- 成績評価方法（総合）質問票, 出席, レポートの内容
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階 (933-5249) オフィスアワー：火曜日 1:00～2:30

開設科目	日本語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	添田建治郎				

- 授業の概要 狂言資料としての、鷺流の山口大学棲息堂文庫所蔵本を読む。中世日本語の語彙等の表記について考える。／検索キーワード 狂言, 鷺流, 中世日本語, 流派
- 授業の一般目標 山口大学棲息堂文庫所蔵本の本文の表記の確認, 鷺流諸本の比較と他流派の本文との系統関係について考察する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：中世日本語の語彙・文法について考える。思考・判断の観点：鷺流諸本の比較と他流派の本文との系統関係について考える。関心・意欲の観点：自国の言語の歴史について考える。
- 授業の計画（全体） 山口大学棲息堂文庫所蔵本の本文を一人1ページ宛て読み1課題を報告する。
- 成績評価方法（総合） 質問票, 出席, レポートの内容
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階 (933-5249) オフィスアワー火曜日 1:00～2:30

開設科目	日本語学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	添田建治郎				

- 授業の概要 4年生を対象とする卒業論文指導と臨地に行う方言実地調査をセットにした授業を実施する。  
／検索キーワード 卒業論文, 方言実地調査
- 授業の一般目標 卒業論文の意義などの指導・助言を通じて卒業論文の課題を決定する。調査の意図を理解させ、方言調査票の作成、実地調査の体験、資料分析、記述方法の習得を目指す
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：卒業論文と方言調査の意義を理解させる。思考・判断の観点：論文構成力、方言資料の分析力を高める。関心・意欲の観点：自国の言語に対する関心を高める。
- 授業の計画（全体）卒業論文指導に関しては中間発表会を、方言調査は兵庫県全域のアクセント調査を予定している。
- 成績評価方法（総合）発表や調査への取組を判断する。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階(933-5249) オフィスアワー：火曜日 1:00～2:30

開設科目	日本語学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	添田建治郎				

- 授業の概要 4年生を対象とする卒業論文指導と臨地に行う方言実地調査をセットにした授業を実施する。  
／検索キーワード 卒業論文, 方言実地調査
- 授業の一般目標 卒業論文の中間発表などの指導・助言を通じて卒業論文の完成を目指す。方言調査の意図を理解させ、方言調査票の作成、実地調査の体験、資料分析、記述方法の習得を目指す。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：卒業論文と方言調査の意義を理解させる。思考・判断の観点：論文構成力、方言資料の分析力を高める。関心・意欲の観点：自国の言語への関心を高める。
- 授業の計画（全体）卒業論文指導に関しては題目の発表会を、方言調査は兵庫県全域のアクセント調査を予定している。
- 成績評価方法（総合）発表や調査への取組を判断する。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階(933-5249) オフィスアワー：火曜日 1:00～2:30

開設科目	日本語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	林伸一				

- 授業の概要 卒業研究論文のテーマの立て方、研究計画書の書き方、目次の立て方、データの集め方などの実際の卒論生の事例を検討しながら進めていく。／検索キーワード 文章力、質問力、表現力
- 授業の一般目標 1、卒業研究のテーマの立て方を具体的に考える。2、研究計画書を個人が実際に書いてみる。3、研究計画に沿って、目次を書いてみる。4、データの集め方、先行研究の集め方を検討する。5、データの整理の仕方、分析の仕方を検討する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：1、引用の仕方2、図や表のタイトルのつけかた3、参考文献の示し方 思考・判断の観点：1、一般論と具体例を区別する2、論理の展開に一貫性があるかどうかを考える3、説得力のある文章を考える 関心・意欲の観点：1、自分の関心・意欲を明確にする2、前向きに困難に対処する3、目標を立てて動機付けする 態度の観点：1、積極的に授業に参加する2、わからないことをそのままにしないで調べる3、不明な点は質問する 技能・表現の観点：1、口頭での発表力をつける2、図や表でわかりやすく表現する能力をつける3、コンピューターを使いこなす
- 授業の計画（全体）上記の目標達成のため、授業を対話的に進める
- 成績評価方法（総合）授業内の質問感想カードを毎回提出、期末の授業外レポート及び授業内での発表や出席・授業態度を重視する
- 教科書・参考書 教科書：山口支部紀要, JALT, JECA, 2004 年／参考書：齋藤孝（2003）『質問力』筑摩書房
- メッセージ 日本人だからといって読み書き能力が十分とは限らない。しっかりした文章が書けるようになるろう。
- 連絡先・オフィスアワー hayashix@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー木曜日：11 時－12 時 携帯：090-6415-8203

開設科目	日本語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	林伸一				

- 授業の概要 前期の概要に準ずるが、その発展として、卒業論文の内容の吟味に入り、文章記述に一貫性、整合性、説得力があるか否かを検討する。参加者も傍観的に見るのではなく、もし自分が書き手だったら、どう考え、どう書くか主体的に関わるようにする。／検索キーワード 文章力、説得力、質問力、表現力、発表力
- 授業の一般目標 1、文章記述に一貫性、整合性、説得力があるかという視点から検討する。2、文章記述に無駄や重複がないか、簡潔に書かれているかを検討する。3、文章記述にわかりやすい適切な具体例が示されているか否かを検討する。4、気づいたこと、感じたこと、考えたことを書き留める習慣を形成する。5、参加者の前で資料に基づいて発表する力：プレゼンテーション能力をつける。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：前期に同じ 思考・判断の観点：前期に同じ 関心・意欲の観点：前期に同じ 態度の観点：前期に同じ 技能・表現の観点：前期に同じ
- 授業の計画（全体）上記の目標達成のために、授業を対話的に進める。
- 成績評価方法（総合）前期に同じ
- 教科書・参考書 教科書：未定／参考書：プリント配布
- メッセージ 興味、関心を形にする。
- 連絡先・オフィスアワー hayashix@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：木曜 11-12 時 携帯 090 - 6415-8203

開設科目	日本語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	磯部佳宏				

●授業の概要 ～平安後期文学の語法・語彙(1)～ 平安後期物語『堤中納言物語』を演習形式で講読し、その語法・語彙について考察する。

●授業の一般目標 平安後期文学の語法・語彙について、自発的に問題提起をし、調査発表をする。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 問題点の設定と取り組み。 思考・判断の観点： 発表資料のまとめ方。 関心・意欲の観点： 質疑応答への参加度。 技能・表現の観点： 口頭発表における技術、表現。

●授業の計画（全体） 当該作品の語法・語彙について調査するとともに、適宜、『源氏物語』『枕草子』などの平安中期の作品や、中世の作品の語法・語彙との比較も行い、資料を作成して口頭発表してもらう。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業ガイダンス（1）
- 第 2 回 項目 授業ガイダンス（2）
- 第 3 回 項目 授業ガイダンス（3）
- 第 4 回 項目 演習形式による発表（1）
- 第 5 回 項目 演習形式による発表（2）
- 第 6 回 項目 演習形式による発表（3）
- 第 7 回 項目 演習形式による発表（4）
- 第 8 回 項目 演習形式による発表（5）
- 第 9 回 項目 演習形式による発表（6）
- 第 10 回 項目 演習形式による発表（7）
- 第 11 回 項目 演習形式による発表（8）
- 第 12 回 項目 演習形式による発表（9）
- 第 13 回 項目 演習形式による発表（10）
- 第 14 回 項目 演習形式による発表（11）
- 第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合） 授業時の口頭発表。 質疑応答への参加度。 テキストの現代語訳。 期末レポート。（口頭発表が 2 度の場合は実施しない）

●教科書・参考書 教科書： 堤中納言物語, 塚原鉄雄編, 武蔵野書院, 1959 年； 教科書は生協で取り扱う。／ 参考書： 堤中納言物語（日本古典文学大系 13）, 寺本直彦, 岩波書店, 1957 年； 堤中納言物語（日本古典文学全集 10）, 稲賀敬二, 小学館, 1972 年； 堤中納言物語（新潮日本古典集成 56）, 塚原鉄雄, 新潮社, 1983 年； 堤中納言物語（新日本古典文学大系）, 大槻修, 岩波書店, 1992 年

開設科目	日本語学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	磯部佳宏				

●授業の概要 ～平安後期文学の語法・語彙(2)～院政期成立の女流日記文学『讃岐典侍日記』を演習形式で講読し、その語法・語彙について考察する。

●授業の一般目標 平安後期文学の語法・語彙について、自発的に問題提起をし、調査発表をする。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：問題点の設定と取り組み。思考・判断の観点：発表資料のまとめ方。関心・意欲の観点：質疑応答への参加度。技能・表現の観点：口頭発表における技術、表現。

●授業の計画(全体) 当該作品の語法・語彙について調査するとともに、適宜、『源氏物語』『枕草子』などの平安中期の作品や、中世の作品の語法・語彙との比較も行い、資料を作成して口頭発表してもらう。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業ガイダンス(1)
- 第 2 回 項目 授業ガイダンス(2)
- 第 3 回 項目 演習形式による発表(1)
- 第 4 回 項目 演習形式による発表(2)
- 第 5 回 項目 演習形式による発表(3)
- 第 6 回 項目 演習形式による発表(4)
- 第 7 回 項目 演習形式による発表(5)
- 第 8 回 項目 演習形式による発表(6)
- 第 9 回 項目 演習形式による発表(7)
- 第 10 回 項目 演習形式による発表(8)
- 第 11 回 項目 演習形式による発表(9)
- 第 12 回 項目 演習形式による発表(10)
- 第 13 回 項目 演習形式による発表(11)
- 第 14 回 項目 演習形式による発表(12)
- 第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法(総合) 授業時の口頭発表。質疑応答への参加度。テキストの現代語訳。期末レポート。(口頭発表が2度の場合は実施しない)

●教科書・参考書 教科書：讃岐典侍日記, 石井文夫編, 勉誠社文庫; テキストは現在絶版のため、プリント配布。／参考書：讃岐典侍日記(日本古典文学全集18), 石井文夫, 小学館, 1971年



開設科目	日本語学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	磯部佳宏				

- 授業の概要 ～卒論演習(1)～ 卒業論文作成のための具体的方法を習得するための演習。
- 授業の一般目標 学生各自のテーマにより、卒業論文作成を目指す。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点：日本語学に関する基本的な知識の確認。 思考・判断の観点：問題への取り組み方法。 関心・意欲の観点：自発的な研究意欲。 技能・表現の観点：資料の取り扱ひ方、参考文献の検索方法。
- 授業の計画（全体） 日本語学に関する基本知識の確認や、資料の取り扱ひ方、参考文献の検索方法などの指導を行う。口頭による題目発表を実施する。
- 成績評価方法（総合） 卒業論文に対する取り組みを評価する。
- 教科書・参考書 教科書：テキストは使用しない。

開設科目	日本語学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	磯部佳宏				

- 授業の概要 ～卒論演習(2)～ 卒業論文作成のための具体的方法を習得するための演習。
- 授業の一般目標 学生各自のテーマにより、卒業論文作成を目指す。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点：日本語学に関する基本的な知識の確認。 思考・判断の観点：問題への取り組み方法。 関心・意欲の観点：自発的な研究意欲。 技能・表現の観点：資料の取り扱い方、参考文献の検索方法。
- 授業の計画（全体） 日本語学に関する基本知識の確認や、資料の取り扱い方、参考文献の検索方法などの指導を行う。口頭による中間発表を実施するとともに、12,000字程度の中間レポートの提出を求める。
- 成績評価方法（総合） 卒業論文に対する取り組みを評価する。
- 教科書・参考書 教科書：テキストは使用しない。

開設科目	日本文学概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	尾崎千佳				

●授業の概要 【古典文学研究の方法論】日本古典文学研究のために必要な基礎知識を講述します。前期は、その方法論編として、トピックに即した主要論文を具体的に紹介しつつ、特に、中世—近世文学研究のための方法論を学びます。

●授業の一般目標 古典文学研究のための方法論を理解し、基礎知識を習得する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 古典文学研究の主要な方法論を理解する。2. 古典文学研究の基礎知識を習得する。

●授業の計画（全体） 「研究史と現在」「作家論と作品論」「ジャンルとスタイル」「註釈と解釈」「成立と伝来」の5つのトピックに沿いながら、各2—3時間程度で講述する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODakション 内容 授業概要の紹介・評価について
- 第 2 回 項目 研究史と現在 (1) 内容 研究史の出発点
- 第 3 回 項目 研究史と現在 (2) 内容 研究史を把握するためのツール集
- 第 4 回 項目 作家論と作品論 (1) 内容 作家論の方法と意義
- 第 5 回 項目 作家論と作品論 (2) 内容 作品論の方法と意義
- 第 6 回 項目 作家論と作品論 (3) 内容 作家論と作品論の相互補完性
- 第 7 回 項目 ジャンルとスタイル (1) 内容 ジャンルということ
- 第 8 回 項目 ジャンルとスタイル (2) 内容 スタイルということ
- 第 9 回 項目 註釈と解釈 (1) 内容 註釈・解釈の方法と意義
- 第 10 回 項目 註釈と解釈 (2) 内容 註釈・解釈から作品論へ
- 第 11 回 項目 成立と伝来 (1) 内容 伝本とは何か
- 第 12 回 項目 成立と伝来 (2) 内容 原典復原の方法と意義
- 第 13 回 項目 成立と伝来 (3) 内容 異文生成の理由
- 第 14 回 項目 まとめと補足 内容 授業内容のまとめと補足
- 第 15 回 項目 期末試験

●成績評価方法（総合） 授業内容に即した論述式期末試験により評価する。ただし、4回の無断欠席で期末試験受験資格を失う。

●教科書・参考書 教科書： 使用しない。毎時プリントを配布する。／参考書： 授業中に随時紹介する。

●連絡先・オフィスアワー 研究室；人文 508 電話；933-5257 E-mail；ozaki@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー；木曜 14:30-16:00

開設科目	日本文学概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	尾崎千佳				

●授業の概要 【古典文学研究のテクニック】日本古典文学研究のために必要な基礎知識を講述します。後期は、テクニックの習得編として、書誌学とくずし字解読の基本を実践的に学びます。

●授業の一般目標 古典文学研究のための基本テクニックを習得する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 書誌学の基本を理解する。2. さまざまな字母から派生した変体仮名の諸体を理解する。 技能・表現の観点：変体仮名を中心としたくずし字を解読できるようになる。

●授業の計画（全体） 「本をかたちづくるもの」「くずし字解読」の2つのトピックに沿って進める。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODakシON 内容 授業概要の紹介・評価について
- 第 2 回 項目 本をかたちづくるもの (1) 内容 書物の装丁
- 第 3 回 項目 本をかたちづくるもの (2) 内容 書物の大きさ
- 第 4 回 項目 本をかたちづくるもの 内容 版本の歴史
- 第 5 回 項目 くずし字解読 (1) 内容 変体仮名編—字母と諸体 (1)
- 第 6 回 項目 くずし字解読 (2) 内容 変体仮名編—字母と諸体 (2)
- 第 7 回 項目 くずし字解読 (3) 内容 変体仮名編—字母と諸体 (3)
- 第 8 回 項目 くずし字解読 (4) 内容 変体仮名編—字母と諸体 (4)
- 第 9 回 項目 くずし字解読チェックテスト
- 第 10 回 項目 くずし字解読 (5) 内容 主要漢字編 (1)—敬語・動詞
- 第 11 回 項目 くずし字解読 (6) 内容 主要漢字編 (2)—名詞・その他
- 第 12 回 項目 くずし字解読 (7) 内容 総合演習 (1)
- 第 13 回 項目 くずし字解読 (8) 内容 総合演習 (2)
- 第 14 回 項目 くずし字解読 (9) 内容 総合演習 (3)
- 第 15 回 項目 期末試験

●成績評価方法 (総合) 期末試験 (80 %) およびくずし字解読チェックテスト (20 %) により評価する。ただし、4 回の無断欠席で期末試験受験資格を失う。

●教科書・参考書 教科書： 仮名手引, 神戸平安文学会編, 和泉書院, 1981 年／ 参考書： 授業中に随時紹介する。

●連絡先・オフィスアワー 研究室; 人文 508 電話; 933-5257 E-mail; ozaki@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー; 木曜 14:30-16:00

開設科目	日本文学史 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	森野正弘				

●授業の概要 日本文学史において中古と区分される平安時代の文学状況について講義する。この時期は、和歌・物語・日記といった異なる文学形態の作品が生み出され、それぞれにおいて個性ある表現世界が展開している。それら平安文学作品の概要と特質について講義する。／検索キーワード 古典文学

●授業の一般目標 日本文学史において中古と区分される作品群について概要と特質を理解し、その歴史的展開に関する知識を修得する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 日本古典文学作品について概要と特質を説明できる。2. 日本古典文学作品の歴史的展開について説明できる。

●授業の計画（全体） 10世紀前半までの仮名文字による王朝文学の展開について講義する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 文学史の問題 内容 「王朝」の語義
- 第 2 回 項目 神話・伝承の世界 内容 古事記・日本書紀・風土記
- 第 3 回 項目 歌謡から歌へ 内容 万葉集
- 第 4 回 項目 仮名ことばの文学 (1) 内容 古今和歌集
- 第 5 回 項目 仮名ことばの文学 (2) 内容 古今和歌集
- 第 6 回 項目 女性仮託の表現 内容 土佐日記
- 第 7 回 項目 物語文学の出現 (1) 内容 竹取物語
- 第 8 回 項目 物語文学の出現 (2) 内容 竹取物語
- 第 9 回 項目 歌物語の展開 (1) 内容 伊勢物語
- 第 10 回 項目 歌物語の展開 (2) 内容 伊勢物語
- 第 11 回 項目 歌物語の展開 (3) 内容 大和物語
- 第 12 回 項目 歌物語の展開 (4) 内容 大和物語
- 第 13 回 項目 女流日記文学の創始 (1) 内容 蜻蛉日記
- 第 14 回 項目 女流日記文学の創始 (2) 内容 蜻蛉日記
- 第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合） 期末試験と小テストによる。

●教科書・参考書 教科書：適宜プリントを配布する。／参考書：別冊国文学『王朝物語必携』、藤井貞和・編、学燈社、1987年；別冊国文学『王朝女流日記必携』、秋山虔・編、学燈社、1986年；別冊国文学『竹取物語伊勢物語必携』、鈴木日出男・編、学燈社、1988年；別冊国文学『古典文学史必携』、久保田淳・編、学燈社、1992年；別冊国文学『古典文学基礎知識必携』、小町谷照彦・編、学燈社、1991年

●連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学史Ⅱ	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	森野正弘				

●授業の概要 日本文学史において中古と区分される平安時代の文学状況について講義する。この時期は、和歌・物語・日記といった異なる文学形態の作品が生み出され、それぞれにおいて個性ある表現世界が展開している。それら平安文学作品の概要と特質について講義する。／検索キーワード 古典文学

●授業の一般目標 日本文学史において中古と区分される作品群について概要と特質を理解し、その歴史的展開に関する知識を修得する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 日本古典文学作品について概要と特質を説明できる。2. 日本古典文学作品の歴史的展開について説明できる。

●授業の計画（全体） 10世紀後半から11世紀前半までの仮名文字による王朝文学の展開について講義する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 伝奇的な作り物語の展開 (1) 内容 うつほ物語
- 第 2 回 項目 伝奇的な作り物語の展開 (2) 内容 落窪物語
- 第 3 回 項目 文学史の問題 内容 「一条朝」という環境
- 第 4 回 項目 物語文学の達成 (1) 内容 源氏物語
- 第 5 回 項目 物語文学の達成 (2) 内容 源氏物語
- 第 6 回 項目 随筆文学の誕生 (1) 内容 枕草子
- 第 7 回 項目 随筆文学の誕生 (2) 内容 枕草子
- 第 8 回 項目 女流日記文学の展開 (1) 内容 和泉式部日記
- 第 9 回 項目 女流日記文学の展開 (2) 内容 和泉式部日記
- 第 10 回 項目 女流日記文学の展開 (3) 内容 紫式部日記
- 第 11 回 項目 女流日記文学の展開 (4) 内容 紫式部日記
- 第 12 回 項目 女流日記文学の展開 (5) 内容 更級日記
- 第 13 回 項目 歴史物語の登場 (1) 内容 栄花物語
- 第 14 回 項目 歴史物語の登場 (2) 内容 大鏡
- 第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合） 期末試験と小テストによる。

●教科書・参考書 教科書：適宜プリントを配布する。／参考書：別冊国文学『王朝物語必携』、藤井貞和・編、学燈社、1987年；別冊国文学『王朝女流日記必携』、秋山虔・編、学燈社、1986年；別冊国文学『古典文学基礎知識必携』、小町谷照彦・編、学燈社、1991年；別冊国文学『古典文学史必携』、久保田淳・編、学燈社、1992年

●連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	平野芳信				

●授業の概要 今回は「メディアの往還」とでもいうべき問題を考えたいと思う。メディアとは、もっとも広義にとれば、情報が送信者から受信者に移動する際に経由する媒体一般を指すと思われる。よって本講義では、様々なレベルにおける、メディア間の流通の問題を考えたいと思っている。もう少し具体的にいえば、「原作とは何か？」というアポリアの一斑を炙り出したと考えている。前年のこの場でも断っておいたが、シラバスの入力と実際の講義の間には、タイムラグがある。昨年は8ヶ月、今年の場合は10ヶ月である。内容的に時事的な問題を取り込む必要がある以上、以下提示する講義内容は、あくまでも予定であることはいうまでもない。

●授業の一般目標 この講義の最大の目論見は、日本文学、文化の現在を切り取ることにある。ある意味で、アクロバティックな内容にしたいと思っている。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 プレゼンテーション
- 第 2 回 項目 小説と映画（1）
- 第 3 回 項目 小説と映画（2）
- 第 4 回 項目 小説と映画（3）
- 第 5 回 項目 小説と映画（4）
- 第 6 回 項目 小説と映画（5）
- 第 7 回 項目 漫画とアニメーション
- 第 8 回 項目 歌詞と小説
- 第 9 回 項目 ノベライズの意味（1）
- 第10回 項目 ノベライズの意味（2）
- 第11回 項目 世界観の共有、あるいはスピニアウト（1）
- 第12回 項目 世界観の共有、あるいはスピニアウト（2）
- 第13回 項目 世界観の共有、あるいはスピニアウト（3）
- 第14回 項目 トリビュートと二次創作のはざままで（1）
- 第15回 項目 トリビュートと二次創作のはざままで（2）

●成績評価方法（総合） 定期試験（中間・期末試験）＝70％ 授業態度や授業への参加度＝10％ 出席＝20％

●教科書・参考書 教科書：毎回プリントを配布する。／参考書：適宜、紹介する。

●連絡先・オフィスアワー 個人研究室 933-5262 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：火曜日9.10時限

開設科目	日本文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	森野正弘				

●授業の概要 平安時代における物語文学の代表的作品である『源氏物語』を読み解きつつ、そこに孕まれている問題について取りあげ、研究史のうえで営まれてきた読みについて検討を加える。／検索キーワード 文学、源氏物語

●授業の一般目標 古典文学について研究・考察する力を身につける。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。思考・判断の観点：作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。関心・意欲の観点：自発的に古典文学を読み進め、関連する事項について調査する意欲を高める。態度の観点：古典文学に提起されている問題を主体的に考え、自ら探求することができるようになる。

●授業の計画（全体）物語の始まりとなる「桐壺」巻から「賢木」巻にかけて、主要な場面を取り上げ、それらについてどのような研究がなされてきたかを紹介していく。なお、毎回授業の冒頭で予習・復習を兼ねた小テストを実施する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 『源氏物語』の概説
- 第 2 回 項目 「桐壺」巻の問題
- 第 3 回 項目 「帚木」巻の問題
- 第 4 回 項目 「空蟬」巻の問題
- 第 5 回 項目 「夕顔」巻の問題 (1)
- 第 6 回 項目 「夕顔」巻の問題 (2)
- 第 7 回 項目 「若紫」巻の問題 (1)
- 第 8 回 項目 「若紫」巻の問題 (2)
- 第 9 回 項目 「末摘花」巻の問題
- 第 10 回 項目 「紅葉賀」巻の問題
- 第 11 回 項目 「花宴」巻の問題
- 第 12 回 項目 「葵」巻の問題 (1)
- 第 13 回 項目 「葵」巻の問題 (2)
- 第 14 回 項目 「賢木」巻の問題 (1)
- 第 15 回 項目 「賢木」巻の問題 (2)

●成績評価方法（総合） 期末試験と小テストによる。

●教科書・参考書 教科書：プリント、及び玉上琢弥訳注『源氏物語』第 1 巻～第 2 巻（角川文庫ソフィア）／参考書：新編日本古典文学全集『源氏物語（1）～（6）』，阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男，小学館，1994 年；別冊国文学『新・源氏物語必携』，秋山虔，學燈社，1997 年；源氏物語の鑑賞と基礎知識 1「桐壺」，鈴木一雄・神作光一，至文堂，2001 年；源氏物語の鑑賞と基礎知識 7「帚木」，鈴木一雄・中嶋尚，至文堂，1999 年；源氏物語の鑑賞と基礎知識 17「空蟬」，鈴木一雄・池浩三，至文堂，2001 年；源氏物語の鑑賞と基礎知識 8「夕顔」，鈴木一雄・中野幸一，至文堂，2000 年；源氏物語の鑑賞と基礎知識 5「若紫」，鈴木一雄・伊藤博，至文堂，1999 年；源氏物語の鑑賞と基礎知識 13「末摘花」，鈴木一雄・須田哲夫，至文堂，2000 年；源氏物語の鑑賞と基礎知識 22「紅葉賀・花宴」，鈴木一雄・伊藤博，至文堂，2002 年；源氏物語の鑑賞と基礎知識 9「葵」，鈴木一雄・宮崎莊平，至文堂，2000 年；源氏物語の鑑賞と基礎知識 10「賢木」，鈴木一雄・中野幸一，至文堂，2000 年

●メッセージ 80 パーセント以上の出席を条件とします。

●連絡先・オフィスアワー オフィスアワー：水曜日 5・6 時限



開設科目	日本文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	尾崎千佳				

●授業の概要 【連歌俳諧師の行動と文学】近世前期における連歌師・俳諧師の行動とその文学について、西山宗因・岡西惟中・井原西鶴などの場合を例に考察する。近世前期の文学は、京坂の新進町人層の経済的勃興によってもたらされたと一般に理解されてきたが、為政者層の文化的関心や宗教的象徴性の存在をも重要な要素として視野に入れつつ、連歌師および俳諧師という存在が、ときの幕藩体制のもとでいかなる役割を帯び、いかなる活躍をしたのか、その意義と背景につき、新知見を提出したい。／検索キーワード 連歌師、俳諧師、西山宗因、岡西惟中、井原西鶴

●授業の一般目標 1. 連歌師・俳諧師という存在の特殊性を、時代の思潮や政治的背景と併せて理解する。2. 研究上の問題設定と論証のあり方の例に触れ、自らの卒業論文への備えとする。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 連歌師・俳諧師の行動とその文学について理解する。 思考・判断の観点： 1. 研究上の問題設定と論証のあり方を習得する。

●授業の計画（全体）以下の3つのトピックを選択しつつ進める。(1) 大坂の復興と西山宗因 (2) もう一人の一時軒惟中 (3) 西鶴と武家社会

●成績評価方法（総合）主に期末テストによって評価する。4回の無断欠席でその受験資格を失う。

●教科書・参考書 教科書： 使用しない。／参考書： 授業時に適宜指示する。

●連絡先・オフィスアワー 研究室; 人文 508 電話;933-5257 E-mail;ozaki@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー; 木曜 14:30—16:00

開設科目	日本文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	小野美典				

●授業の概要 『小倉百人一首』を通して和歌文学の概要を知り、古典和歌研究の方法を身につけることを目標とする。『小倉百人一首』は、鎌倉時代に藤原定家が選んだとされる秀歌撰で、天智天皇から順徳院にいたる、上代・中古・中世の代表的歌人百人の和歌が収載されている。それらの和歌は選者定家の好みを反映しているとはいえ、各時代の和歌の概要をつかむには好個な作品といえる。今回は、この『小倉百人一首』の中から、平安末～鎌倉初期の時代の作品（主として後半部分の収載歌）を中心に引き上げ、平安末から鎌倉初期にかけての、歌人たちの概要と歌壇の趨勢を概説したい。なお、授業形態は、テキストと資料プリント（講師の側で用意）を参照しながら、板書と口頭での説明を中心とした講義形式とする。／検索キーワード 百人一首、藤原定家、和歌史

●授業の一般目標 古典和歌の解釈と鑑賞、そして研究の方法を身につけることを目標とする。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1) 『小倉百人一首』の成立の概要を知る。 2) 和歌史の概要を知る。 3) 和歌文学の研究法を身につける。 思考・判断の観点： 和歌作品を独自の力で解釈し鑑賞できるようにする。 関心・意欲の観点： 歌人・歌集に対する興味を持つ。 態度の観点： 歌人・歌集に関して自分で調査・研究する。 技能・表現の観点： 和歌解釈文・鑑賞文を書く。

●授業の計画（全体） 大きく三つの章段に分けて授業を進める。 第一章では、『小倉百人一首』の成立に関して概要を説明する。第二章では、平安末～鎌倉初期の歌人たちの歌を中心に、解釈と鑑賞を進める。具体的には、90 番歌以降を主として扱うことにする。第三章では、受講者の要望を取り入れて、1～89 番歌の中で要望の高い歌を解釈する。 なお、この授業では、各自で一～三首程の歌を担当して解釈・鑑賞文を作成してもらい、全員で『山大版 百人一首解釈と鑑賞』なる本を作成したいと思う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 百人一首の概説 1 内容 成立について
- 第 2 回 項目 百人一首の概説 2 内容 享受について
- 第 3 回 項目 百人一首の解釈と鑑賞 1
- 第 4 回 項目 百人一首の解釈と鑑賞 2
- 第 5 回 項目 百人一首の解釈と鑑賞 3
- 第 6 回 項目 百人一首の解釈と鑑賞 4
- 第 7 回 項目 百人一首の解釈と鑑賞 5
- 第 8 回 項目 百人一首の解釈と鑑賞 6
- 第 9 回 項目 百人一首の解釈と鑑賞 7
- 第 10 回 項目 百人一首の解釈と鑑賞 8
- 第 11 回 項目 百人一首の解釈と鑑賞 9
- 第 12 回 項目 百人一首の解釈と鑑賞 10
- 第 13 回 項目 百人一首の解釈と鑑賞 11
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 試験

●成績評価方法（総合） 出席点 20 パーセント、レポート（解釈・鑑賞文）点 40 パーセント、試験点 40 パーセント

●教科書・参考書 教科書：（講談社学術文庫）百人一首 全訳注、有吉保、講談社、1983 年；他に、講義中にプリントを配布し、それもテキストとして使う。／参考書：百人一首入門、有吉保・神作光一、淡交社、2004 年；（角川文庫）百人一首 新版、島津忠夫、角川書店、1999 年

●メッセージ 江戸時代の版本や写本の実物にも触れてもらう。生の資料の迫力を感じ取って欲しい。

開設科目	日本文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	中原 豊				

●授業の概要 詩人中原中也の詩の特質を、昭和初期までの代表的な日本の近代詩歌との比較を通じて捉える。／検索キーワード 中原中也 近代詩 詩

●授業の一般目標 まずは詩の本質と表現の特徴を理解し、中原中也の作品の読解を通じて、中也の詩と詩想、およびその成立に関わった先行文学あるいは同時代の文学についての理解を深める。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：詩の表現の特色、および日本の近代詩歌の特質を理解する。 思考・判断の観点：言葉によって形成されるイメージについて自覚的になり、さらにそれを拡充していく。 関心・意欲の観点：進んで中原中也および他の詩人の詩を読もうとする。 技能・表現の観点：自身の抱くイメージを自分なりの言葉で表現できる。

●授業の計画（全体）詩の本質について語った詩人の言葉を紹介し、中原中也が影響を受けた昭和初期までの日本の近代詩歌を概観した後に、中也の詩の特質の説明と読解を行う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 詩とは何か
- 第 2 回 項目 日本の近代詩歌 I 内容 近代短歌
- 第 3 回 項目 日本の近代詩歌 II 内容 文語詩と口語詩 I
- 第 4 回 項目 日本の近代詩歌 III 内容 文語詩と口語詩 II
- 第 5 回 項目 日本の近代詩歌 IV 内容 日本の象徴主義 I
- 第 6 回 項目 日本の近代詩歌 V 内容 日本の象徴主義 II
- 第 7 回 項目 日本の近代詩歌 VI 内容 モダニズム詩
- 第 8 回 項目 中原中也 I 内容 詩的履歴書・初期短歌
- 第 9 回 項目 中原中也 II 内容 ダダイズムと象徴主義
- 第 10 回 項目 中原中也 III 内容 『山羊の歌』の世界 1
- 第 11 回 項目 中原中也 IV 内容 『山羊の歌』の世界 2
- 第 12 回 項目 中原中也 V 内容 『在りし日の歌』の世界 1
- 第 13 回 項目 中原中也 VI 内容 『在りし日の歌』の世界 2
- 第 14 回 項目 おわりに 内容 中原中也と日本の近代詩
- 第 15 回 項目 予備

●成績評価方法（総合）期末試験による。

●教科書・参考書 教科書：『山羊の歌 中原中也詩集』、佐々木幹郎編、角川書店、1997 年；『在りし日の歌 中原中也詩集』、佐々木幹郎編、角川書店、1997 年／参考書：『詩とは何か』、嶋岡晨、新潮社、1998 年

●メッセージ 講義で取り上げる詩を読んでおいてください。

●連絡先・オフィスアワー 中原中也記念館（山口市湯田温泉 1-11-21 083-932-6430）

開設科目	日本文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	平野芳信				

●授業の概要 車谷長吉『赤目四十八瀧心中未遂』を読む。

●授業の一般目標 本年度の講読は、前年に引き続きいわゆる「私小説」を読みます。「私小説」とは日本のある種の小説に対してつけられた呼称ですが、多くの誤解に満ち満ちています。その誤解解くべくじっくり読んでいきたいと思ひます。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 映画と小説のはざまー原作とは何か？ー
- 第 3 回 項目 1. 作家論 車谷長吉 2. 『赤目四十八瀧心中未遂』の成立と背景
- 第 4 回 項目 一～三の精読
- 第 5 回 項目 四～六の精読
- 第 6 回 項目 七～十の精読
- 第 7 回 項目 十一～十三の精読
- 第 8 回 項目 十四～十七の精読
- 第 9 回 項目 十八～二十の精読
- 第 10 回 項目 二十一～二十二の精読
- 第 11 回 項目 二十三の精読
- 第 12 回 項目 二十四～二十五の精読
- 第 13 回 項目 先行研究論文精読（1）
- 第 14 回 項目 先行研究論文精読（2）
- 第 15 回 項目 先行研究論文精読（3）

●成績評価方法（総合）宿題／授業外レポート = 40 % 授業態度や授業への参加度 = 10 % 受講者の発表（プレゼン）や授業内での製作作業（作品） = 40 % 出席 = 10 %

●教科書・参考書 教科書：車谷長吉『赤目四十八瀧心中未遂』（文春文庫）テキストは文栄堂で販売します。／参考書：追って指示します。

●メッセージ 講読日誌を作成していただきますので、ノートを1冊準備しておいてください。

●連絡先・オフィスアワー 個人研究室 933-5262 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：水曜日9. 10時限

開設科目	日本文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	平野芳信				

●授業の概要 三島由紀夫『仮面の告白』を読む。

●授業の一般目標 前期に引き続き、「私小説」の問題考えるために『仮面の告白』を読みます。この作品は私小説の枠組みを逆手に取ってかかれたいわば「私小説の私小説」というきわめて興味深い特質をもっています。先行研究の精読の比重を高めつつ、じっくりと読んでいきたいと思えます。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回	項目	オリエンテーション	
第 2 回	項目	1. 作家論 三島由紀夫	2. 『仮面の告白』成立の背景
第 3 回	項目	第一章の精読	
第 4 回	項目	第二章の精読	
第 5 回	項目	第三章（前半）の精読	
第 6 回	項目	第三章（後半）の精読	
第 7 回	項目	第四章の精読	
第 8 回	項目	先行研究論文精読	
第 9 回	項目	先行研究論文精読	
第 10 回	項目	先行研究論文精読	
第 11 回	項目	先行研究論文精読	
第 12 回	項目	先行研究論文精読	
第 13 回	項目	先行研究論文精読	
第 14 回	項目	先行研究論文精読	
第 15 回	項目	先行研究論文精読	

●成績評価方法（総合）宿題／授業外レポート = 40 % 授業態度や授業への参加度 = 10 % 受講者の発表（プレゼン）や授業内での製作作業（作品） = 40 % 出席 = 10 %

●教科書・参考書 教科書：三島由紀夫 文庫『仮面の告白』（新潮社）テキストは文栄堂で販売する予定です。／参考書：追って指示します。

●メッセージ 講読日誌を作成していただきますので、ノートを1冊準備しておいてください。

●連絡先・オフィスアワー 個人研究室 933-5262 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：水曜日9. 10時限

開設科目	日本文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	森野正弘				

- 授業の概要 『伊勢物語』の講読。／検索キーワード 古典文学
- 授業の一般目標 古典文学について研究・考察する力を身につける。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。思考・判断の観点：作品に書かれた内容を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。関心・意欲の観点：自発的に古典文学を読み進め、関連する事項について調査する意欲を高める。態度の観点：古典文学に提起されている問題を主体的に考え、自ら探求することができるようになる。技能・表現の観点：考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。
- 授業の計画（全体） 『伊勢物語』の各章段を受講者に担当範囲として割り当てる。受講者は担当章段についての注釈・現代語訳・問題点・鑑賞などを載せた資料を作成し、発表することになる。
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等
  - 第 1 回 項目 オリエンテーション
  - 第 2 回 項目 文献案内
  - 第 3 回 項目 六段の講読
  - 第 4 回 項目 十六段の講読
  - 第 5 回 項目 二十一段の講読
  - 第 6 回 項目 二十三段の講読
  - 第 7 回 項目 二十四段の講読
  - 第 8 回 項目 三十九段の講読
  - 第 9 回 項目 四十段の講読
  - 第 10 回 項目 四十一段の講読
  - 第 11 回 項目 四十五段の講読
  - 第 12 回 項目 五十八段の講読
  - 第 13 回 項目 六十三段の講読
  - 第 14 回 項目 六十九段の講読
  - 第 15 回 項目 まとめ
- 成績評価方法（総合） レジュメ・発表内容・質疑応答・レポートによる。
- 教科書・参考書 教科書：新版 伊勢物語, 石田穰二・訳注, 角川ソフィア文庫, 1979 年／参考書：新編日本古典文学全集『竹取物語・伊勢物語・大和物語・平中物語』, 片桐洋一・福井貞助・高橋正治・清水好子, 小学館, 1994 年；新日本古典文学大系『竹取物語・伊勢物語』, 堀内秀晃・秋山虔, 岩波書店, 1997 年；『伊勢物語の表現史』, 室伏信助・編, 笠間書院, 2004 年；『伊勢物語を読む』, 宇都木敏郎, 未知谷, 1997 年；別冊国文学『竹取物語・伊勢物語必携』, 鈴木日出男・編, 學燈社, 1988 年；伊勢物語全評釈, 竹岡正夫, 右文書院, 1987 年
- 連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	森野正弘				

- 授業の概要 『枕草子』の講読。／検索キーワード 古典文学
- 授業の一般目標 古典文学について研究・考察する力を身につける。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。思考・判断の観点：作品に書かれた内容を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。関心・意欲の観点：自発的に古典文学を読み進め、関連する事項について調査する意欲を高める。態度の観点：古典文学に提起されている問題を主体的に考え、自ら探求することができるようになる。技能・表現の観点：考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。
- 授業の計画（全体） 『枕草子』の各章段を受講者に担当範囲として割り当てる。受講者は担当範囲についての注釈・現代語訳・鑑賞・問題点などを載せた資料を作成し、発表することになる。
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等
  - 第 1 回 項目 オリエンテーション
  - 第 2 回 項目 文献案内
  - 第 3 回 項目 「五、大進生昌が家に」
  - 第 4 回 項目 「六、上にさぶらふ御猫は」
  - 第 5 回 項目 「二〇、清涼殿の丑寅の隅の」
  - 第 6 回 項目 「四六、職の御曹司の西面の」
  - 第 7 回 項目 「七八、頭の中将の、すずろなるそら言を聞きて」
  - 第 8 回 項目 「七九、返る年の二月廿よ日」
  - 第 9 回 項目 「八〇、里にまかでたるに」
  - 第 10 回 項目 「八三、職の御曹司におはしますころ」
  - 第 11 回 項目 「九五、五月の御精進のほど」
  - 第 12 回 項目 「一〇〇、淑景舎、春宮にまゐりたまふほどのことなど」
  - 第 13 回 項目 「一三八、殿などのおはしまさで後」
  - 第 14 回 項目 「一五六、故殿の御服のころ」
  - 第 15 回 項目 まとめ
- 成績評価方法（総合） レジュメ・発表内容・質疑応答・レポートによる。
- 教科書・参考書 教科書：新版 枕草子（上巻）、石田穰二・訳注、角川ソフィア文庫、1979 年／参考書：新編日本古典文学全集『枕草子』、松尾聡・永井和子、小学館、1997 年；新日本古典文学大系『枕草子』、渡辺実、岩波書店、1991 年；新潮日本古典集成『枕草子 上・下』、萩谷朴、新潮社、1977 年；枕草子解環（一）～（五）、萩谷朴、同朋舎出版、1981 年；枕草子大事典、雨海博洋ほか、勉誠出版、2001 年
- 連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	尾崎千佳				

●授業の概要 【西鶴『好色五人女』樽屋おせんを読む】『好色五人女』は、貞享三(1686)年に刊行された、西鶴浮世草子の五作目である。本演習では、刊行の前年に大坂天満で実際に起きた姦通事件に取材した、巻二「情を入し樽屋物がたり」をとりあげ、前期は、前半三章により、実直な樽屋と生娘おせんの恋のゆくえを精読する。読者周知の事件を巧みに物語化してゆく、西鶴の文体の魅力を感じたい。／検索キーワード 西鶴、浮世草子、『好色五人女』、樽屋おせん

●授業の一般目標 1. 西鶴浮世草子作品を通して、近世文学読解の基本的あり方を習得する。2. 西鶴浮世草子作品を通して、中古中世文学の咀嚼の上に成る近世文学の醍醐味を感じ得る。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 近世文学読解のための文献調査法の基礎を習得する。思考・判断の観点：1. 作品の主題を的確に把握できる。関心・意欲の観点：1. 調査結果に基づいた自らの解釈について適切に発表することができる。態度の観点：1. 他の参加者の解釈について積極的に意見を述べることができる。

●授業の計画(全体) 初回は、底本の概要と発表資料作成上の注意点を講じる。第2回時に「恋に泣輪の井戸替」を講述・通読したうえで、第3回以降は、「踊はくづれ桶夜更て化物」「京の水もらさぬ中忍びてあひ釘」の章を、参加者全員が数行ずつ担当し、語注・解釈結果を発表のうえ、全員で討議する形式で行う。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回	項目	イントロダクション	内容	『好色五人女』概説・発表資料作成の手引き・発表分担決定
第2回	項目	首章概説	内容	巻二——「恋に泣輪の井戸替」通読
第3回	項目	発表(1)	内容	巻二—二「踊はくづれ桶夜更て化物」輪読(1)
第4回	項目	発表(2)	内容	巻二—二「踊はくづれ桶夜更て化物」輪読(2)
第5回	項目	発表(3)	内容	巻二—二「踊はくづれ桶夜更て化物」輪読(3)
第6回	項目	発表(4)	内容	巻二—二「踊はくづれ桶夜更て化物」輪読(4)
第7回	項目	発表(5)	内容	巻二—二「踊はくづれ桶夜更て化物」輪読(5)
第8回	項目	発表(6)	内容	巻二—三「京の水もらさぬ中忍びてあひ釘」輪読(1)
第9回	項目	発表(7)	内容	巻二—三「京の水もらさぬ中忍びてあひ釘」輪読(2)
第10回	項目	発表(8)	内容	巻二—三「京の水もらさぬ中忍びてあひ釘」輪読(3)
第11回	項目	発表(9)	内容	巻二—三「京の水もらさぬ中忍びてあひ釘」輪読(4)
第12回	項目	発表(10)	内容	巻二—三「京の水もらさぬ中忍びてあひ釘」輪読(5)
第13回	項目	発表(11)	内容	巻二—三「京の水もらさぬ中忍びてあひ釘」輪読(6)
第14回	項目	発表(12)	内容	巻二—三「京の水もらさぬ中忍びてあひ釘」輪読(7)
第15回	項目	発表予備日		

●成績評価方法(総合) 担当の発表資料及び発表態度を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版提出を課す。試験は行わない。授業時の質疑も評価に加える。

●教科書・参考書 教科書：演習 好色五人女, 堀章男編, 和泉書院, 1985年; 対訳西鶴全集3 好色五人女・好色一代女, 麻生磯次・富士昭雄訳注, 明治書院, 1974年; 『演習 好色五人女』は文栄堂山大前店で販売しているので必ず購入すること。対訳西鶴全集については当該箇所をプリント配付する。／参考書：授業初回時に配付プリント「発表資料作成の手引き」により指示する。

●連絡先・オフィスアワー 研究室; 人文 508 電話; 933-5257 E-mail; ozaki@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー; 木曜 14:30—16:00



開設科目	日本文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	尾崎千佳				

●授業の概要 【西鶴『好色五人女』樽屋おせんを読む】『好色五人女』は、貞享三(1686)年に刊行された、西鶴浮世草子の五作目である。本演習では、刊行の前年に大坂天満で実際に起きた姦通事件に取材した、巻二「情を入し樽屋物がたり」をとりあげ、後期は後半二章により、樽屋おせんの幸福とその破綻を精読する。読者周知の事件を巧みに物語化してゆく、西鶴の文体の魅力を感じたい。／検索キーワード 西鶴、浮世草子、『好色五人女』、樽屋おせん

●授業の一般目標 1. 西鶴浮世草子作品を通して、近世文学読解の基本的あり方を習得する。2. 西鶴浮世草子作品を通して、中古中世文学の咀嚼の上に成る近世文学の醍醐味を感じ得る。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 近世文学読解のための文献調査法の基礎を習得する。 思考・判断の観点：1. 作品の主題を的確に把握できる。 関心・意欲の観点：1. 調査結果に基づいた自らの解釈について適切に発表することができる。 態度の観点：1. 他の参加者の解釈について積極的に意見を述べることができる。

●授業の計画(全体) 初回は、底本の概要と発表資料作成上の注意点を講じる。第2回以降は、「こけらは胸の焼付さら世帯」「木屑の杉やうじ一寸先の命」の二章を、参加者全員が数行ずつ担当し、語注・解釈結果を発表のうえ、全員で討議する形式で行う。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- |      |    |           |    |                             |
|------|----|-----------|----|-----------------------------|
| 第1回  | 項目 | イントロダクション | 内容 | 『好色五人女』概説・発表資料作成の手引き・発表分担決定 |
| 第2回  | 項目 | 発表(1)     | 内容 | 巻二一四「こけらは胸の焼付さら世帯」輪読(1)     |
| 第3回  | 項目 | 発表(2)     | 内容 | 巻二一四「こけらは胸の焼付さら世帯」輪読(2)     |
| 第4回  | 項目 | 発表(3)     | 内容 | 巻二一四「こけらは胸の焼付さら世帯」輪読(3)     |
| 第5回  | 項目 | 発表(4)     | 内容 | 巻二一四「こけらは胸の焼付さら世帯」輪読(4)     |
| 第6回  | 項目 | 発表(5)     | 内容 | 巻二一四「こけらは胸の焼付さら世帯」輪読(5)     |
| 第7回  | 項目 | 発表(6)     | 内容 | 巻二一五「木屑の杉やうじ一寸先の命」輪読(1)     |
| 第8回  | 項目 | 発表(7)     | 内容 | 巻二一五「木屑の杉やうじ一寸先の命」輪読(2)     |
| 第9回  | 項目 | 発表(8)     | 内容 | 巻二一五「木屑の杉やうじ一寸先の命」輪読(3)     |
| 第10回 | 項目 | 発表(9)     | 内容 | 巻二一五「木屑の杉やうじ一寸先の命」輪読(4)     |
| 第11回 | 項目 | 発表(10)    | 内容 | 巻二一五「木屑の杉やうじ一寸先の命」輪読(5)     |
| 第12回 | 項目 | 発表予備日     |    |                             |
| 第13回 | 項目 | 討議とまとめ(1) | 内容 | 巻二「情を入し樽屋物がたり」総括(1)         |
| 第14回 | 項目 | 討議とまとめ(2) | 内容 | 巻二「情を入し樽屋物がたり」総括(2)         |
| 第15回 | 項目 | 討議とまとめ(3) | 内容 | 巻二「情を入し樽屋物がたり」総括(3)         |

●成績評価方法(総合) 担当の発表資料及び発表態度を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版提出を課す。試験は行わない。授業時の質疑も評価に加える。

●教科書・参考書 教科書：演習 好色五人女, 堀章男編, 和泉書院, 1985年; 対訳西鶴全集3 好色五人女・好色一代女, 麻生磯次・富士昭雄訳注, 明治書院, 1974年; 『演習 好色五人女』は文栄堂山大前店で販売しているので必ず購入すること。対訳西鶴全集については当該箇所をプリント配付する。／参考書：授業初回時に配付プリント「発表資料作成の手引き」により指示する。

●連絡先・オフィスアワー 研究室; 人文 508 電話;933-5257 E-mail;ozaki@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー; 木曜 14:30—16:00

開設科目	日本文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	平野芳信				

●授業の概要 明治以降の近代小説の代表的作品について、一種の共同研究・共同作業を行います。分担を決め、各自に作品それぞれの個性に応じて、テクスチュアル・クリティシズム、作家論、背景論、作品論、テキスト論等々を発表していただきます。

●授業の一般目標 端的に言えば、このゼミナールにおけるいろいろな作業を通じて、将来の卒業論文作成の具体的方法を体得していただくことを目標としています。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 国文研究室・図書館オリエンテーション
- 第 3 回 項目 1 作家論 国木田独歩 2 『武蔵野』の成立と背景
- 第 4 回 項目 1 『武蔵野』論 2 『武蔵野』論
- 第 5 回 項目 1 作家論 夏目漱石 2 『夢十夜』の成立と背景
- 第 6 回 項目 1 『夢十夜』論 2 『夢十夜』論
- 第 7 回 項目 1 作家論 芥川龍之介 2 『鼻』の成立と背景
- 第 8 回 項目 1 『鼻』論 2 『鼻』論
- 第 9 回 項目 1 作家論 高村光太郎 2 『智恵子抄』の成立と背景
- 第 10 回 項目 1 『智恵子抄』論 2 『智恵子抄』論
- 第 11 回 項目 1 作家論 平野啓一郎 2 『日蝕』の成立と背景
- 第 12 回 項目 1 『日蝕』論 2 『日蝕』論
- 第 13 回 項目 読書会
- 第 14 回 項目 読書会
- 第 15 回 項目 総括

●成績評価方法 (総合) 宿題／授業外レポート = 50 % 授業態度や授業への参加度 = 10 % 受講者の発表 (プレゼン) や授業内での製作作業 (作品) = 30 % 出席 = 10 %

●教科書・参考書 教科書：国木田独歩、文庫『武蔵野』、新潮社 夏目漱石、文庫『文鳥・夢十夜』、新潮社 芥川龍之介、文庫『羅生門・鼻』、新潮社 高村光太郎、文庫『智恵子抄』、新潮社 平野啓一郎、文庫『日蝕』、新潮社 読書会で取り上げる作品については、授業開始後受講生と相談の上、作品を決定いたします。なおテキストは全て文栄堂で販売しますので、各自購入しておくこと。／参考書：適宜、指示します。

●連絡先・オフィスアワー 個人研究室 9 3 3-5 2 6 2 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：水曜日 9. 10 時限

開設科目	日本文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	平野芳信				

●授業の概要 明治以降の近代小説の代表的作品について、一種の共同研究・共同作業を行います。分担を決め、各自に作品それぞれの個性に応じて、テクスチュアル・クリティシズム、作家論、背景論、作品論、テキスト論等々を発表していただきます。

●授業の一般目標 端的にいえば、このゼミナールにおけるいろいろな作業を通じて、将来の卒業論文作成の具体的方法を体得していただくことを目標としています。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 中也記念館見学
- 第 3 回 項目 1 作家論 森鷗外 2 『うたかたの記』の成立と背景
- 第 4 回 項目 1 『うたかたの記』論 2 『うたかたの記』論
- 第 5 回 項目 1 作家論 志賀直哉 2 『和解』の成立と背景
- 第 6 回 項目 1 『和解』論 2 『和解』論
- 第 7 回 項目 1 作家論 太宰治 2 『お伽草紙』の成立と背景
- 第 8 回 項目 1 『お伽草紙』論 2 『お伽草紙』論
- 第 9 回 項目 1 作家論 唐十郎 2 『佐川君からの手紙』の成立と背景
- 第 10 回 項目 1 『佐川君からの手紙』論 2 『佐川君からの手紙』論
- 第 11 回 項目 1 作家論 澁澤龍彦 2 『高丘親王航海記』の成立と背景
- 第 12 回 項目 1 『高丘親王航海記』論 2 『高丘親王航海記』論
- 第 13 回 項目 読書会
- 第 14 回 項目 読書会
- 第 15 回 項目 総括

●成績評価方法 (総合) 宿題／授業外レポート = 50 % 授業態度や授業への参加度 = 10 % 受講者の発表 (プレゼン) や授業内での製作作業 (作品) = 30 % 出席 = 10 %

●教科書・参考書 教科書：森鷗外、文庫クラシックス『舞姫・うたかたの記』、角川書店 志賀直哉、文庫『和解』、新潮社 太宰治、文庫『お伽草紙』、新潮社 唐十郎、文庫『佐川君からの手紙』、河出書房新社 澁澤龍彦、文庫『高丘親王航海記』、文藝春秋／参考書：適宜指示します。

●メッセージ 読書会でとりあげるについては、受講生と相談の上、取り上げる作品を決定します。

●連絡先・オフィスアワー 個人研究室 9 3 3 - 5 2 6 2 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：水曜日 9. 1 0 時限

開設科目	日本文学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	平野芳信				

●授業の概要 卒業論文作成の直接的な指導、助言を行うための演習を実施します。

●授業の一般目標 この演習を通して、ゼミ構成員各自が、卒業論文作成のための具体的な方法を体得していただきたい。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 河村健史 芥川龍之介あるいは河村観音 未定
- 第 3 回 項目 藤岡智美 村上春樹 『未定』
- 第 4 回 項目 江口幸史郎 黒沢清あるいは黒田硫黄 『未定』
- 第 5 回 項目 浜田恵莉 松本清張あるいは村上春樹 『未定』
- 第 6 回 項目 山口奈未 梨木果歩 未定
- 第 7 回 項目 下園ゆう子 三島由紀夫 未定
- 第 8 回 項目 野上陽平 未定
- 第 9 回 項目 仲西正博 夏目漱石 『こころ』
- 第 10 回 項目 江藤智子 浅田次郎あるいは吉本ばなな作品
- 第 11 回 項目 中間まとめ
- 第 12 回 項目 個別指導
- 第 13 回 項目 個別指導
- 第 14 回 項目 個別指導
- 第 15 回 項目 前期末まとめ

●成績評価方法 (総合) 授業態度や授業への参加度 = 30 % 受講者の発表 (プレゼン) や授業内での製作作業 (作品) = 30 % 演習 = 30 % 出席 = 10 %

●教科書・参考書 教科書：統一した教科書などは使用しません。／参考書：個別指導します。

●メッセージ 卒論のテーマは題目提出（6月末）までは変更可能です。ですからテーマは当然、仮のものです。発表の順番はあくまでも予定です。就職活動等々によって、変更があることを承知しておいてください。なお、4年生用の時間ですので、2、3年生は受講しないように。

●連絡先・オフィスアワー 個人研究室 933-5262 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：水曜日9.10時限

開設科目	日本文学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	平野芳信				

●授業の概要 卒業論文作成の直接的な指導、助言を行うための演習を実施します。

●授業の一般目標 この演習を通して、ゼミ構成員各自が、卒業論文作成のための具体的な方法を体得していただきたい。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション

第2回 項目 卒業論文中間発表 河村健史 芥川龍之介あるいは河村観音 未定』

第3回 項目 卒業論文中間発表 藤岡智美 村上春樹 『未定』

第4回 項目 卒業論文中間発表 江口幸史郎 黒沢清あるいは黒田硫黄 『未定』

第5回 項目 卒業論文中間発表 浜田恵莉 松本清張あるいは村上春樹 『未定』

第6回 項目 卒業論文中間発表 山口奈未 梨木果歩 未定

第7回 項目 卒業論文中間発表 下園ゆう子 三島由紀夫 未定

第8回 項目 卒業論文中間発表 野上陽平 未定

第9回 項目 卒業論文中間発表 仲西正博 夏目漱石 『こころ』

第10回 項目 卒業論文中間発表 江藤智子

第11回 項目 卒業論文1ヶ月前 チェック

第12回 項目 未定

第13回 項目 卒業論文一週間前 チェック

第14回 項目 口頭試問前指導

第15回 項目 総括

●成績評価方法 (総合) 授業態度や授業への参加度 = 30 % 受講者の発表(プレゼン)や授業内での製作作業(作品) = 30 % 演習 = 30 % 出席 = 10 %

●教科書・参考書 教科書：統一した教科書などは使用しません。／参考書：個別に指導します。

●メッセージ 発表の順番はあくまでも予定です。就職活動等々によって、変更があることを承知しておいてください。なお、4年生用の時間ですので、2、3年生は受講しないように。

●連絡先・オフィスアワー 個人研究室 933-5262 y-hirano@yamaguchi-u.ac.jp オフィス・アワー：水曜日9.10時限

開設科目	日本文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	森野正弘				

- 授業の概要 輪読形式による『源氏物語』の研究。／検索キーワード 文学、源氏物語
- 授業の一般目標 古典文学の研究を進めていくうえで必要な基礎知識の習得、及び分析力・論理的思考力を身につける。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。思考・判断の観点：作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。関心・意欲の観点：自発的に古典文学を読み進め、関連する事項について調査する意欲を高める。態度の観点：古典文学に提起されている問題を主体的に考え、自ら探求することができるようになる。技能・表現の観点：考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。
- 授業の計画（全体） 「滯標」「松風」「薄雲」「朝顔」「少女」巻から主要な場面を抜粋し、受講者に担当範囲として割り当てる。割り当てられた受講者は(1)問題提起、(2)先行研究、(3)考察、(4)結論を掲載したレジュメを作成し、発表をする。
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等
  - 第 1 回 項目 ガイダンス
  - 第 2 回 項目 文献紹介
  - 第 3 回 項目 各自のテーマ発表
  - 第 4 回 項目 「滯標」巻の考察(1)
  - 第 5 回 項目 「滯標」巻の考察(2)
  - 第 6 回 項目 「滯標」巻の考察(3)
  - 第 7 回 項目 「松風」巻の考察(1)
  - 第 8 回 項目 「松風」巻の考察(2)
  - 第 9 回 項目 「松風」巻の考察(3)
  - 第 10 回 項目 「薄雲」巻の考察(1)
  - 第 11 回 項目 「薄雲」巻の考察(2)
  - 第 12 回 項目 「朝顔」巻の考察(1)
  - 第 13 回 項目 「朝顔」巻の考察(2)
  - 第 14 回 項目 「少女」巻の考察(1)
  - 第 15 回 項目 「少女」巻の考察(2)
- 成績評価方法（総合）レジュメ・発表内容・質疑応答・レポートによる。
- 教科書・参考書 教科書：新編日本古典文学全集『源氏物語』（1）～（6）、阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男、小学館、1995年；『源氏物語』第1巻～第10巻（角川文庫ソフィア）、玉上琢弥、角川書店／参考書：新日本古典文学大系『源氏物語（1）～（5）』、柳井滋・室伏信助・大朝雄二・鈴木日出男・藤井貞和・今西祐一郎、岩波書店、1993年；新日本古典文学大系別巻『源氏物語索引』、柳井滋・室伏信助・鈴木日出男・藤井貞和・今西祐一郎、岩波書店、1999年；源氏物語事典、林田孝和・植田恭代・竹内正彦・原岡文子・針本正行・吉井美弥子、大和書房、2002年；別冊国文学 新・源氏物語必携、秋山虔、学燈社、1997年；源氏物語の鑑賞と基礎知識 24「滯標」、鈴木一雄・日向一雅、至文堂、2002 源氏物語の鑑賞と基礎知識 20「総合・松風」、鈴木一雄・田中隆昭、至文堂、2002 源氏物語の鑑賞と基礎知識 33「薄雲・朝顔」、鈴木一雄・小山利彦、至文堂、2004 源氏物語の鑑賞と基礎知識 27「少女」、鈴木一雄・針本正行、至文堂、2003
- 連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	森野正弘				

- 授業の概要 輪読形式による『源氏物語』の研究。／検索キーワード 文学、源氏物語
- 授業の一般目標 古典文学の研究を進めていくうえで必要な基礎知識の習得、及び分析力・論理的思考力を身につける。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：古典文学に書かれた内容を正確に読み取るための知識を得ることができる。思考・判断の観点：作品に書かれた内容や研究論文を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。関心・意欲の観点：自発的に古典文学を読み進め、関連する事項について調査する意欲を高める。態度の観点：古典文学に提起されている問題を主体的に考え、自ら探求することができるようになる。技能・表現の観点：考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。
- 授業の計画(全体) 「玉鬘」「初音」「胡蝶」「蛩」「常夏」「野分」「行幸」「藤袴」「真木柱」巻から主要な場面を抜粋し、受講者に担当範囲として割り当てる。割り当てられた受講者は(1)問題提起、(2)先行研究、(3)考察、(4)結論を掲載したレジюмеを作成し、発表をする。
- 授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等
  - 第 1 回 項目 ガイダンス
  - 第 2 回 項目 文献紹介
  - 第 3 回 項目 各自のテーマ発表
  - 第 4 回 項目 「玉鬘」巻の考察
  - 第 5 回 項目 「初音」巻の考察
  - 第 6 回 項目 「胡蝶」巻の考察
  - 第 7 回 項目 「蛩」巻の考察(1)
  - 第 8 回 項目 「蛩」巻の考察(2)
  - 第 9 回 項目 「常夏」巻の考察(1)
  - 第 10 回 項目 「常夏」巻の考察(2)
  - 第 11 回 項目 「野分」巻の考察(1)
  - 第 12 回 項目 「野分」巻の考察(2)
  - 第 13 回 項目 「行幸」巻の考察
  - 第 14 回 項目 「藤袴」巻の考察
  - 第 15 回 項目 「真木柱」巻の考察
- 成績評価方法(総合) レジюме・発表内容・質疑応答・レポートによる。
- 教科書・参考書 教科書：新編日本古典文学全集『源氏物語』(1)～(6)、阿部秋生・秋山虔・今井源衛・鈴木日出男、小学館、1995年；『源氏物語』第1巻～第10巻(角川文庫ソフィア)、玉上琢弥、角川書店／参考書：新日本古典文学大系『源氏物語(1)～(5)』、柳井滋・室伏信助・大朝雄二・鈴木日出男・藤井貞和・今西祐一郎、岩波書店、1993年；新日本古典文学大系別巻『源氏物語索引』、柳井滋・室伏信助・鈴木日出男・藤井貞和・今西祐一郎、岩波書店、1999年；源氏物語事典、林田孝和・植田恭代・竹内正彦・原岡文子・針本正行・吉井美弥子、大和書房、2002年；別冊国文学 新・源氏物語必携、秋山虔、学燈社、1997年；源氏物語の鑑賞と基礎知識 12「玉鬘」、鈴木一雄・平田喜信、至文堂、2000年；源氏物語の鑑賞と基礎知識 18「初音・胡蝶・蛩」、鈴木一雄・室伏信助、至文堂、2001年；源氏物語の鑑賞と基礎知識 21「常夏・篝火・野分」、鈴木一雄・河地修、至文堂、2002年；源氏物語の鑑賞と基礎知識 30「行幸・藤袴」、鈴木一雄・久保木哲夫、至文堂、2003年；源氏物語の鑑賞と基礎知識 37「真木柱」、鈴木一雄・仁平道明、至文堂、2004年
- 連絡先・オフィスアワー 水曜日 5・6 時限

開設科目	日本文学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	森野正弘				

- 授業の概要 平安文学を卒業論文の対象としている4年生のための演習。／検索キーワード 平安文学
- 授業の一般目標 平安文学研究を進めていくうえで必要な知識・方法を習得する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：平安文学を研究するための知識を得ることができる。思考・判断の観点：平安文学の研究を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。関心・意欲の観点：自発的に平安文学の研究を進め、関連する事項について調査する意欲を高める。態度の観点：平安文学に提起されている問題を主体的に考え、自ら探求することができるようになる。技能・表現の観点：考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。
- 授業の計画（全体） 毎回1名ずつ論文の進行状況をレジュメにし、発表していく。
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等
  - 第1回 項目 ガイダンス
  - 第2回 項目 文献案内
  - 第3回 項目 文献案内
  - 第4回 項目 題目発表(1)
  - 第5回 項目 題目発表(2)
  - 第6回 項目 レジュメの作成(1)
  - 第7回 項目 レジュメの作成(2)
  - 第8回 項目 レジュメの作成(3)
  - 第9回 項目 レジュメの作成(4)
  - 第10回 項目 レジュメの作成(5)
  - 第11回 項目 個別発表(1)
  - 第12回 項目 個別発表(2)
  - 第13回 項目 個別発表(3)
  - 第14回 項目 個別発表(4)
  - 第15回 項目 個別発表(5)
- 成績評価方法（総合） 授業内評価。
- 教科書・参考書 教科書：各自に指示する。／参考書：適宜紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー 水曜日5・6時限



開設科目	日本文学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	森野正弘				

- 授業の概要 平安文学を卒業論文の対象としている4年生のための演習。／検索キーワード 平安文学
- 授業の一般目標 平安文学研究を進めていくうえで必要な知識・方法を習得する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：平安文学を研究するための知識を得ることができる。思考・判断の観点：平安文学の研究を通じて多面的な物の見方・考え方ができるようになる。関心・意欲の観点：自発的に平安文学の研究を進め、関連する事項について調査する意欲を高める。態度の観点：平安文学に提起されている問題を主体的に考え、自ら探求することができるようになる。技能・表現の観点：考察した結果を文章や口頭で適切に表現できるようになる。
- 授業の計画（全体） 毎回1名ずつ論文の進行状況をレジュメにし、発表していく。
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等
  - 第1回 項目 ガイダンス
  - 第2回 項目 文献案内(1)
  - 第3回 項目 文献案内(2)
  - 第4回 項目 文献案内(3)
  - 第5回 項目 個別発表(1)
  - 第6回 項目 質疑応答(1)
  - 第7回 項目 個別発表(2)
  - 第8回 項目 質疑応答(2)
  - 第9回 項目 個別発表(3)
  - 第10回 項目 質疑応答(3)
  - 第11回 項目 個別発表(4)
  - 第12回 項目 質疑応答(4)
  - 第13回 項目 個別発表(5)
  - 第14回 項目 質疑応答(5)
  - 第15回 項目 まとめ
- 成績評価方法（総合） 授業内評価。
- 教科書・参考書 教科書：各自に指示する。／参考書：適宜紹介する。
- 連絡先・オフィスアワー 水曜日5・6時限

開設科目	日本文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	尾崎千佳				

●授業の概要 【『大坂独吟集』西鶴独吟百韻註釈】延宝三（1675）年刊『大坂独吟集』は、談林俳諧の盟主・西山宗因が評語を付し点をかけた百韻 10 巻を集める、談林俳諧の代表的作品集である。謡曲の文句取りを駆使した軽妙な表現と、古典作品の大胆なパロディが生む笑いを精読して、談林俳諧の意義と達成につき考察を深めたい。前期は、上巻所収の西鶴（鶴永）独吟「軽口に」百韻の前半五十韻分をとりあげる。連句と評語がおりなす、宗因と西鶴、師弟のコラボレーションにも注目しよう。／検索キーワード『大坂独吟集』、百韻、談林俳諧、西山宗因、西鶴

●授業の一般目標 1. 近世文学の読解に必要な、文献調査法の習得から、古典註釈の基礎を学ぶ。2. 詠作と鑑賞が同時に繰り返される「座」の文芸＝俳諧連句の作法と精神を知り、談林俳諧の意義と達成につき考察を深める。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 近世文学読解のために必要な文献調査の方法を習得する。2. 古典文学註釈の基礎を習得する。 思考・判断の観点： 1. 俳諧連句の作法と精神を理解する。2. 中古中世文学との比較を通して近世文学の到達点を理解する。 関心・意欲の観点： 1. 調査結果に基づいた自らの解釈について適切に発表することができる。 態度の観点： 1. 他の参加者の解釈について積極的に意見を述べるができる。

●授業の計画（全体） 初回から第3回にかけて、『大坂独吟集』につき概説し、俳諧連句のルール・註釈のあり方の基礎を講じる。第4回以降は、参加者全員が5句ずつ担当し、順次註釈結果を発表のうえ、全員で討議し、解釈を深める。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨ ン・概説 (1) 内容 『大坂独吟集』概説・発表分担決定
- 第 2 回 項目 概説 (2) 内容 連句のルール (1)
- 第 3 回 項目 概説 (3) 内容 連句のルール (2)・発表資料作成の手引き
- 第 4 回 項目 発表 (1) 内容 「軽口に」の巻初折表 1—5 句註釈
- 第 5 回 項目 発表 (2) 内容 「軽口に」の巻初折表 6—初折裏 2 句註釈
- 第 6 回 項目 発表 (3) 内容 「軽口に」の巻初折裏 3—7 句註釈
- 第 7 回 項目 発表 (4) 内容 「軽口に」の巻初折裏 8—12 句註釈
- 第 8 回 項目 発表 (5) 内容 「軽口に」の巻初折裏 13—二折表 3 句註釈
- 第 9 回 項目 発表 (6) 内容 「軽口に」の巻二折表 4—8 句註釈
- 第 10 回 項目 発表 (7) 内容 「軽口に」の巻二折表 9—13 句註釈
- 第 11 回 項目 発表 (8) 内容 「軽口に」の巻二折表 14—二折裏 4 句註釈
- 第 12 回 項目 発表 (9) 内容 「軽口に」の巻二折裏 5—9 句註釈
- 第 13 回 項目 発表 (10) 内容 「軽口に」の巻二折裏 10—14 句註釈
- 第 14 回 項目 発表 (11) 内容 発表予備日
- 第 15 回 項目 発表 (12) 内容 発表予備日

●成績評価方法（総合） 担当の発表資料及び発表態度を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版提出を課す。試験は行わない。授業時の質疑も評価に加える。

●教科書・参考書 教科書： 近世文学資料類従古俳諧編 29, 乾裕幸他解題, 勉誠社, 1976 年； 当該箇所をプリント配布する。／参考書： 新日本古典文学大系 69 初期俳諧集, 乾裕幸他校注, 岩波書店, 1991 年； 新版連句への招待, 乾裕幸・白石悌三, 和泉書院, 1989 年； 当該箇所をプリント配付するが、希望者は文栄堂山大前店で購入すること。

●連絡先・オフィスアワー 研究室; 人文 508 電話;933-5257 E-mail;ozaki@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー; 木曜 14:30—16:00

開設科目	日本文学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	尾崎千佳				

●授業の概要 【『大坂独吟集』西鶴独吟百韻註釈】延宝三（1675）年刊『大坂独吟集』は、談林俳諧の盟主・西山宗因が評語を付し点をかけた百韻 10 巻を集める、談林俳諧の代表的作品集である。謡曲の文句取りを駆使した軽妙な表現と、古典作品の大胆なパロディが生む笑いを精読して、談林俳諧の意義と達成につき考察を深めたい。後期は、上巻所収の西鶴（鶴永）独吟「軽口に」百韻の後半五十韻分をとりあげる。連句と評語がおりなす、宗因と西鶴、師弟のコラボレーションにも注目しよう。／検索キーワード『大坂独吟集』、百韻、談林俳諧、西山宗因、西鶴

●授業の一般目標 1. 近世文学の読解に必要な、文献調査法の習得から、古典註釈の基礎を学ぶ。2. 詠作と鑑賞が同時に繰り返される「座」の文芸＝俳諧連句の作法と精神を知り、談林俳諧の意義と達成につき考察を深める。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 近世文学読解のために必要な文献調査の方法を習得する。2. 古典文学註釈の基礎を習得する。 思考・判断の観点： 1. 俳諧連句の作法と精神を理解する。2. 中古中世文学との比較を通して近世文学の到達点を理解する。 関心・意欲の観点： 1. 調査結果に基づいた自らの解釈について適切に発表することができる。 態度の観点： 1. 他の参加者の解釈について積極的に意見を述べるができる。

●授業の計画（全体） 初回から第3回にかけて、『大坂独吟集』につき概説し、俳諧連句のルール・註釈のあり方の基礎を講じる。第4回以降は、参加者全員が5句ずつ担当し、順次註釈結果を発表のうえ、全員で討議し、解釈を深める。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 インTRODクシヨ ン・概説 (1) 内容 『大坂独吟集』概説・発表分担決定
- 第 2 回 項目 概説 (2) 内容 連句のルール (1)
- 第 3 回 項目 概説 (3) 内容 連句のルール (2)・発表資料作成の手引き
- 第 4 回 項目 発表 (1) 内容 「軽口に」の巻三折表 1—5 句註釈
- 第 5 回 項目 発表 (2) 内容 「軽口に」の巻三折表 6—10 句註釈
- 第 6 回 項目 発表 (3) 内容 「軽口に」の巻三折表 11—三折裏 1 句註釈
- 第 7 回 項目 発表 (4) 内容 「軽口に」の巻三折裏 2—6 句註釈
- 第 8 回 項目 発表 (5) 内容 「軽口に」の巻三折裏 7—11 句註釈
- 第 9 回 項目 発表 (6) 内容 「軽口に」の巻三折裏 12—名残折表 2 句註釈
- 第 10 回 項目 発表 (7) 内容 「軽口に」の巻名残折表 3—7 句註釈
- 第 11 回 項目 発表 (8) 内容 「軽口に」の巻名残折表 8—12 句註釈
- 第 12 回 項目 発表 (9) 内容 「軽口に」の巻名残折表 13—名残折裏 3 句註釈
- 第 13 回 項目 発表 (10) 内容 「軽口に」の巻名残折裏 4—8 句註釈
- 第 14 回 項目 発表 (11) 内容 発表予備日
- 第 15 回 項目 発表 (12) 内容 発表予備日

●成績評価方法（総合） 担当の発表資料及び発表態度を最重視し、期末レポートとして発表資料の修正版提出を課す。試験は行わない。授業時の質疑も評価に加える。

●教科書・参考書 教科書： 近世文学資料類従古俳諧編 29, 乾裕幸他解題, 勉誠社, 1976 年； 当該箇所をプリント配布する。／参考書： 新日本古典文学大系 69 初期俳諧集, 乾裕幸他校注, 岩波書店, 1991 年； 新版連句への招待, 乾裕幸・白石悌三, 和泉書院, 1989 年； 当該箇所をプリント配付するが、希望者は文栄堂山大前店で購入すること。

●連絡先・オフィスアワー 研究室; 人文 508 電話;933-5257 E-mail;ozaki@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー; 木曜 14:30—16:00

開設科目	日本文学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	尾崎千佳				

●授業の概要 卒業論文執筆に向け、作品作家の選定・先行研究の検索と収集・研究史の把握・論文テーマの設定について、個別に指導する。

●授業の一般目標 卒業論文執筆のための具体的方法を習得する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. とりあげる作家や作品を選定することができる。2. 先行研究を収集し整理することができる。思考・判断の観点：1. 研究史を把握し問題を提起することができる。2. 論文テーマを自ら設定することができる。関心・意欲の観点：1. 選定した作家や作品について適切に説明することができる。2. 研究史とその問題点について適切に説明することができる。3. 設定した論文テーマについて適切に説明することができる。態度の観点：1. 論文作成に向けたスケジュールを自ら設定し管理することができる。

●授業の計画（全体）全体を4ステップに分け、提出レポートに基づいた個別面談で行う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 イントロダクション 内容 1. 卒業論文に向けた心構え 2. 卒業論文提出までのスケジュール確認 3. 各ステップの概要 授業外指示 シラバスを讀んでおくこと

第2回 項目 ステップ(1)-1 内容 レポート(1)「作品作家」に基づく個別面談 授業外指示 レポート(1)「作品作家」を準備すること

第3回 項目 ステップ(1)-2 内容 レポート(1)「作品作家」に基づく個別面談 授業外指示 レポート(1)「作品作家」を準備すること

第4回 項目 ステップ(1)-3 内容 レポート(1)「作品作家」に基づく個別面談 授業外指示 レポート(1)「作品作家」を準備すること

第5回 項目 ステップ(2)-1 内容 レポート(2)「研究テーマ」に基づく個別面談 授業外指示 レポート(2)「研究テーマ」を準備すること

第6回 項目 ステップ(2)-2 内容 レポート(2)「研究テーマ」に基づく個別面談 授業外指示 レポート(2)「研究テーマ」を準備すること

第7回 項目 ステップ(2)-3 内容 レポート(2)「研究テーマ」に基づく個別面談 授業外指示 レポート(2)「研究テーマ」を準備すること

第8回 項目 ステップ(3)-1 内容 レポート(3)「論文題目」に基づく個別面談 授業外指示 レポート(3)「論文題目」を準備すること

第9回 項目 ステップ(3)-2 内容 レポート(3)「論文題目」に基づく個別面談 授業外指示 レポート(3)「論文題目」を準備すること

第10回 項目 ステップ(3)-3 内容 レポート(3)「論文題目」に基づく個別面談 授業外指示 レポート(3)「論文題目」を準備すること

第11回 項目 ステップ(4)-1 内容 夏季休業中の作業確認に関する個別面談

第12回 項目 ステップ(4)-2 内容 夏季休業中の作業確認に関する個別面談

第13回 項目 ステップ(4)-3 内容 夏季休業中の作業確認に関する個別面談

第14回 項目 予備日

第15回 項目 予備日

●成績評価方法（総合）主にレポート(1)～(3)の内容により評価する。試験は行わない。

●教科書・参考書 教科書：使用しない。／参考書：授業（個別面談）時に個別に指示する。

●連絡先・オフィスアワー 研究室; 人文 508 電話; 933-5257 E-mail; ozaki@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー; 木曜 14:30-16:00

開設科目	日本文学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	尾崎千佳				

- 授業の概要 卒業論文完成に向け、論文テーマの確立・論文の構成について、個別に指導する。
- 授業の一般目標 卒業論文の完成を目指す。
- 授業の到達目標／ 思考・判断の観点： 1. 論文テーマについて多角的に考察を進めることができる。2. 論文の構成を自ら設定することができる。 関心・意欲の観点： 1. 論文テーマについて適切に説明することができる。2. 論文の構成について適切に説明することができる。 態度の観点： 1. 論文テーマについて異見を受容することができる。2. 論文の構成について異見を受容することができる。
- 授業の計画（全体） 全体を4ステップに分け、ステップ（5）では個別の経過報告、ステップ（6）では各自20分程度の中間発表、ステップ（7）では論文構成についての個別面談、ステップ（8）では論文草稿に基づいた個別面談を行う。
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等
  - 第1回 項目 ステップ（5）-1 内容 中間発表の準備に向けた個別面談 授業外指示 夏季休業中の作業経過についてまとめておくこと
  - 第2回 項目 ステップ（5）-2 内容 中間発表の準備に向けた個別面談 授業外指示 夏季休業中の作業経過についてまとめておくこと
  - 第3回 項目 ステップ（5）-3 内容 中間発表の準備に向けた個別面談 授業外指示 夏季休業中の作業経過についてまとめておくこと
  - 第4回 項目 ステップ（6） 内容 中間発表会 授業外指示 発表レジュメを準備すること
  - 第5回 項目 ステップ（7）-1 内容 論文構成に基づく個別面談 授業外指示 論文の構成についてまとめておくこと
  - 第6回 項目 ステップ（7）-2 内容 論文構成に基づく個別面談 授業外指示 論文の構成についてまとめておくこと
  - 第7回 項目 ステップ（7）-3 内容 論文構成に基づく個別面談 授業外指示 論文の構成についてまとめておくこと
  - 第8回 項目 ステップ（8）-1 内容 論文草稿に基づく個別面談 授業外指示 論文の草稿を準備すること
  - 第9回 項目 ステップ（8）-2 内容 論文草稿に基づく個別面談 授業外指示 論文の草稿を準備すること
  - 第10回 項目 ステップ（8）-3 内容 論文草稿に基づく個別面談 授業外指示 論文の草稿を準備すること
  - 第11回 項目 ステップ（8）-4 内容 論文草稿に基づく個別面談 授業外指示 論文の草稿を準備すること
  - 第12回 項目 ステップ（8）-5 内容 論文草稿に基づく個別面談 授業外指示 論文の草稿を準備すること
  - 第13回 項目 ステップ（8）-7 内容 論文草稿に基づく個別面談 授業外指示 論文の草稿を準備すること
  - 第14回 項目 ステップ（8）-8 内容 論文草稿に基づく個別面談 授業外指示 論文の草稿を準備すること
  - 第15回 項目 ステップ（8）-9 内容 論文草稿に基づく個別面談 授業外指示 論文の草稿を準備すること
- 成績評価方法（総合） 主に中間発表と論文草稿により評価する。試験は行わない。
- 教科書・参考書 教科書： 使用しない。／ 参考書： 授業（個別面談）時に個別に指示する。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室; 人文 508 電話;933-5257 E-mail;ozaki@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー; 木曜 14:30—16:00

開設科目	中国語学概説 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	富平美波				

●授業の概要 教科書の叙述に沿いつつ、中国語学に関する基礎知識を講義する。前期の本講義では、現代中国の共通語と方言・中国語の音声・漢字について概説する。／検索キーワード 中国語、普通話、方言、音声、漢字

●授業の一般目標 (1) 現代中国語の共通語とその形成の歴史について理解する。(2) 現代中国語の方言分布について理解する。(3) 中国語の音声・音韻について基本知識を会得する。(4) 漢字の構造と書体の変遷、近代の文字改革について初歩的知識を会得する。(5) 中国語学の諸問題について主体的に学習・考察する態度を養成する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 中国が多民族・多言語国家であることを理解する。2. 現代中国語の共通語とその形成の歴史について簡単な説明ができる。3. 現代中国語の方言分布について説明ができる。4. 中国語の音声的特徴について簡単な説明ができる。5. 漢字の構造とその変遷について簡単な説明ができる。 関心・意欲の観点： 中国語の諸特徴について問題意識を持ち、関心を持ったテーマについて主体的に学習・考察することができる。

●授業の計画(全体) 教科書『中国語学概論』の第1章「中国と中国語」第2章「中国語の音声」第3章「中国の文字」の部分を読みつつ、適宜補充説明を加え、受講者と一緒に設問を解くことにより、授業を進める。 第1回-第3回「中国と中国語」(共通語や方言の問題を扱う。) 第4回-第9回「中国語の音声」(音声学の初歩・共通語の音声的特徴など) 第10回-第14回「中国の文字」(漢字をめぐる初歩知識)

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 教科書 1.1-1.2 内容 中国の民族と言語・中国語の歴史
- 第 2 回 項目 1.3-1.4 内容 中国語の七大方言
- 第 3 回 項目 続き 内容 共通語について
- 第 4 回 項目 2.1-2.6 内容 音声とその単位・母音
- 第 5 回 項目 2.7 内容 子音 (1)
- 第 6 回 項目 続き 内容 子音 (2)
- 第 7 回 項目 2.8-2.10 内容 声調・複合母音・鼻音韻尾
- 第 8 回 項目 2.11-2.15 内容 中国語の音節の構造
- 第 9 回 項目 復習・補足
- 第10回 項目 3.1 内容 文字について
- 第11回 項目 3.2 内容 漢字の起源と変遷
- 第12回 項目 3.2-3.3 内容 漢字の起源と変遷・六書 (1)
- 第13回 項目 3.3 内容 六書 (2)
- 第14回 項目 3.4 内容 文字改革
- 第15回 項目 レポート

●成績評価方法(総合) おしまいに、授業内容に関連を持つテーマを選んでレポートしてもらおう。また、授業中に設問に答えてもらうほか、随時、感想や質問を自由に書いてもらう機会を作る。これらにより授業への理解度と主体的学習への意欲を評価する。なお、出席が3分の2に満たない者には単位を与えない。

●教科書・参考書 教科書：中国語学概論, 王占華・一木達彦・ほう山武義, 駿河台出版社, 2004年／参考書：中国の諸言語, S. R. ラムゼイ, 大修館書店, 1990年；現代漢語方言, せん伯慧, 光生館, 1983年；現代中国語総説, 北京大学中国語文学系現代漢語教研室, 三省堂, 2004年；中国語学習ハンドブック改訂版, 相原茂, 大修館書店, 1996年；教科書の各章末に参考文献リストが載っているのでそちらも参照すること。特に、漢字に関する参考文献についてはそちらに譲ります。

●連絡先・オフィスアワー 研究室 人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学概説 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	富平美波				

●授業の概要 前期に引き続き、教科書の叙述に沿いつつ、中国語学に関する基礎知識を講義する。本講義では、現代中国語の文法と語彙について概説する。／検索キーワード 中国語、文法、語彙

●授業の一般目標 (1) 現代中国語の文法的特徴について理解する。(2) 現代中国語の語彙的特徴について理解する。(3) 中国語学の諸問題について主体的に学習・考察する態度を養成する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 現代中国語の文法の特徴について簡単な説明ができる。2. 現代中国語の語彙の特徴について簡単な説明ができる。関心・意欲の観点：中国語の諸特徴について問題意識を持ち、関心を持ったテーマについて主体的に学習・考察することができる。

●授業の計画(全体) 教科書『中国語学概論』の第4章「中国語の文法」第5章「中国語の語彙」(余裕があれば第6章「中国語の表現」)の部分を講読しつつ、適宜補充説明を加え、時には受講者に設問を解いてもらいながら、授業を進める。第1回-第10回 「中国語の文法」 第11回-第14回 「中国語の語彙」

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 教科書 4.1-4.2 内容 文法とその単位

第2回 項目 4.3 内容 品詞(1)

第3回 項目 続き 内容 品詞(2)

第4回 項目 続き 内容 品詞(3)

第5回 項目 続き 内容 品詞(4)

第6回 項目 4.4 内容 フレーズ(1)

第7回 項目 続き 内容 フレーズ(2)

第8回 項目 4.5 内容 文(1)

第9回 項目 続き 内容 文(2)

第10回 項目 続き 内容 文(3)

第11回 項目 5.1-5.2 内容 語彙の構成

第12回 項目 5.3-5.4 内容 語の意味

第13回 項目 5.5 内容 外来語など

第14回 項目 復習・補足

第15回 項目 レポート

●成績評価方法(総合) おしまいに、授業内容に関連を持つテーマを選んでレポートしてもらおう。また、授業中に設問に答えてもらうほか、随時、感想や質問を自由に書いてもらう機会を作る。これらにより授業への理解度と主体的学習への意欲を評価する。なお、出席が3分の2に満たない者には単位を与えない。

●教科書・参考書 教科書：中国語学概論, 王占華・一木達彦・ほう山武義, 駿河台出版社, 2004年／参考書：現代中国語総説, 北京大学中国語语言文学系現代漢語教研室, 三省堂, 2004年；中国語学習ハンドブック改訂版, 相原茂, 大修館書店, 1996年；やさしくくわしい中国語文法の基礎, 守屋宏則, 東方書店, 1995年；中国語語法分析問題, 呂叔湘, 光生館, 1983年；文法講義, 朱徳熙, 白帝社, 1995年；教科書の各章末に参考文献リストが載っているのでそちらも参照すること。また、中国語文法や語彙に関する参考書は近年多量に出版されているので図書館や書店を覗いてみる。

●連絡先・オフィスアワー 研究室 人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00



開設科目	中国語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	更科慎一				

●授業の概要 中国語の発音の歴史を学ぶ。中国では、この方面の研究は伝統的に「音韻学」と呼ばれ、訓詁学・文字学と並んで経書解釈の基礎学問「小学」の一分野を構成している。現在、中国音韻学は「経書解釈の付属物」の地位を脱して自立した言語研究の一分野となり、手法上も現代の音声学・音韻論を多く取り入れたものとなっている。授業では、音声学の基礎的訓練の基礎の上に、隋唐時代の中国語標準音である「中古音」の体系の概要を解説する。／検索キーワード 国際音声字母 中古音 韻書 切韻 広韻 韻図 韻鏡

●授業の一般目標 (1) 現代中国語の発音が、ある歴史的経緯によって成立したものであるという視点を持つ。(2) 国際音声字母を理解する能力を養う。(3) 中国の伝統的音韻学の基礎的概念を理解し、隋唐時代の漢字の発音を知る。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 常用される国際音声字母を見ておおむね理解することができる。2. 中国の伝統的音韻学の基礎的な術語を理解することができる。思考・判断の観点：1. 中古音と現代標準中国語音、現代中国語諸方言音、日本漢字音などの間には規則的な対応関係があり、その背景には言語変化の一般的法則があるという視点を持つ。2. 伝統的な音韻学と現代音韻学の探求するものの共通点と相違点を認識する。3. 現代的音韻論の基本的考え方を理解し、具体的現象の説明に応用できる。技能・表現の観点：1. 任意の漢字の中古音が検索できる。2. 韻図を見て理解することができる。3. 日本語にはないさまざまな子音や母音の発音が正確にできる。

●授業の計画（全体） 授業は、前半で国際音声字母について実践的に解説する。後半では、三十六字母、韻目、開合、等、撮などの概念を中心とした中古音のあらましを解説するほか、韻書の引き方や韻図の見方についても説明する。期末に、授業で得た知識・観点・疑念を生かしたレポートを提出させる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめの説明 内容 中国語音韻史の簡単な流れの解説、音韻学と中古音についての簡単な説明。
- 第 2 回 項目 国際音声字母 (1) 内容 子音概論；子音の調音点
- 第 3 回 項目 国際音声字母 (2) 内容 子音の発音方法と喉頭調節
- 第 4 回 項目 国際音声字母 (3) 内容 基本母音：母音の舌位、高さ、円唇性
- 第 5 回 項目 国際音声字母 (4) 内容 重母音、長母音など
- 第 6 回 項目 音節構造 内容 声母、韻母、声調；音節末子音の聞き取り練習
- 第 7 回 項目 国際音声字母のまとめ 内容 子音と母音の聞き取り練習
- 第 8 回 項目 音韻体系 内容 音素目録；音素の結合
- 第 9 回 項目 音韻学と中古音 (1) 内容 切韻について；韻目の構造
- 第 10 回 項目 音韻学と中古音 (2) 内容 韻図；三十六字母
- 第 11 回 項目 音韻学と中古音 (3) 内容 開合と等 (1)
- 第 12 回 項目 音韻学と中古音 (4) 内容 開合と等 (2)
- 第 13 回 項目 音韻学と中古音 (5) 内容 開合と等 (3)
- 第 14 回 項目 音韻学と中古音 (6) 内容 撮；中古音の声母と韻母
- 第 15 回 項目 総まとめ 内容 総まとめ

●成績評価方法（総合） 学期末に提出させるレポートによるほか、授業への参加度も一定程度考慮する。

●教科書・参考書 教科書：教科書は使いません。教官がプリントを用意します。／参考書：音韻のはなし 中国音韻学の基本知識, 李思敬原著、慶谷寿信・佐藤進編訳, 光生館, 1987 年；言語 (中国文化叢書 1), 牛島徳次、香坂順一、藤堂明保, 大修館書店, 1967 年；中国語音韻論, 藤堂明保, 江南書院, 1957 年；中国古典を読むために 中国語学史講義, 頼惟勤著、水谷誠編, 大修館書店, 1996 年

●連絡先・オフィスアワー 更科慎一 研究室:人文516、電話:933-5250 e-mail:sarasina@yamaguchi-u.ac.jp  
来室は在室時に随時可。

開設科目	中国語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	更科慎一				

●授業の概要 前期に引き続き、中国の発音の歴史を学ぶ。前期の内容を踏まえた講義となるため、受講者が前期の授業を受講していることを前提に授業を進めてゆく。後期では、中古から現代北京語に至る音韻の歴史を概観するとともに、重要な音韻史資料についても解説を行なう。／検索キーワード 中古音 近世音 現代北京語 中原音韻 官話 対音資料 漢字音

●授業の一般目標 (1) 現代中国語の発音が、ある歴史的経緯によって成立したものであるという視点を持つ。(2) 国際音声字母を理解する能力を養う。(3) 中国の伝統的音韻学の基礎的概念を理解し、隋唐時代の漢字の発音を知る。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 隋唐から現代に至る中国語音韻史の概略を理解する。 思考・判断の観点： 1. 中古音と現代標準中国語音、現代中国語諸方言音、日本漢字音などの間には規則的な対応関係があり、その背景には言語変化の一般的法則があるという視点を持つ。 2. 重要な音韻史資料が音韻史研究に対して持つ意味を認識する。 3. 現代的音韻論の基本的考え方を理解し、具体的現象の説明に応用できる。 技能・表現の観点： 1. 任意の漢字の中古音が検索できる。 2. 韻図を見て理解することができる。 3. 日本語にはないさまざまな子音や母音の発音が正確にできる。

●授業の計画（全体） 授業では、上記「授業の概要」主題に沿って講義をし、期末に、授業で得た知識・観点・疑問を生かしたレポートを提出させる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 はじめの説明 内容 中国語音韻史の区分
- 第 2 回 項目 唐代の音韻史資料 (1) 内容 漢字音と漢字文化圏
- 第 3 回 項目 唐代の音韻史資料 (2) 内容 唐五代西北方音、ウイグル漢字音
- 第 4 回 項目 宋代の音韻史資料 内容 皇極経世声音図、西夏文字資料、契丹文字資料
- 第 5 回 項目 元代の音韻史資料 (1) 内容 蒙古字韻、古今韻会举要
- 第 6 回 項目 元代の音韻史資料 (2) 内容 中原音韻の体裁
- 第 7 回 項目 元代の音韻史資料 (3) 内容 中原音韻の音韻体系
- 第 8 回 項目 明代の音韻史資料 (1) 内容 官話と正音
- 第 9 回 項目 明代の音韻史資料 (2) 内容 朝鮮資料と宣教師資料
- 第 10 回 項目 明代の音韻史資料 (3) 内容 明代に起こった主な音韻変化
- 第 11 回 項目 現代北京音系の成立 (1) 内容 明代以降に起こった主な音韻変化
- 第 12 回 項目 現代北京音系の成立 (2) 内容 入声韻母と文白異読現象
- 第 13 回 項目 現代北京音系の成立 (3) 内容 入声の他声への派入
- 第 14 回 項目 総まとめ (1) 内容 中古音の目で現代北京音を見る
- 第 15 回 項目 総まとめ (2) 内容 総まとめ

●成績評価方法（総合） 学期末に提出させるレポートによるほか、授業への参加度も一定程度考慮する。

●教科書・参考書 教科書：教科書は使いません。教官がプリントを用意します。／参考書：音韻のはなし 中国音韻学の基本知識, 李思敬原著、慶谷寿信・佐藤進編訳, 光生館, 1987 年；言語 (中国文化叢書 1), 牛島徳次、香坂順一、藤堂明保, 大修館書店, 1967 年；中国語音韻論, 藤堂明保, 江南書院, 1957 年；中国古典を読むために 中国語学史講義, 頼惟勤著、水谷誠編, 大修館書店, 1996 年

●連絡先・オフィスアワー 更科慎一 研究室: 人文 516、電話: 933-5250 e-mail: sarasina@yamaguchi-u.ac.jp 来室は在室時に随時可。

開設科目	中国語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	守屋宏則				

- 授業の概要 現代中国語の文法体系を中国語学習に有用な学校文法の観点から総合的に講義する。
- 授業の一般目標 複合語の構造に始まって、複文内部の論理関係に到るまで、現代中国語の内部に存在する自律的規則を把握し、中国語の理解と運用の能力向上に役立てる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：現代中国語の文法規則について知識と理解を深める。思考・判断の観点：中国語の誤用例を見てどこがどのように誤っているかを考え、判断する。関心・意欲の観点：母語である日本語、学習経験のある英語と比較対照しながら中国語文法の特徴に対する関心を高める。態度の観点：言語に内在する文法上の特徴を考えることの楽しさを知る。技能・表現の観点：現代中国語を雰囲気ではなくあくまでも理詰めに読解し、さらに文法的に正しい文を書けるようにする。
- 授業の計画（全体） 現代中国語文法の概要を解説する。さらに練習問題を解きながら理解を深める。
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等
  - 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の進め方の説明 現代中国語文法の概要を解説する
  - 第 2 回 項目 動詞述語文 内容 動詞述語文について解説する
  - 第 3 回 項目 形容詞述語文 内容 形容詞述語文について解説する
  - 第 4 回 項目 数詞・量詞・副詞・介詞 内容 項目に掲げた品詞について解説する
  - 第 5 回 項目 各種フレーズ 内容 中国語の各種フレーズについて解説する
  - 第 6 回 項目 主語・目的語・定語・状語などの文成分 内容 項目に掲げた文成分について解説する
  - 第 7 回 項目 補語（1） 内容 数量補語・結果補語・方向補語について解説する
  - 第 8 回 項目 補語（2） 内容 可能補語・様態補語について解説する
  - 第 9 回 項目 アスペクト 内容 完了・経験・持続などのアスペクトについて解説する
  - 第 10 回 項目 疑問文 内容 各種の疑問文について解説する
  - 第 11 回 項目 複文 内容 複文の分類、複文の型などについて解説する
  - 第 12 回 項目 受動文・使役文・処置文 内容 項目に掲げた文型について解説する
  - 第 13 回 項目 存現文・連動文・「是～的」文 内容 項目に掲げた文型について解説する
  - 第 14 回 項目 未来の表現・比較の表現 内容 項目に掲げた表現形式について解説する
  - 第 15 回 項目 総括説明・質疑応答・試験 内容 現代中国語文法の特徴について総括説明する 質疑応答を通じて理解を深める 試験を実施する
- 成績評価方法（総合） 最終回に筆記試験を行う。
- 教科書・参考書 教科書：やさしくくわしい中国語文法の基礎, 守屋 宏 則, 東方書店, 1995 年
- メッセージ 現代中国語の文法に興味・関心のある学生の受講を希望します。
- 備考 集中授業

開設科目	中国語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	更科慎一				

●授業の概要 ふつう、「中国語」と呼ばれる言語は、現代北京の音韻体系を規範とする中国の標準語「普通話」である。現代北京語は、このように普通話の骨組を為しているが、あたかも日本語の標準語に対する東京弁の如く、人民の中で生き、変化し続けている方言の一つなのであって、普通話そのものとは区別される。本授業では、現代北京語の音韻、語彙、文法などに関して、現代中国語で書かれた文献を読み、学生の皆さんが中国語学研 究への確かな道を敷設するのに役立つ知的訓練を提供する。／検索キーワード 北京語 普通話

●授業の一般目標 (1) 現代北京語の特徴や、現代北京語と普通話との関係等について理解を深める。(2) 現代中国語の論文文体に慣れ、読解と翻訳の実力を増強する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 現代北京語の特徴について言語学的に述べるができる。 2. 現代北京語と普通話の関係を説明することができる。 3. 中国語学の基本的用語を理解することができる。  
技能・表現の観点： 1. 現代中国語文を正しい発音で音読することができる。 2. 現代中国語文を正しく日本語に訳すことができる。

●授業の計画（全体） 授業は、出席した受講者がテキストの音読と日本語訳を行い、教官が口頭でそれに対する補足を行う形で進行する。

●教科書・参考書 教科書： 教官が授業中に配布するプリントを教科書(テキスト)とする。

●メッセージ なるべく多くの漢字の発音を覚え、また語彙を増やすよう心がけてください。漢字だけを見て「知っている単語だ」と思わないように！

●連絡先・オフィスアワー 更科慎一研究室：人文 516；電話 933-5250 e-mail:sarasina@yamaguchi-u.ac.jp  
空き時間に随時来室可。

開設科目	中国語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	更科慎一				

- 授業の概要 前期に引き続き、現代北京語の音韻、語彙、文法などに関して、現代中国語で書かれた文献を読み、学生の皆さんが中国語学研究への確かな道を敷設するのに役立つ知的訓練を提供する。
- 授業の一般目標 (1) 現代北京語の特徴や、現代北京語と普通話との関係等について理解を深める。(2) 現代中国語の論文文体に慣れ、読解と翻訳の実力を増強する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 現代北京語の特徴について言語学的に述べるができる。 2. 現代北京語と普通話の関係を説明することができる。 3. 中国語学の基本的用語を理解することができる。  
技能・表現の観点： 1. 現代中国語文を正しい発音で音読することができる。 2. 現代中国語文を正しく日本語に訳すことができる。
- 授業の計画（全体） 授業は、出席した受講者がテキストの音読と日本語訳を行い、教官が口頭でそれに対する補足を行う形で進行する。
- 教科書・参考書 教科書： 教官が授業中に配布するプリントを教科書(テキスト)とする。
- メッセージ なるべく多くの漢字の発音を覚え、また語彙を増やすよう心がけてください。漢字だけを見て「知っている単語だ」と思わないように！
- 連絡先・オフィスアワー 更科慎一研究室：人文 516；電話 933-5250 e-mail:sarasina@yamaguchi-u.ac.jp  
空き時間に随時来室可。

開設科目	中国語学演習（2・3年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	富平美波				

●授業の概要 周祖ぼの講義録「漢語歴史音韻学」を講読しつつ、中国語音韻学史中の重要なトピックについて考察する。前期の本講義では、中国語の音節の構造・双声疊韻・四声・反切などについて学ぶ。／検索キーワード 中国語 講読 音韻学 学史

●授業の一般目標 中国語音韻学の基礎的概念やその誕生をめぐる学史的経緯について理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：中国語の音節の構造・双声疊韻・四声・平仄などの概念とその誕生をめぐる歴史的経緯の概略が理解できる。思考・判断の観点：中国語の具体的な音節について、その構造がわかる。双声疊韻の実例についてその音韻的特徴が理解できる。漢詩などを例に取って、字句の発音や平仄が調べられる。関心・意欲の観点：中国語の音韻的特徴について関心を持ち、自ら選んだテーマについて学習結果をレポートできる。現代中国語の文章を進んで読解しようとする意欲がある。技能・表現の観点：現代中国語の文章が読解できる。

●授業の計画（全体）テキスト『周祖ぼ音韻訓こ文字講義』所収の「漢語歴史音韻学」の中から、二「漢語字音的分析」・四「双声疊韻与四声」（余裕があれば・三「反切的注音方法」）の部分を講読し、付録の練習問題を解くことにより、中国語音韻学と学史に関する代表的基礎知識を身につける。受講者には、初めにテキストのコピーを配布し、次回から、毎回の講読部分の音読・翻訳と練習問題の解答を課す。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業内容の説明とテキストのコピー配布
- 第 2 回 項目 「2. 1 声韻調的概念」の講読
- 第 3 回 項目 「2. 2 普通話声韻的系統性」の講読
- 第 4 回 項目 同上続き・「2. 3 方言声韻的異同」の講読
- 第 5 回 項目 同上続きと練習問題
- 第 6 回 項目 「4. 1 双声与疊韻」の講読
- 第 7 回 項目 同上
- 第 8 回 項目 練習問題
- 第 9 回 項目 「4. 2 四声与平仄、音韻知識在文学上的応用」の講読
- 第 10 回 項目 同上
- 第 11 回 項目 同上
- 第 12 回 項目 練習問題
- 第 13 回 項目 補足講義（音韻学の歴史と領域）
- 第 14 回 項目 補足講義（反切について）
- 第 15 回 項目 レポート作成

●成績評価方法（総合）毎回の授業における課題の達成度と学期末のレポートにより、授業内容に対する理解度と主体的学習態度を評価する。なお、出席が3分の2に満たない者には単位を与えない。

●教科書・参考書 教科書：授業中にテキストのコピーを配布します。／参考書：音韻のはなし、李思敬、光生館、1987年；中国古典を読むために、頼惟勤、大修館書店、1996年；中国言語学史、大島正二、汲古書院、1997年；その他、授業中に適宜紹介します。

●メッセージ 講読文献は現代中国語で書かれていますが、途中に古典の引用が出てきます。その部分の意味を解釈するには漢和辞典が必要です。また、使用頻度の低い漢字の音などを調べるためには研究室の大型辞典を使用する必要もあるでしょう。

●連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学演習 (2・3年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	富平美波				

●授業の概要 前期の授業に引き続き、周祖ぼの講義録「漢語歴史音韻学」を講読しつつ、中国語音韻学史中の重要なトピックについて考察する。後期の本講義では、反切の誕生と韻書の出現・『切韻』の成書とその内容などについて学ぶ。／検索キーワード 中国語 講読 音韻学 学史

●授業の一般目標 中国語音韻学の基礎的概念やその誕生をめぐる学史的経緯について理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：中国における反切や韻書の成立をめぐる基礎知識を会得し、その学史的意味の一端を理解する。思考・判断の観点：反切注の実例や『切韻』の韻目などを見て、古代と現代の音の相違に気づくことができる。関心・意欲の観点：中国の音韻学史について関心を持ち、自ら選んだテーマについて学習結果をレポートできる。現代中国語の文章を進んで読解しようとする意欲がある。技能・表現の観点：現代中国語の文章が読解できる。

●授業の計画(全体) テキスト『周祖ぼ音韻訓こ文字講義』所収の「漢語歴史音韻学」から、三「反切的注音方法」・五「早期的韻書与切韻」・六「切韻の声韻系統」の部分の講読し、付録の練習問題を解くことにより、中国語音韻学と学史に関する代表的基礎知識を身につける。受講者には、初回にテキストのコピーを配布し、次回から、毎回の講読部分の音読・翻訳と練習問題の解答を課す。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 授業内容の説明とテキストのコピー配布
- 第2回 項目 「3. 1 反切産生以前注音的方法」の講読
- 第3回 項目 同上
- 第4回 項目 「3. 2 反切興起的時代」の講読
- 第5回 項目 「3. 3 反切二字的含義」の講読
- 第6回 項目 「3. 4 反切与読音」の講読と練習問題
- 第7回 項目 「5. 1 韻書の起源」の講読
- 第8回 項目 「5. 2 南北朝時期的韻書」の講読
- 第9回 項目 「5. 3 陸法言的切韻…」の講読
- 第10回 項目 同上の続きと「6. 1 切韻編制的体例」の講読
- 第11回 項目 「6. 2 切韻四声韻目」の講読
- 第12回 項目 「6. 3 考定切韻声韻部類的方法」の講読
- 第13回 項目 「6. 5 切韻的韻類」の講読
- 第14回 項目 同上
- 第15回 項目 レポート作成

●成績評価方法(総合) 毎回の授業における課題の達成度と学期末のレポートにより、授業内容に対する理解度と主体的学習態度を評価する。なお、出席が3分の2に満たない者には単位を与えない。

●教科書・参考書 教科書：授業中にテキストのコピーを配布します。／参考書：音韻のはなし、李思敬、光生館、1987年；中国文化叢書I言語、牛島徳次ほか、大修館書店、1967年；中国古典を読むために、頼惟勤、大修館書店、1996年；辞書の発明、大島正二、三省堂、1997年；中国言語学史、大島正二、汲古書院、1997年；その他、授業中に適宜紹介します。

●メッセージ 前期の講読部分と同じく、古典文献の引用が出てきます。中日辞典のほか、漢和辞典、普段見かけない漢字が調べられる大型辞典(「大漢和辞典」・「漢語大字典」など。研究室に備えられています。)が必要になるでしょう。

●連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00



開設科目	中国語学演習(4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	富平美波				

- 授業の概要 受講者は、各自、中国語学に関する研究テーマを1つ選び、調査研究を行い、互いに研究の進行状況と成果を発表し合い、討論を交わす。／検索キーワード 中国語学 研究発表
- 授業の一般目標 中国語学に関して、独自に課題を発見し、調査を行い、考察を加え、報告を行う力を養う。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：自分の選んだ研究領域に関する基礎知識をマスターし、それについて説明することができる。思考・判断の観点：自分の選んだ研究テーマに関連する先行研究の論点を把握し、内容の中で理解できなかった点を指摘し、疑問の解決法を考えることができる。関心・意欲の観点：中国語に関して、問題意識を持ち、主体的な調査・考察を行う姿勢が身に付いている。態度の観点：1. 常に少しずつでも、自分の選んだ研究テーマに関して調査・考察を進める。2. 他人の報告を熱心に聞き、問題を提起できる。技能・表現の観点：自分の選んだ研究テーマについて、わかりやすい研究報告ができる。
- 授業の計画(全体) 第1回目の授業で、おのおのの研究テーマを持ち寄り、研究発表の順番を決める。第2回までにテーマを確定し、順次研究発表・討論を行う。学期末に総まとめのレポートを課す。
- 成績評価方法(総合) 授業中に行う研究発表と学期末のレポートにより評価する。また、授業への参加度として、他の受講者の研究発表に対して行った発言、毎回の研究進捗報告を評価に加える。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	富平美波				

- 授業の概要 受講者は、各自、前学期に選んだ研究テーマについて、引き続き調査・研究を行い、互いに研究の進行状況と成果を発表し合い、討論を交わす。／検索キーワード 中国語学 研究発表
- 授業の一般目標 中国語学に関して、独自に課題を発見し、学習・調査を行い、考察を加え、報告を行う力を養う。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：自分の選んだ研究領域に関する基礎知識をマスターし、それについて説明することができる。思考・判断の観点：自分の選んだ研究テーマに関連する先行研究の論点を把握し、内容の中で理解できなかった点を指摘し、疑問の解決法を考えることができる。関心・意欲の観点：中国語に関して、問題意識を持ち、主体的な調査・研究を行う姿勢が身に付いている。態度の観点：1. 常時少しずつでも、自分の選んだ研究テーマに関して調査・研究を進める。2. 他人の報告を熱心に聞き、問題を提起できる。技能・表現の観点：自分の選んだ研究テーマについて、わかりやすい研究報告ができる。
- 授業の計画（全体） 第1回目は、各自の研究についてこれまでの進捗を確認し、第2回より、順次、研究発表と討論を進める。
- 成績評価方法（総合） 授業中に行う研究発表と、他の受講者の発表に対する発言、及び毎回の研究進捗報告により評価する。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室：人文学部5階 Tel.933-5251 オフィスアワー：月曜日 12:50-16:00

開設科目	中国語学演習 (4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	更科慎一				

- 授業の概要 卒業論文演習である。卒業論文を執筆する受講者を指導する。
- 授業の一般目標 卒論執筆に向けて、テーマを選び、先行研究文献の検索・収集・消化を行う。その過程で、問題を見つけ、他の受講者や教官を対象に報告を行うと同時に、他の受講者の報告に対し適切な意見と助言を提示する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 決定したテーマに関連した先行研究を踏まえて、テーマの研究状況について説明することができる。2. 学術論文執筆の基本的ルールを身につける。思考・判断の観点：1. テーマにおける問題のありかを指摘することができる。2. 論理的な思考様式によって問題を処理することができる。関心・意欲の観点：1. 科学の趣旨を理解し、学問に敬意を払う。態度の観点：1. テーマに関する研究史の中に自分の研究を位置づけることができる。技能・表現の観点：1. 必要な文献を検索し、適切に引用することができる。
- 授業の計画（全体）(1) 中国語学の領域において研究テーマを決定する。(2) テーマの研究資料を決定する。(3) 研究の進捗状況について発表資料(レジュメ)を作成し、発表と討論を行う。(4) 期末に、テーマと関連したレポートを提出する。
- 成績評価方法(総合)(1) 研究の進捗状況を報告するためのレジュメと口頭発表(2) 討論への参加態度(3) 学期末レポートによる。
- メッセージ たとえテーマそのものが今すぐ社会に役立つことはなくとも、一年間に及ぶ卒論執筆の過程は、今後の自身と他人の生活に計り知れない益を齎すはずで す。そのためにも、いい卒論を書いてください。
- 連絡先・オフィスアワー 更科慎一 研究室:人文516、電話:933-5250 e-mail:sarasina@yamaguchi-u.ac.jp 来室は在室時に随時可。但し、込み入った相談の場合は、事前に連絡してもらいたい。

開設科目	中国語学演習(4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	更科慎一				

- 授業の概要 卒業論文演習である。卒業論文を執筆する受講者を指導する。
- 授業の一般目標 前期に決定したテーマに沿って、引き続き先行研究文献の検索・収集・消化を行うとともに、研究資料を分析し、検討する。その過程で得られた成果につき、他の受講者や教官を対象に報告を行うと同時に、他の受講者の報告に対し適切な意見と助言を提示する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：1. 決定したテーマに関連した先行研究を踏まえて、テーマの研究状況について説明することができる。2. 学術論文執筆の基本的ルールを身につける。思考・判断の観点：1. テーマにおける問題のありかを指摘することができる。2. 論理的な思考様式によって問題を処理することができる。関心・意欲の観点：1. 科学の趣旨を理解し、学問に敬意を払う。態度の観点：1. テーマに関する研究史の中に自分の研究を位置づけることができる。技能・表現の観点：1. 必要な文献を検索し、適切に引用することができる。
- 授業の計画(全体) 研究の進捗状況について発表資料(レジュメ)を作成し、発表と討論を行う。
- 成績評価方法(総合) (1) 研究の進捗状況を報告するためのレジュメと口頭発表 (2) 討論への参加態度による。
- メッセージ たとえテーマそのものが今すぐ社会に役立つことはなくとも、一年間に及ぶ卒論執筆の過程は、今後の自身と他人の生活に計り知れない益を齎すはずで。そのためにも、いい卒論を書いてください。
- 連絡先・オフィスアワー 更科慎一 研究室:人文516、電話:933-5250 e-mail:sarasina@yamaguchi-u.ac.jp 来室は在室時に随時可。但し、込み入った相談の場合は、事前に連絡してもらいたい。

開設科目	中国文学史 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	根ヶ山徹				

- 授業の概要 中国古代から清朝まで（民国以前）の文学について概観する。中国文学は、「漢文」・「唐詩」・「宋詞」・「元曲」ということばに代表されるように、長い歴史を有するのみならず、ジャンルも多種多様にわたる。この授業では、古代から清朝に至るまでの重要な作品を紹介し、さまざまな観点から分析する。
- 授業の一般目標 中国の主な時代の作家と文学作品に関して、基本的知識を得、個々の作品の読解を通じて、中国文化に対する理解を深めること。
- 授業の計画（全体） 文献資料を読み進めながら、中国文学の特質、『詩経』と『楚辞』、六朝文学、隋・唐代の文学等について言及する予定。
- 成績評価方法（総合） 期末試験の成績により評価する。
- 教科書・参考書 教科書：中国文学概論, 岩城秀夫, 朋友書店

開設科目	中国文学史 II	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	根ヶ山徹				

- 授業の概要 「中国文学史 I」に引き続き、中国古代から清朝まで（民国以前）の文学について概観する。
- 授業の一般目標 中国の主な時代の作家と文学作品に関して、基本的知識を得、個々の作品の読解を通じて、中国文化に対する理解を深めること。
- 授業の計画（全体） 文献資料を読み進めながら、宋詞、近世の演劇・小説、元・明・清の文学等について言及する予定。
- 成績評価方法（総合） 期末試験の成績により評価する。
- 教科書・参考書 教科書：中国文学概論, 岩城秀夫, 朋友書店

開設科目	中国文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	阿部泰記				

●授業の概要 包拯伝説の歴史的展開について講じる。包拯は北宋時代の官吏で、毅然とした態度で奸臣に立ち向かいその野望を挫いたため、民衆に慕われてその業績が文学に取材されて伝説的な人物となり、現代中国でも「包公」と言えば知らない人はいないし、崇拝の対象ともなっている。本講義ではこうした文学を媒体とした包拯の伝説を具体的に紹介していく。／検索キーワード 包拯、包公、民間伝説、物語、民間信仰、包公廟

●授業の一般目標 1. 中国の政治と文学の関係について理解を深める。 2. 伝説が文学を媒体として拡散することを理解する。 3. 伝説が事実として認識される事象について理解する。 4. 中国の物語のジャンルについて知る。 5. 伝説と信仰との関係について考える。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 包拯という人物の業績について知る。 2. 包拯の伝説に取材した文学を知る。 3. 包拯を祀った廟の分布を知る。 思考・判断の観点： 1. 民衆がなぜ包拯を慕うのかを考える。 2. 民衆にとって文学とは何かを考える。 関心・意欲の観点： 1. 包拯について図書館で文献を調べてみる。 2. インターネットで包拯に取材した文学や包公廟について検索してみる。 態度の観点： 1. 授業を真剣に聞く態度をやしなう。 2. 授業の内容をノートする態度をやしなう。 技能・表現の観点： 1. 手際よくノートする訓練をする。 2. 中国のインターネットを検索する能力を身につける。

●授業の計画（全体） 1. 包拯の伝説に取材した文学を紹介し、その内容を分析する。 2. 包拯を祀った経典や祠廟を紹介し、その意義を考察する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 包拯の伝記 内容 宋史を読む。
- 第 2 回 項目 南宋時代の包拯 伝説 内容 新編醉翁談録を読む。
- 第 3 回 項目 元時代の包拯伝説 内容 元曲選を読む。
- 第 4 回 項目 明時代の包拯伝説 (1) 内容 説唱詞話を読む。
- 第 5 回 項目 明時代の包拯伝説 (2) 内容 百家公案を読む。
- 第 6 回 項目 明時代の包拯伝説 (3) 内容 龍図公案を読む。
- 第 7 回 項目 清時代の包拯伝説 (1) 内容 石派書を読む。
- 第 8 回 項目 清時代の包拯伝説 (2) 内容 龍図耳録を読む。
- 第 9 回 項目 現代の包拯伝説 (1) 内容 地方劇のテキストを読む。
- 第 10 回 項目 現代の包拯伝説 (2) 内容 地方劇のテキストを読む。
- 第 11 回 項目 包拯の経典 内容 包公明聖經を読む。
- 第 12 回 項目 包拯の祠廟 内容 広東・陳州の包公廟を紹介する。
- 第 13 回 項目 包拯の祠廟 内容 浙江の包公廟を紹介する。
- 第 14 回 項目 包拯の祠廟 内容 湖南・江西の包公廟を紹介する。
- 第 15 回 項目 まとめ 内容 包拯伝説の伝播についてまとめる。

●成績評価方法（総合） 1. 出席・レポート提出ができない者は評価の対象外である。 2. どれだけ授業を理解できたかを評価の基準とし、試験によってそれを検査する。

●教科書・参考書 参考書： 阿部泰記『包公伝説の形成と展開』（汲古書院） 莊司格一『中国の公案小説』（研文出版）

開設科目	中国文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	阿部泰記				

- 授業の概要 包拯伝説の歴史的展開について講じる。包拯は北宋時代の官吏で、毅然とした態度で奸臣に立ち向かいその野望を挫いたため、民衆に慕われてその業績が文学に取材されて伝説的な人物となり、現代中国でも「包公」と言えば知らない人はいないし、崇拜の対象ともなっている。本講義ではこうした文学を媒体とした包拯の伝説を具体的に紹介していく。／検索キーワード 包拯、包公、民間伝説、物語、民間信仰、包公廟
- 授業の一般目標 1. 中国の政治と文学の関係について理解を深める。 2. 伝説が文学を媒体として拡散することを理解する。 3. 伝説が事実として認識される事象について理解する。 4. 中国の物語のジャンルについて知る。 5. 伝説と信仰との関係について考える。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1. 包拯という人物の業績について知る。 2. 包拯の伝説に取材した文学を知る。 3. 包拯を祀った廟の分布を知る。 思考・判断の観点： 1. 民衆がなぜ包拯を慕うのかを考える。 2. 民衆にとって文学とは何かを考える。 関心・意欲の観点： 1. 包拯について図書館で文献を調べてみる。 2. インターネットで包拯に取材した文学や包公廟について検索してみる。 態度の観点： 1. 授業を真剣に聞く態度をやしなう。 2. 授業の内容をノートする態度をやしなう。 技能・表現の観点： 1. 手際よくノートする訓練をする。 2. 中国のインターネットを検索する能力を身につける。
- 授業の計画（全体） 1. 包拯の伝説に取材した文学を紹介し、その内容を分析する。 2. 包拯を祀った経典や祠廟を紹介し、その意義を考察する。
- 成績評価方法（総合） 1. 出席・レポート提出ができない者は評価の対象外である。 2. どれだけ授業を理解できたかを評価の基準とし、試験によってそれを検査する。
- 教科書・参考書 参考書： 阿部泰記『包公伝説の形成と展開』（汲古書院） 莊司格一『中国の公案小説』（研文出版）



開設科目	中国文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	大塚 博久				

●授業の概要 —「古典文学」から「現代文学」への過渡期の状況— 中国文学は、時期上「古典文学」と「現代文学」とに大別される。「古典文学」とは、世界文学の中でもっとも古い歴史をもち、独自の文学形式である典故と対句を重んじる「詩文」の豊富な文学遺産をもち、主として士人によって担われた文学であり、ほぼ清朝末期までを指す。これに対して「現代文学」とは 1840 年アヘン戦争以後、西欧の帝国主義の侵略とともに西欧＝「近代」の価値観が中国に及んだいわゆる Western-Impact が文学上にも徐々に影響しはじめ、具体的には 1917 年胡適の「文学改良芻議」（『新青年』誌 2 巻 5 号）における「空虚で陳腐、難解な文語による旧文学の殻を破って口語の文学を創造しよう」との提唱を契機に、五・四「文学革命」運動が起きて以後の近・現代文学を指す。この 19 世紀末から 20 世紀初頭にかけての旧～新「過渡期」（近代文学「胎動期」）の文学思想の具体的様相を明らかにする。／検索キーワード 辛亥革命、『新青年』誌、五・四「文学革命」、五・四運動、胡適、陳独秀、魯迅。

●授業の一般目標 (1) 19 世紀末～20 世紀初頭における「古典文学」世界から「現代文学」世界への過渡期の文学的状況とその歴史的背景について理解する。(2) この時期に出現した文学的主張や運動、とくに「五・四文学革命」について理解する。(3) 個々の作家と作品（翻訳を含む）について興味、関心を深め、その文学的営為の内実を考える。(4) 同時代の日本の作家、作品との関係、影響について考える。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：近代中国の問題状況、文学史的背景および作家、作品について、理解を深め、説明できる。思考・判断の観点：関連する研究書や論文を読んで、的確に要点を把握、分析し、自分の見解を持つ。関心・意欲の観点：中国の「近・現代文学」の作家、作品に今後も興味、関心を持続できる。態度の観点：これら作品を積極的に読み、鑑賞する習慣を培う。技能・表現の観点：読解の能力を高め、自分の考えを文章や口頭で適切に表現できる。

●授業の計画（全体）授業は、この時期の文学・思想上の節目となる出来事、流れ、運動と人物、作品などについて、毎回資料を提示して紹介、解説し、「伝統」的中国社会が接した西洋近代の「異質」な文物に如何に対処、受容し、文学はどのように変容していったか、を理解する。そして、この「近代」世界に生きた苦悩に満ちた中国人の姿や、心理に関心を持つ。また学生にこの時期を代表するいくつかの「作品」を読むことを指導することを通じて関心を抱かせる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 授業外指示 「シラバス」を読んでおくこと。
- 第 2 回 項目 清朝の危機と「変法自強」運動 内容 「亡国の危機感」と「慷慨」の詩人たち
- 第 3 回 項目 啓蒙的「報刊」活動と近代西欧思潮の紹介 内容 (1)「白話報」の出現 (2) 嚴復の『天演論』などと桐城派古文
- 第 4 回 項目 西洋（日本）の「翻訳小説」 内容 林琴南の『巴黎茶花女遺事』と『不如帰』の漢訳例
- 第 5 回 項目 『清議報』『新民叢報』の新文体と「政治小説」 内容 梁啓超の「詩界革命」、「小説界革命」の提唱と『新中国未来記』
- 第 6 回 項目 「譴責小説」の盛行 内容 『官場現形記』『老残遊記』ほか
- 第 7 回 項目 留日学生の動向と「覚醒」—「辛亥革命」前後 内容 魯迅の『域外小説集』と「文化偏至論」など
- 第 8 回 項目 『新青年』と文学革命（1） 内容 『新青年』誌の創刊と陳独秀「一宣言」
- 第 9 回 項目 『新青年』と文学革命（2） 内容 胡適の「文学改良芻議」と陳独秀「文学革命論」
- 第 10 回 項目 五・四運動と文学界 内容 李大 の「庶民の勝利」と胡適—「問題と主義」論争および「新旧文学」論争
- 第 11 回 項目 近代小説の誕生—「魯迅の文学」 内容 「狂人日記」講読、『呐喊』集の小説
- 第 12 回 項目 「文学研究会」の作家たちと『小説月報』 内容 日本の文学状況と周作人、沈雁冰らの作品
- 第 13 回 項目 創造社の文学 内容 郭沫若の『女神』、郁達夫『沈淪』など

- 第14回 項目 五・四退潮期から新旧、左右分裂期を経て「国民革命」へ 内容 「新青年」Gの分裂、左翼文芸運動と「革命文学論戦」、「中国自由運動大同盟」と「左聯」の結成
- 第15回 項目 新しい作家たちの登場と「三十年代文学」へ（まとめ） 内容 巴金、老舎、丁玲らと「新月派」詩人間一多ら

- 成績評価方法（総合）（1）授業によっては、著名な「作品」を指名読解させることがある。（2）試験を行う（自筆のノートを持ち込み可）。なお出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。
- 教科書・参考書 参考書：毎回、講義概要、作品・作家解説、関連資料などを配布。また必要に応じて参考文献を紹介する。

開設科目	中国文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	根ヶ山徹				

- 授業の概要 中唐の詩人白居易『白氏文集』巻 68 を、四部叢刊本によって読む。
- 授業の一般目標 古代漢語で書かれた韻文を読解し、分析する能力を養うことを目標とする。
- 授業の計画（全体） 朱金城の箋校を参照しながら原文を解釈する。毎回 1 人が 5 首程度担当し、発表・討議する。
- 教科書・参考書 教科書：『白氏文集』，四部叢刊／参考書：『白居易集箋校』，白居易撰・朱金城箋校，上海古籍出版社，1988 年

開設科目	中国文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	根ヶ山徹				

- 授業の概要 湯頭祖の『牡丹亭還魂記』を、兪為民校注本によって読む。
- 授業の一般目標 古代漢語で書かれた原文を読解し、分析する能力を養うことを目標とする。
- 授業の計画（全体） 兪為民の注釈に基づきながら原文を解釈する。毎回1人が担当し、発表・討議する。
- 教科書・参考書 教科書：『牡丹亭』，湯頭祖撰・兪為民導読，黄山書社，2001年

開設科目	中国文学演習（2・3年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	阿部泰記				

- 授業の概要 中国の物語文学を読解する。中国の物語は語り物や演劇で上演された。本演習では、古代から現代にいたる間の代表的な物語文学を取り上げて、その研究方法を学習する。／検索キーワード 物語、語り物、演劇
- 授業の一般目標 1. 物語の媒体となる文学の形式を理解する。 2. 物語の主題を考察する。 3. 物語の現代的意義を考察する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 1. 物語文学の代表的な作品を知る。 2. 物語文学の文体を知る。  
 思考・判断の観点： 1. 物語文学の主題を考える。 2. 物語文学の歴史を考える。 関心・意欲の観点： 1. 物語文学のおもしろさを感じる。 2. 物語文学をすすんで読むようになる。 態度の観点： 1. 物語文学の読解につとめる。 2. 辞書を丹念に調べる。 技能・表現の観点： 1. 流暢な日本語に翻訳できる。 2. 中国語と日本語の表現に注意する。
- 授業の計画（全体） 漢代から現代にいたるまでの代表的な物語作品を原書をもちいて読解する。
- 成績評価方法（総合） 予習による評価。ノート提出。
- 教科書・参考書 教科書：未定。あるいはプリント配布。／参考書：中国の小説、物語、演劇関係の書籍。

開設科目	中国文学演習 (2・3年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	阿部泰記				

- 授業の概要 中国の物語文学を読解する。中国の物語は語り物や演劇で上演された。本演習では、古代から現代にいたる間の代表的な物語文学を取り上げて、その研究方法を学習する。／検索キーワード 物語、語り物、演劇
- 授業の一般目標 1. 物語の媒体となる文学の形式を理解する。 2. 物語の主題を考察する。 3. 物語の現代的意義を考察する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 1. 物語文学の代表的な作品を知る。 2. 物語文学の文体を知る。  
 思考・判断の観点： 1. 物語文学の主題を考える。 2. 物語文学の歴史を考える。 関心・意欲の観点： 1. 物語文学のおもしろさを感じる。 2. 物語文学をすすんで読むようになる。 態度の観点： 1. 物語文学の読解につとめる。 2. 辞書を丹念に調べる。 技能・表現の観点： 1. 流暢な日本語に翻訳できる。 2. 中国語と日本語の表現に注意する。
- 授業の計画（全体） 漢代から現代にいたるまでの代表的な物語作品を原書をもちいて読解する。
- 成績評価方法（総合） 予習による評価。ノート提出。
- 教科書・参考書 教科書：未定。あるいはプリント配布。／参考書：中国の小説、物語、演劇関係の書籍。

開設科目	中国文学演習(4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	阿部泰記				

- 授業の概要 卒論作成の指導を行う。卒論作成に必要な基本的な知識や研究方法を教授し、作成した文章に対する手直しを行う。／検索キーワード 卒論作成
- 授業の一般目標 1. 適正な論文課題を選択する。 2. 研究資料の検索方法を身につける。 3. 論理的な文章が書けるようになる。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 研究資料の存在を知る。 思考・判断の観点： 研究方法を考える。  
関心・意欲の観点： 関係の書籍を自分で探し出す。 態度の観点： 指導をよく聞き取る。 技能・表現の観点： 論理的な思考ができるようになる。
- 授業の計画(全体) 1. 適正な卒論のテーマの選択を幫助する。 2. 決定したテーマにふさわしい資料の検索方法を教示する。 3. 論理的な論文構成について指導する。
- 成績評価方法(総合) 授業での発表を評価する。

開設科目	中国文学演習(4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	阿部泰記				

- 授業の概要 卒論作成の指導を行う。卒論作成に必要な基本的な知識や研究方法を教授し、作成した文章に対する手直しを行う。／検索キーワード 卒論作成
- 授業の一般目標 1. 適正な論文課題を選択する。 2. 研究資料の検索方法を身につける。 3. 論理的な文章が書けるようになる。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 研究資料の存在を知る。 思考・判断の観点： 研究方法を考える。  
関心・意欲の観点： 関係の書籍を自分で探し出す。 態度の観点： 指導をよく聞き取る。 技能・表現の観点： 論理的な思考ができるようになる。
- 授業の計画(全体) 1. 適正な卒論のテーマの選択を幫助する。 2. 決定したテーマにふさわしい資料の検索方法を教示する。 3. 論理的な論文構成について指導する。
- 成績評価方法(総合) 授業での発表を評価する。



開設科目	中国文学演習(4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	根ヶ山徹				

- 授業の概要 本授業は卒業論文指導。
- 授業の一般目標 一年間を通じて着実に研究を進め、「論文」の名に値するレベルに到達することを目標とする。
- 授業の計画(全体) 各自の研究テーマに応じて、調査すべき資料を示し、その読解、考察に関する指導を行う。毎回、進捗状況の報告を課す。
- 成績評価方法(総合) 報告内容により判断する。

開設科目	中国文学演習(4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	根ヶ山徹				

- 授業の概要 本授業は卒業論文指導。
- 授業の一般目標 一年間を通じて着実に研究をすすめ、「論文」の名に値するレベルに到達することを目標とする。
- 授業の計画(全体) 前期に引き続き、各自の研究テーマに応じて、調査すべき資料を示し、その読解、考察に関する指導を行う。毎回、研究の進捗状況の報告を課す。
- 成績評価方法(総合) 報告内容により判断する。

開設科目	中国語演習（会話）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	田梅				

●授業の概要 本授業は初級中国語を終了、もしくはそれに準ずるレベルの学生を対象とするクラスで、応用会話能力を高めることを目指す。発音、語彙、文法など共通教育で習得した項目の確認、整理と拡充をしながら、具体的な場面を設定した対話文を繰り返し読んで、暗唱して、それからグループ或はペアの形で発表する。始めは難しいかも知れないが、会話能力を高めることによってよく続ければ楽しみも倍増すると思う。／検索キーワード 中国会話、コミュニケーション

●授業の一般目標 1、基本的な会話が流暢にする。2、よく使う慣用形、文型を身につけて、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法、技法を習得する。3、自身のこと、感心することについて質問と答えの方法など十分理解し運用する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：慣用形、文型を身につけて、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法、技法ができる。関心・意欲の観点：中国、中国人、中国事情に理解、関心を持つ。技能・表現の観点：自身のこと、感心することについて質問と答えの方法など十分理解し運用して、日常生活の会話が流暢にできる。

●授業の計画（全体） 第一回 【項目】オリエンテーション 【内容】授業の目標、進み方、シラバス、成績評価など説明する レベル確認の練習をして、その後テキスト、授業計画、参考書を定める。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 目標、シラバス、など説明、レベル確認の練習をする  
 第 2 回  
 第 3 回  
 第 4 回  
 第 5 回  
 第 6 回  
 第 7 回  
 第 8 回  
 第 9 回  
 第 10 回  
 第 11 回  
 第 12 回  
 第 13 回  
 第 14 回  
 第 15 回

●成績評価方法（総合） 1、授業中の発表と内容の難易度。2、授業外の宿題を数回行う。3、中間小テストを行う。4、最後に試験を実施する。

●教科書・参考書 教科書：学生全般のレベルなどによって、一回目の授業ガイダンス時に指示する。

●メッセージ 中国語初級 1・2 a/b を習得した者に限る。

●連絡先・オフィスアワー 研究 1 号館（3 1 1）tian@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日・水曜日 16:00～18:00

開設科目	中国語演習（会話）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	田梅				

- 授業の概要 前期に続けて通年のクラスである。発音、語彙、文法などの整理と拡充をしながら、具体的な場面を設定した対話文を繰り返し読んで、暗唱して、それからグループ或はペアの形で発表する。始めは難しいかもしれないが、会話能力を高めることによってよく続ければ楽しみも倍増すると思う。／検索キーワード 中国会話、コミュニケーション
- 授業の一般目標 1、基本的な会話が流暢にする。2、よく使う慣用形、文型を身につけて、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法、技法を習得する。3、自身のこと、感心することについて質問と答えの方法など十分理解し運用する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：慣用形、文型を身につけて、状況に応じて正しいコミュニケーションの方法、技法できる。関心・意欲の観点：中国、中国人、中国事情に理解、関心を持つ。技能・表現の観点：自身のこと、感心することについて質問と答えの方法など十分に理解し運用して、日常生活の会話が流暢にできる。
- 授業の計画（全体）前期と同じテキストを使って、授業計画は一回目の授業に説明する。
- 成績評価方法（総合）1、授業中の発表と内容の難易度。2、授業外の宿題を数回行う。3、中間テストを行う。4、最後に試験を実施する。
- メッセージ 中国語初級1・2 a/bを習得した者に限る。前期中国語演習（会話）も履修するのが望ましい。
- 連絡先・オフィスアワー 研究一号館（3 1 1）tian@yamaguchi-uac.jp オフィスアワー：月曜日・水曜日 16:00～ 18:00

開設科目	中国語演習（作文）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	田 梅				

●授業の概要 本授業は基本的な文法を習得し、辞書の助けで易しい文章の大体の内容が理解できるレベルの学者を対象とする。中国のセンテンスをどう組み立てるのか勉強して、和文中訳、中文和訳・誤文訂正など数多くの練習をして、短文、作文及び表現能力を高めることを目指す。（授業では学生諸君に練習問題、作文を板書してもらい、それをチェックする。問題点を分析し、不適切なところを直す。）  
／検索キーワード 中国語、短文、作文

●授業の一般目標 1、常用単文の組み立てる。 2、常用複文の組み立てる。 3、常用虚詞の組み立てる。 4、作文で正確の表現能力を習得する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：慣用語、文型を身につけて、訳文、短文の方法、形式を運用できる。 関心・意欲の観点：中国、中国語、中国事情に理解、関心を持つ。 技能・表現の観点：自分の感情、考えなど正しく表現できる短文、作文を作る。

●授業の計画（全体） 第一回【項目】オリエンテーション 【内容】授業の目標、進み方、シラバス、成績評価などを説明する レベル確認の練習をして、それによってテキスト、参考書を決める。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 本授業の説明と 受講生の中国語 レベルをチェックする。

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

●成績評価方法（総合） 1、授業外の宿題を数回行う。 2、中国語で作文を作成し提出する。 3、授業中の態度と作成した作文の難易度。 4、最後に試験を実施する。以上を下記の観点、割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

●教科書・参考書 教科書：一回目受講生の中国語レベルの練習チェックによって決める。

●メッセージ 中国語初級 1・2 a/b を習得した者に限る。

●連絡先・オフィスアワー 研究 1 号館（311） tian@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日・水曜日 16:00—18:00

開設科目	中国語演習（作文）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	田 梅				

- 授業の概要 前期に引き続き、自分の感情や考えを正しく表現できるように一層の実力アップを目指す。  
（授業では学生諸君に練習問題、作文を板書してもらい、それをチェックする。問題点を分析し、不適切なところを直す。）／検索キーワード 中国語、短文、作文
- 授業の一般目標 1、常用単文の組み立てる。 2、常用複文の組み立てる。 3、常用虚詞の組み立てる。 4、自分の感情、考えなど正しく表現できる短文、作文ができる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：慣用語、句型を身につけて、訳文、短文の方法、形式を運用できる。 関心・意欲の観点：中国、中国語、中国事情に理解、関心を持つ。 技能・表現の観点：自分の感情、考えなど正しく表現できる短文、作文を作る。
- 授業の計画（全体） 前期と同じテキストを使って、授業計画は一回目の授業に説明する。
- 成績評価方法（総合） 1、授業外の宿題を数回行う。 2、中国語で作文を作成し提出する。 3、授業中の態度と作成した作文の難易度。 4、最後に試験を実施する。以上を下記の観点、割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。
- メッセージ 中国語初級1・2 a/bを習得した者に限る。前期中国語演習（作文）も履修した者が望ましい。
- 連絡先・オフィスアワー 研究1号館（311） tian@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：月曜日・水曜日 16:00—18:00

開設科目	中国語演習（時事中国語）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	陳鳳展				

●授業の概要 中国の新聞・雑誌から政治、経済、文化、科学、社会、スポーツの各分野の記事を集めたテキストを使って、いわゆる新聞体の文型、構文、前置詞の使い方や次々と出現する新語等について解説する。

●授業の一般目標 中国語の新聞・雑誌・論文が正確に読解できるようになること。

●授業の計画（全体） テキストの目次に従って、下記項目を抜粋して授業する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方、勉強の仕方、シラバスの説明、成績評価等。
- 第 2 回 項目 LEVEL II 内容 基礎問題 A
- 第 3 回 項目 LEVEL II 内容 基礎問題 B
- 第 4 回 項目 LEVEL II 内容 発展問題
- 第 5 回 項目 LEVEL IV 内容 基礎問題 A
- 第 6 回 項目 LEVEL IV 内容 基礎問題 B
- 第 7 回 項目 LEVEL VI 内容 発展問題
- 第 8 回 項目 LEVEL VI 内容 基礎問題 A
- 第 9 回 項目 LEVEL VI 内容 基礎問題 B
- 第 10 回 項目 LEVEL VI 内容 発展問題
- 第 11 回 項目 LEVEL VIII 内容 基礎問題 A
- 第 12 回 項目 LEVEL VIII 内容 基礎問題 B
- 第 13 回 項目 LEVEL VIII 内容 発展問題
- 第 14 回 項目 期末試験 内容 テキスト外より実力問題を出題する
- 第 15 回

●成績評価方法（総合）(1) 期末試験で 60 点以上取ること。（試験は 1 回のみ。評価割合 100 %）(2) 全講義回数の四分の三以上出席すること。（欠格条件とします。）

●教科書・参考書 教科書：《現代中国語放大鏡》（緑色通道）、三瀆正道編著、朝日出版社

●メッセージ 上記テキストは文栄堂山大前店で購入して下さい。

開設科目	中国事情	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	陳鳳展				

●授業の概要 1. 漢民族の伝統的な風俗・習慣や物の考え方について、日本のそれと比較しながら話していく。 2. 近年の改革・開放政策による人や社会の変化についてビデオで紹介する。

●授業の一般目標 授業計画（授業単位）欄の授業項目に挙げた事項を日本のそれと比較して理解できる。

●授業の計画（全体） 書きの授業計画（授業単位）のとおり。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方。シラバスの説明。成績評価方法等。

第 2 回 項目 中国の国土と人 内容 広大な面積と人口、地勢、豊富な地下資源等について。

第 3 回 項目 中国の国土と人 内容 行政区域、多民族国家、中国人の発明等について。

第 4 回 項目 中国人の姓名 内容 姓名の来源、中国人の姓名の特長（名のつけ方）。

第 5 回 項目 中国人の食事 内容 土地によって主食・副食が異なる。味もちがう。

第 6 回 項目 中国人の食事 内容 食事の方式・習慣。料理法。日中の箸のちがい。

第 7 回 項目 中国茶 内容 中国茶の種類と名茶。土地によって茶をのむ習慣が異なる。

第 8 回 項目 中国の酒 内容 醸造酒と蒸留酒のそれぞれの名酒。老酒について。

第 9 回 項目 伝統的な主要節句 I 内容 春節、元宵節の意義と行事について。

第 10 回 項目 伝統的な主要節句 II 内容 端午節、中秋節の意義と行事について。

第 11 回 項目 京劇—中国の芝居 内容 京劇の特長。京劇の役柄。

第 12 回 項目 改革・開放後の人や社会 内容 ビデオで鑑賞

第 13 回 項目 改革・開放後の人や社会 内容 ビデオで鑑賞

第 14 回 項目 期末試験

第 15 回

●成績評価方法 (総合) (1) 期末試験の成績による。(評価割合 100%) (2) 全講義回数の四分の三以上出席しないと試験を受ける資格がない。

●教科書・参考書 教科書：教科書を使用しない。毎回講義する項目の関係資料をプリントして配付します。



開設科目	現代英米語概説 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	太田聡				

●授業の概要 英語学・言語学がまったくはじめての学生にもわかりやすく、英語言語学の全体像を紹介する。

●授業の一般目標 英語学研究（そして英語教員になるため）に必要な基礎知識をまんべんなく身に付ける。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：統語論、意味論、形態論、音声学、音韻論、語用論、英語史、社会言語学、心理言語学といった英語言語学の全領域をカバーする基礎知識を学び、重要概念や分析方法などが理解できるようになる。思考・判断の観点：ことばの音、形、意味を生み出すさまざまな法則に気づき、自らも思考・分析ができるようになる。関心・意欲の観点：英語の構造の分析を通して、ことばの中に見られる原理・原則や制約の働きに関心を持つ。態度の観点：「ことばは暗記するもの」という考え方を捨て去る。技能・表現の観点：本文の英文読解や付属の CD の聞き取りを通して、英語で考え、英語で発表するための素地を作る。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 Why Study English Linguistics 内容 英語言語学とはどのような分野であり、どのような研究がなされてきたのかを紹介する。授業外指示 Comprehension Check と Exercises をやる。

第 2 回 項目 How English Has Changed over the Centuries 内容 英語の歴史を解説する。授業外指示 //

第 3 回 項目 How Words Are Made: Morphology 内容 語がどのようにして作られるのかを考える。授業外指示 //

第 4 回 項目 How Words Mean: Semantics I 内容 語の意味について考える。授業外指示 //

第 5 回 項目 How English Phrases Are Formed: Syntax I 内容 文を形作る規則について考える。授業外指示 //

第 6 回 項目 How English Sentences Are Formed: Syntax II 内容 // 授業外指示 //

第 7 回 項目 How Sentences Mean: Semantics II 内容 文の意味について考える。授業外指示 //

第 8 回 項目 How to Communicate with Other People: Pragmatics 内容 会話の原則について考える。授業外指示 //

第 9 回 項目 The Sounds of English: Phonetics and Phonology 内容 英語の音声・音韻的特徴を捉える。授業外指示 //

第 10 回 項目 Regional Varieties of English: Sociolinguistics I 内容 英語の方言について考える。授業外指示 //

第 11 回 項目 English in Society: Sociolinguistics II 内容 // 授業外指示 //

第 12 回 項目 How English Is Acquired: Psycholinguistics 内容 子供の言語習得について考える。授業外指示 //

第 13 回 項目 How English as a Second/Foreign Language Is Acquired: Applied Linguistics 内容 外国語としての英語の習得について考える。授業外指示 //

第 14 回 項目 まとめ 1 内容 教科書の分かりにくかった箇所を補足する。授業外指示 //

第 15 回 項目 まとめ 2 内容 // 授業外指示 //

●成績評価方法 (総合) 毎回教科書にある Comprehension Check と Exercises を宿題とし、その出来具合によって主に評価する。なお、出席も重視し、欠席 1 回につき 5 点ずつ期末評点から減点する。

●教科書・参考書 教科書：First Steps in English Linguistics, 影山太郎他, くろしお出版, 2004 年

●連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代英米語概説 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	太田聡				

●授業の概要 英語の発音に関する正しい知識を伝授した上で、英語の音声や語形成に関する原則や制約を、日本語のそれらとも対照させながら、説明する。また、音節などの韻律単位が言語文化にどのような影響を与えうるのかを考える時間にもしたい。

●授業の一般目標 日英語の発音や語形成に関する法則を比較し、言語の個別性と普遍性を考える。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：日本語と英語のアクセントの法則の共通性に気づく。新しい語を生み出す法則を知る。思考・判断の観点：知らない語句のアクセントを予測したり、可能な語と不可能な語の区別ができるようになる。関心・意欲の観点：広く人間言語のアクセントの法則に興味を持つ。態度の観点：「語とそのアクセント（発音）は暗記するもの」という考え方を捨て去る。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 英語音声学の基礎（1）内容 英語の母音の正しい発音の仕方を指導する。授業外指示 配布したプリントの図と同じように調音できるようにする。

第 2 回 項目 英語音声学の基礎（2）内容 英語の子音の正しい発音の仕方を指導する。授業外指示 //

第 3 回 項目 英語音声学の基礎（3）内容 英語のつづり字と発音の関係について解説する。授業外指示 配布資料の課題を解く。

第 4 回 項目 日英語の分節音韻論 内容 母音や子音の体系を解説する。授業外指示 教科書第 1 章を読んでおく。

第 5 回 項目 // 内容 母音や子音の変化の法則を説明する。授業外指示 //

第 6 回 項目 // 内容 母音や子音の変化に関わる制約について論じる。授業外指示 //

第 7 回 項目 日英語の語形成 内容 可能な語を生み出すメカニズムを説明する。授業外指示 //

第 8 回 項目 日英語の音節構造 内容 日英語の音節構造について解説する。授業外指示 教科書第 2 章を読んでおく。

第 9 回 項目 // 内容 日英語の音節構造の真の違いについて論じる。授業外指示 //

第 10 回 項目 日英語の韻律 内容 リズム等の問題を取り上げる。また、韻律が生み出す言語文化について論じる。授業外指示 教科書第 3 章を読んでおく。

第 11 回 項目 日英語のアクセント 内容 日英語のアクセントの相違について説明する。授業外指示 教科書第 4 章を読んでおく。

第 12 回 項目 日英語のアクセント 内容 日英語のアクセントの共通性について論じる。授業外指示 //

第 13 回 項目 文強勢について 内容 英語の文のアクセントについて解説する。授業外指示 配布プリントを読んでおく。

第 14 回 項目 方言による発音の違いについて 内容 イギリス英語、アメリカ英語、オーストラリア英語の発音の特徴を解説する。授業外指示 //

第 15 回 項目 試験

●成績評価方法（総合） 期末筆記試験で評価する。なお、出席も重視し、欠席 1 回につき期末試験から 5 点ずつ減点する。

●教科書・参考書 教科書：音韻構造とアクセント、窪菌晴夫・太田聡、研究社、1998 年

●連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	岩部浩三				

●授業の概要 英語を学び始めたときから誰もが感じる英語に関する素朴な疑問を歴史的に解き明かす。例えば、「規則変化のほかに不規則変化があるのはなぜか」「keep,deep のように e が二つならイーと読むのに、kept, depth のように 1 つならエであるのはなぜか」など、最初に疑問点を挙げて、半年後にはそれが説明できるようにする。英語を話す民族の動向をビデオ教材を通じて理解する。／検索キーワード 英語史

●授業の一般目標 現代英語に関する疑問を共有し、それらを歴史的に説明できるようになる。英語の成立から、現代英語までの概略を把握する。英語を話す民族の動向に関心を持つ。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：英語とその言語を話す民族の歴史の概略を把握する。現代英語に対して感じる疑問点を歴史的に説明できる。関心・意欲の観点：英語に対する素朴な疑問点を再確認し、それを歴史的に解明する意欲を持つ。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 英語に関する素朴な疑問について
- 第 2 回 項目 英語の外面史
- 第 3 回 項目 借入語
- 第 4 回 項目 発音の変化
- 第 5 回 項目 屈折の単純化
- 第 6 回 項目 屈折の単純化
- 第 7 回 項目 屈折の単純化
- 第 8 回 項目 屈折の単純化
- 第 9 回 項目 統語法の発達
- 第 10 回 項目 統語法の発達
- 第 11 回 項目 統語法の発達
- 第 12 回 項目 統語法の発達
- 第 13 回 項目 統語法の発達
- 第 14 回 項目 質疑応答
- 第 15 回 項目 期末試験

●成績評価方法（総合） 期末試験によって評価する。出席は授業時に毎回実施する質問レポートを通じて確認する。また、欠席は、原則として 2 回を超えると欠格とする。

●教科書・参考書 教科書：『英語史入門』, 安藤貞雄, 開拓社, 2002 年；教科書は、文栄堂（大学前）で販売予定。

開設科目	英語生成文法	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	島越郎				

●授業の概要 生成文法と呼ばれる文法理論の基本的考え方を概説する。高校までに習った学習英文法は、受動文では目的語が主語位置に移動し、WH 疑問文では WH 疑問詞が文頭に移動することを教えてくれる。しかしながら、それは何故かという疑問に対して学習英文法は何も答えてくれない。このような問いに答えることにより、ことばの仕組みを明らかにしようと試みる文法理論が生成文法である。授業では、生成文法の枠組みにおいて、学習英文法では教えてくれない英語の特徴を考察する。／検索キーワード 英語、生成文法、ことばの仕組み、文法理論

●授業の一般目標 生成文法における言語分析を通して、英語についての理解を深め、また、科学的思考法を身につける。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：英語の主要な構文の特徴を説明できる。思考・判断の観点：表面的な言語現象の根底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。技能・表現の観点：考察したことを論理的に文書で表現できる。

●授業の計画（全体） 先ず、生成文法の枠組みを概説し、その後、その枠組みを使って英語を分析していく。取り上げるトピックは、主語・助動詞倒置、否定文、時制、モダリティ、アスペクト、動詞の意味、受動文等々である。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価法について説明する
- 第 2 回 項目 文法の枠組み (1) 内容 文には抽象的構造が存在することについて説明する。
- 第 3 回 項目 文法の枠組み (2) 内容 英語の主語・助動詞倒置現象について説明する。
- 第 4 回 項目 文法の枠組み (3) 内容 英語の否定文について説明する。
- 第 5 回 項目 文法の枠組み (4) 内容 文の基本的構造を決定する規則 X' 理論について説明する。
- 第 6 回 項目 文法の枠組み (5) 内容 CP, IP, DP 構造について説明する。
- 第 7 回 項目 中間テスト
- 第 8 回 項目 テスト返却・解説
- 第 9 回 項目 時と時制 内容 時制の統語特性と意味解釈について説明する、
- 第 10 回 項目 ムードとモダリティ 内容 法助動詞と命令文について説明する。
- 第 11 回 項目 アスペクト 内容 動詞の意味分類について説明する。
- 第 12 回 項目 動詞のクラスと交替現象 内容 自動詞の分類、使役文、二重目的語文について説明する。
- 第 13 回 項目 名詞句移動 内容 受動文と繰り上げ文について説明する。
- 第 14 回 項目 期末テスト
- 第 15 回 項目 テスト返却・解説

●成績評価方法（総合） 定期試験（中間試験と期末試験）の結果に基づいて評価する。

●教科書・参考書 教科書：英語の主要構文, 中村捷・金子義明, 研究社, 2002 年；プリントも随時配布する。

●連絡先・オフィスアワー eshima@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	岩部浩三				

●授業の概要 語法と語用論に関係する基本的な問題点を解説する。／検索キーワード 語法、語用論、時制

●授業の一般目標 語法と語用論について基本的な知識を身につける。日本語で書かれた専門文献を自力で読みこなし、疑問点があればそれを整理して質問できるようになる。問題意識を持って 毎回の授業に臨むことで、課題解決能力への第一歩を踏み出す。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 語法と語用論に関する基本的な知識を身につけ、例を用いて説明できる。 関心・意欲の観点： 常に、問題意識を持って授業に臨む。 技能・表現の観点： 日本語で書かれた文献を読みこなし、疑問点を質問できる。相手にわかりやすい文章で簡潔に説明できる。

●授業の計画（全体） 講義予定にしたがって、テキストの熟読を宿題として課し、授業時に実施する質問レポートに質問を書いてもらう。その質問に答える形で講義を進める。質問は内容に直接関わるものだけでなく、テキストの修辞上の疑問点などあらゆる疑問点を含む。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 インTRODakシ ョン 現在時制

第 2 回 項目 視点論と語法研究

第 3 回 項目 視点論と語法研究

第 4 回 項目 視点論と語法研究

第 5 回 項目 焦点化と語法研究

第 6 回 項目 焦点化と語法研究

第 7 回 項目 焦点化と語法研究

第 8 回 項目 中間試験

第 9 回 項目 否定認識と語法研究

第 10 回 項目 否定認識と語法研究

第 11 回 項目 会話の含意と語法研究

第 12 回 項目 会話の含意と語法研究

第 13 回 項目 会話の含意と語法研究

第 14 回 項目 質疑応答

第 15 回 項目 期末試験

●成績評価方法（総合） 中間試験、期末試験の結果により評価する。

●教科書・参考書 教科書：『語法と語用論の接点』, 田中廣明, 開拓社, 1998 年； テキストは文栄堂（大学前）で販売予定。

開設科目	英語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	太田聡				

●授業の概要 Chomsky に始まる生成文法は言語についての考え方を大きく変革し、現在でも言語研究の一大潮流をなしている。生成文法では言語をどのように捉え、何を狙っているのか、といったことを解説する。そして、基本概念から最新の理論まで分かりやすく紹介する。

●授業の一般目標 生成文法理論の目標や特徴、その発展を理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：生成文法のテクニカルな分析方法を理解する。思考・判断の観点：生成文法理論に基づいて、英語や日本語の基本的な分析が行えるようになる。関心・意欲の観点：幼児の言語獲得のなぞや、ことばを通して見えてくる人間の精神・脳の特徴などにも関心を寄せる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 授業の主な狙いや課題などについて説明する。授業外指示 教科書の「学習の手引き」という箇所目を通す。

第 2 回 項目 生成文法：目標と理念 内容 生成文法理論の目標、言語とは何か、文法と説明の理論、経験科学と理想化、などについて解説する。授業外指示 教科書の第 1 章を読む。

第 3 回 項目 // 内容 // 授業外指示 //

第 4 回 項目 // 内容 // 授業外指示 課題を解く。

第 5 回 項目 第 1 次認知革命 内容 なぜ Chomsky 理論は「認知革命」か、ことばの特質、ことばの知識の仕組み、初期の生成文法のモデル、説明的妥当性を求めて、といったテーマを扱う。授業外指示 教科書の第 2 章を読む。

第 6 回 項目 // 内容 // 授業外指示 //

第 7 回 項目 // 内容 // 授業外指示 課題を解く。

第 8 回 項目 第 2 次認知革命 内容 「規則の体系から原理の体系への転換」という 1980 年代に入ってから起こった第 2 次認知革命について解説する。いわゆる「統率・束縛理論」の枠組みの発展をたどる形になる。授業外指示 教科書第 3 章を読む。

第 9 回 項目 // 内容 // 授業外指示 //

第 10 回 項目 // 内容 // 授業外指示 課題を解く。

第 11 回 項目 極小モデルの展開 内容 極小モデルの基本的発想と考え方、極小モデルにおける普遍文法の構成、などについて解説する。授業外指示 教科書第 4 章を読む。

第 12 回 項目 // 内容 // 授業外指示 //

第 13 回 項目 // 内容 // 授業外指示 課題を解く。

第 14 回 項目 まとめ 内容 全体の補足とまとめを行う。授業外指示 //

第 15 回 項目 // 内容 // 授業外指示 //

●成績評価方法 (総合) 各テーマが終わるごとに課題を出すので、それを解いて次の授業時に提出のこと。この課題レポートの合計点で評価する。欠席は 1 回につき 5 点減点とする。

●教科書・参考書 教科書：生成文法、田窪行則他、岩波書店、2004 年／参考書：チョムスキー小事典、今井邦彦編、大修館書店、1986 年；チョムスキー理論辞典、原口庄輔・中村捷編、研究社出版、1992 年；生成文法用語辞典、安藤貞雄・小野隆啓、大修館書店、1993 年；自然科学としての言語学、福井直樹、大修館書店、2001 年；日本語の統語構造、三原健一、松柏社、1994 年

●連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	島越郎				

●授業の概要 英語における以下の3つの省略構文について考える。(1) The galaxy contains more stars than the eyes can see. (2) Although I wouldn't introduce Fred to Sally, I would to Martha. (3) Jack bought something, but I don't know what. (1)は比較削除構文(Comparative Deletion)の例で、動詞 see の目的語である stars が省略されている。(2)は擬似空所化構文(Pseudogapping)の例で、動詞 introduce とその目的語である Fred が省略されている。(3)は間接疑問縮約構文(Sluicing)の例で、疑問詞 what の後ろで Jack bought が省略されている。授業では、これら三つの省略構文の諸特性を、生成文法の枠組みで考察する。／検索キーワード 省略文、統語構造、意味解釈、形態特性、生成文法

●授業の一般目標 英語の省略構文の統語的、形態的、意味的特徴についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：英語の省略文の特徴について説明できる。思考・判断の観点：表面的な省略文の現象の根底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。技能・表現の観点：考察したことを論理的に文書で表現できる。

●授業の計画(全体) 英語の省略構文が示す諸特徴を、(1)比較構文削除、(2)擬似空所化、(3)間接疑問縮約の順に考えていく。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 オリエンテーション 内容 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価の方法について説明する。

第2回 項目 比較削除構文(1) 内容 比較削除構文と比較部分削除構文の類似点について説明する。

第3回 項目 比較削除構文(2) 内容 比較削除構文と比較部分削除構文と比較部分削除構文の相違点について説明する。

第4回 項目 比較削除構文(3) 内容 比較削除構文には顕在部門における移動が含まれていることを説明する。

第5回 項目 比較削除構文(4) 内容 比較部分削除構文には非顕在部門における移動が含まれていることを説明する。

第6回 項目 擬似空所化構文(1) 内容 代名詞、再帰代名詞、構成素統御について説明する。

第7回 項目 擬似空所化構文(2) 内容 Larson (1988) が提案する VP shell 分析を説明する。

第8回 項目 擬似空所化構文(3) 内容 Lasnik (1995) が提案する AgrO-P 分析を説明する。

第9回 項目 擬似空所化構文(4) 内容 擬似空所化における動詞移動の可能性について説明する。

第10回 項目 間接疑問縮約構文(1) 内容 英語、ドイツ語、オランダ語における間接疑問縮約が示す COMP の一般化について説明する。

第11回 項目 間接疑問縮約構文(2) 内容 COMP の一般化を使って、削除分析と復元分析を比較検討する。

第12回 項目 間接疑問縮約構文(3) 内容 間接疑問縮約と島の効果について説明する。

第13回 項目 間接疑問縮約構文(4) 内容 島の効果に関する、間接疑問縮約と動詞句削除文の違いを説明する。

第14回 項目 期末テスト

第15回 項目 テスト返却・解説

●成績評価方法(総合) 定期試験の結果に基づいて評価する。

●教科書・参考書 参考書：英語の主要構文, 中村 捷・金子義明, 研究社, 2002 年

●メッセージ 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。

●連絡先・オフィスアワー eshima@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	島越郎				

●授業の概要 前期に引き続き、生成文法の枠組みにおいて英語の省略文を考察する。後期は、次の二つの省略文に焦点を当てる。(1) John loves Mary, and Peter does, too. (2) Bill ate more peaches than Harry did grapes. 省略文(1)では、動詞と目的語 (love Mary) が省略されており、このような文は動詞句省略文 (VP ellipsis) と呼ばれている。一方、(2)では、動詞 (eat) のみが省略されており、このような省略文は擬似空所化 (pseudo-gapping) と呼ばれている。この授業では、この二つの省略文の類似点と相違点について考えていく。／検索キーワード 省略文、動詞句省略文、擬似空所化、生成文法

●授業の一般目標 英語の省略文についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：英語の省略文についての特徴を説明できる。思考・判断の観点：表面的な省略文の現象の底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。技能・表現の観点：考察したことを論理的に文章で表現できる。

●授業の計画(全体) 動詞句削除文と擬似空所化が示す三つの相違点と一つの類似点について順次考察していく。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価の方法について説明する。
- 第 2 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 1：読みの局所性効果 (1) 内容 動詞句削除文における解釈の多義性について説明する。
- 第 3 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 1：読みの局所性効果 (2) 内容 擬似空所化における解釈の局所性効果について説明する。
- 第 4 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 1：読みの局所性効果 (3) 内容 動詞句削除文における解釈の局所性効果について説明する。
- 第 5 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 2：strict/sloppy の読み (1) 内容 動詞句削除文における strict/sloppy の読みについて説明する。
- 第 6 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化のその 2：strict/sloppy の読み (2) 内容 sloppy の読みを認可する意味的条件について説明する。
- 第 7 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 2：strict/sloppy の読み (3) 内容 擬似空所化における sloppy の読みの可能性について説明する。
- 第 8 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 3：逆行削除 (1) 内容 擬似空所化における逆行削除について説明する。
- 第 9 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 3：逆行削除 (2) 内容 文解析の原理と逆行削除について説明する。
- 第 10 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の相違点その 3：逆行削除 (3) 内容 動詞句削除文における逆行削除の可能性について説明する。
- 第 11 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の類似点：義務的削除 (1) 内容 動詞句削除文と擬似空所化における削除問題について説明する。
- 第 12 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の類似点：義務的削除 (2) 内容 島の効果と削除について説明する。
- 第 13 回 項目 動詞句削除文と擬似空所化の類似点：義務的削除 (3) 内容 擬似空所化における削除の義務性について説明する。
- 第 14 回 項目 期末テスト
- 第 15 回 項目 テスト返却・解説

●成績評価方法(総合) 定期試験の結果に基づいて評価する。



●教科書・参考書 参考書：英語の主要構文, 中村 捷・金子義明, 研究社, 2002 年

●メッセージ 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。

●連絡先・オフィスアワー eshima@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	単位	開設期	後期
担当教員	中村 捷				

- 授業の概要 意味現象を、意味の合成、組み替え、埋め込みなどの動的意味操作によって扱う、動的意味論を概観し、動的意味論の思考法に基づいて、いくつかの構文に見られる諸特徴を説明することを試みる。この講義で扱う具体的な構文や現象として、結果構文、中間構文、意味の埋め込み現象、非対格性と意味の関係、補文動詞の意味と補文の統語形式の相関関係、推論規則による意味と統語の不整合の説明、意味合成の事例研究などの問題がある。
- 授業の一般目標 意味論、特に語彙意味論の基礎を理解するとともに、意味分析の方法、意味構造と統語構造の関係を理解する。
- 授業の計画（全体） 意味論に関して、（１）意味論の基礎、（２）意味の合成現象、（３）意味の埋め込み関係、（４）意味合成と構文の関係などについて段階的に検討する。
- 成績評価方法（総合） 授業外レポートに基づいて評価する。
- 教科書・参考書 教科書：プリント使用／参考書：意味論 - 動的意味論 -, 中村 捷, 開拓社, 2003 年
- 備考 集中授業

開設科目	英語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	岩部浩三				

●授業の概要 英語学の専門論文を読み、内容を解説する。本年度は、Renaat Declerck 2001. Conditionals を用いる。前期は Ch.4 The possible-world typology of conditionals(pp.65-109)を読みます。／検索キーワード conditional, semantics

●授業の一般目標 英語の論文に慣れ、自分で読めるようになる。あわせて、意味論・語用論の研究内容に触れ、関心を持つ。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：英語で書かれた論文の内容を把握して、例を用いて日本語で説明できる。条件文に関するさまざまな現象を整理する。疑問点を明確にし、質問できる。 関心・意欲の観点：論文の一部分だけではなく、全体を見る目を持ち、常に予習を進めながら授業に臨む。 技能・表現の観点：英語の論文に慣れ、自分で読めるようになる。

●授業の計画（全体） 1回に5ページ程度の進捗で進むが、演習形式であるので、多少の進み遅れがある。できるだけ早く全体を読んでおく必要がある。試験は広範囲にわたるので、常時予習を怠らず、疑問点の解決に努める必要がある。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 条件文における時制の問題について 授業外指示 pp.65-71 の予習

第 2 回 授業外指示 授業の進捗に合わせて毎回指示します。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

●成績評価方法 (総合) 期末試験が90パーセント、授業時の演習10パーセントの割合で評価します。

●教科書・参考書 教科書：教材は授業時にプリントして配布します。

開設科目	英語学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	岩部浩三				

●授業の概要 英語学の専門論文を読み、内容を解説する。本年度は、英語学の専門論文を読み、内容を解説する。本年度は、Renaat Declerck 2001. Conditionals を用いる。後期は Ch.5 The use of tense in possible-world conditionals(pp.111-196)を読む予定です。／検索キーワード conditional, tense, semantics

●授業の一般目標 英語の論文に慣れ、自分で読めるようになる。あわせて、意味論・語用論の研究内容に触れ、関心を持つ。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：英語で書かれた論文の内容を把握して、例を用いて日本語で説明できる。条件文に関するさまざまな現象を整理する。疑問点を明確にし、質問できる。 関心・意欲の観点：論文の一部分だけではなく、全体を見る目を持ち、常に予習を進めながら授業に臨む。 技能・表現の観点：英語の論文に慣れ、自分で読めるようになる。

●授業の計画（全体） 1 回に 5 ページ程度の進捗で進むが、演習形式であるので、多少の進み遅れがある。できるだけ早く全体を読んでおく必要がある。試験は広範囲にわたるので、常時予習を怠らず、疑問点の解決に努める必要がある。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 条件文における時制の問題について 授業外指示 pp.111-117 の予習

第 2 回 授業外指示 授業の進捗に合わせて毎回指示します。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

●成績評価方法 (総合) 期末試験が 90 パーセント、授業時の演習 10 パーセントの割合で評価します。

●教科書・参考書 教科書：教材は授業時にプリントして配布します。

開設科目	英語学演習（文法と意味）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	島越郎				

●授業の概要 生成文法の枠組みにおいて、英語の省略文を考察する。省略文の特徴を考える際には、省略された要素とその先行詞がどのような関係にあるのかを明らかにすることが重要な問題となる。この問題を、動詞句省略文 (VP-ellipsis) と呼ばれる省略文を手掛かりに考えていく。／検索キーワード 省略文、動詞句省略文、生成文法

●授業の一般目標 英語の省略文についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：英語の動詞句省略文についての特徴を説明できる。思考・判断の観点：表層的な言語現象の根底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。技能・表現の観点：考察したことを論理的に文書に表現できる。

●授業の計画（全体）授業では、1) 動詞句削除文について英語で書かれた専門論文 (Kyle Johnson 2001, What VP Ellipsis Can Do, and What it Can't, but not Why) を段落単位で精読し、2) 論文で提示されている分析を解説し、3) その分析に対する問題点を適宜指摘していく。受講者は、担当箇所を正確に日本語訳し、また、専門用語を事前に調べておくことが最低限要求される。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価の方法について説明する。
- 第 2 回 項目 論文講読
- 第 3 回 項目 論文講読
- 第 4 回 項目 論文講読
- 第 5 回 項目 論文講読
- 第 6 回 項目 論文講読
- 第 7 回 項目 論文講読
- 第 8 回 項目 論文講読
- 第 9 回 項目 論文講読
- 第 10 回 項目 論文講読
- 第 11 回 項目 論文講読
- 第 12 回 項目 論文講読
- 第 13 回 項目 論文講読
- 第 14 回 項目 期末テスト
- 第 15 回 項目 テスト返却・解説

●成績評価方法 (総合) 定期試験の結果に基づいて評価する。

●教科書・参考書 参考書：英語の主要構文, 中村 捷・金子義明, 研究社, 2002 年

●メッセージ 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。

●連絡先・オフィスアワー eshima@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学演習（文法と意味）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	島越郎				

●授業の概要 前期に引き続き、生成文法の枠組みで、英語の省略文における復元のメカニズムの問題を考察する。後期は、この問題を空所化 (gapping) と呼ばれる省略文を手掛かりに考えていく。／検索キーワード 省略文、空所化、生成文法

●授業の一般目標 英語の省略文についての理解を深め、また、生成文法の思考法を身につける。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：英語の空所化についての特徴を説明できる。思考・判断の観点：表層的な言語現象の根底に隠されている言葉の仕組みを指摘できる。技能・表現の観点：考察したことを論理的に文書で表現できる。

●授業の計画（全体） 授業では、1) 動詞句削除文について英語で書かれた専門論文 (Andrew Kehler 2002, Coherence and Gapping) を段落単位で精読し、2) 論文で提示されている分析を解説し、3) その分析に対する問題点を適宜指摘していく。受講者は、担当箇所を正確に日本語訳し、また、専門用語を事前に調べておくことが最低限要求される。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 1) 授業の目標と進め方、2) 成績評価の方法について説明する。

第 2 回 項目 論文講読

第 3 回 項目 論文講読

第 4 回 項目 論文講読

第 5 回 項目 論文講読

第 6 回 項目 論文講読

第 7 回 項目 論文講読

第 8 回 項目 論文講読

第 9 回 項目 論文講読

第 10 回 項目 論文講読

第 11 回 項目 論文講読

第 12 回 項目 論文講読

第 13 回 項目 論文講読

第 14 回 項目 期末テスト

第 15 回 項目 テスト返却・解説

●成績評価方法（総合） 定期試験の結果に基づいて評価する。

●教科書・参考書 参考書：英語の主要構文, 中村 捷・金子義明, 研究社, 2002 年

●メッセージ 「英語生成文法」を履修していることが望ましい。

●連絡先・オフィスアワー eshima@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学演習（形態と音声）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	太田聡				

- 授業の概要 最新の音韻理論の基本概念・分析方法を解説していく。
- 授業の一般目標 1960 年代以降の音韻論の展開を理解し、高度な音韻理論を理解するための基礎固めをする。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 生成音韻論の特徴を知る。 思考・判断の観点： 知らない語句でも、そのアクセントなどを分析・予測できるようになる。 関心・意欲の観点： 暗記するものと思われがちな語のアクセントなどにも法則が隠されていることに関心を持ち、自らもその法則を解明しようとする。 技能・表現の観点： 教科書の内容を理解し、要点を分かりやすく解説し、問題点なども指摘できるようになる。
- 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等
  - 第 1 回 項目 音韻論概説 内容 音韻論の発展を簡単に振り返る。 授業外指示 教科書第 1 章を読む。
  - 第 2 回 項目 SPE 理論とそれ以前の音韻論 内容 生成文法以前の音韻論と生成文法の音韻論の違いを解説する。 授業外指示 教科書第 2 章を読む。
  - 第 3 回 項目 自然生成音韻 内容 言語習得に関する音韻理論を紹介する。 授業外指示 教科書第 3 章を読む。
  - 第 4 回 項目 依存音韻論 内容 依存文法の音韻部門について解説する。 授業外指示 教科書第 4 章を読む。
  - 第 5 回 項目 自律分節音韻論 内容 音調（トーン）に関する理論の解説を行う。 授業外指示 教科書第 5 章を読む。
  - 第 6 回 項目 韻律音韻論 内容 アクセントの非線状音韻論での分析を解説する。 授業外指示 教科書第 6 章を読む。
  - 第 7 回 項目 音調音韻論 内容 イントネーションの分析を取り上げる。 授業外指示 教科書第 7 章を読む。
  - 第 8 回 項目 音律音韻論 内容 文のアクセントについて考える。 授業外指示 教科書第 8 章を読む。
  - 第 9 回 項目 弁別素性理論 内容 音を構成するより細かな単位に目を向ける。 授業外指示 教科書第 9 章を読む。
  - 第 10 回 項目 調音音韻論 内容 音声学と音韻論の接点を考える。 授業外指示 教科書第 10 章を読む。
  - 第 11 回 項目 語彙音韻論 内容 音韻論と形態論の相互作用を考える。 授業外指示 教科書第 11 章を読む。
  - 第 12 回 項目 音韻論とインターフェイス 内容 音韻論と統語論、意味論、語用論との関係を考える。 授業外指示 教科書第 12 章を読む。
  - 第 13 回 項目 実験音韻論 内容 機器を用いた音声分析を紹介する。 授業外指示 教科書第 13 章を読む。
  - 第 14 回 項目 認可・統率音韻論 内容 音韻論における原理とパラメーターのアプローチを紹介する。 授業外指示 教科書第 14 章を読む。
  - 第 15 回 項目 最適性理論 内容 制約に基づく音韻理論を紹介する。 授業外指示 教科書第 15 章を読む。
- 成績評価方法 (総合) 期末レポートによって評価する。また、担当箇所のオーラルレポートの分かりやすさも評価に加える。出席を重視し、欠席 1 回につき 5 点ずつ減点する。
- 教科書・参考書 教科書： 音韻理論ハンドブック, 西原哲男・那須川訓也編, 英宝社, 2005 年
- 連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	英語学演習（形態と音声）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	太田聡				

- 授業の概要 英語の語強勢 (word stress) の諸規則について書かれた文献を読む。／検索キーワード 音節、語強勢、強勢の計算
- 授業の一般目標 英語の語強勢に関する規則性を学び、知らない語句の強勢型も予測・説明ができるようになる。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：語強勢に関する法則を掴む。思考・判断の観点：未知の語の強勢型も予測できるようになる。関心・意欲の観点：「語のアクセントは暗記するもの」といった考え方が間違っていることに気づく。技能・表現の観点：英語で書かれた論文の内容を正確に読み取ることができる。
- 授業の計画（全体） まず、英語の語強勢とはどのようなものなのかを概観する。次に、強勢を担う単位である音節の構造、および、分節の方法を考察する。その上で、語の強勢を付与する規則類を定式化し、さらに、強勢の度合いの計算方法を学ぶ。そして、強勢が衝突する場合に発動される無強勢化規則にも触れる。最後に、こうした規則の順序付けを考える。
- 成績評価方法（総合） 授業中の発表、宿題、定期試験の出来具合で総合的に判断する。出席も重視する（欠席 1 回につき総合評点から 5 点ずつ減点）。
- 教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。
- 連絡先・オフィスアワー ohta@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	英文学史 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	池園宏				

- 授業の概要 英文学の歴史を時代の流れに沿って体系的に講義する。作家や作品の単なる羅列に止まらず、具体的な作品の読み方や文学用語などを広く解説する、英文学概論の性格を持った授業である。配布プリント等によりできるだけ多くの作品の原典に触れる機会を提供しながら、各々の時代の文学思潮や文人たちの具体的な創作活動について説明する。／検索キーワード 英文学史、英国、文学
- 授業の一般目標 英文学の包括的内容を習得し、英文学研究の基礎固めを行う。同時に、様々な文学作品の内容やその時代的背景を学ぶことにより、広い意味での異文化理解を深める。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：英文学史の具体的な流れ、及び主要な作家や作品について説明できる。思考・判断の観点：作家や作品がどのような歴史的背景の中に位置づけられるかを論理的に思考できる。関心・意欲の観点：英文学に対する積極的な関心を持つ。態度の観点：常に問題意識を持って議論に参加できる。
- 授業の計画（全体）前期は 18 世紀末までを扱う。この時期までの英文学史の流れを便宜的に区分すれば以下ようになる。一項目につき 2～4 回の講義で解説していく。(1) 古期・中期英語時代 (2) ルネサンス時代 (3) 王政復古時代 (4) 古典主義時代
- 成績評価方法（総合）(1) 授業の中で小テストを複数回実施する。(2) 学期末に試験を 1 回実施する。(3) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。
- 教科書・参考書 教科書：イギリス文学史, 川崎寿彦, 成美堂, 1994 年；文学要語辞典, 福原麟太郎、吉田正俊, 研究社, 1978 年／参考書：授業の中で紹介する。
- メッセージ 英米語文化論コース 2 年生、及び同コース 3 年生で英米文学専攻の学生は前後期を通じて受講すること。毎回出欠確認をするので、欠席や遅刻をしないこと。

開設科目	英文学史 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	池園宏				

- 授業の概要 英文学の歴史を時代の流れに沿って体系的に講義する。作家や作品の単なる羅列に止まらず、具体的な作品の読み方や文学用語などを広く解説する、英文学概論の性格を持った授業である。配布プリント等によりできるだけ多くの作品の原典に触れる機会を提供しながら、各々の時代の文学思潮や文人たちの具体的な創作活動について説明する。／検索キーワード 英文学史、英国、文学
- 授業の一般目標 英文学の包括的内容を習得し、英文学研究の基礎固めを行う。同時に、様々な文学作品の内容やその時代的背景を学ぶことにより、広い意味での異文化理解を深める。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：英文学史の具体的な流れ、及び主要な作家や作品について説明できる。思考・判断の観点：作家や作品がどのような歴史的背景の中に位置づけられるかを論理的に思考できる。関心・意欲の観点：英文学に対する積極的な関心を持つ。態度の観点：常に問題意識を持って議論に参加できる。
- 授業の計画（全体） 後期は 19～20 世紀を扱う。この時期の英文学史の流れを便宜的に区分すれば以下のようなになる。一項目につき 3～4 回の講義で解説していく。(1) ロマン主義時代 (2) ヴィクトリア朝時代 (3) 20 世紀（第二次大戦前） (4) 20 世紀（第二次大戦後）
- 成績評価方法（総合） (1) 授業の中で小テストを複数回実施する。(2) 学期末に試験を 1 回実施する。(3) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。
- 教科書・参考書 教科書：イギリス文学史, 川崎寿彦, 成美堂, 1994 年；文学要語辞典, 福原麟太郎、吉田正俊, 研究社, 1978 年／参考書：授業の中で紹介する。
- メッセージ 英米語文化論コース 2 年生、及び同コース 3 年生で英米文学専攻の学生は前後期を通じて受講すること。毎回出欠確認をするので、欠席や遅刻をしないこと。

開設科目	英米文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	田中 晋				

- 授業の概要 シェイクスピアの生きたルネサンス期は二つの大きな自然観がその相克を見た時代である。即ち、中世以来自然は一つの秩序をもったものと考えられてきた、そこには秩序の予定者としての超越者の意思があり、人間世界もその中に含まれたものであったのに対し、新しい自然観では、人間は 独立独歩の存在であり、己の意思が最後の権威となる。シェイクスピアは悲劇を描くに当たり、この両者の葛藤に深い洞察を示しながら「人間とは何か」の根本問題を追及している。このことに 注目してまず四大悲劇を論じ、次にロマンス劇への展開を見ることにする。
- 授業の一般目標 シェイクスピアの悲劇における新旧二つの自然観の葛藤をその具体相において把握し、次いで崩壊から再生への転換を晩年のロマンス劇において考察する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 作品の具体的内容を理解する。 思考・判断の観点： 作品に即して悲劇の意味を考える。 関心・意欲の観点： シェイクスピアの作品を積極的に読む。
- 授業の計画（全体） 四大悲劇、『ハムレット』、『オセロウ』、『リア王』、『マクベス』を中心に考察する。
- 成績評価方法（総合） 期末試験の結果に平常点（出席、受講態度等）を加味する。
- 教科書・参考書 教科書： プリント配布／ 参考書： 授業において言及する。

開設科目	英米文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	田中 晉				

- 授業の概要 シェイクスピアの生きたルネサンス期は二つの大きな自然観がその相克を見た時代である。即ち、中世以来自然は一つの秩序をもったものと考えられてきた、そこには秩序の予定者としての超越者の意思があり、人間世界もその中に含まれたものであったのに対し、新しい自然観では、人間は 独立独歩の存在であり、己の意思が最後の権威となる。シェイクスピアは悲劇を描くに当たり、この両者の葛藤に深い洞察を示しながら「人間とは何か」の根本問題を追及している。このことに 注目してまず四大悲劇を論じ、次いでロマンス劇への展開を見ることにする。
- 授業の一般目標 シェイクスピアの悲劇における新旧二つの自然観の葛藤をその具体相において把握し、次いで崩壊から再生への転換を晩年のロマンス劇において考察する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 作品の具体的内容を理解する。 思考・判断の観点： 作品に即してロマンス劇の意味を考える。 関心・意欲の観点： シェイクスピアの作品を積極的に読む。
- 授業の計画（全体） 後期はロマンス劇、『ペリクリーズ』、『シンベリーン』、『冬物語』、『嵐』を中心に考察する。
- 成績評価方法（総合） 期末試験の結果に平常点（出席、受講態度等）を加味する。
- 教科書・参考書 教科書： プリント配布／ 参考書： 授業において言及する。

開設科目	英米文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	伊豆大和				

- 授業の概要 20世紀前半のアメリカ小説をいくつか取り上げ、紹介・説明を加えながら、それぞれの作品の意義・問題点を検討する。
- 授業の一般目標 (1) 文学(小説)の英語を理解する。(2) 小説の読み方を知る。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 原語(英語)で小説を読んで理解する。 思考・判断の観点： 文学作品(小説)の意義を考える。 関心・意欲の観点： アメリカ文学を積極的に読む。
- 授業の計画(全体) Sister Carrie (1900), Babbitt(1922), The Great Gatsby(1925), etc. を紹介・説明し、それぞれの作品の問題点を検討する。作品テキストからの引用文(英文)をかなり多く読むことになる。
- 成績評価方法(総合) 期末試験により評価する。
- 教科書・参考書 教科書： プリントを配布する。／ 参考書： 講義の中で紹介する。

開設科目	英米文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	伊豆大和				

- 授業の概要 前期に引き続いて20世紀前半のアメリカ小説をいくつか取り上げ、それぞれの作品の意義・問題点を検討する。
- 授業の一般目標 (1) 文学(小説)の英語を理解する。(2) 小説の読み方を知る。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 原語(英語)で小説を読んで理解する。 思考・判断の観点： 文学作品(小説)の意義を考える。 関心・意欲の観点： アメリカ文学を積極的に読む。
- 授業の計画(全体) A Cool Million(1934), The Grapes of Wrath(1939), East of Eden(1952), etc. を紹介・説明し、それぞれの作品の問題点を検討する。作品テキストからの引用文(英文)をかなり多く読むことになる。
- 成績評価方法(総合) 期末試験により評価する。
- 教科書・参考書 教科書： プリントを配布する。／ 参考書： 講義の中で紹介する。

開設科目	英米文学講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	伊豆大和				

- 授業の概要 アメリカ作家 Kate Chopin の小説 The Awakening(1899) を読む。
- 授業の一般目標 (1) 文学（小説）の英語を理解する。(2) 小説の読み方を知る。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 原語（英語）で小説を読むことができる。 思考・判断の観点： 文学作品（小説）を精読し、その意義を考える。 関心・意欲の観点： アメリカ文学作品を積極的に読む。
- 授業の計画（全体） Kate Chopin, The Awakening(1899) を演習形式で読み進む。受講者は予習をして出席すること。詳細は第 1 回目の授業で説明する。
- 成績評価方法（総合） 期末試験の結果に平常点（出席状況・受講態度）を加味して評価する。
- 教科書・参考書 教科書： The Awakening, Kate Chopin, 開文社, 1998 年；教科書は文栄堂で販売（予定）。／ 参考書： 授業の中で紹介する。

開設科目	英米文学講読	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	伊豆大和				

- 授業の概要 前期に引き続いて Kate Chopin, The Awakening(1899) を読む。
- 授業の一般目標 (1) 文学（小説）の英語を理解する。(2) 小説の読み方を知る。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 原語（英語）で小説を読むことができる。 思考・判断の観点： 文学作品（小説）を精読し、その意義を考える。 関心・意欲の観点： アメリカ文学作品を積極的に読む。
- 授業の計画（全体） Kate Chopin, The Awakening(1899) を演習形式で読み進む。受講者は予習をして出席すること。
- 成績評価方法（総合） 期末試験の結果に平常点（出席状況・受講態度）を加味して評価する。
- 教科書・参考書 教科書： The Awakening, Kate Chopin, 開文社, 1998 年／ 参考書： 授業の中で紹介する。



開設科目	英米文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	宮原一成				

- 授業の概要 英語文学作品を精読し、鑑賞する。作品の持つテーマについて各自考察する。20 世紀後半を代表する英国系作家たち (Golding, O'Brien, Hill, Boyd, Lively, Rhys) の短編小説を読みこなす。／検索キーワード 短編 イギリス小説
- 授業の一般目標 英語小説を読むための技法をいくつか習得する。作品世界やテーマについて、自分なりの所見を持つ。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 丹念に調べて、英文の意味を正確に理解する。 思考・判断の観点： 作品に込められたテーマについて、自分なりの所見を言語化する。 関心・意欲の観点： 自分の所見を積極的に発表し、議論に寄与する。
- 授業の計画（全体） 15 週間で、6 つの短編小説を輪番形式で読み上げる。全部で約 70 ページ。 発表当番は、担当箇所の全訳と討論ポイントをできるだけ完璧に準備して、授業 2 日前までに教官へ提出する。教官が、集まった全訳レポートを受講者数分コピーしておくので、受講者はその日の夕方までにそれを引き取り、各自予習する。 授業当日は、当番の発表を受けて、質疑応答に移る。
- 成績評価方法（総合） 当番時の発表の出来具合＋筆記試験＋授業内発言の内容と回数。5 回以上欠席した者は、自動的に「不可」の評定とする。
- 教科書・参考書 教科書：『現代イギリス小説を読む』, 安藤勝夫、他編, 桐原書店, 1992 年／参考書：英和辞典は、電子辞書ではなく、紙媒体の辞書を使用すること（電子辞書では、どうしても調査方法が雑になる傾向があるので）
- 連絡先・オフィスアワー 初回の授業時に、受講生には知らせます。

開設科目	英米文学講読	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	宮原一成				

- 授業の概要 英語文学作品（中編小説 "Bartleby"）を精読し、鑑賞する。作品の持つテーマについて各自考察する。／検索キーワード 精読 Melville "the other self"
- 授業の一般目標 英語小説を読むための技法をいくつか習得する。作品世界やテーマについて、自分なりの所見を持つ。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：丹念に調べて、英文の意味を正確に理解する。思考・判断の観点：作品に込められたテーマについて、自分なりの所見を言語化する。関心・意欲の観点：自分の所見を積極的に発表し、議論に寄与する。
- 授業の計画（全体）15 週間で、全 80 ページの中編小説を読み上げる。発表当番は、担当箇所の全訳と討論ポイントをできるだけ完璧に準備して、授業 2 日前までに教官へ提出する。教官が、集まった全訳レポートを受講者数分コピーしておくので、受講者はその日の夕方までにそれを引き取り、各自予習する。授業当日は、当番の発表を受けて、質疑応答に移る。
- 成績評価方法（総合）当番時の発表の出来具合＋筆記試験＋授業内発言の内容と回数。5 回以上欠席した者は、自動的に「不可」の評定とする。
- 教科書・参考書 教科書：『バートルビー』, Herman Melville, 松柏社, 1969 年／参考書：英和辞典は、電子辞書ではなく、紙媒体の辞書を使用すること（電子辞書では、どうしても調査方法が雑になる傾向があるので）
- 連絡先・オフィスアワー 初回の授業時に、受講生には知らせます。

開設科目	英米文学演習（小説）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	宮原一成				

- 授業の概要 Charlotte P. Gilman の *The Yellow Wallpaper* (1892) を、輪番で読んでいきます。その後、Mary Morris の短編 "The Wall" (1996) を同様に読み進めます。
- 授業の一般目標 英語による文学を鑑賞する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 一般読者向け文学作品に使用される英語構文について、確実に理解する。 思考・判断の観点： 作品のメッセージを自分なりに解釈する。 関心・意欲の観点： 積極的に議論に参加する。
- 授業の計画（全体） 前半の *The Yellow Wallpaper* については、詳しい注のついた教科書を使い、毎週数名の発表者を決めて、担当箇所の全訳と鑑賞のポイントを発表してもらおう。その後、出席者による討議を行う。 後半の "The Wall" は注なしで読む。こちらは配布プリントで読む。授業の手順は同じ。2作を読み終わった後で、総括討議を行う。
- 成績評価方法（総合） 担当箇所の発表内容の出来 50 % + 議論への積極的な参加 20 % + 期末レポート 30 %。5回以上の欠席は自動的に「不可」評定とする。
- 教科書・参考書 教科書： 黄色の壁紙, Charlotte Perkins Gilman, 松柏社, 1999 年； 生協で販売／ 参考書： 辞書は電子辞書ではなく、紙媒体のものを使うこと。

開設科目	英米文学演習（小説）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	池園宏				

- 授業の概要 19 世紀イギリスの小説家 Jane Austen の *Pride and Prejudice* を読む。作品の解釈や分析のみならず、英文法や発音など総合的な英語力の養成も行う。／検索キーワード Jane Austen、英国小説、19 世紀
- 授業の一般目標 (1) テキストを丹念に解釈することにより、Austen の作家像及び 19 世紀英文学における位置づけを理解する。(2) 英文法力や英文解釈力を身につける。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 作家や作品の具体的内容を説明できる。 思考・判断の観点： 作品に盛り込まれた諸テーマを分析できる。 関心・意欲の観点： 小説を読み解く行為に関心を持つ。 態度の観点： 常に問題意識を持って議論に参加できる。
- 授業の計画（全体） 一年間を通して本作品を扱うが、前期はその約 3 分の 2 まで読み進める予定である。最初はスローペースで読み始め、徐々にスピードを上げていく。受講者の発表と質疑応答、及びディスカッションを中心に授業を行う。
- 成績評価方法（総合） (1) 試験は学期末に 1 回実施する。(2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。
- 教科書・参考書 教科書： 教科書： *Pride and Prejudice* 著者： Jane Austen 出版社： Penguin ／ 参考書： 授業の中で紹介する。
- メッセージ 一年間を通して一つの作品に取り組むため、前後期を通して受講すること。上記の理由を含め、場合によっては受講者数を制限することもある。毎回出欠確認をするので、欠席や遅刻をしないこと。

開設科目	英米文学演習（小説）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	池園宏				

- 授業の概要 19 世紀イギリスの小説家 Jane Austen の *Pride and Prejudice*、及びこの作品に関する論文を読む。作品の解釈や分析のみならず、英文法や発音など総合的な英語力の養成も行う。／検索キーワード Jane Austen、英国小説、19 世紀
- 授業の一般目標 (1) テキストを丹念に解釈することにより、Austen の作家像及び 19 世紀英文学における位置づけを理解する。(2) 英文法力や英文解釈力を身につける。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 作家や作品の具体的内容を説明できる。 思考・判断の観点： 作品に盛り込まれた諸テーマを分析できる。 関心・意欲の観点： 小説を読み解く行為に関心を持つ。 態度の観点： 常に問題意識を持って議論に参加できる。
- 授業の計画（全体） 後期の約 3 分の 2 ほどで小説の残り 3 分の 1 を読了し、その後でこの作品に関する論文を読む。受講者の発表と質疑応答、及びディスカッションを中心に授業を行う。
- 成績評価方法（総合） (1) 試験は学期末に 1 回実施する。(2) 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。
- 教科書・参考書 教科書：教科書： *Pride and Prejudice* 著者：Jane Austen 出版社：Penguin / 参考書：授業の中で紹介する。
- メッセージ 一年間を通して一つの作品に取り組むため、前後期を通して受講すること。後期からの受講は基本的に認めない。毎回出欠確認をするので、欠席や遅刻をしないこと。

開設科目	英米文学演習（劇）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	田中 晉				

- 授業の概要 シェイクスピアの叙情的喜劇の代表作『お気に召すまま』を精読し、牧歌ロマンスについて考察する。
- 授業の一般目標 現代英語のもとをなすエリザベス朝英語の語法や、当時の舞台構造につき基礎的知識を習得し、この作品を通してシェイクスピアの牧歌ロマンスに対する解釈につき考える。ビデオ教材も併用する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：シェイクスピアの英語の語法を理解し、語源に遡って言葉の意味を知る。思考・判断の観点：牧歌生活に対する作者の批判的精神を考察し、優れた喜劇の湛えている憂愁の調べを感得する。関心・意欲の観点：シェイクスピアの作品を積極的に読む。
- 授業の計画（全体） 前期は第1幕、2幕、3幕を読む。
- 成績評価方法（総合） 期末試験の結果に平常点（出席、受講態度等）を加味する。
- 教科書・参考書 教科書：As You Like It, 市川・嶺（注釈）, 研究社；生協で販売する。／参考書：辞書やその他の文献は授業において言及する。

開設科目	英米文学演習（劇）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	田中 晉				

- 授業の概要 シェイクスピアの叙情的喜劇の代表作『お気に召すまま』を精読し、牧歌ロマンスについて考察する。
- 授業の一般目標 現代英語のもとをなすエリザベス朝英語の語法や、当時の舞台構造につき基礎的知識を習得し、この作品を通してシェイクスピアの牧歌ロマンスに対する解釈につき考える。ビデオ教材も併用する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：シェイクスピアの英語の語法を理解し、語源に遡って言葉の意味を知る。思考・判断の観点：牧歌生活に対する作者の批判的精神を考察し、優れた喜劇の湛えている憂愁の調べを感得する。関心・意欲の観点：シェイクスピアの作品を積極的に読む。
- 授業の計画（全体） 第4幕、5幕を読み作品の解釈を試みる。
- 成績評価方法（総合） 期末試験の結果に平常点（出席、受講態度）を加味する。
- 教科書・参考書 教科書：As You Like It, 市川・嶺（注釈），研究社；生協で販売する。／参考書：辞書やその他の文献は授業中に言及する。

開設科目	英語演習（会話）（英米語 2 年）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	未定				



開設科目	英語演習（会話）（英米語 2 年）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	未定				

開設科目	英語演習（会話）（英米語 3 年）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	未定				

開設科目	英語演習（会話）（英米語 3 年）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	未定				

開設科目	英語演習（会話）（他コース）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	未定				

開設科目	英語演習（会話）（他コース）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	未定				

開設科目	英語演習（作文）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	未定				

開設科目	英語演習（作文）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	未定				

開設科目	英語演習（時事英語）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	未定				



開設科目	英米事情	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	未定				

開設科目	卒業研究	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	前期
担当教員	岩部浩三, 太田聡, 島越郎				

- 授業の概要 英語学の専門文献を読み、その内容をオーラルレポートする。セメスターあたり2回のプレゼンテーションを2名1組で順次実施する。1回の発表につき、平均8時間の事前指導（授業時間外）が必要になるので、3週間前までに論文を読み疑問点を整理しておくこと。時間外指導を受ける時は、毎回アポイントメントを取って指導を受けること。
- 授業の一般目標 英語で書かれた専門論文を読みこなす能力を養い、さらにそれをわかりやすくプレゼンテーションをする技術を磨く。与えられた仕事に責任を持ち、パートナーと協調して完全にやり遂げること。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：英語の専門論文が読める。内容をわかりやすく説明できる。質問に対して、適切に回答することができる。思考・判断の観点：論文を読んだり、他人の発表を聞いて、疑問点を簡潔に質問できる。不明な点を洗い出して、調べられる。関心・意欲の観点：高度な内容をわかるまであきらめずに理解する意欲を持つ。内容を発展させたり、問題点を解決しようと試みる。態度の観点：1つの仕事をパートナーと協調して責任を持ってやり遂げる。必要なプロセスと時間を見積もり、計画的に作業を進めることができる。技能・表現の観点：前提となる知識の不足した相手に対して親切な資料を作ることができる。わかりやすく聞き取りやすい言葉で説明できる。
- 授業の計画（全体）事前に調整したスケジュール通りに実施する。ただし、変更になることがある。教育実習期間は、オーラルレポート授は中断し、時間外の個別指導にのみ対応する。
- メッセージ ハンドアウトの作り方、英文レポートの書き方については、下記のURLを参照のこと。  
<http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/iwabe/oral.htm>

開設科目	卒業研究	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	後期
担当教員	岩部浩三, 太田聡, 島越郎				

- 授業の概要 英語学の専門文献を読み、その内容をオーラルレポートする。セメスターあたり2回のプレゼンテーションを2名1組で順次実施する。1回の発表につき、平均8時間の事前指導（授業時間外）が必要になるので、3週間前までに論文を読み疑問点を整理しておくこと。時間外指導を受ける時は、毎回アポイントメントを取って指導を受けること。後期は、英文レポートの提出が求められる。
- 授業の一般目標 英語で書かれた専門論文を読みこなす能力を養い、さらにそれをわかりやすくプレゼンテーションをする技術を磨く。与えられた仕事に責任を持ち、パートナーと協調して完全にやり遂げること。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：英語の専門論文が読める。内容をわかりやすく説明できる。質問に対して、適切に回答することができる。思考・判断の観点：論文を読んだり、他人の発表を聞いて、疑問点を簡潔に質問できる。不明な点を洗い出して、調べられる。関心・意欲の観点：高度な内容をわかるまであきらめずに理解する意欲を持つ。内容を発展させたり、問題点を解決しようと試みる。態度の観点：1つの仕事をパートナーと協調して責任を持ってやり遂げる。必要なプロセスと時間を見積もり、計画的に作業を進めることができる。技能・表現の観点：前提となる知識の不足した相手に対して親切な資料を作ることができる。わかりやすく聞き取りやすい言葉で説明できる。正しい英語でレポートを書くことができる。
- 授業の計画（全体）前期末までに後期のスケジュール決定し、それに基づいてオーラルレポートを行う。資料も同時に配付する。
- メッセージ ハンドアウトの作り方、英文レポートの書き方については、下記のURLを参照のこと。  
<http://web.cc.yamaguchi-u.ac.jp/iwabe/oral.htm>

開設科目	現代ドイツ語概説 III	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	本田義昭				

- 授業の概要 現代ドイツ語の諸相について概説します。前期は、「世界の中のドイツ語」、「ドイツ語の特徴」、「ドイツ語と英語との関係」、「ドイツ語の方言」などのテーマを扱う予定です。／検索キーワード  
ドイツ語、言語、文化、社会
- 授業の一般目標 現代ドイツ語についての基礎的知識を養う。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：現代ドイツ語についての基礎的知識を養う。思考・判断の観点：言語が異なることが思考形式の違いにも影響を及ぼしていることを認識する。関心・意欲の観点：言語と文化との関係を学ぶことで、異文化への関心を深める。
- 授業の計画（全体） 毎回のテーマごとにプリントを配布し、それに基づいて講義を行ないます。授業に関連する重要表現などは、文化的な観点から解説します。質問は随時受け付けますので、積極的に参加してください。
- 成績評価方法（総合） レポート 7 割＋授業への参加度 3 割で評価します。出席率が 8 割未満の場合は失格とします。
- 教科書・参考書 教科書：プリント使用。／参考書：授業中に紹介します。
- メッセージ 共通教育で習ったドイツ語を、別の観点から眺めてみませんか？
- 連絡先・オフィスアワー honda@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	現代ドイツ語概説 IV	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	本田義昭				

- 授業の概要 現代ドイツ語の諸相について概説します。後期は、「ドイツ語における性差」、「外来語」、「慣用句」、「言葉から見たドイツの社会変化」などのテーマを扱う予定です。／検索キーワード ドイツ語、言語、文化、社会
- 授業の一般目標 現代ドイツ語についての基礎的知識を養う。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 現代ドイツ語についての基礎的知識を養う。 思考・判断の観点： 言語が異なることが思考形式の違いにも影響を及ぼしていることを認識する。 関心・意欲の観点： 言語と文化との関係を学ぶことで、異文化への関心を深める。
- 授業の計画（全体） 毎回のテーマごとにプリントを配布し、それに基づいて講義を行ないます。授業に関連する重要表現などは、文化的な観点から解説します。質問は随時受け付けますので、積極的に参加してください。
- 成績評価方法（総合） レポート 7 割＋授業への参加度 3 割で評価します。出席率が 8 割未満の場合は失格とします。
- 教科書・参考書 教科書： プリント使用。／ 参考書： 授業中に紹介します。
- メッセージ 共通教育で習ったドイツ語を、別の観点から眺めてみませんか？
- 連絡先・オフィスアワー honda@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	ドイツ語史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	下嶋正利				

●授業の概要 ドイツ語の歴史を、インド・ヨーロッパ祖語から古高ドイツ語まで、時代を追って概観する。

●授業の一般目標 ドイツ語ができるまでの歴史について、基本的なことを学習するとともに、比較言語学及び歴史言語学とはどのようなものかを理解する。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：ドイツ語ができるまでの歴史について、基本的なことを学習するとともに、比較言語学及び歴史言語学とはどのようなものかを理解する。

●授業の計画（全体）ドイツ語の歴史を、インド・ヨーロッパ祖語から古高ドイツ語まで、時代を追って概観する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回	項目	授業に関する一般的説明	内容	授業に関する一般的説明
第 2 回	項目	インド・ヨーロッパ祖語	内容	インド・ヨーロッパ祖語
第 3 回	項目	インド・ヨーロッパ祖語	内容	インド・ヨーロッパ祖語
第 4 回	項目	インド・ヨーロッパ祖語	内容	インド・ヨーロッパ祖語
第 5 回	項目	インド・ヨーロッパ祖語	内容	インド・ヨーロッパ祖語
第 6 回	項目	ゲルマン祖語	内容	ゲルマン祖語
第 7 回	項目	ゲルマン祖語	内容	ゲルマン祖語
第 8 回	項目	ゲルマン祖語	内容	ゲルマン祖語
第 9 回	項目	ゲルマン祖語	内容	ゲルマン祖語
第 10 回	項目	ゲルマン祖語	内容	ゲルマン祖語
第 11 回	項目	古高ドイツ語	内容	古高ドイツ語
第 12 回	項目	古高ドイツ語	内容	古高ドイツ語
第 13 回	項目	古高ドイツ語	内容	古高ドイツ語
第 14 回	項目	古高ドイツ語	内容	古高ドイツ語
第 15 回	項目	期末試験	内容	期末試験

●成績評価方法（総合）レポートと期末試験による。

開設科目	ドイツ語史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	下嶋正利				

- 授業の概要 ドイツ語の歴史を、古高ドイツ語から現代ドイツ語まで、時代を追って概観する。
  - 授業の一般目標 古高ドイツ語から現代ドイツ語までの歴史を、歴史的・社会的背景を考え合わせながら、時代を追って概観する。
  - 授業の到達目標／知識・理解の観点：古高ドイツ語から現代ドイツ語までの歴史を、歴史的・社会的背景を考え合わせながら、時代を追って概観する。
  - 授業の計画（全体）ドイツ語の歴史を、古高ドイツ語から現代ドイツ語まで、時代を追って概観する。
  - 授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等
- 第 1 回 項目 古高ドイツ語から中高ドイツ語へ 内容 古高ドイツ語から中高ドイツ語への変化について概説する
- 第 2 回 項目 古高ドイツ語から中高ドイツ語へ 内容 古高ドイツ語から中高ドイツ語への変化について概説する
- 第 3 回 項目 中高ドイツ語 内容 中高ドイツ語
- 第 4 回 項目 中高ドイツ語 内容 中高ドイツ語
- 第 5 回 項目 中高ドイツ語から初期新高ドイツ語へ 内容 中高ドイツ語から初期新高ドイツ語への変化について概説する
- 第 6 回 項目 中高ドイツ語から初期新高ドイツ語へ 内容 中高ドイツ語から初期新高ドイツ語への変化について概説する
- 第 7 回 項目 初期新高ドイツ語 内容 初期新高ドイツ語
- 第 8 回 項目 初期新高ドイツ語 内容 初期新高ドイツ語
- 第 9 回 項目 初期新高ドイツ語から新高ドイツ語へ 内容 初期新高ドイツ語から新高ドイツ語への変化について概説する
- 第 10 回 項目 初期新高ドイツ語から新高ドイツ語へ 内容 初期新高ドイツ語から新高ドイツ語への変化について概説する
- 第 11 回 項目 新高ドイツ語 内容 新高ドイツ語
- 第 12 回 項目 新高ドイツ語 内容 新高ドイツ語
- 第 13 回 項目 新高ドイツ語 内容 新高ドイツ語
- 第 14 回 項目 新高ドイツ語 内容 新高ドイツ語
- 第 15 回 項目 期末試験 内容 期末試験
- 成績評価方法（総合）レポートと期末試験による。

開設科目	ドイツ語学演習（3・4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	本田義昭				

- 授業の概要 ドイツ語学の専門文献を批判的に読んで行きます。／検索キーワード ドイツ語学 専門文献
- 授業の一般目標 ドイツ語学の専門文献を批判的に読みこなす力をつける。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：ドイツ語学の専門的知識を習得する。思考・判断の観点：論の展開の仕方を学ぶ。関心・意欲の観点：広く言語現象への関心を深める。
- 授業の計画（全体） 毎回担当者を決めて、担当箇所の概要を説明させた後に、質議応答の時間を設け、理解をより一層深める。
- 成績評価方法（総合） 授業への積極的参加を重視します。出席率が8割未満の場合は失格とします。
- 教科書・参考書 教科書：プリントを使用します。／参考書：授業の中で紹介します。
- メッセージ 授業への積極的な参加を期待しています。
- 連絡先・オフィスアワー honda@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	ドイツ語学演習（3・4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	下寄正利				

- 授業の概要 ドイツ語で書かれたドイツ語学の文献を読む。
- 授業の一般目標 ドイツ語学に関する知識を深めるとともに、ドイツ語で書かれた専門文献を一人で読みこなせるだけのドイツ語読解力をつける。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点：ドイツ語学に関する知識が深まっている。 関心・意欲の観点：ドイツ語研究への関心がより高まっている。 態度の観点：わからないことは徹底的に調べる習慣が身についている。
- 授業の計画（全体） 1回の授業で、最低でも2ページ進む予定でいる。
- 成績評価方法（総合） 演習とレポートによる。
- 教科書・参考書 教科書：コピーを用いる

開設科目	ドイツ文学史 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	坂本貴志				

- 授業の概要 「ドイツ文学って、何？」という人に、ドイツとドイツ文学・文化について紹介する。お題は、ゲルマン神話、ファウスト伝説、ベートーヴェン、ワーグナーの楽劇、最新のドイツ映画、などなど。／検索キーワード ドイツ、ヨーロッパ、文学、神話、映画、音楽
- 授業の一般目標 ドイツ文学・文化に興味を持つ。
- 教科書・参考書 教科書：なし。
- メッセージ 文学に境界はありません。文学とは、文化、社会、哲学、歴史とあらゆるものを対象としつつ、考え、理解する楽しみを味わう、ひとつのメディアです。

開設科目	ドイツ文学史 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	岡光一浩				

●授業の概要 ドイツ文学の流れを把握するとともに、ドイツ的とはなにかのテーマのもとに、ドイツ文学の代表的作品を紹介する。文庫本などに翻訳されている私たちに馴染みの作品を選んだ。18 世紀後半 (ゲーテ)、19 世紀前半 (ホフマン)、19 世紀半ば (シュトルム)、20 世紀前半 (ヘッセ、カフカ)、20 世紀後半 (エンデ)。これらの作品を通して、ドイツとドイツ人、ドイツ文学の特徴などを理解し、私たち日本人の在り方と共に、人間とはなにか、どう生きるべきかを学ぶ。／検索キーワード 文学とはなにか。文学の読み方。

●授業の一般目標 実際に、何冊かの作品を読まなければならない。「文学を読む」とはなにかを、考える。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：ドイツ文学の流れと個々の作品を理解できる。思考・判断の観点：ドイツとドイツ人。ドイツ文学の特徴を思考することができる。関心・意欲の観点：日本人としての在り方、人間とは何か、どう生きるべきかを考えることができる。技能・表現の観点：自分の考えを表現できる。

●授業の計画 (全体) ドイツとドイツ人、ドイツ文学の特徴を学び、文学とはなにかを考える。18 世紀後半、ロマン主義、写実主義、20 世紀などの文学の流れとともに、主な文学作品を紹介する。

●授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 講義への導入 内容 全体的な計画。ドイツ文学への導入。授業外指示 シラバスを読んでおくこと。

第 2 回 項目 18 世紀後半の小説 内容 ゲーテ『若きヴェルテルの悩み』(1) 授業外指示 『若きヴェルテルの悩み』を読んでおくこと。

第 3 回 項目 同上。内容 同上 (2)

第 4 回 項目 同上。内容 同上 (3)

第 5 回 項目 19 世紀前半の小説 (ロマン主義) 内容 ホフマン『黄金の壺』(1) 授業外指示 『黄金の壺』を読んでおくこと。

第 6 回 項目 同上。内容 同上 (2)

第 7 回 項目 19 世紀半ばの小説 (写実主義) 内容 シュトルム『みずうみ』(1) 授業外指示 『みずうみ』を読んでおくこと。

第 8 回 項目 同上。内容 同上 (2)

第 9 回 項目 20 世紀前半の小説 内容 ヘッセ『車輪の下』、カフカ『変身』(1) 授業外指示 『車輪の下』『変身』を読んでおくこと。

第 10 回 項目 同上。内容 同上 (2)

第 11 回 項目 同上。内容 同上 (3)

第 12 回 項目 20 世紀後半の小説 内容 エンデ『モモ』(1) 授業外指示 『モモ』を読んでおくこと。

第 13 回 項目 同上。内容 同上 (2)

第 14 回 項目 同上。内容 同上 (3)

第 15 回 項目 まとめ。内容 「文学を読む」とは。

●成績評価方法 (総合) 出席を前提とする。発表やレポートにおいて評価する。

●教科書・参考書 教科書：プリント等の資料に則して行う。／参考書：適宜、講義中に指摘する。

●メッセージ 出席しなければ、レポートは書けない。身を入れてかかわらなければ、面白さも見えてこない。

●連絡先・オフィスアワー 人文学部 岡光研究室

開設科目	ドイツ文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	Hintereeder-Emde Franz				

●授業の概要 宮崎駿作『アルプスの少女ハイジ』は、日本人なら誰でも知っているし、世界的に有名である。原作品は、スイスの女流作家ヨハンナ・スピーリ (Johanna Spyri, 1827-1901) の代表的な児童文学の『ハイジの修業時代と遍歴時代』(1880 年) や『ハイジは習ったことを使うことができる』(1881 年) である。原作のタイトルは、ドイツ文学の文豪ゲーテの代表作『ヴィルヘルム・マイスターの修業時代』(1795 / 96 年) と『ヴィルヘルム・マイスターの遍歴時代』(1821 年) の意識したもので、教養小説の伝統をついでいる作品でもある。／検索キーワード スイス文学、児童文学、異文化理解

●授業の一般目標 この講義では、『アルプスの少女ハイジ』を出発点にしながら、アニメの映像を取り入れて、原作と比較する一方、「スイス」という文化的なイメージと現実のスイスの差異を論じる。当時の社会、歴史、経済や宗教の意味を把握し、ヨーロッパやドイツ文化圏の多様性を考察したい。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：19 世紀や世紀末の中央ヨーロッパの文化的な背景を把握することができる。思考・判断の観点：原文や周辺資料の解読によって、19 世紀後半の中央ヨーロッパの時代性や文化的な実体を理解する。関心・意欲の観点：スイスやドイツ語圏の文学への関心をもって、文化的なイメージや文化の現状について学ぶ。態度の観点：自分の異文化観（「ハイジのスイス」）を再検討し、さらに異文化理解を深める。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 アニメの「ハイジ」と原作「ハイジ」(1) 内容 アニメのいくつかの場面を選び、現作品と比較する(1)
- 第 2 回 項目 アニメの「ハイジ」と原作「ハイジ」(2) 内容 アニメのいくつかの場面を選び、現作品と比較する(2)
- 第 3 回 項目 アニメの「ハイジ」と原作「ハイジ」(3) 内容 アニメのいくつかの場面を選び、現作品と比較する(3)
- 第 4 回 項目 「ハイジ」と自然(1) 内容 作品の自然描写について
- 第 5 回 項目 「ハイジ」と自然(2) 内容 作品の自然描写について
- 第 6 回 項目 「ハイジ」と自然(3) 内容 作品の自然描写について
- 第 7 回 項目 「ハイジ」と宗教(1) 内容 作品に描かれた宗教生活について
- 第 8 回 項目 「ハイジ」と宗教(2) 内容 作品に描かれた宗教生活について
- 第 9 回 項目 「ハイジ」と宗教(3) 内容 作品に描かれた宗教生活について
- 第 10 回 項目 「ハイジ」と産業化(1) 内容 産業化の時代における子供の生活環境
- 第 11 回 項目 「ハイジ」と産業化(2) 内容 産業化の時代における子供の生活環境
- 第 12 回 項目 「ハイジ」と産業化(3) 内容 産業化の時代における子供の生活環境
- 第 13 回 項目 「ハイジ」と異文化意識(1) 内容 スイスのイメージと異文化理解
- 第 14 回 項目 「ハイジ」と異文化意識(2) 内容 スイスのイメージと異文化理解
- 第 15 回 項目 「ハイジ」と異文化意識(3) 内容 スイスのイメージと異文化理解

●教科書・参考書 教科書：アルプスの少女、(世界の名作全集；14), ヨハンナ・スピーリ作；山口四郎訳, 国土社, 1992 年

●連絡先・オフィスアワー tel: 933-5287 mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp office hour: 木曜日 3・4 時限 (10:20~11:50)

開設科目	ドイツ文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	岡光一浩				

●授業の概要 比較文学・比較文化的考察。ドイツ語圏の文学や文化を他の国々のそれらと比較して、受容と影響関係を学ぶとともに、固有性と普遍性を理解し、さらに日本人としての異文化理解に役立てる。対象となる作品は、グリム童話『赤ずきん』、クリムトの絵画『接吻』、トーマス・マンの『トーニオ・クレーガー』。／検索キーワード 「文学を読む」ということとは？

●授業の一般目標 ドイツ語圏の文学や文化に接し、それらを実際に具体的に読み(鑑賞し)、理解を深める。さらに、それらの様々な比較を通して、国際人としての生き方を学ぶ。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：ドイツ語圏の文学や文化を知り、理解することができる。比較を通して、受容と影響関係を学ぶことができる。思考・判断の観点：比較を通して、ドイツ語圏の固有性と普遍性を考えることができる。関心・意欲の観点：日本人としての国際理解を深める。国際人としての生き方を学ぶ。技能・表現の観点：自分の考えを表現できる。

●授業の計画(全体) 文学とは、ドイツ文学とは、比較文学とは、を学ぶ。(1)グリム童話とは、グリム童話執筆の動機と目的、『赤ずきん』の初版と決定版の比較、ペローとの比較 (2)ウィーン世紀末とは、ウィーン・カフェ、ユーゲントシュティール、ジャポニスムス、日本人ミツコ (3)トーマス・マン『トーニオ・クレーガー』とは、アンデルセン『人魚姫』との比較、北杜夫・三島由紀夫への影響

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 講義への導入 内容 全体的な計画。シラバスの説明。 授業外指示 シラバスを読んでおくこと。

第 2 回 項目 ドイツ語圏の文学と文化 内容 文学とは、ドイツ文学とは、比較文学とは。

第 3 回 項目 グリム童話『赤ずきん』(1) 内容 グリム童話とは。グリム童話執筆の動機と目的。 授業外指示 グリム童話を読んでおくこと。『赤ずきん』は是非。

第 4 回 項目 同上(2) 内容 初版と決定版との比較。 授業外指示 初版『赤ずきん』を読んでおくこと。

第 5 回 項目 同上(3) 内容 ペローとの比較。 授業外指示 ペロー『赤ずきん』を読んでおくこと。

第 6 回 項目 同上(4) 内容 精神分析的解釈

第 7 回 項目 クリムト『接吻』(1) 内容 ウィーン世紀末。ウィーン・カフェ。

第 8 回 項目 同上(2) 内容 絵画や建築におけるユーゲントシュティール

第 9 回 項目 同上(3) 内容 日本への影響。ジャポニスムス。

第 10 回 項目 同上(4) 内容 クリムトの時代にウィーンで生きた日本人ミツコ

第 11 回 項目 トーマス・マン『トーニオ・クレーガー』(1) 内容 作家と作品について 授業外指示 『トーニオ・クレーガー』を読んでおくこと。

第 12 回 項目 同上(2) 内容 アンデルセン『人魚姫』との比較。 授業外指示 『人魚姫』を読んでおくこと。

第 13 回 項目 同上(3) 内容 北杜夫への影響。 授業外指示 『木精』など、北の作品を読んでおくこと。

第 14 回 項目 同上(4) 内容 三島由紀夫への影響。 授業外指示 『仮面の告白』『金閣寺』など三島の作品を読んでおくこと。

第 15 回 項目 全体のまとめ 内容 「文学を読む」とはどういうことか。

●成績評価方法(総合) 出席を前提とする。発表やレポートにおいて評価する。

●教科書・参考書 教科書：プリント等の資料に沿って行く。／参考書：適宜、講義中に指摘する。

●メッセージ 出席しなければ、レポートは書けない。身を入れて関わらなければ、面白さも見えてこない。

●連絡先・オフィスアワー 人文学部 岡光研究室

開設科目	ドイツ文学演習（3・4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	岡光一浩				

●授業の概要 トーマス・マンの講演『ドイツとドイツ人』などを資料に、「ドイツ的とはなにか」を考える。  
／検索キーワード ドイツ語理解と文学の力

●授業の一般目標 ドイツ語読解能力、ならびに文献の分析能力、発表能力を養う。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：ドイツ語を読むことができる。文献の分析をし、テーマなどが設定ができる。思考・判断の観点：戦後のドイツの、知識人の意識を考える。関心・意欲の観点：ドイツ語、ドイツ、文学の社会における役割を考える。技能・表現の観点：文献を読み、考えをまとめ、発表できる。

●授業の計画（全体）講演『ドイツとドイツ人』（1945）をドイツ語で部分的に読んで、知識人の第二次世界大戦に対する意識を学ぶ。さらに、彼の講演集『ドイツ共和国について』（1922）『理性に訴える』（1930）『ボン大学との往復書簡』（1937）『ゲーテと民主主義』（1949）『芸術家と社会』（1952）などの読解、分析を行う。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 導入 内容 全体的な計画。トーマス・マンについて。授業外指示 トーマス・マン『ドイツとドイツ人』（岩波文庫）購入のこと。授業記録 ドイツ語原文の指示と配布

第2回 項目 講演集『ドイツ共和国について』（1922）内容 内容の発表と討論 授業外指示 当該書を読んでおくこと。授業記録 発表者2人

第3回 項目 講演集『理性に訴える』（1930）内容 同上 授業外指示 同上 授業記録 発表者1人

第4回 項目 講演集『ボン大学との往復書簡』（1937）内容 同上 授業外指示 同上 授業記録 発表者1人

第5回 項目 講演集『ドイツとドイツ人』（1945）内容 ドイツ語講読と分析、討論 授業外指示 同上

第6回 項目 同上 内容 同上

第7回 項目 同上 内容 同上

第8回 項目 同上 内容 同上

第9回 項目 同上 内容 同上

第10回 項目 同上 内容 同上

第11回 項目 同上 内容 同上

第12回 項目 同上 内容 同上

第13回 項目 講演集『ゲーテと民主主義』（1949）内容 内容の発表と討論 授業外指示 当該書を読んでおくこと。授業記録 発表者1人

第14回 項目 講演集『芸術家と社会』（1952）内容 同上 授業外指示 同上 授業記録 発表者1人

第15回 項目 まとめ 内容 ドイツ的とはなにか。

●成績評価方法（総合）授業中の発表やレポートにおいて評価する。出席がまず大切。

●教科書・参考書 教科書：ドイツとドイツ人（翻訳）、トーマス・マン、岩波文庫、1998年；Thomas Mann: Deutschland und Deutschen. プリントを配布する。／参考書：講義中に、適宜、指摘する。

●メッセージ 一生懸命でないと、面白さも見えてこない。とにかく出席しよう。

●連絡先・オフィスアワー 人文学部岡光研究室

開設科目	ドイツ文学演習（3.4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	坂本貴志				

- 授業の概要 主に、ドイツ、イタリア、フランスの、ヨーロッパの教会について勉強する。ロマネスク、ゴシック、バロックといった、基本的な建築様式を知ることから、キリスト教の世界観、その時代ごとの変容、また、宗教画、彫刻など、教会という場所に関するあらゆることをテーマとする。／検索キーワード ヨーロッパ、キリスト教、教会、建築、宗教画、彫刻、中世、墓、聖人
- 授業の一般目標 キリスト教の概要を知る。教会の建築様式が一目でわかる。宗教画の描かれた時代がわかる。ヨーロッパにおける墓とは？ 聖者信仰とは？
- 授業の計画（全体） 上記テーマについて文献および資料を集め、対話的に理解する。
- 教科書・参考書 教科書： 適宜指示する。／ 参考書： 適宜指示する。

開設科目	ドイツ文学演習（3・4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	Hintereeder-Emde Franz				

- 授業の概要** ドイツ文学はドイツやヨーロッパの文化と密接に絡み合っている。総体的な理解には文学の材料になる文化要素の知識や全体的な視野が欠かせない。ドイツ文化を、様々な側面において勉強していく。目的はドイツ語圏文化の総合的な知識や理解である。／検索キーワード ドイツ語圏文学、ドイツ文化圏、文化理解
- 授業の一般目標** ドイツ語圏の歴史を始め、社会、政治制度、地理、気候、日常文化や文学などの各分野の概略を把握できるように文献、新聞記事、インターネットなど様々なメディアを通じて勉強する。ドイツ語の資料も含めて、できるだけドイツ語で授業を進める。ドイツ文化に関連した研究文献などを読み、定期的に授業で発表や紹介をしてもらう。資料の分析や発表の技術にも重点を置く。
- 授業の到達目標**／知識・理解の観点：ヨーロッパの文化を背景とするドイツ語圏の文化を理解する。  
思考・判断の観点：資料を文化的背景に関連づけて理解できること。技能・表現の観点：ドイツ語の資料を分野に従って収集・分析すること。その他の観点：論点をまとめ、分かりやすく発表すること。
- 授業の計画（全体）** 演習は次の四つの分野にわたりますが、順番や内容には、演習の展開や進み方によって変更があり得ます。題1部：19世紀から現代までのドイツの歴史（1）第二ドイツ帝国の設立前後。（2）第1・第2世界大戦の背景（3）戦後ドイツからドイツ再統一まで 第2部：ドイツの地理・社会・行政・政治（1）ドイツの地理（地方・川・山脈・都市・州）（2）連邦制、教育制度、環境問題と環境保護、地域文化（3）国家、政党、選挙、社会団体（若者、女性、外国人） 第3部：ドイツの日常生活（1）仕事と休み（2）娯楽（映画、音楽、遊び、スポーツ）（3）食生活 第4部：ドイツ文化表現としての芸術や文学（様式や概念）（1）絵画（2）文学（3）音楽
- 成績評価方法（総合）** 1. 授業での発表（纏め方、メディアの適切な使い方、資料の提示）（40％） 2. 授業内外のドイツ語のレポート（ドイツ語の文書を書く努力、上達への努力）（40％） 3. 授業への参加、貢献（関心をもって、積極的な態度）（20％）
- 教科書・参考書** 教科書：資料は適宜に紹介、又は配分する。／参考書：授業で紹介する。
- メッセージ** 異文化理解には、自分の文化への関心も欠かせない。ノートパソコンを授業で使う。
- 連絡先・オフィスアワー** tel: 933-5287 mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp office hour: 木曜日 3・4時限（10：20～11：50）



開設科目	ドイツ文学講読（小説）（2年生）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	坂本貴志				
<p>●授業の概要 政治、歴史、都市、映画、科学、人間、と現代ドイツの多様なテーマについて学ぶ。他に、インターネットを通して基本的なドイツ語の情報ソースに触れるための初歩を学ぶ。／検索キーワード ドイツ語、現代ドイツ、インターネット、映画</p> <p>●授業の一般目標 ドイツ語を基本に忠実に、読み、聴けるようになる。フランスと並ぶEUの牽引車、ドイツの現在を多角的に知る。ドイツ語を通じた国際的な教養を身につけるための第一歩を踏み出す。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：授業開始時に伝える／参考書：独和大辞典；小学館（購入が望ましい）必携 ドイツ文法総まとめ；白水社</p> <p>●メッセージ 独文進学二年生の必須授業です。第一回目はオリエンテーションをします。第二回目にドイツ語の実力テストを行いますので、一年時に学んだ文法項目をおさらいしておくこと。</p>					

開設科目	ドイツ文学講読（小説）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	坂本貴志				

- 授業の概要 『プラハの古い伝説 Sagen und Legenden aus dem alten PRAG』を読む。魑魅魍魎の跋扈するプラハの迷宮へようこそ。
- 授業の一般目標 プラハに伝わる伝説を知る。ドイツ語を上達させる。
- 教科書・参考書 教科書： Sagen und Legenden aus dem alten PRAG

開設科目	ドイツ文学講読(エッセイ・批評)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	Hintereder-Emde Franz				
<p>●授業の概要 色々なドイツ文化圏やヨーロッパに関する今日的な話題を取り上げているエッセイや新聞記事やインターネットのホームページなどの資料を解説する。ドイツ社会における問題(少子化、失業など)、大学や一般教育の危機や、いまはやりのファッションやライフスタイルなどを扱うテキストを通じて、今日のドイツ人の生活感や考え方を考察する。／検索キーワード ドイツの日常文化</p> <p>●授業の一般目標 文学理解に欠かせない、現代ドイツの歴史、社会や日常生活を様々なメディアを通じて勉強する。</p> <p>●授業の到達目標／知識・理解の観点：ドイツやヨーロッパの社会や文化への関心や理解を深める。 関心・意欲の観点：自発的にドイツ語の資料を読み進め、積極的にドイツ語の語彙や読解力を増やし、内容について討論をする。 技能・表現の観点：資料の収集や纏め、そして発表の方法を取得する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：授業でコピーを配ります。</p> <p>●連絡先・オフィスアワー mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp tel: 933-5287 office hour:木曜日 3・4(10:20~11:50)</p>					

開設科目	ドイツ文学講読(エッセイ・批評)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	岡光一浩				
<p>●授業の概要 「ドイツ的とはなにか」のテーマのもとに、あのドイツ一大観光スポット「ノイシュバアンシュタイン城」を建てたバイエルンの国王ルートヴィヒ II 世の伝記を読む。この王の数奇な運命と謎の死は、ハンス・カロッサの『指導と信従』や鷗外の『うたかたの記』など、多くの人々の関心をかきたてた。彼のその精神や行動はドイツ的そのものである。Julius Desing: Koenig LudwigII. Sein Leben-Sein Ende, Verlag Kienberger, 1976. /検索キーワード ドイツ的。ルートヴィヒ II 世。</p> <p>●授業の一般目標 ドイツ語の読解力を養い、ドイツ的とはなにかを考える。</p> <p>●授業の到達目標 / 知識・理解の観点：文法の復習をしながら、ドイツ語を読み、理解することができる。 思考・判断の観点：ドイツ的とはなにか、を考える。 関心・意欲の観点：ドイツに対する関心を引き起こす。鷗外『うたかたの記』に関連づける。</p> <p>●授業の計画(全体) Julius Desing: Koenig LudwigII. Sein Leben-Sein Ende, Verlag Kienberger, 1976. を、輪読する。他の文献も読み、ドイツ的とはなにかを考える。また、イタリア映画『ルートヴィヒ ー神々の黄昏ー』(ルキーノ・ヴィスコンティ)も参考にしよう。</p> <p>●授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 導入 内容 全体的な計画について。</p> <p>第 2 回 項目 ドイツ語輪読 内容 Julius Desing: Koenig LudwigII.</p> <p>第 3 回 項目 以下、同上。 内容 以下、同上。</p> <p>第 4 回</p> <p>第 5 回</p> <p>第 6 回</p> <p>第 7 回</p> <p>第 8 回</p> <p>第 9 回</p> <p>第 10 回</p> <p>第 11 回</p> <p>第 12 回</p> <p>第 13 回</p> <p>第 14 回</p> <p>第 15 回 項目 まとめ 内容 ドイツ的とはなにか、を考える。</p> <p>●成績評価方法(総合) 出席、訳読を重視する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：コピーを配布する。 / 参考書：講義中に、適宜、指摘する。</p> <p>●メッセージ なにごとも、一生懸命でなければ、面白さも見えてこない。</p> <p>●連絡先・オフィスアワー 人文学部 岡光研究室</p>					

開設科目	ドイツ語演習(会話)(2年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	DobraFelicitas				

●授業の概要 本授業は、まず第一に基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせる、言い換えれば、一年目に学んだことを復習し、確かなものにするを目的とする。文型は、より意識的に応用されなければならない。これらの文型は、学生によってパートナー練習やグループ練習の中で練習され、学生の生活やさまざまなコミュニケーションの状況に関連する文例によって補強される。教科書の文章は、ドイツ事情を伝える内容である。各課の終わりに、日本語による文法の説明がある。

●授業の一般目標 学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得されたかどうか吟味される。文法は、コミュニケーションに有意義な練習を通じて伝えられる。学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。授業の重点は、教科書の題名に示唆されている「問題発見」にある。学生は、これまでに学んできたことを思い出しながら、世界についての自己の知識を活用して、比較的最近に学んだ新しい言語で言い表すことができる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：教科書には聴解と発音の訓練用のCDが付属している。音声練習が学生の理解を助け、聴解力を鍛えるであろう。自分自身が話すときにはなまりがあるにしても、大きな声ではっきりと話すように努めるべきである。思考・判断の観点：学生は語彙を増やし、会話文の構造を習得し、自分の生活の中から取り出した情報を会話文型の中に組み入れることができるようになる。一学期終わったところで、教科書の会話文をお手本にして自分自身の文章を作って、コミュニケーションを行うことができるようになる。パートナー練習は、授業の一つの構成要素である。宿題は学習効果を高め、一步一步段階的にコミュニケーション・テストの会話構成部分を習得させる。多くの自主性が要求される。関心・意欲の観点：学生と教師は、感情を通わせ会って話すように努める。緊張は、楽しい練習プリントや歌および自由会話練習(プリント無し)によって緩和されるであろう。授業は学生と教師双方によって楽しいものに形成されていくべきである。技能・表現の観点：学生は、コミュニケーションにとって重要な表現を表情豊かに話すことを学ぶ。その他の観点：本授業を履修する以上、規則正しい出席と教科書の購入は必須である。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 Lektion 1 内容 聞き取り CD 1 / CD 2 / IX ページ > テーマ：聞き取り / 人々の生活 / 仕事 / 趣味 / 勉強 / 家族 / テーマ：自己紹介 文法：人称変化 練習：自己紹介
- 第2回 項目 Lektion 1 内容 テーマ：数詞 Ordnungszahlen それはだれの物ですか 2格 練習：自己紹介 文法：
- 第3回 項目 Lektion 1 Lektion 2 の始め 内容 テーマ：大学の勉強と休み / 友だち / クラブ
- 第4回 項目 Lektion 2 内容 テーマ：大学の勉強と休み / 友だち / クラブ
- 第5回 項目 Lektion 2 Lektion 3 の始め 内容 テーマ：ドイツの学校のシステム / 過去形 / 現在完了形 公共の建物に関する語彙 文法：定冠詞、序数
- 第6回 項目 Lektion 2 内容 テーマ：ドイツの学校のシステム / 過去形 / 現在完了形
- 第7回 項目 Lektion 1 と 2 内容 テーマ：ペーパーテスト Lektion 1 と Lektion 2
- 第8回 項目 Lektion 3 Lektion 3 内容 テーマ：物と物の色 / 物の種類 / よふく / 代名詞の変化 文法：動詞の格 支配、前置詞、不定冠詞、否定冠詞(20-21 ページ)、人称代名詞の1格と4格
- 第9回 項目 Lektion 3 内容 テーマ：忘れ物 / モデルダやログ + CD 1 1 4 ページ
- 第10回 項目 Lektion 3 内容 テーマ：人びとの洋服と物 (色 / 大きさ / 形： < 17-18 ページ
- 第11回 項目 Lektion 4 Lektion 5 の始め 内容 テーマ：ペーパーテスト Lektion 3 スタート Lektion 4 テーマ：手紙を書く 19 + 21 ページ / 比較級 / 最上級

- 第12回 項目 Lektion 4 内容 る。文法：副詞（27 ページ） finden, meinen モデル会話文：私のラップトップは不便です。（28 ページ）私 はそれがとても エレガントだ と思います。（28 ページ） 形容詞の比較級 2 格をとる前置詞／練習 2 1 ページ～2 4 ページ
- 第13回 項目 Lektion 4 と 5 内容 Lektion 4: テーマ：ペーパーテスト Lektion 4 とスタート Lektion 5 テーマ：貴方は朝に何をしますか。風を曳いたかな再帰代名詞 会話テストのアドバイス
- 第14回 項目 Lektion 5 内容 テーマ：天気／体／病気と体の手入れ／文法：再帰動詞と再帰代名詞／”es”／練習 2 7 ページ会話テストのアドバイス
- 第15回 項目 Lektion 5 内容 家族：身長、体 Sketch 28 ページビデオ／練習 2 9～3 0 ページ／ペーパーテストの範囲

- 成績評価方法 (総合) 期末試験： 筆記テスト (L.6) と会話テスト (Lektion 1-5) (どちらも定期試験期間中に 実施)
- 教科書・参考書 教科書： Modelle 2, Andreas Riessland / Ikumi Waragai/Goro Christoph Kimura/Fumiya Hirataka, Sanshusha, 2005 年
- 連絡先・オフィスアワー 授業のあといつでもいいです / [dobra@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:dobra@yamaguchi-u.ac.jp) 宇部医学部の研究室の電話番号：(月／金(0836)22-2187 オフィスアワー：金曜日：12：30時～14：00時 山口吉田研究室： 水曜日 12：30時～14：00時

開設科目	ドイツ語演習(会話)(2年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	DobraFelicitas				

●授業の概要 本授業は、まず第一に基礎的なコミュニケーション能力を身につけさせる、言い換えれば、一年目に学んだことを復習し、確かなものにするを目的とする。文型は、より意識的に応用されなければならない。これらの文型は、学生によってパートナー練習やグループ練習の中で練習され、学生の生活やさまざまなコミュニケーションの状況に関連する文例によって補強される。教科書の文章は、ドイツ事情を伝える内容である。各課の終わりに、日本語による文法の説明がある。

●授業の一般目標 学生は提示された文型に従って、簡単な会話を行える程度の知識を習得することができる。話すことと発音練習がこの授業の重点である。文法は授業の目的ではないが、目標に到達するために通らねばならぬ道である。したがって、各課の文法も教授され、習得されたかどうか吟味される。文法は、コミュニケーションに有意義な練習を通じて伝えられる。学生は教科書の中に描写されたいくつかのシチュエーションによって、文化間の相違を確認することができる。授業の重点は、教科書の題名に示唆されている「問題発見」にある。学生は、これまでに学んできたことを思い出しながら、世界についての自己の知識を活用して、比較的最近に学んだ新しい言語で言い表すことができる。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：教科書には聴解と発音の訓練用のCDが付属している。音声練習が学生の理解を助け、聴解力を鍛えるであろう。自分自身が話すときにはなまりがあるにしても、大きな声ではっきりと話すように努めるべきである。思考・判断の観点：学生は語彙を増やし、会話文の構造を習得し、自分の生活の中から取り出した情報を会話文型の中に組み入れることができるようになる。一学期終わったところで、教科書の会話文をお手本にして自分自身の文章を作って、コミュニケーションを行うことができるようになる。パートナー練習は、授業の一つの構成要素である。宿題は学習効果を高め、一步一步段階的にコミュニケーション・テストの会話構成部分を習得させる。多くの自主性が要求される。関心・意欲の観点：学生と教師は、感情を通わせ会って話すように努める。緊張は、楽しい練習プリントや歌および自由会話練習(プリント無し)によって緩和されるであろう。授業は学生と教師双方によって楽しいものに形成されていくべきである。技能・表現の観点：学生は、コミュニケーションにとって重要な表現を表情豊かに話すことを学ぶ。その他の観点：本授業を履修する以上、規則正しい出席と教科書の購入は必須である。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第1回 項目 Lektion 6 内容 テーマ：書体／約束／集まりの所を調べる／来れない理由／文法：不定詞と”zu” 再帰代名詞と再帰動詞 4格と3格”sich treffen (mit)” ”sich freuen auf” ”jemandem passieren” 授業外指示 会話練習 31 33 ページ
- 第2回 項目 Lektion 6 内容 テーマ：パーティに何を忘れない方がいいですか。文法：不定詞と”zu” 授業外指示 会話練習 33 34 ページ
- 第3回 項目 Lektion 6 内容 テーマ：パーティの準備 授業外指示 Sketch と Sketchuebung 34(33) ページの会話
- 第4回 項目 Lektion 7 内容 会話テスト Lektion 6 スタート Lektion 7 テーマ：日本／日本文化／日本語／何つもりで日本に行きますか。文法：不定詞と”um...zu” ”ohne zu” 授業外指示 何つもりでドイツに行きますか。39 ページの会話
- 第5回 項目 Lektion 7 内容 テーマ：思いで／趣味 興味／趣味 文法：再帰代名詞と再帰動詞”sich interessieren fuer”/”sich beschaefligen mit”/”sich erinnern an”/”sich kuemmern um”/”sich freuen auf”/”sich freuen ueber” 授業外指示 自分のダイヤログを作って下さい。練習 4 2 ページ
- 第6回 項目 Lektion 8 内容 テーマ：会話テスト Lektion 7／スタート Lektion 8：テーマ：大学のキャンパス 色んな建物／講義室／図書館／センター／大学の歴史 文法：受動態 授業外指示 43 ページのパターン と練習

- 第 7 回 項目 Lektion 8 Lektion 8 の始め 内容 テーマ：大学 受動態に付いての ”werden” 未来形の ”werden” 何何になるの ”werden” 授業外指示 Sketch Sketchuebung 46(45) 47 ページ自分の大学紹介して下さい。
- 第 8 回 項目 Lektion 8 内容 テーマ： ”werden” のバリエーション 文法：分離動詞（45-47 ページ）練習：分離動詞 の会話練習（ワークシート）（45-47 ページ） 授業外指示 ”werden” のバリエーションの会話：私は何何になりたい。父は私何何をじゃめさせた。明日から必ずドイツ語を勉強します。48～49 ページの 会話練習 / テーマ：古里
- 第 9 回 項目 Lektion 9 内容 Lektion 8 の会話テストスタート Lektion 9 テーマ： / 愛 / 人びとのことを記述する 文法：副文 / 関係代名詞 / 名詞になる形容し 授業外指示 練習 51 ページ
- 第 10 回 項目 Lektion 9 内容 テーマ：舞姫（小階森の小説） 授業外指示 Sketch と Sketchuebung 54(53) ページ 練習 53 ページ
- 第 11 回 項目 Lektion 9 Lektion 9 内容 テーマ：愛 / 建物 / 所 / 有名な人 Lektion 9 の続き 文法：復習、所有冠詞（51-52 ページ） 授業外指示 会話：貴方のパートナー 55 ページと 何ですか。（関係代名詞を使って下さい。56 ページ
- 第 12 回 項目 Lektion 10 内容 テーマ：お願い 文法：接続法 ”koennen” ”haben” ”sein” ”werden” の接続法 授業外指示 クラスの会話パートナーに何何をお願いして。61 62 ページ
- 第 13 回 項目 Lektion 10 内容 文法：復習不定詞と ”zu” 授業外指示 Sketch Sketchuebung 60 (59) ページ
- 第 14 回 項目 Lektion 11 Lektion 9 Lektion 10 の始め 内容 テスト Lektion 10 スタート Lektion 11 テーマ：もし... Was wuerden sie machen, wenn ...? 文法：接続法 ペーパーテストと会話テストのためにアドバイス 授業外指示 練習 63 65 ページ
- 第 15 回 項目 Lektion 11 内容 テーマ：Was wuerden Sie tun, wenn ... 授業外指示 Sketch Sketchuebung 66(65) ページ 練習 67 ページ

●成績評価方法（総合） 定期試験：筆記試験（45 分）、会話試験（定期試験期間中に実施）

●教科書・参考書 教科書：Modelle 2, Andreas Riessland, Sanshusha, 2004 年；アンドレアスリースランド / 藁谷郁美 / 木村ごろうクリストフ / 平高史也 モデル 2 CD 付き問題発見のドイツ語 三修社：2005 .ISBN4-384-13076-7 C1084.2700 円

●連絡先・オフィスアワー 授業のあといつでもいいです / [dobra@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:dobra@yamaguchi-u.ac.jp) 宇部医学部の研究室の電話番号：（月 / 金（0836）22-2187 山口吉田研究室 12：30 時～14：00 時



開設科目	ドイツ語演習(会話)(3・4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	Felicitas Dobra				
<p>●授業の概要 コミュニケーション手段としてのドイツ語を勉強します。2年次に学習したドイツ語文法をふまえて会話の練習を主にします。文法も学習しますが、これはほとんど2年次の復習です。</p> <p>●授業の一般目標 ドイツ語会話の基礎的能力をふまえ、より高いレベルでの会話技術を身につけることを目標とします。ドイツ後劇はフリーコミュニケーションのためにします。コミュニケーションの間口だけ使いません。しかし体を使います。そして気持ちを入れます。</p> <p>●授業の到達目標／ 技能・表現の観点： ディスカッションを通して与えられた問題を解決する・子供時代の夢、思い出を話す・自分の将来の夢、希望を話す・気持ち、興味を表現する・ドイツの過去、現代社会における家庭の役割を学び、日本のそれと比較する等、自分の考えをドイツ語で表現できるようになる。</p> <p>●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 テキスト第1課 内容 テキスト：故郷、場所、家、家を探す／&lt;文法&gt;名詞のコンビネーション(Wortbildung)、接続法、受動態 (p7-9) 授業外指示 Arbeitsbuch(AB)Ubung1-6[p7-9]</p> <p>第2回 項目 テキスト第1課 内容 テキスト：あなたはどこに住みたいですか／練習 workpaper /&lt;文法&gt;話法の助動詞 (p9-11) 授業外指示 Arbeitsbuch(AB)Ubung7-9[p10-11]</p> <p>第3回 項目 テキスト第1課 内容 テキスト：家を探す／聞き取り自分でダイアログを作り暗記する (p12) 授業外指示 Arbeitsbuch(AB)Ubung11-14[p12-14]</p> <p>第4回 項目 テキスト第1課 内容 テキスト：家を探す／聞き取り／練習 workpaper (p13) 授業外指示 Arbeitsbuch(AB)Ubung15-16[p14-15]</p> <p>第5回 項目 ディスカッション 内容 ディスカッションのテーマ：二つの絵(テキスト p16)を見てあなた考えを述べてください。 授業外指示 Arbeitsbuch(AB)Ubung19-20[p17]</p> <p>第6回 項目 ディスカッション問題集 内容 ディスカッションのテーマ：故郷はあなたにとってどういう意味をもちますか。 授業外指示 Arbeitsbuch(AB)Ubung21-24[p18-19]</p> <p>第7回 項目 発表 内容 自分の故郷を紹介する(写真、物、ビデオ等を持参して)</p> <p>第8回 項目 ペーパーテスト 内容 ペーパーテスト：故郷、諺/&lt;文法&gt;接続法</p> <p>第9回 項目 会話テストとドイツ語劇の話し 内容 童話の歴史を学びます。童話に付いてる劇の”スシェーネン”ドイツ語でそして短い文書で書きます。 授業外指示 劇の準備：</p> <p>第10回 項目 ドイツ語劇プロジェクト 内容 練習 (読む) 授業外指示 単語の意味を調べる 動きを調べてと言葉を合わせる</p> <p>第11回 項目 ドイツ語劇プロジェクト 内容 練習 授業外指示 動きを調べてと言葉を合わせるタイミングを練習する</p> <p>第12回 項目 ドイツ語劇プロジェクト 内容 練習 授業外指示 光りとサウンドの練習タイミングを練習する／衣装</p> <p>第13回 項目 ドイツ語劇プロジェクト 内容 練習 授業外指示 動きと言葉を合わせるタイミングを練習する／衣装</p> <p>第14回 項目 ドイツ語劇プロジェクト 内容 練習 授業外指示 光りとサウンド動きと言葉を合わせるタイミングを練習する／衣装</p> <p>第15回 項目 ドイツ語劇プロジェクト 内容 ビデオを取る 授業外指示 光りとサウンド動きと言葉を合わせるタイミング／衣装</p> <p>●成績評価方法(総合) 成績は定期試験(ペーパーテスト・会話テスト)[30%]、宿題[10%]、授業中の態度[20%]、演習[30%]、出席[10%]で評価します。</p>					

- 教科書・参考書 教科書：Themen neu Kursbuch 3, Lehrwerk für Deutsch als Fremdsprache, Hueber Verlag, 1998年； Themen neu Arbeitsbuch 3, Lehrwerk für Deutsch als Fremdsprache, Hueber Verlag, 1998年  
参考書： Themen neu Arbeitsbuch 3, Lehrwerk für Deutsch als Fremdsprache, Hueber Verlag, 1998年
- 連絡先・オフィスアワー E-mail:dobra@yamaguchi-u.ac.jp 宇部：医学部：TEL:0836-22-2187 オフィスアワー：金曜日：12:00時～14:00時 山口吉田研究室 ；水曜日：12:00時～14:00時 オフィスアワー：火曜日、木曜日の授業時間外

開設科目	ドイツ語演習(会話)(3・4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	DobraFelicitas				
<p>●授業の概要 コミュニケーション手段としてのドイツ語を勉強します。2年次に学習したドイツ語文法をふまえて会話の練習を主にします。文法も学習しますが、これはほとんど2年次の復習です。</p> <p>●授業の一般目標 ドイツ語会話の基礎的能力をふまえ、より高いレベルでの会話技術を身につけることを目標とします。</p> <p>●授業の到達目標／ 技能・表現の観点： ディスカッションを通して与えられた問題を解決する・子供時代の夢、思い出を話す・自分の将来の夢、希望を話す・気持ち、興味を表現する・ドイツの過去、現代社会における家庭の役割を学び、日本のそれと比較する等、自分の考えをドイツ語で表現できるようになる</p> <p>●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 テキスト第2課 内容 テキスト：夏休みに何をしましたか、ヨーロッパ (p26-17) 授業外指示 Arbeitsbuch (AB) Übung 19-21 [p32-33]</p> <p>第2回 項目 テキスト第3課／前回の課題のチェック 内容 テキスト：ヨーロッパ (p26-27) 前回の課題のチェック：Arbeitsbuch(AB)Übung19-21[p32-33]</p> <p>第3回 項目 テキスト第3課／問題集 内容 テキスト：職業／練習 workpaper / &lt;文法&gt;受動態、名詞問題集：Arbeitsbuch(AB)Übung19-21[p32-33]</p> <p>第4回 項目 テキスト第3課／問題集 内容 テキスト：インタビュー／聞き取り／練習 workpaper 問題集：Arbeitsbuch(AB)Übung1-2[p37]</p> <p>第5回 項目 ディスカッション／問題集 内容 ディスカッションのテーマ：あなたは自分でビジネスをしたいですか(テキスト p35) 問題集：Arbeitsbuch(AB)Übung19-20[p45-46] 授業外指示 授業のテーマで作文を書いてくる。</p> <p>第6回 項目 テキスト第3課 内容 テキスト：将来に必要な職業 (p40) 授業外指示 Arbeitsbuch (AB) Übung 22-25 [p48-49]</p> <p>第7回 項目 ペーパーテスト／会話テスト 内容 ペーパーテスト：作文(テーマ：面白い職業) 会話テスト：ディスカッション(テーマ：面白い職業)</p> <p>第8回 項目 テキスト第4課 内容 テキスト：勉強する、学ぶ/&lt;文法&gt;不定詞文、話法の助動詞の現在完了形、再帰代名詞 (p44) 授業外指示 Arbeitsbuch (AB) Übung 1-2 [p53-54] ダイアログを作る(テーマ：子供の頃に学んだこと)</p> <p>第9回 項目 テキスト第3課 内容 テキスト：聞き取り 授業外指示 作文(テーマ：あなたが小さい頃にしたいこと) Arbeitsbuch(AB)Übung1-2[p53-54]</p> <p>第10回 項目 テキスト第3課 内容 テキスト：あなたの勉強のタイプは (p46) 授業外指示 Arbeitsbuch (AB) Übung 9 [p58]</p> <p>第11回 項目 テキスト第3課 内容 テキスト：あなたの勉強のタイプは (p59) 授業外指示 Arbeitsbuch (AB) Übung 13-14 [p59]</p> <p>第12回 項目 前回の課題のチェック／テキスト第4課 内容 前回の課題のチェック：Arbeitsbuch(AB)Übung13-14[p59] テキスト：仕事を見つける、新聞、インターネット (p51-52) 授業外指示 Arbeitsbuch (AB) Übung 15-16 [p60]</p> <p>第13回 項目 前回の課題のチェック／テキスト第4課 内容 前回の課題のチェック：Arbeitsbuch(AB)Übung15-16[p60] テキスト：聞き取り／ダイアログ (p52) 授業外指示 Arbeitsbuch (AB) Übung 17-18 [p60-61]</p> <p>第14回 項目 前回の課題のチェック／テキスト第4課 内容 前回の課題のチェック：Arbeitsbuch(AB)Übung17-18[p60-61] テキスト：あなた方のドイツ語のレベルは? (p52) 授</p>					

業外指示 Arbeitsbuch (AB)Ubung 18-21 [p62-63] 他の学生と一緒にダイアログを書いてくる  
(テーマ：仕事を見つける)

第 15 回 項目 前回の課題のチェック／ダイアログの録音／ペーパーテストの準備 内容 前回の課題のチェック：Arbeitsbuch(AB)Ubung18-21[p62-63] ダイアログを録音するペーパーテストの準備

- 成績評価方法 (総合) 成績は定期試験 (30 %)、宿題 (10 %)、授業態度 (20 %)、演習 (30 %)、出席 (10 %) で評価します。
- 教科書・参考書 教科書： Themen neu Kursbuch 3, Lehrwerk für, Deutsch als, Fremdsprache, Hueber Verlag, 1998 年； 別売の CD がありますが、それは購入しなくてもかまいません。／ 参考書： Themen neu Arbeitsbuch 3, Lehrwerk für, Deutsch als, Fremdsprache, Hueber Verlag, 1998 年
- 連絡先・オフィスアワー E-mail: [dobra@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:dobra@yamaguchi-u.ac.jp) TEL:0836-22-2187 (小串キャンパス) オフィスアワー：火曜日と木曜日の授業外の時間

開設科目	ドイツ語演習（作文）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	下嶋正利				

- 授業の概要 ドイツ語作文の教科書を用いて、ドイツ語作文の訓練を行う。そのほか、数回、何らかのテーマを与え、それについて自由に作文を書いてもらう予定でいる。
- 授業の一般目標 ドイツ語作文力の向上。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点：ドイツ語の初級文法をしっかり身に付けている。 技能・表現の観点：きちんとしたドイツ語を書くことができるのはもちろんのこと、より高度なドイツ語表現ができる。
- 授業の計画（全体） 独作文の教科書を1冊すべてやり終える予定。またレポートも2～3回課す予定。
- 成績評価方法（総合） 授業中に行う練習問題の解答、レポート、期末試験による。
- 教科書・参考書 教科書：日本の出版社から出ている独作文の教科書を用いるが、どの教科書にするかは受講者の顔ぶれを見てから決定する。

開設科目	ドイツ語演習(作文)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	本田義昭				

- 授業の概要 ドイツ語の初級文法で学んだ事項を組み合わせ、ドイツ語の文章を作成する練習を積み重ねて行きます。／検索キーワード ドイツ語 文法 独作文
- 授業の一般目標 ドイツ語の文章を作成する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：ドイツ語の文の構造および各文法事項に関する知識を深める。  
思考・判断の観点：日本語とは異なる発想に触れて、世界を複眼的にみれるようになる。 関心・意欲の観点：自分が思っていることをドイツ語という形で発信する積極性を養う。 技能・表現の観点：ドイツ語の文を作成する能力を養う。
- 授業の計画(全体) 教科書に沿って練習問題を解きながら、質疑に答え、必要に応じて追加説明して行きます。
- 成績評価方法(総合) 平素の学習、特に授業への積極的参加を重視します。出席率が8割未満の場合は失格とします。
- 教科書・参考書 教科書：ドイツ語を書いてみよう！, 清野智昭, 白水社, 2002年／参考書：必要に応じて、授業の中で紹介します。
- メッセージ ドイツ語の基本文を暗記していると、購読や会話にも非常に役立ちます。授業への積極的な参加を期待しています。
- 連絡先・オフィスアワー honda@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	ドイツ語演習（時事ドイツ語・ドイツ事情）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	Hintereder-Emde Franz				

●授業の概要 今まで覚えたドイツ語では、文法は大ざっぱに理解していても、実用的に使うとか、読書をするには、まだ不十分である。このコースでは、文法を復習しながら、ドイツ語の語彙を効果的に増やすために、色々な分野にわたって、会話の様々な場面を読んだり、自分で造ったり、そして演じたりする。様々なメディアを使って、練習をさらに効果的にする。家で常に単語帳を利用するなど、自分の可能性に積極的にチャレンジすることが望まれている。／検索キーワード ドイツ語の語彙、ドイツ語の実力と応用

●授業の一般目標 ドイツ語圏の文化に関係している簡単な資料を解読して、ドイツ語で自分の意見を表現できることである。これは口頭でディスカッションしたり、または発表したりして、そしてドイツ語で簡単なレポートを書くことである。

●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： ドイツやヨーロッパの社会や文化への関心や理解を深める。 関心・意欲の観点： 自発的にドイツ語の資料を読み進め、積極的にドイツ語の語彙や読解力を増やし、内容について討論をする。 技能・表現の観点： 資料の収集や纏め、そして発表の方法を取得する。

●授業の計画（全体） 次のテーマについて勉強する。進み方は参加者の関心・発表などによって決まってくる： ドイツの旅（地理、都市、名所） 観光地、ホテルの予約 ドイツの街や観光地を紹介する発表 ドイツの住まい（家やアパート、部屋の間取り、家具） インターネットで住居の雑誌を調べる。私の夢の家を紹介する。ドイツのファッション（洋服の呼び方、色やサイズなど） インターネットでドイツのファッションを調べる 私の好きなファッションを紹介する 時間の過ごし方（仕事と余暇、約束の仕方） 私の一日、一週間のスケジュール、夏休みの話、ドイツ旅行の計画 趣味と遊び（スポーツ、音楽、映画など） ドイツの料理（レストランで食べる料理、メニューの読み方、注文） 家庭料理、レシピの読み方、買い物

●成績評価方法（総合） 小テスト（40%） 授業内外のドイツ語のレポート（ドイツ語の文書を書く努力、上達への努力）（40%） 授業への参加、貢献（関心をもって、積極的な態度、宿題の提出）（20%）

●教科書・参考書 教科書： 資料は適宜に紹介、又は配分する。／ 参考書： 授業で紹介する

●メッセージ 宿題などは電子メールでやり取りする。ノートパソコンをいかして欲しい。

●連絡先・オフィスアワー tel: 933-5287 mail: emde@yamaguchi-u.ac.jp office hour： 木曜日 3・4 時限（10：20～11：50）

開設科目	現代フランス語概説 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	武本雅嗣				

- 授業の概要 現代フランス語の様々な特徴をテーマごとに取り上げて解説し、その全体像を体系的に提示する。
- 授業の一般目標 現代フランス語の様々な特徴を把握し、現象を説明することができるようになる。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 細部に至るまで、フランス語の文法を正確に把握し、フランス語を運用できる。 思考・判断の観点： フランス語の様々な現象を論理的に説明できる。
- 授業の計画（全体） 現代フランス語の様々な特徴をテーマごとに取り上げて分析し、その全体像を体系的に提示する。
- 成績評価方法（総合） 期末テスト：70% 平常点：30%
- 教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。／ 参考書：『フランス語とはどんな言語か』, 大橋保夫, 駿河台出版社
- メッセージ 休まず出席すること。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 2:30-4:00



開設科目	現代フランス語概説 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	武本雅嗣				

- 授業の概要 現代フランス語の様々な特徴をテーマごとに取り上げて解説し、その全体像を体系的に提示する。
- 授業の一般目標 現代フランス語の様々な特徴を把握し、現象を説明することができるようになる。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 細部に至るまで、フランス語の文法を正確に把握し、フランス語を運用できる。 思考・判断の観点： フランス語の様々な現象を論理的に説明できる。
- 授業の計画（全体） 現代フランス語の様々な特徴をテーマごとに取り上げて分析し、その全体像を体系的に提示する。
- 成績評価方法（総合） 期末テスト：70% 平常点：30%
- 教科書・参考書 教科書：プリントを配布します。／参考書：『フランス語とはどんな言語か』, 大橋保夫, 駿河台出版社
- メッセージ 休まず出席すること。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 2:30-4:00

開設科目	フランス語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	山田博志				

- 授業の概要 フランス語の空間表現を対象に分析を行う。場所を表す前置詞および場所の状況補語が具体的な分析対象となるが、空間表現の基本となる「存在」と「移動」をめぐって、空間以外の範疇－「道具・手段」や「受益者」－との関連についても考えてみたい。
- 授業の一般目標 フランス語の場所の前置詞を意味を確実に把握すると同時に、フランス語を研究対象として捉え、考えるための方法を身につける。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：フランス語を分析対象とする際に必要な基本的概念を身につけると共に、例えば次のような前置詞の用法の違いを理解することができるようになる。 au mur / sur le mur, au plafond / ?sur le plafond, essuyer avec un mouchoir / essuyer sur la chemise 思考・判断の観点：フランス語のデータ（文法的に適格な文と不適格な文）をもとに、何故そのような違いが生じるのか、そこにはどのような文法的メカニズムが働いているのか、などを考えていく態度と方法を身につける。
- 授業の計画（全体） 次のような項目を扱う。 1. 前置詞の特徴 2. 空間前置詞の分類 3. 前置詞分析の方法 4. dans と sur 5. 前置詞 a の特殊性 6. 場所の状況補語 7. 場所と道具 8. 移動と受益者
- 成績評価方法（総合） 平常点（授業への参加度，など）とレポートの両方をもとに総合的に評価する。
- 備考 集中授業

開設科目	フランス語学演習 (3.4 年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	武本雅嗣				

- 授業の概要 今年度は、*Syntaxe comparee du francais et de l'anglais* の時制の章を読んでいます。卒業論文を書くための指導も合わせて行っています。
- 授業の一般目標 フランス語で書かれた論考を読むことによって、フランス語学の知識を深めるだけでなく、論文の書き方や議論の展開の仕方も学んでいます。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：論文を正確に読むことができる。思考・判断の観点：フランス語の時制および英語の時制の使い分けを説明できる。態度の観点：講読に参加できる。
- 授業の計画（全体）前期のテキストは次のとおりです。Guillemin-Flesher, J. (1993), *Syntaxe comparee du francais et de l'anglais*, pp. 4-61.
- 成績評価方法（総合）レポート：50 % 授業態度や授業への参加度：50 %
- 教科書・参考書 教科書：テキストのコピーを配布します。
- メッセージ 毎回予習してくること。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 2:30-4:00

開設科目	フランス語学演習 (3.4 年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	武本雅嗣				

- 授業の概要 今年度は、*Syntaxe comparee du francais et de l'anglais* の時制の章を読んでいます。卒業論文を書くための指導も合わせて行っています。
- 授業の一般目標 フランス語で書かれた論考を読むことによって、フランス語学の知識を深めるだけでなく、論文の書き方や議論の展開の仕方も学んでいます。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：論文を正確に読める。思考・判断の観点：フランス語の時制および英語の時制の使い分けを説明できる。態度の観点：講読に参加できる。
- 授業の計画（全体）後期のテキストは次のとおりです。Guillemin-Flesher, J. (1993), *Syntaxe comparee du francais et de l'anglais*, pp. 63-105.
- 成績評価方法（総合）レポート：50 % 授業態度や授業への参加度：50 %
- 教科書・参考書 教科書：テキストのコピーを配布します。
- メッセージ 毎回予習してくること。
- 連絡先・オフィスアワー 研究室 人文 612, オフィスアワー 木曜日 2:30-4:00

開設科目	フランス文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	平山豊				

- 授業の概要 スタンダールの代表的作品を取り上げ解説する。またその生涯を彼の自伝的作品や研究者の論考を通してつづさに辿り、作品創造の秘密に迫る。
- 授業の一般目標 小説や日記、エッセイの読み方、分析や論述の展開の仕方を学ぶ。背景となる時代や社会環境への理解を深める。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 作品の内容及び背景の理解 思考・判断の観点： 作品に書かれていること、そしてまた各論者の見方に関して
- 授業の計画（全体） まず、『アンリ・ベールの生涯』などで窺がわれる作家以前の生き方から説き起こし、それから年代順に『恋愛論』、『赤と黒』、『パルムの僧院』などの主要作品をたどる。 その間にアンリ・マルチノー、ジャン・プレボー、ジャン・スタロバンスキーなどのスタンダール論を紹介する。
- 成績評価方法（総合） レポート評価70％ 授業参加・授業内発表30％
- 教科書・参考書 教科書：プリント配布／ 参考書：スタンダール著作集（フランス語版および訳本）ほか

開設科目	フランス文学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	井上三朗				

- 授業の概要 講義題目を「サド学入門」とし、サドの文学世界を概観する。サドの生涯を簡単にたどったあと、『ジュスチーンまたは美德の不幸』と『ジュリエット物語または悪徳の栄え』の概要を示す。そしてサドの世界が、情念の世界であり、想像上の世界であることを指摘する。このあと、サドの文学言語がいかなるものであるのかを、考察する。時間的余裕があれば、サドの文学世界が悪の世界であることにも言及したい。
- 授業の一般目標 サドの文学は、キリスト教文学と真っ向から対立する。反キリスト教文学と規定できるサドの文学が、いかなるものであるのかを、具体的に見ていきたい。現代は、ある意味でサドの時代であるとも言えるが、サドの文学にアプローチすることで、生きる指針を得ることができれば幸いである。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 悪の文学がいかなるものであるのかを、知ることができる。 思考・判断の観点： 何が善で、何が悪であるのかを、思考・判断することができる。
- 授業の計画（全体） 最初の2回で、サドの生涯をたどる。次の2回で、『ジュスチーンまたは美德の不幸』の概要を説明する。『ジュリエット物語または悪徳の栄え』の概要の説明には、2回から3回の時間を充てる。残る8回から9回の時間で、サドの世界が、情念の世界であり、想像力の世界であることを見、サドの文学言語について考察する。時間があまれば、サドの世界が、悪の世界であることを論じたい。
- 成績評価方法（総合） 期末試験の成績と平常点の総合で評価する。
- 教科書・参考書 教科書： プリントを配布する。／ 参考書： 授業中に適宜紹介する。

開設科目	フランス文学演習 (3・4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	井上三朗				

- 授業の概要 ジャンエールサムという人の書いた、モーパッサンの『女の一生』にかんする入門書を読む。この入門書をテキストに用いることで、モーパッサンの『女の一生』の世界をかいま見たい。また文学作品の研究のしかた、論じ方をまなぶことができればと願っている。
- 授業の一般目標 比較的平易な論文のフランス語を読むことによって、フランス語の読解力を養成することを旨とする。もちろんであるが、論文を教材にするのであるから、文学作品の分析能力を身に付けることができればと願っている。概要のところでも述べたように、文学研究の際になんらかの参考になれば幸いである。と同時に、思考力、論理を展開する能力がやしなえればと願っている。
- 授業の計画(全体) 入門書は全体として70頁から成り立つ。1回で1ページ半あまり読み進むことによって、2章から4章までを読むことを、一応の目標とする。しかし、あまりあせらず、じっくりとフランス語と論文の内容を検討していきたいと考えている。
- 成績評価方法(総合) 平常点を重視する。授業は受講者に順番にあてて、訳読してもらうので、発表の際の成績がかなり成績評価の比重をしめることになる。定期試験を実施するかどうか、試験の代わりにレポートを課すかどうかは、授業をおこなうなかで、考えていきたい。
- 教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。／参考書：女の一生, モーパッサン, 新潮文庫
- メッセージ 授業への積極的な参加を望む。

開設科目	フランス文学演習(3・4年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	平山豊				

- 授業の概要 アラン・フルニエの名作 *Grand Meaulnes* の抜粋(特に後半)を読みつつ、さまざまな研究書から、作品の構成美学を学ぶ。同時に作者の精神の軌跡を辿りその内面に測鉛を下ろす。
- 授業の一般目標 文学書を読むフランス語力をつける。想像力を養うとともに批評的論考をたどる論理的思考力をつける。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：想像力によって情景を思い描き心理を読み取る。背景を知る。  
思考・判断の観点：研究書を読み考える
- 授業の計画(全体) 作品の後半第二部9章、12章、第三部3章、7章、8章、11章、16章の抜粋を原文で読みながら、Pierre Suiereのアラン・フルニエについての著書のII *La rencontre* V *Les chemins interieures* 等の箇所と照らし合わせ理解を深めてゆく。更にX,XI章に基づきより詳細な作品分析を試みる。
- 成績評価方法(総合) 定期試験70% 平素の授業参加度、発表内容 30% の割合で総合評価
- 教科書・参考書 教科書：プリント配布／参考書：Pierre Suiere,Alain-Fournier *au miroire du Grand Meaulnes* その他



開設科目	フランス文学講読（小説）	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	井上三朗				

- 授業の概要 19世紀後半の小説家、ユイスマンスの『さかしま』をテキストに用いる。この作品をじっくりと味読・精読することで、小説を読むことよるこびを味わいたい。なお、授業では、発音の練習と文法の復習を徹底的におこないたい。時間的余裕があれば、作品の分析もおこないたいと思っている。
- 授業の一般目標 小説のフランス語に慣れるとともに、フランス語の読解力の養成を目指す。
- 授業の計画（全体） 作品は全体として、240頁からなるので、全部を読みとおすことはできない。1回の授業につき、1頁から1頁半進むことで、序章と第1章を読み終えたいと思っている。
- 成績評価方法（総合） 期末試験の成績と平常点との総合で評価する。
- 教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。／参考書：授業中、適宜紹介する。

開設科目	フランス文学講読（小説）	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	井上三郎				

- 授業の概要 前期に同じ。
- 授業の一般目標 前期に同じ。
- 授業の計画（全体） 1回の授業につき、1頁から1頁半ずつ読みすすめることで、作品の第3章と第4章を読み終えたいと思っている。
- 成績評価方法（総合） 前期に同じ。
- 教科書・参考書 教科書：プリントを配布する。

開設科目	フランス文学講読(小説)(2年生)	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	井上三朗				
<p>●授業の概要 これは、フランス語未履修者のための授業である。初級文法の教科書をテキストに用いて、フランス語の読解あるいは会話などに必要な文法事項を学ぶ。</p> <p>●授業の一般目標 読み、書き、話すために必要な文法知識の習得を目指す。</p> <p>●授業の計画(全体) 教科書は全体として12課から成り立つので、1回の授業につき、1課ずつ進むことを目標とする。</p> <p>●成績評価方法(総合) 平常点を重視する。期末試験をおこなうかどうかは未定である。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：新12課のフランス語, 土居寛之, 朝日出版社, 1997年 / 参考書：授業中、適宜紹介する。</p>					

開設科目	フランス文学講読（エッセイ・批評）	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	平山豊				
<p>●授業の概要 フランスの詩人哲学者ガストン・バシュラールの『水と夢』の原作を読み、文学テキストを通しての物質的想像力の本質と魅力を感じ得る。</p> <p>●授業の一般目標 詩的で隠喩に満ちた言語と論理的な言葉の運びを併せ持つ批評文の読解力を涵養する。</p> <p>●授業の到達目標／知識・理解の観点：様々な原型的な神話的なイメージの理解；テーマ体系批評へのアプローチ 思考・判断の観点：フランス語による論理的・分析的思考の養成 技能・表現の観点：フランス語の語彙や読解力の養成</p> <p>●授業の計画（全体）第一章 明るい水、春の水と流れる水、第二章 深い水 を抜粋で読み、言及されている諸作品にも触れる。</p> <p>●成績評価方法（総合）平素の授業参加度 30% 定期試験 70%</p> <p>●教科書・参考書 教科書：L'EAU et les REVES, Gaston Bachelard, JOSE CORTI, 1974 年；プリント配布</p>					

開設科目	フランス文学講読（エッセイ・批評）	区分	講読	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	平山豊				
<p>●授業の概要 フランスの詩人哲学者ガストン・バシュラールの『水と夢』の原作を読み、文学テキストを通しての物質的想像力の本質と魅力を感得する。</p> <p>●授業の一般目標 詩的で隠喩に満ちた言語と論理的な言葉の運びを併せ持つ批評文の読解力を涵養する。</p> <p>●授業の到達目標／知識・理解の観点：様々な原型的な神話的なイメージの理解；テーマ体系批評へのアプローチ 思考・判断の観点：フランス語による論理的・分析的思考の養成 技能・表現の観点：フランス語の語彙や読解力の養成</p> <p>●授業の計画（全体）バシュラール『水と夢』の第三章 カロンのコンプレックス、オフィーリアのコンプレックス、第五章 母性の水と女性の水 を抜粋で読み、原型的イメージに沈潜しながらその創造的な働きを確かめる。</p> <p>●成績評価方法（総合）平素の授業参加度 30% 定期試験 70%</p> <p>●教科書・参考書 教科書：L'EAU et les REVES, Gaston Bachelard, JOSE CORTI, 1974 年</p>					

開設科目	フランス語演習（会話）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	ジャン＝クロード・ボシール				

- 授業の概要 このコースは初級フランス語を総合的にレベルアップさせ、フランス語での基礎的なコミュニケーションに積極的に参加できるような理解力と表現力とを習得することを目標にしています。
- 授業の一般目標 この講座は、フランス語を学ぶ学生のために簡単な挨拶や日常会話を取り入れながら、初級～中級フランス語を習得して伝達力を伸ばすことを目指します。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 漠然とした曖昧な知識ではなくフランス語自体の仕組み、文法を芯から理解することを目標としています。 関心・意欲の観点： フランス語以外のこと（文化、歴史、音楽、雑学）などにも自分から興味を持ち視野を広げ柔軟性のある思考力を養います。
- 授業の計画（全体） 「基本文型」、「発音」、「重要文法」、「きまり文句」、「会話表現」等をまんべんなく取り入れ、毎回授業には「フランス雑学コーナー」を設けてシャンソン、映画等のさまざまな情報を提供します。
- 成績評価方法（総合） 一回の会話定期考査と平均点（授業態度、出席状況など）を総合的に評価します。
- 教科書・参考書 教科書： 自作のプリント／参考書： 空白

開設科目	フランス語演習（会話）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	ジャン＝クロード・ボシール				

- 授業の概要 このコースは初級フランス語を総合的にレベルアップさせ、フランス語での基礎的なコミュニケーションに積極的に参加できるような理解力と表現力とを習得することを目標にしている。
- 授業の一般目標 この講座は、フランス語を学ぶ学生のために簡単な挨拶や日常会話を取り入れながら、初級～中級フランス語を習得して伝達力を伸ばす。
- 授業の計画（全体） 「基本文型」、「発音」、「重要文法」、「きまり文句」、「会話表現」等をまんべんなく取り入れ、毎回授業には「フランス雑学コーナー」を設けてシャンソン、映画等のさまざまな情報を提供する。
- 成績評価方法（総合） 一回の会話定期考査と平均点（授業態度、出席状況など）を総合的に評価します。
- 教科書・参考書 教科書：自作プリント／参考書：空白

開設科目	フランス語演習（作文）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	井上三郎				

- 授業の概要 極めて平易な教科書を用いることで、和文仏訳の練習をしながら、フランス語の初歩を習得することを目指す。平易な文章を、フランス語で書くことにより、基本的な文法事項や構文を身につける。
- 授業の一般目標 簡単な言い回しを覚えることで、会話への道を開くことを、目標とする。また、和文仏訳の練習をしながら、初級文法の復習をしたい。
- 授業の計画（全体）教科書は全体として、18課から成り立っており、前期は、前半の9課まで進むことを目標とする。そのために、5回の授業につき、3課進みたいと思っている。
- 成績評価方法（総合） 期末試験の点数と平常点との総合で評価する。
- 教科書・参考書 教科書：川村ふらんす語作文, 川村克己, 駿河台出版社, 2002年 / 参考書：授業中、適宜紹介する。
- メッセージ 授業への積極的参加を望む。



開設科目	フランス語演習（作文）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	井上三郎				

- 授業の概要 前期に同じ。
- 授業の一般目標 前期に同じ。
- 授業の計画（全体）教科書は全体として、18課から成り立っており、後期は、その後半の10課から、さいごの18課まで進みたいと思っている。そのため、5回の授業につき、3課進むことを目標とする。
- 成績評価方法（総合）期末試験の点数と日常点との総合で評価する。
- 教科書・参考書 教科書：川村ふらんす語作文, 川村克己, 駿河台出版社, 2002年
- メッセージ 授業への積極的参加を望む。

開設科目	フランス語演習(時事フランス語・フランス語事情)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	平山豊				
<p>●授業の概要 フランス語圏の多様性、教育問題、メディア、女性の社会進出、フランスワイン、心のレストラン、ワークシェアリング、世界の出来事等々の様々なニュースや話題を、「易しく読めるフランス語新聞」(第三書房)、ヴァリエテ・フランセーズ(朝日出版社)、le nouvel Observateur、LABEL FRANCE(フランス外務省広報誌)などの抜粋を使って、フランス語で読み、日本の現状と比較しながら学び考える。時にインターネットのフランス語サイトの記事も参照する。</p> <p>●授業の一般目標 現代の新聞や雑誌で使われるフランス語の語彙や文章表現に慣れ親しむとともに、文化の豊かさや社会の様々な問題に触れて関心を喚起され、考えをめぐらすこと。</p> <p>●授業の到達目標／ 知識・理解の観点：フランス語の読解力の向上 思考・判断の観点：文化や価値判断の多様性の認識 関心・意欲の観点：日本やフランスだけでなく世界で生きている人々の生活や価値観に対する関心</p> <p>●授業の計画(全体) 1. フランスの学校教育をめぐる問題 2. メディア、映画、アニメ、漫画等をめぐる話題 3. 食やレジャーをめぐる話題 4. 経済や就業をめぐる問題 5. 社会の高齢化や国際化 6. 科学や環境問題 の順で取り上げていく予定。</p> <p>●成績評価方法(総合) 平素の授業参加度20% レポート20% 定期試験 60%</p> <p>●教科書・参考書 教科書：ヴァリエテ・フランセーズ2005, クリスチャン・ボームルー; 荒木善太, 朝日出版社, 2005年; 適宜プリントを使用</p>					

開設科目	フランス語演習（時事フランス語・フランス事情）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	武本雅嗣				
<p>●授業の概要 パリの現状を把握するために、刊行されたばかりのパリについて書かれた文献を読んでいく。また、フランスのニュースを見たり読んだりして、現在フランスが抱えている問題について考え、議論していく。</p> <p>●授業の一般目標 フランスの様々な側面を理解する。</p> <p>●授業の到達目標／ 知識・理解の観点： パリの現状を把握し、フランスの様々な側面を理解する。 思考・判断の観点： 相対的・複眼的な視点を持てるようになる。 態度の観点： 毎回予習して来ること。</p> <p>●授業の計画（全体） Sociologie de Paris を読んでいく。また、ビデオやパソコンを使って、現在フランスが抱えている様々な問題を取り上げ、パリおよびフランスについて見識を広げていく。</p> <p>●成績評価方法（総合） レポート：50 % 授業態度や授業への参加度：50 %</p> <p>●教科書・参考書 教科書： テキストのコピーを配布します。</p> <p>●メッセージ 毎回予習してくること。</p>					

開設科目	言語学概論 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	乾 秀行				

●授業の概要 「言語学」のいくつかの主要なテーマについて、主に母語である日本語を例に挙げながら、平明に概説します。皆さんは大なり小なりことばに関心があると思いますが、言語学を勉強することで、ことばのしくみについての理解が深まり、今までのことばについての間違っただ思いこみに気づくと思います。ことばについての新たな発見の旅をはじめてみませんか？

●授業の一般目標 1. 言語学とはどういう学問であるかを理解する。 2. 言語学の主要分野についての理解を深める。 3. 言語の多様性を理解する。 4. 言語学の基本的な考え方を身につける。

●授業の計画（全体） 言語学とは何か、音声学、音韻論、形態論。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の進め方の説明
- 第 2 回 項目 言語学とは何か 1
- 第 3 回 項目 言語学とは何か 2
- 第 4 回 項目 言語学史 1
- 第 5 回 項目 言語学史 2
- 第 6 回 項目 音声学 1
- 第 7 回 項目 音声学 2
- 第 8 回 項目 音韻論 1
- 第 9 回 項目 音韻論 2
- 第 10 回 項目 音韻論 3
- 第 11 回 項目 形態論 1
- 第 12 回 項目 形態論 2
- 第 13 回 項目 形態論 3
- 第 14 回 項目 形態論 4
- 第 15 回 項目 テスト

●成績評価方法（総合） 出席点。課題。期末テスト。

●教科書・参考書 教科書：『言語学入門—これから始める人のための入門書』, 佐久間淳一他, 研究社, 2004 年；レポート課題用教材は授業中に提示。／参考書：『言語学 第 2 版』, 風間喜代三他, 東京大学出版会, 2004 年；授業中に適宜提示。

●メッセージ ノートパソコンを使います。

●連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語学概論 II	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	乾 秀行				

●授業の概要 「言語学」のいくつかの主要なテーマについて、主に母語である日本語を例に挙げながら、平明に概説します。皆さんは大なり小なりことばに関心があると思いますが、言語学を勉強することで、ことばのしくみについての理解が深まり、今までのことばについての間違っただ思いこみに気づくと思います。ことばについての新たな発見の旅をはじめてみませんか？

●授業の一般目標 1. 言語学とはどういう学問であるかを理解する。 2. 言語学の主要分野についての理解を深める。 3. 言語の多様性を理解する。 4. 言語学の基本的な考え方を身につける。

●授業の計画（全体） 統語論、意味論、語用論、社会言語学、言語類型論、歴史言語学。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 授業の進め方の説明

第 2 回 項目 統語論 1

第 3 回 項目 統語論 2

第 4 回 項目 統語論 3

第 5 回 項目 意味論 1

第 6 回 項目 意味論 2

第 7 回 項目 意味論 3

第 8 回 項目 意味論 4

第 9 回 項目 語用論

第 10 回 項目 社会言語学

第 11 回 項目 言語類型論 1

第 12 回 項目 言語類型論 2

第 13 回 項目 歴史言語学 1

第 14 回 項目 歴史言語学 2

第 15 回 項目 テスト

●成績評価方法（総合） 出席点。課題。期末テスト。

●教科書・参考書 教科書：『言語学入門—これから始める人のための入門書』, 佐久間淳一他, 研究社, 2004 年；レポート課題用教材は授業中に提示。／参考書：『言語学 第 2 版』, 風間喜代三他, 東京大学出版会, 2004 年；授業中に適宜提示。

●メッセージ ノートパソコンを使います。

●連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	乾 秀行				

●授業の概要 世界にはいろいろな言語が話されており、母語である日本語やヨーロッパの主要言語のみを頼りに言語の特性を論じても正しいとは限らない。またことばの変化について考える場合も同じである。本講義ではまず言語の多様性を実感し、その上で言語の類型化や言語変化について論じる。具体的には言語類型論関連の主要論文を読みながら、そこに出てくるいろいろな言語の共時的・通時的言語現象を一つ一つ吟味しながら、考察を加えることになる。なお理論研究にありがちな性急な一般化をめざすことよりも、言語現象の多様性を理解することの方がはるかに大切である。言語の類型化や言語変化の説明をする上での問題点を探ってみたい。

●授業の一般目標 1. 言語の多様性について理解を深める。 2. 言語変化について理解を深める。 3. 言語の類型化について理解を深める。

●授業の計画(全体) グループ毎に発表形式で読んでいきます。

●授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 授業の進め方の説明

第 2 回 項目 7-1 内容 偏流

第 3 回 項目 7-2 内容 偏流

第 4 回 項目 7-3 内容 偏流

第 5 回 項目 7-4 内容 偏流

第 6 回 項目 7-5 内容 偏流

第 7 回 項目 8-1 内容 音法則

第 8 回 項目 8-2 内容 音法則

第 9 回 項目 8-3 内容 音法則

第 10 回 項目 8-4 内容 音法則

第 11 回 項目 9-1 内容 言語接触

第 12 回 項目 9-2 内容 言語接触

第 13 回 項目 9-3 内容 言語接触

第 14 回 項目 9-4 内容 言語接触

第 15 回 項目 予備

●成績評価方法(総合) 出席点。発表。テスト。

●教科書・参考書 教科書：『言語—ことばの研究序説—』, エドワード・サピア, 岩波文庫, 1998 年; 別資料は必要に応じてコピーで配布します。

●メッセージ ノートパソコンを使用します。最初からパソコンについての特別な技能は必要ありません。一年を通してパワーポイントやホームページ作成能力を同時に養っていきます。

●連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	乾 秀行				

●授業の概要 世界にはいろんな言語が話されており、母語である日本語やヨーロッパの主要言語のみを頼りに言語の特性を論じても正しいとは限らない。またことばの変化について考える場合も同じである。本講義ではまず言語の多様性を実感し、その上で言語の類型化や言語変化について論じる。具体的には言語類型論関連の主要論文を読みながら、そこに出てくるいろいろな言語の共時的・通時的言語現象を一つ一つ吟味しながら、考察を加えることになる。なお理論研究にありがちな性急な一般化をめざすことよりも、言語現象の多様性を理解することの方がはるかに大切である。言語の類型化や言語変化の説明をする上での問題点を探ってみたい。

●授業の一般目標 1. 言語の多様性について理解を深める。 2. 言語変化について理解を深める。 3. 言語の類型化について理解を深める。

●授業の計画（全体） グループ毎に発表形式で読んでいきます。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の進め方の説明
- 第 2 回 項目 語順の類型論 1
- 第 3 回 項目 語順の類型論 2
- 第 4 回 項目 語順の類型論 3
- 第 5 回 項目 語順の類型論 4
- 第 6 回 項目 語順の類型論 5
- 第 7 回 項目 主語の諸問題 1
- 第 8 回 項目 主語の諸問題 2
- 第 9 回 項目 主語の諸問題 3
- 第 10 回 項目 主語の諸問題 4
- 第 11 回 項目 類型地理論 1
- 第 12 回 項目 類型地理論 2
- 第 13 回 項目 類型地理論 3
- 第 14 回 項目 類型地理論 4
- 第 15 回 項目 予備

●成績評価方法（総合） 出席点。発表。テスト。

●教科書・参考書 教科書：テキストをコピーで配布します。

●メッセージ ノートパソコンを使用します。最初からパソコンについての特別な技能は必要ありません。一年を通してパワーポイントやホームページ作成能力を同時に養っていきます。

●連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	平野 尊識				

- 授業の概要 前期は、日本語・英語の連体修飾構造もしくは関係節構造を統語的な観点から取り扱う。いわゆる先行詞は、関係節の中の主語、目的語、間接目的語、時間・場所・道具などを表すものなどがあるが、これらに基づき日本語と英語の類似点と相違点を明らかにする。それによって、関係節構造について、言語全般に亘る洞察への足がかりとする。／検索キーワード 連体修飾、文法関係、項
- 授業の一般目標 1. 日本語の連体修飾構造と英語の関係節構造が同一の言語現象であることを理解させる 2. それらを構造的に捉える能力 3. 類似点と相違点を形式化できるか 4. 他の言語との比較につながるか 5. これらを基に、科学的に考察する能力を養う
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：参考文献を読んで理解できること。思考・判断の観点：科学的に考察できること。問題点を正しく把握できること。関心・意欲の観点：日本語の連体修飾についてだけではなく、英語をはじめとするその他の言語の同じような構文にまで興味が広がること。態度の観点：積極的に発表し、授業に参加すること。
- 授業の計画（全体）内容から見てセメスターを次の4期に分けて進めていく。1. 連体修飾構造が意味するもの 2. 英語の連体修飾（関係）節構造を形式的に表すと 3. 両言語における類似点と相違点は 4. 連体修飾構造と世界の言語
- 成績評価方法（総合）学期末試験を中心にする。授業外レポート（2回の予定）と授業への参加状況を勘案する。
- 教科書・参考書 教科書：An introduction to Japanese linguistics, Tsujimura, Natsuko, Blackwell, 1996年
- メッセージ 予習して出席すること。講義に出て話を聞き、そこで理解できれば講義の目的は達成できたことになる。
- 連絡先・オフィスアワー e-mail address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp Office: Jinbun 617



開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	平野尊識				

- 授業の概要 後期は、連体修飾節または関係節構造について、言語横断的に考察する。この構造の理解と構成に関しては、2つのタイプが観察される。統語論タイプと統語論+語用論タイプである。英語は前者のタイプであり、日本語は後者のタイプである。これらのタイプについて具体例に基づき整理し、理解を図る。後者のタイプの関係節構造（この場合は、連体修飾節と言った方が適切である）の本質を明らかにして、その形式化を試みる。／検索キーワード 関係節、連体修飾節、VO 言語、OV 言語、統語論、語用論
- 授業の一般目標 言語現象の背後にどのような一般性、原則が潜んでいるか、それを洞察する能力と体系化する能力を養う。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： テキストを読んで、理解できること。 思考・判断の観点： 科学的に考察できること。 関心・意欲の観点： 日本語の連体修飾についてだけでなく、英語をはじめとするその他の言語の同じような構文にまで関心を広げられるか。 態度の観点： 積極的に授業に参加し、自身の見解を述べること。
- 授業の計画（全体） 授業概要で述べた項目について、理解が得られたかどうかを確認しながら、次の項目に進んでいく。講義で使う拙論を講義前に読んでおくことが前提であり、毎回の講義で内容の理解を図る。関係節構造に関する英語、日本語、その他の言語からのデータの収集と分析を行うので、演習形式を取り入れた講義も行う。
- 成績評価方法（総合） 内容についてのレポートを2回程提出してもらおう。更に学期末試験を行う。
- 教科書・参考書 教科書： 日本語の分析と言語類型, 影山太郎、岸本秀樹（編）, くろしお出版, 2004年；上の論文集の中の拙論、Relative clause formation: toward a new typology
- 連絡先・オフィスアワー e-mail address: takanori@yamaguchi-u. Office: Jinbun 617

開設科目	言語学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	金子 亨				

- 授業の概要 先住民族って何か、それはどういう生き方をしてきたか、その人たちとどうつき合っていくのかという問題について考えます。ここでは特に今日の日本国の領土内にある・あったと考えられる北方の二つの先住民族の言語について考えます。／検索キーワード 先住民族 (indigenous peoples)、少数者言語 (minority languages)、言語の構造 (language structure)、言語の維持 (language revival)
- 授業の一般目標 北方の先住民族の生活と文化をその言語を通じて理解し、この研究についての関心を育てたい。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点： 1) 先住民族・先住民族言語とは (On indigenous languages in the North) 2) アイヌ語について (On Ainu Language) 3) ニヴフ語について (On Nivkh Language) 4) 北の言語の特質 (Some Features of the languages in the North) 5) 北の全住民族の問題 (Some Issues on the Peoples in the North) 思考・判断の観点： 1) 北の先住民族とその言語について考える 2) それに基づいて何を研究するかを考える 3) それに基づいてどう行動するべきかを考える (Thinking about the peoples and their languages, let us decide what to do for them.)
- 授業の計画 (全体) 新知識が大部分であると思われるので、手ほどきと概説から始める。質問や討論を交えて、少しずつ問題を提起していきたい。従って、ゼミ形式で授業を進行させる。特に準備は求めない。しかし継続的な出席と積極的参加を求める。
- 成績評価方法 (総合) 何回か小レポートを課したい。最終的な評価方法については進行中に決めたい。
- 教科書・参考書 教科書：この問題の教科書は存在しない。／参考書：先住民族言語のために、金子 亨, 草風館, 1999 年；アイヌ語, 中川 裕, 白水社, 1994 年；先住民 アイヌ民族『太陽』特集号, 太陽, 2004 年； [www.ne.jp/asahi/kaneko-tohru/languages-nowar](http://www.ne.jp/asahi/kaneko-tohru/languages-nowar)
- メッセージ 最初の時間にいくつかのお願いと共にメッセージを送ります。(Salution and Messages will be delivered in the first class.)
- 連絡先・オフィスアワー 集中講義開催中随時
- 備考 集中授業

開設科目	言語学演習（意味と統語）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	乾 秀行				

●授業の概要 平易な文章で書かれたテキストを使って、日本語の文法の身近なテーマを取り扱う。授業は完全な学生主導の討論形式を採るので、積極的な授業参加が求められる。

●授業の一般目標 母語である日本語を題材にして、学生自身が積極的に討論を通じて、ふだん見過ごしている言語現象について考察を深める。

●授業の計画（全体） 2人一組（司会者と記録者）で担当範囲をまとめ発表し、全員でチャットを使って討論する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業内容の説明。演習担当者決定。
- 第 2 回 項目 終助詞などの文末の付加要素 2 内容 152-153
- 第 3 回 項目 複文構造の従属の度合い 1 内容 156-159
- 第 4 回 項目 複文構造の従属の度合い 2 内容 159-161
- 第 5 回 項目 引用 内容 162-163
- 第 6 回 項目 名詞修飾節（連体修飾節） 1 内容 164-166
- 第 7 回 項目 名詞修飾節（連体修飾節） 2 内容 166-169
- 第 8 回 項目 時間節 内容 170-172
- 第 9 回 項目 条件文 1 内容 173-175
- 第 10 回 項目 条件文 2 内容 175-177
- 第 11 回 項目 順接・逆接・並列：独立的な関係づけ 内容 178-182
- 第 12 回 項目 談話の分析 1 内容 183-186
- 第 13 回 項目 談話の分析 2 内容 186-188
- 第 14 回 項目 文章のまとめ 1 内容 189-192
- 第 15 回 項目 文章のまとめ 2 内容 193-195

●成績評価方法（総合） 発表。発言回数。レポート。

●教科書・参考書 教科書：『ここからはじまる日本語文法』, 森山卓郎, ひつじ書房, 2000 年

●メッセージ ノートパソコンを利用します。最初はパソコンに関する特別な技能は必要ありません。タッチタイピング技能の向上やホームページ作成能力が自然に身に付いていくと思います。2 年生向き。

●連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語学演習（意味と統語）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	乾 秀行				

●授業の概要 日本語の諸現象を取り扱ったテキストを使って、言語学の諸問題について討論します。前期よりも少し難しくなりますが、卒業論文を書く上で大切な言語学の概念や用語を理解することができるようになります。

●授業の一般目標 言語学の概念、用語に慣れる。

●授業の計画（全体） グループ毎の発表形式。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の進め方。
- 第 2 回 項目 有生性（アニマシー）
- 第 3 回 項目 ヴォイス 1
- 第 4 回 項目 ヴォイス 2
- 第 5 回 項目 ヴォイス 3
- 第 6 回 項目 ヴォイス 4
- 第 7 回 項目 エンパシー
- 第 8 回 項目 直示性（ダイクシス）
- 第 9 回 項目 移動動詞
- 第 10 回 項目 人称制限
- 第 11 回 項目 記号とは何か
- 第 12 回 項目 体系とは何か
- 第 13 回 項目 文法とは何か
- 第 14 回 項目 機能とは何か
- 第 15 回 項目 予備

●成績評価方法（総合） 発表。レポート。

●教科書・参考書 教科書：『よくわかる言語学』，定延利之，アルク，1999 年

●メッセージ ノートパソコンを使用します。パワーポイントが使えるようになります。2 年生向き。

●連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語学演習（意味と統語）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	平野 尊識				

- 授業の概要 オハイオ州立大学言語学科から出版されているテキスト、Language files を読みながら、言語の構造にアプローチする。これは、言語と言語学をより深く理解することにつながる。前期は、単語の構造、新しく語を作りだす仕組みについて学習する。／検索キーワード 語形成、接辞、母音交替、屈折と派生
- 授業の一般目標 1. 英文で書かれた言語学関係の文献を読みこなすこと。2. 説明を理解すること。3. 練習問題を自分で解く。4. 言語学の他の分野にも関心を持つ。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：言語学における形態論、語形成の分野の理解。思考・判断の観点：文に構造があるように、語にも構造があることを、テキストの説明と練習問題に取り組むことで、理解する。そのためには自分で考えることが何よりも大切である。関心・意欲の観点：形態論の学習によって、言語と言語学に関心を持つこと。態度の観点：授業に参加するということは、同時に予習をしていくということの意味する。テキストが英語で書かれているので、前期が終わるころには、英語で書いた言語学のテキスト、論文も辞書があれば読めるようになる。
- 授業の計画（全体）前期は、形態論についての知識、考え方について学習する。具体的な内容を次に示す。  
1. Words and word formation, 2. Exercises in identifying morphemes, 3. The hierarchical structure of derived words, 4. Morphological processes, 5. How to solve morphological exercises, 6. Morphology exercises
- 教科書・参考書 教科書：Language files: Materials for an introduction to language and linguistics, Dept. of Linguistics. Ohio State University, Ohio State Univ. Press., 2004 年
- 連絡先・オフィスアワー Mail address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp Office: Jinbun level 6(617)

開設科目	言語学演習（意味と統語）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	平野 尊識				

- 授業の概要 オハイオ州立大学言語学科から出版されているテキスト、Language files を読みながら、言語の構造にアプローチする。これは、言語と言語学をより深く理解することにつながる。後期は、文の構造、新しく文を作りだす仕組みについて学習する。／検索キーワード 文、階層関係、協調の原理
- 授業の一般目標 1. 英文で書かれた言語学関係の文献を読みこなすこと。2. 説明を理解すること。3. 練習問題を自分で解く。4. 言語学の他の分野にも関心を持つ。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：言語学における統語論、文の形成と理解。思考・判断の観点：文には意味を正しく伝えるための構造があることを、テキストの説明と練習問題によって理解する。内容を理解した上で、文の構造の分析へと進むことが大切。まず自分で考えること。関心・意欲の観点：統語論の学習によって、言語と言語学に関心を持つこと。態度の観点：授業に参加するということは、同時に予習をしていくということを意味する。テキストが英語で書かれているので、前期が終わるころには、英語で書いた言語学のテキスト、論文も辞書があれば読めるようになる。
- 授業の計画（全体）後期は、統語論、語用論について学習する。具体的な内容を次に示す。Chapter 6:Syntax, Chapter 7:Semantics, Chapter 8: Pragmatics. これらの中から幾つかを次に紹介する。6.3. How sentences expresses ideas? 7.3. Lexical semantics, 8.4. Rules of conversation
- 教科書・参考書 教科書：Language files: Materials for an introduction to language and linguistics, Dept. of Linguistics. Ohio State University, Ohio State Univ. Press., 2004 年
- 連絡先・オフィスアワー Mail address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp Office: Jinbun level 6(617)

開設科目	言語学演習（言語理論）（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	平野尊識				

- 授業の概要 この演習は4年生向けである。従って、主たる目的は学生の卒業論文の完成に資することである。前期は特に今までの復習、疑問点の整理に重点を置く。学生には疑問点の整理、興味を持った或いは持っている論文の検討などが要求される。
- 授業の一般目標 前期は、卒論を完成させるために、問題点を発見しそれをどのように解決していくか、その能力を養うことを目標とする。
- 授業の到達目標／ 思考・判断の観点：問題点を理論的に処理する能力 関心・意欲の観点：問題点の発見、解決に向けての積極的取り組み その他の観点：オリジナリティーが見られるか
- 授業の計画（全体） セメスターを内容に従って4期に分け、実施する。 1. 学生に疑問点、興味ある言語現象を対話形式によって提示してもらおう。 2. その現象について検討する。 3. 適切な解答を提示してもらおう。 4. それ以外の解答はないのか検討する。
- 成績評価方法（総合） 毎週の演習に基づき、平常点のみによって評価する。その際、提示された問題点は、問題とするに値するか、問題点の分析は理論的に納得できるものか、解答は言語学的に妥当なものであるか、オリジナリティーが見られるかを考慮する。
- 連絡先・オフィスアワー 人文617研究室、mail-address:takanori@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語学演習（言語理論）（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	平野尊識				
<p>●授業の概要 この演習は4年生向けである。従って、主たる目的は卒業論文の完成に資することである。後期は、問題点の発見とその解決、その繰り返しとなり、最終的に論文の完成へと導く。主体はあくまでも受講者側であることを再確認しておく。／検索キーワード 言語学、音声学、音韻論、形態論、統語論、語用論</p> <p>●授業の一般目標 前期で培った言語学的思考法、問題解決能力を基にして実際に論文を完成させる。</p> <p>●授業の到達目標／知識・理解の観点：何が問題なのかを明らかにできること 思考・判断の観点：問題点を理論的に解明する能力 関心・意欲の観点：一つのテーマを継続して取り組むこと その他の観点：オリジナリティーが認められるか</p> <p>●授業の計画（全体） セメスターを更に3期に分け、実施する。 1. 論文に値するような問題点の確認 2. 理論的解明 3. 論文化</p> <p>●成績評価方法（総合） 毎回の演習に基づき、平常点のみによって評価する。</p>					



開設科目	個別言語演習（アジア地域）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	平野尊識				

- 授業の概要 トルコ語を以下に示したテキストに基づいて学習する。トルコ語は、音韻論では典型的な母音調和を持ち、また統語的には日本語と同じ主語・目的語・動詞の語順を持つ。トルコ語を学習することは、音声学・音韻論の復習にもつながり、また SOV 語順の言語の中の共通点と微妙な相違点を観察することもできる。／検索キーワード トルコ語、母音調和、SOV 語順
- 授業の一般目標 テキストを読みながら、特定の言語の構造が理解できるようになること。日本語、英語、中国語など、既知の言語との対照的な考察。この言語の音声を聞き分け、発音できるようになる。これらを演習の目標とし、言語学的視野の拡大を図る。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 音声の理解、母音調和の理解。母音調和と格変化・活用語尾との関係の理解。 思考・判断の観点： 練習問題によって、応用力を身に付ける。そのためには、高いレベルの思考力が要求される。 関心・意欲の観点： 西洋と東洋の接点トルコ共和国、イスラム文化への興味。 態度の観点： 毎回予習してくるによって、積極的に授業に参加する。
- 授業の計画（全体） トルコ語について。母音調和。名詞の格変化。名詞の人称語尾。動詞の接尾辞。動詞の活用と人称語尾。その他。
- 成績評価方法（総合） 毎回の演習態度、レポート、試験による。
- 教科書・参考書 教科書：トルコ語文法入門, 竹内 和夫, 大学書林, 1970 年／参考書：Tuerkisch: Lehrbuch fuer Anfaenger, Spies, Otto and Belma Emircan, Julius Groos Verlag, 1981 年； Turkish, Lewi, G. L., Teach yourself books, 1977 年
- 連絡先・オフィスアワー 人文学部研究等 6 1 7 研究室 Mail Address: takanori@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	個別言語演習（その他の地域）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	乾 秀行				

●授業の概要 フィールド言語学の演習である。知らない言語を研究する場合、フィールドワークによってデータを集めなければならないことがある。言語研究におけるフィールドワークがどのように行われるかをいくつかの事例を読むことで、調査方法、データの処理方法などを学習する。

●授業の一般目標 1. 状況判断能力を養う。2. 言語学の総合的な知識を身につける。3. エディタを使いこなす。4. TeX の技能を身につける。

●授業の計画（全体） グループ毎に発表。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の進め方
- 第 2 回 項目 概説 内容 文化と言語
- 第 3 回 項目 概説 内容 言語の働き
- 第 4 回 項目 概説 内容 野外観察
- 第 5 回 項目 概説 内容 異文化理解
- 第 6 回 項目 概説 内容 言語音の調査方法
- 第 7 回 項目 概説 内容 音声学 1
- 第 8 回 項目 概説 内容 音声学 2
- 第 9 回 項目 概説 内容 音韻論
- 第 10 回 項目 個別事例 内容 フィールド・ノート 1
- 第 11 回 項目 個別事例 内容 フィールド・ノート 2
- 第 12 回 項目 個別事例 内容 フィールド・ノート 3
- 第 13 回 項目 個別事例 内容 フィールド・ノート 4
- 第 14 回 項目 個別事例 内容 フィールド・ノート 5
- 第 15 回 項目 予備

●成績評価方法（総合） 出席点。発表。レポート。

●教科書・参考書 教科書：『言語人類学を学ぶ人のために』，宮岡伯人編，世界思想社，1996 年； 適宜指示する。

●メッセージ ノートパソコンを利用する。

●連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	個別言語演習（その他の地域）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	乾 秀行				

●授業の概要 フィールド言語学の演習である。実践練習用として、エチオピアのオモ・クシ系の言語のテープを聞きながら、音声、語彙、文法の記述方法を考える。またデータ処理の方法として、録音テープから必要な音声データを加工・編集する練習をしたり、音声分析装置 (Multi-Speech) を使って分析を試みたりしてみる。さらにデータベースソフトを使ってデータの整理を試みる。

●授業の一般目標 言語データを具体的にどのように取り扱うかについて学習する。

●授業の計画（全体） 1. 音声、語彙、文法の記述練習をする。 2. 音声データを音声分析装置で分析する。 3. データベースを作る。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 授業の進め方
- 第 2 回 項目 音声聞き取り練習 1
- 第 3 回 項目 音声聞き取り練習 2
- 第 4 回 項目 語彙書き取り練習 1
- 第 5 回 項目 語彙書き取り練習 2
- 第 6 回 項目 語彙書き取り練習 3
- 第 7 回 項目 語彙書き取り練習 4
- 第 8 回 項目 形態素抽出練習 1
- 第 9 回 項目 形態素抽出練習 2
- 第 10 回 項目 形態素抽出練習 3
- 第 11 回 項目 音声分析 1
- 第 12 回 項目 音声分析 2
- 第 13 回 項目 音声分析 3
- 第 14 回 項目 データベース作成 1
- 第 15 回 項目 データベース作成 2

●成績評価方法（総合） 出席点。課題。レポート。

●メッセージ ノートパソコンを利用する。

●連絡先・オフィスアワー f1566@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	言語情報処理学概論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	PHILLIPSJOHNDAVID				

- 授業の概要 This course is an “Introduction to Computational Linguistics”. How can a computer be made to use a human language? There are two aspects: 1. how can a human language be exhaustively described in a form which the computer can use; 2. how can the computer be programmed to use the description? This course will concentrate on the first question.
- 授業の一般目標 An understanding of the basic problems and techniques of formal linguistics presented in terms of language description for computational use.
- 授業の計画（全体） After a survey of the field and its history, we will look at the basics of grammatical description. Programme: What is Computational Linguistics? History; Basic linguistics; Description of grammar; Unification grammar.
- 成績評価方法（総合） Written examination
- 教科書・参考書 教科書: Sizen gengo syori no kiso, Kenzi Yosimura, Saiensusya, 2000年; Gengo zyouhou syori, Makoto Nagao, Iwanami Syoten

開設科目	言語情報処理学概論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	PHILLIPSJOHNDAVID				

- 授業の概要 This course is an Introduction to Computational Linguistics. How can a computer be made to use a human language? There are two aspects: how can a human language be exhaustively described in a form which the computer can use, and how can the computer be programmed to use the description? This course will concentrate on the first question.
- 授業の一般目標 An understanding of the basic problems and techniques of formal linguistics presented in terms of language description for computational use.
- 授業の計画（全体） We will look at how grammar and meaning can be described and represented, and at why and how the description must extend beyond basic syntax and semantics. Content: semantic representation, inference, discourse representation, knowledge representation. If there is time, we will look at probabilistic language processing.
- 成績評価方法（総合） Written examination
- 教科書・参考書 教科書: Sizen gengo syori no kiso, Kenzi Yosimura, Saiensusya, 2000年; Gengo zyouhou syori, Makoto Nagao, Iwanami Syoten

開設科目	言語情報処理学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	つる岡昭夫				

- 授業の概要 言語情報処理の歴史と、これまでに明らかになったことを知り、次いで現状での問題点、これからの課題について学ぶ。／検索キーワード 情報処理 日本語 大量言語調査 語彙
- 授業の一般目標 言語情報処理の現状と今後について学ぶ。またこれまでの大量言語調査の結果明らかになった日本語の特徴を今後の自動処理に生かすことを研究する。
- 授業の計画（全体） 言語情報処理の理論と歴史 言語情報処理の結果明らかになった日本語の特徴。前期は語彙（自立語）について。
- 成績評価方法（総合） 定期期末試験による。第2回目以降毎回出席を取り、8回以上の者のみ受験をさせる。試験はノート、プリント等の持参を認める。
- 教科書・参考書 教科書：なし。必要に応じてプリントを配付する。
- 連絡先・オフィスアワー 電話（内線）5226 研究室人文404 オフィスアワー 木曜12.50～14.20

開設科目	言語情報処理学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	つる岡昭夫				

- 授業の概要 言語情報処理の理論と歴史。これまでに明らかになったことを知り、ついで現状での問題点、今後の課題について学ぶ。／検索キーワード 言語（日本語） 大量言語調査 助詞・助動詞
- 授業の一般目標 言語情報処理の現状と今後について学ぶ。またこれまでの大量調査の結果明らかになった日本語の特徴を今後の自動処理に生かすことを研究する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点： 言語情報処理の理論と歴史。
- 授業の計画（全体） 言語情報処理に理論と歴史。言語情報処理の結果明らかになった日本語の特徴。後期は助詞・助動詞について。
- 成績評価方法（総合） 定期期末試験による。第2回目以降毎時出席を取り、8回以上出席の者のみ受験をさせる。試験はノート、プリント等の持込み可。
- 教科書・参考書 教科書： なし。必要に応じてプリントを配付する
- 連絡先・オフィスアワー 電話（内線）5 2 2 6 研究室人文404 オフィスアワー 木曜12・50～14.20

開設科目	言語情報処理学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	PHILLIPSJOHNDAVID				

- 授業の概要** This course is an Introduction to Formal Semantics. What aspects of the meaning of natural language utterances are important in computational applications? How can meaning be represented in a way that is suitable for manipulation by computer and for interfacing to information stored in a computer?
- 授業の一般目標** An understanding of the basic problems and techniques of formal semantics, presented in terms of language description for computational use.
- 授業の計画（全体）** In this first term, the course will survey the field, develop a style of representation that seems adequate for most applications, and look briefly at how representations can be produced automatically from natural language input and then used to get information from databases.
- 成績評価方法（総合）** Written examination
- 教科書・参考書** 教科書：吉村賢治（著） 「自然言語処理の基礎」 サイエンス社 2000年／参考書：自然言語処理の基礎, 吉村賢治, サイエンス社, 2000年； 必要に応じてプリントを配布する。
- メッセージ** 授業では英語をよく使う。



開設科目	言語情報処理学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	PHILLIPSJOHNDAVID				

- 授業の概要** This continues last term's course on Semantics for Computational Linguistics What aspects of the meaning of natural language utterances are important in computational applications? How can meaning be represented in a way that is suitable for manipulation by computer and for interfacing to information stored in a computer?
- 授業の一般目標** An understanding of the basic problems and techniques of formal semantics, presented in terms of language description for computational use.
- 授業の計画（全体）** This second term of the course will concentrate on more detailed analyses of particular areas of meaning, including tense, quantification, word meaning, and discourse coherence.
- 成績評価方法（総合）** Written examination
- 教科書・参考書** 教科書：吉村賢治（著） 「自然言語処理の基礎」 サイエンス社 2000年／参考書：自然言語処理の基礎, 吉村賢治, サイエンス社, 2000年
- メッセージ** 授業では英語をよく使う。

開設科目	言語情報処理学特殊講義	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	江川 清				

- 授業の概要 ・言語情報処理の原理、各種の調査、およびそれらの分析結果について学ぶ。 ・詳しい内容については、受講者募集時、および開講時に発表する。
- 授業の一般目標 ・言語の統計処理についての理解を確実にする。 ・言語情報処理の現状と将来について深く考え、理解する。
- 授業の計画（全体） ・初日 オリエンテーション、言語に関する話し ・2日目 統計処理について ・3日目 社会言語学的アプローチと日本語 ・4日目 総括、テスト
- 成績評価方法（総合） ・随時小テストを行う ・随時宿題を課す ・最終回にテストを行う 成績はそれらを総合して出す
- 教科書・参考書 教科書：随時プリントを配布する
- 連絡先・オフィスアワー 世話教員 鶴岡昭夫
- 備考 集中授業

開設科目	言語情報処理学演習(2・3年生)	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	つる岡昭夫				

- 授業の概要 日本語の言語をコンピュータに入力して、さまざまな研究を行う。入力ソフトは EXCELL を使う。また、調査単位は  $\beta$  単位とする。調査単位は  $\beta$  単位とする。／検索キーワード 語彙 総索引  $\beta$  単位
- 授業の一般目標 EXCELL で日本語を入力する。語彙をカウントする。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：日本語の語彙。
- 授業の計画(全体) まず、 $\beta$  単位の実験をする。ついで EXCELL を使って日本語を入力する。それを元にして語彙索引および語意表を作成する。日本語のテキストデータは毎時間貸与する(毎回回収)。
- 成績評価方法(総合) レポートおよび出席点。
- 教科書・参考書 教科書：なし。必要プリント、テキストデータは配布する。
- メッセージ 初回にフロッピーデスク持参のこと。
- 連絡先・オフィスアワー 電話(内線) 5226 研究室人文404 オフィスアワー木曜12.50～14.50

開設科目	言語情報処理学演習（2・3年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	つる岡昭夫				

- 授業の概要 日本語の言語データをコンピュータに入力し、さまざまな研究を行う。入力ソフトはE X C E Lを使う。また、調査単位にはβ単位を用いる。／検索キーワード 語彙 総索引 β単位
- 授業の一般目標 E X C E Lで日本語のテキストデータを入力する。調査単位はβ単位とする。日本語の語彙調査および語彙索引を作成する。
- 授業の到達目標／知識・理解の観点：β単位の理解。
- 授業の計画（全体） まず調査単位のβ単位について学び、実験をする。その後E X C E Lを使って日本語を入力する。語彙索引を作る。また、そのデータによって語彙調査を行う。日本語のデータテキストは毎時間貸与する（毎回回収する）。
- 成績評価方法（総合） レポートによる。
- 教科書・参考書 教科書：なし。必要プリント、テキストデータは配布する。
- メッセージ 初回にフロッピーディスク持参のこと。
- 連絡先・オフィスアワー 電話（内線）5226 研究室人文404 オフィスアワー木曜12.50～14.20

開設科目	言語情報処理学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教員	つる岡昭夫				

- 授業の概要 言語情報処理用語の研究をする。／検索キーワード 言語情報処理用語
- 授業の一般目標 言語情報処理の用語を研究し、記述する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点：言語情報処理用語について 技能・表現の観点：コンピュータの利用技術。
- 授業の計画（全体） 言語情報処理用語の収集、検討、記述を行う。
- 成績評価方法（総合） レポート提出。
- 教科書・参考書 教科書：なし。
- 連絡先・オフィスアワー 電話（内線）5226 研究室人文404 オフィスアワー木曜12.50～14.20

開設科目	言語情報処理学演習（4年生）	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教員	つる岡昭夫				

- 授業の概要 言語情報処理用語の研究をする。／検索キーワード 言語情報処理用語
- 授業の一般目標 言語情報処理用語を研究し、記述する。
- 授業の到達目標／ 知識・理解の観点：言語情報処理用語について。 技能・表現の観点：コンピュータの利用技術。
- 授業の計画（全体） 言語情報処理用語の収集、検討、記述。
- 成績評価方法（総合） レポート提出。
- 教科書・参考書 教科書：なし
- 連絡先・オフィスアワー 電話（内線）5226 研究室人文404 オフィスアワー 木曜12.50～14.20

開設科目	言語情報処理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	PHILLIPSJOHNDAVID				

- 授業の概要** Prolog is a largely declarative programming language based on formal logic. Programming consists of entering data as logical permisses;running the program consists of asking Prolog whether a statement can be proven given the premisses .Because of its basis in logic, Prolog is particularly suitable for work in natural language. First term-basic Prolog, an introduction for beginners. Second term-natural language programming in Prolog, a continuation of the first term's work.
- 授業の一般目標** プロログ、プログラミング、自然言語処理の基礎から応用までを学ぶ。
- 授業の計画（全体）** Prolog is a largely declarative programming language based on formal logic. Programming consists of entering data as logical permisses;running the program consists of asking Prolog whether a statement can be proven given the premisses .Because of its basis in logic, Prolog is particularly suitable for work in natural language. First term-basic Prolog, an introduction for beginners. Second term-natural language programming in Prolog, a continuation of the first term's work.
- 成績評価方法（総合）** 一週間おきに実施するプログラミングの宿題で判定する。
- 教科書・参考書** 教科書：岡田朋子（著） 「Introduction to Prolog - Prolog 入門」（授業で配布します。）／参考書：松田紀之（著） 「PROLOGを楽しむ」 オーム社 平成5年 中島英之・上田和紀（著） 「楽しいプログラミング II」 岩波新書 1992 古川康一（著） 「Prolog 入門」 オーム社 1986 黒川利明（著） 「Prolog のソフトウェア作法」 岩波新書 1989
- メッセージ** Assessment will be by four programming assignments to be handed in during each term. 授業は殆ど英語で行います。

開設科目	言語情報処理学演習	区分	演習	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	PHILLIPSJOHNDAVID				

- 授業の概要** Prolog is a largely declarative programming language based on formal logic. Programming consists of entering data as logical permisses;running the program consists of asking Prolog whether a statement can be proven given the premisses .Because of its basis in logic, Prolog is particularly suitable for work in natural language. First term-basic Prolog, an introduction for beginners. Second term-natural language programming in Prolog, a continuation of the first term's work.
- 授業の一般目標** プロログ、プログラミング、自然言語処理の基礎から応用までを学ぶ。
- 授業の計画（全体）** Prolog is a largely declarative programming language based on formal logic. Programming consists of entering data as logical permisses;running the program consists of asking Prolog whether a statement can be proven given the premisses .Because of its basis in logic, Prolog is particularly suitable for work in natural language. First term-basic Prolog, an introduction for beginners. Second term-natural language programming in Prolog, a continuation of the first term's work.
- 成績評価方法（総合）** 一週間おきに実施するプログラミングの宿題で判定する。
- 教科書・参考書** 教科書：岡田朋子（著） 「Introduction to Prolog - Prolog 入門」（授業で配布します。）／参考書：松田紀之（著） 「PROLOGを楽しむ」 オーム社 平成5年 中島英之・上田和紀（著） 「楽しいプログラミング II」 岩波新書 1992 古川康一（著） 「Prolog 入門」 オーム社 1986 黒川利明（著） 「Prolog のソフトウェア作法」 岩波新書 1989
- メッセージ** Assessment will be by four programming assignments to be handed in during each term. 授業は殆ど英語で行います。



# 学部共通

開設科目	法学概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	道廣 泰倫				

●授業の概要 まず、法とは何であるかという法の基礎理論を学び、次いで法体系の各法である憲法、行政法、刑法、訴訟法、民法、商法、労働法、社会保障法および国際法を概論的に学ぶ。

●授業の一般目標 学生諸君が、一般社会人として必要な法的知識と法的なものの考え方を身につけて、法的に対応できる社会人・職業人となることを目標とする。

●授業の計画（全体） 授業中にて、説明する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 法と他の社会規範との比較
- 第 2 回 項目 法による社会秩序の維持と正義の実現
- 第 3 回 項目 権利と義務から成る法律関係
- 第 4 回 項目 公法、私法および社会法による法の分類
- 第 5 回 項目 憲法
- 第 6 回 項目 行政法
- 第 7 回 項目 刑法
- 第 8 回 項目 訴訟法
- 第 9 回 項目 民法
- 第 10 回 項目 商法
- 第 11 回 項目 労働法
- 第 12 回 項目 社会保障法
- 第 13 回 項目 国際法
- 第 14 回 項目 「ある」「言う」の現在直説法疑問代名詞及び不定代名詞
- 第 15 回 項目 前期末試験

●成績評価方法（総合） 試験の成績に出席を加味する。（全授業の3分の2以上の出席を要する。）

●教科書・参考書 教科書：教科書名、現代法学（第2版）。著者名、道廣泰倫。出版社、法律文化社。

開設科目	現代法（国際法を含む。）	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	道廣 泰倫				

●授業の概要 法は古代法から中世法、近代法および現代法へと発展してきているので、まず古代法、中世法および近代法の特徴について学び、次いで、とくに近代法との関係で、現代法の特徴を各法の基本原理をとおして学ぶ。

●授業の一般目標 近代法の体系は私法と公法から成っていたが、現代法の体系は、さらに社会法が付加されている。なぜそうなったのかを理解することを目標とする。

●授業の計画（全体） 授業中にて説明する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 古代法の特徴

第 2 回 項目 中世法の特徴

第 3 回 項目 近代法の特徴

第 4 回 項目 日本国憲法の基本原理

第 5 回 項目 行政法の基本原理

第 6 回 項目 刑法の基本原理

第 7 回 項目 財産法の基本原理

第 8 回 項目 家族法の基本原理

第 9 回 項目 商行為法の基本原理

第 10 回 項目 会社法の基本原理

第 11 回 項目 社会保障法の基本>原理

第 12 回 項目 訴訟法の基本原理

第 13 回 項目 国際法の基本原理

第 14 回 項目 「ある」「言う」の現在直説法疑問代名詞及び不定代名詞

第 15 回 項目 前期末試験

●成績評価方法（総合） 試験の成績に出席を加味する。（全授業の3分の2以上の出席を要する。）

●教科書・参考書 教科書：教科書名、現代法学（第2版）。著者名、道廣泰倫。出版社、法律文化社。

開設科目	人文地理学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	川村 博忠				

●授業の概要 16世紀中頃日本人がはじめて西洋人と接触して以来、長い鎖国の時代を経て、19世紀後半に門戸を開くまで約300年間における日本人の海外知識の進展過程を世界地理書の著述および世界地図の刊行などを主軸にして考える。／検索キーワード 鎖国 坤輿万国全図 新井白石 山村戈助 高橋景保

●授業の一般目標 鎖国という情報の閉ざされた環境のもと、ときには封建社会の迫害を受けながらも世界知識の摂取に尽力して近世における世界地理学（興地学）の発展に寄与した近世日本人の知識潮流の系列を理解したい。

●授業の計画（全体） 授業中において説明する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 近世以前日本人の世界観
- 第 2 回 項目 三国世界観からの脱却
- 第 3 回 項目 朱印船時代の海外知識
- 第 4 回 項目 長崎で萌芽した續地理学
- 第 5 回 項目 新井白石の世界地理研究
- 第 6 回 項目 漢訳西洋知識の受容
- 第 7 回 項目 経世論の北方への関心の高まり
- 第 8 回 項目 蘭学の興隆と新しい世界観の勃興
- 第 9 回 項目 地動説の登場
- 第 10 回 項目 世界地誌と地図の飛躍的進展
- 第 11 回 項目 蘭学の公学化と幕府の思想統制
- 第 12 回 項目 洋学への転換と方図の出現
- 第 13 回 項目 幕末遣外使節の西洋体験
- 第 14 回 項目 東洋系世界図の変容と通俗版世界図の流布
- 第 15 回 項目 明治啓蒙期における地理学

●成績評価方法（総合） 期末試験と出席状況によって評価する。出席は特に重視する。

●教科書・参考書 教科書：近世日本の世界像, 川村 博忠, ぺりかん社, 2003 年；教科書名、近世日本の世界像、川村博忠著。ぺりかん社。／参考書：参考書に関しては、授業中紹介する。

●メッセージ 受講中は私語を慎んで欲しい。受講にはできるだけ「世界地図」を持参されたい。

開設科目	自然地理学	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	貞方 昇				

●授業の概要 日本列島の現景観が、いかに人間の営みと密接に結びついて作られてきたかを理解することを目指す。すなわち、日本人が縄文時代以来、古代、中世などの歴史時代を経て今日に至るまで、自然の諸条件をどのように利用して、私たちが今日見るような日本の土地 景観を作り上げてきたかを学ぶ。  
／検索キーワード 日本列島、自然環境、土地環境、景観

●授業の一般目標 日本列島の現景観が、以下に人間の営みとともに歴史的に作られてきたかを理解する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 はじめに：自然 と土地環境

第 2 回 項目 I. 日本列島の 土地環境基盤と 人間生活への意義 1. 島孤としての特徴（日本列島の自然条件 1）

第 3 回 項目 2. 地球環境 変動のもとでの 日本列島 （日本列島の自 然条件 2）

第 4 回 項目 II. 新石器時代の 日本列島と人 間生活 1. 縄文期遺 跡立地と土地環 境

第 5 回 項目 2. 全国各地 の水田遺構と土 地環境

第 6 回 項目 III. 古代の土地 環境利用とその 変貌 1. 古墳群の 立地と土地環境 の変化

第 7 回 項目 2. 条里制土 地割と土地環境 変化 3. ため池と 環境利用

第 8 回 項目 IV. 中世の土地 環境利用とその 変貌 1. 辺境の開 墾と土地環境変 化

第 9 回 項目 2. 戦国大名 の土地開発と環 境変化

第 10 回 項目 V. 近世の土地 環境利用とその 変貌 1. 大規模河 川改修と土地環 境変化

第 11 回 項目 2. 新田開発 の推移と土地環 境変化

第 12 回 項目 3. 鉱物採取 と土地環境変化

第 13 回 項目 VI. 近・現代の 土地環境利用と その変貌 1. 大規模農 地・宅地造成と 土地環境変化  
2. 大規模土 石（砂利・陶 土）採取と土地 環境変化

第 14 回 項目 3. 掘り込み 式港湾と土地環 境変化 4. 大規模地 形改変の量的評 価と土地環境変 貌の意義

第 15 回 項目 まとめ：日本列 島の土地環境と は

●成績評価方法（総合） 授業時の課題、地図作業、期末試験をあわせて評価する。

●教科書・参考書 教科書： 授業時にプリント・地図類を配付する。／ 参考書： 土地に刻まれた歴史, 古島敏雄, 岩波書店, 1999 年； 古代の環境と考古学, 日下雅義編, 古今書院, 1995 年； 歴史地理調査ハンドブック, 有蘭正一郎他, 古今書院, 2001 年； 地形環境と歴史景観, 日下雅義編, 古今書院, 2004 年； 中国地方における鉄穴流しによる地形環境変貌, 貞方 昇, 溪水社, 1996 年

●連絡先・オフィスアワー sadakata@yamaguchi-u.ac.jp、月曜日 12:00～13:00

開設科目	地誌	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	藤井 宏志				
<p>●授業の概要 国際化の進んだ現在、日本は世界中の国々と国際関係をもち、日常的に交流するようになった。偏見なしに豊かな交流を行うには、これらの国々の自然、政治、経済、文化、社会など総合地誌として正確な理解が必要である。ここでは、正確な情報の得にくい途上国の地誌を中心に学ぶ。／検索キーワード 総合地誌、地誌情報、国際交流、途上国</p> <p>●授業の一般目標 途上国の地誌を学び、正確な情報を理解し、わが国や私達の果たすべき役割を考察する。</p> <p>●授業の到達目標／知識・理解の観点：各国の地誌情報を分析し、理解する。思考・判断の観点：各国の現状と将来について論理的に説明できる。関心・意欲の観点：途上国について関心を広げ、問題意識を高めることができる。態度の観点：日常の情報の中で途上国を主体的に考えることができる。</p> <p>●授業の計画（全体） 外国地誌の学び方の難しさをパラオ共和国を例にとり学ぶ。その後、アジアの国々、ラテンアメリカの国々、アフリカの国々について学ぶ。</p> <p>●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 地誌入門（1） 内容 外国を理解することの難しさ 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント</p> <p>第 2 回 項目 地誌入門（2） 内容 パラオ共和国を例とする地誌の学び方（1） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント</p> <p>第 3 回 項目 地誌入門（3） 内容 パラオ共和国を例とする地誌の学び方（2） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント</p> <p>第 4 回 項目 アジア 内容 アジアの地誌の特質 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント</p> <p>第 5 回 項目 フィリピン（1） 内容 フィリピンの地誌（1） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント</p> <p>第 6 回 項目 フィリピン（2） 内容 フィリピンの地誌（2） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント</p> <p>第 7 回 項目 タイ 内容 タイの地誌 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント</p> <p>第 8 回 項目 ラテンアメリカ 内容 ラテンアメリカの特質 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント</p> <p>第 9 回 項目 日本人移民 内容 ラテンアメリカの日本人移民（1） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント</p> <p>第 10 回 項目 日本人移民 内容 ラテンアメリカの日本人移民（2） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント</p> <p>第 11 回 項目 パラグアイ（1） 内容 パラグアイの地誌（1） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント</p> <p>第 12 回 項目 パラグアイ（2） 内容 パラグアイの地誌（2） 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント</p> <p>第 13 回 項目 アフリカ 内容 アフリカの地誌の特質 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント</p> <p>第 14 回 項目 エジプト 内容 エジプトの地誌 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント</p> <p>第 15 回 項目 コートジボワール 内容 コートジボワールの地誌 授業外指示 各授業で指示 授業記録 配布プリント</p> <p>●成績評価方法（総合） 出席状況を重視する。</p> <p>●教科書・参考書 教科書： 毎時間プリントを配布。／ 参考書： 授業中に指示します。</p> <p>●メッセージ 各国の人々と各国の地球上の位置が頭に浮かぶように</p> <p>●連絡先・オフィスアワー 082-878-8112</p>					

開設科目	政治史	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	瀬瀬厚				

●授業の概要 主に1931年の満州事変から1945年の日本敗戦までの15年間にわたり続けられたアジア太平洋戦争史を中心にして講義を勧める。／検索キーワード 戦争責任 過去の克服 歴史とは何か

●授業の一般目標 政治史だけでなく、社会史・文化史などにも触れながら、この時代を対象とする歴史認識をどのように形成していくかを考える。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義の概要説明
- 第 2 回 項目 満州事変への道（1）
- 第 3 回 項目 満州事変への道（2）
- 第 4 回 項目 日中戦争の背景（1）
- 第 5 回 項目 日中戦争の背景（2）
- 第 6 回 項目 軍部政権と政党政治（1）
- 第 7 回 項目 軍部政権と政党政治（2）
- 第 8 回 項目 国家総動員体制の確立
- 第 9 回 項目 大政翼賛会の成立
- 第 10 回 項目 日米英戦争の原因（1）
- 第 11 回 項目 日米英戦争の原因（2）
- 第 12 回 項目 戦局の展開と帰結
- 第 13 回 項目 日本の敗戦過程（1）
- 第 14 回 項目 日本の敗戦過程（2）
- 第 15 回 項目 全体の総括

●成績評価方法（総合） 適時レポートの提出を求める。最終試験は論述試験を課す。

●教科書・参考書 教科書：侵略戦争，瀬瀬厚，筑摩書房，1999年；日本陸軍の総力戦政策，瀬瀬厚，大学教育出版，1999年；近代日本の政軍関係，瀬瀬厚，大学教育社，1987年／参考書：日本近代史概説，瀬瀬厚，弘文堂，2003年；近代日本政軍関係史の研究，瀬瀬厚，岩波書店，2005年

●メッセージ 歴史学アプローチからする現代の読み解きを

●連絡先・オフィスアワー koketsu@yamaguchi-u.ac.jp Office Hour Thu.1:00-2:30 TEL/933-5278

開設科目	ギリシア語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	筒井 明子				

●授業の概要 言葉は人間の思考の発露です。「That is Greek to me」と語らえる様に、ギリシア語は先ず音読、そして字体の特異さの為にしょっぱなはとっつきにくいと思います。前半は音読できて、ギリシア語の文章を書く訓練を繰り返します。この反復作業によって、文法力が増加します。学生諸君は、一つだけに疑問をしばって、毎回の授業に臨んでください。「一つ一つ、確実に」をモットーに、この作業を一年間を通じてやり遂げて後には、「ギリシア語なんてこんなものか」と思える様になって欲しいと思いますし、その様に指導して行くつもりです。／検索キーワード 西洋思想の源流

●授業の一般目標 前期 ギリシア語初歩の基礎的な知識を獲得する。後期 ギリシア語の基礎的な文法力を応用できるようにする。

●授業の計画(全体) 前期 ギリシア語の音読、筆記を踏まえて、初級の知識を身につける。最初の内には作文も課す。 授業の進度は適宜変更する。後期 前半期での基礎的知識の応用力をつけると共に、構文把握力を身につける。 授業の内容、進み方は適宜変更する。

●授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 字母・発音・音韻の分類・氣息記号 内容 後期シラバスについては前期授業時にお知らせしまくBR>す。
- 第 2 回 項目 字母・発音・音韻の分類・氣息記号
- 第 3 回 項目 音節・アクセント・句読点・語末音
- 第 4 回 項目 音節・アクセント・句読点・語末音
- 第 5 回 項目 動詞変化・現在直説法・能動相 内容 作文もする
- 第 6 回 項目 名詞変化・第一変化(A-変化(1)) 内容 作文もする
- 第 7 回 項目 名詞変化(A-変化(2)) 内容 作文もする
- 第 8 回 項目 未来直説法・能動相A-変化(3) 内容 作文もする
- 第 9 回 項目 A-変化(4) 未完了過去・直説法・能動相 内容 作文もする
- 第 10 回 項目 名詞第二変化形容詞 内容 作文もする
- 第 11 回 項目 前置詞 アオリスト直説法・能動相 内容 作文もする
- 第 12 回 項目 現在完了及び過去完了・直説法・能動相指示代名詞及び強意代名詞 内容 作文もする
- 第 13 回 項目 直説法・能動相・本時称の人称語尾直説法・能動相・副時称の人称語尾
- 第 14 回 項目 「ある」「言う」の現在直説法 疑問代名詞及び不定代名詞
- 第 15 回 項目 中間試験
- 第 16 回 項目 現在・未来過去及び未来直説法・中動相
- 第 17 回 項目 アオリスト、現在完了・過去完了及び未来完了のの通訳法中動相再帰代名詞、相互代名詞及び所有代名詞
- 第 18 回 項目 第2アオリスト直接法能動相及び中動相<BR>直接受動相・同士の主要部分
- 第 19 回 項目 第3変化の名詞一(1) 能相欠動詞、約音動詞(1)
- 第 20 回 項目 第3変化の名詞(2) 約音動詞(2)
- 第 21 回 項目 黙音幹動詞の完了諸形・直接法中受動相<BR>第3変化の形容詞(1)
- 第 22 回 項目 流音幹動詞のアオリスト、未来現在完了、過去完了の直説法能動及び中動相<BR>第3変化の名詞(3)
- 第 23 回 項目 接続法能動相接続中動及び受動相
- 第 24 回 項目 母音交替条件文
- 第 25 回 項目 約音動詞の接続法不定法(1)
- 第 26 回 項目 不定法(2) 第3変化の名詞(4)
- 第 27 回 項目 関係代名詞希球法能動相



第 28 回 項目 希球法中動及び受動相第 3 変化の形容詞（2）

第 29 回 項目 約音動詞の希球法第 3 変化の名詞（5）

第 30 回 項目 年度末試験

- 成績評価方法（総合）年間を通して、ギリシア語の基礎的文法力を理解できているか。年間を通して、ギリシア語の基礎的構文把握力が身についているか。作文、訳、試験、テキストの練習問題を訳させ、最終試験の結果を見て判断する。主として平素の努力を重視する。
- 教科書・参考書 教科書：ギリシア語入門（改訂版），田中美知太郎、松平千秋（共著），岩波書店／参考書：A Greek-English Lexion Oxtord in teremediate, , ; 参考書は希望者のみ

開設科目	ラテン語	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	筒井 明子				

●授業の概要 言葉は人間の思考の発露です。pessimism,optimism の語源はラテン語の p pessimus,optimus です。この様にラテン語は近代後の様々な言語に多大な影響をあたえてきた語学です。西洋思想に関心がある人は是非とも受講してください。テキストは様々な原文が使われており、最初の内は文体の違いに戸惑うかもしれませんが、逆に言えば、このテキストをこなすと、どんな原文にも応用が効くようになっていきます。一年間継続して学習した後にはラテン語の中、上級者程度の力がつきますし、その様に指導して行くつもりです。

●授業の一般目標 前期 ラテン語の中級程度の文法力を身につける。後期 普通のラテン語が難なく読め、ラテン語が様々な語学に与えている影響を理解する。中・上級者向けの構文把握力を身につける。

●授業の計画(全体) 前期 ラテン語の基礎的文法力を身につける。授業の進度は適宜変更する。後期 ラテン語の構文を理解できるようにする。応用問題を適宜レポートして課す。授業の進度は適宜変更する。

●授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 字母・発音・音節・アクセント
- 第 2 回 項目 字母・発音・音節・アクセント
- 第 3 回 項目 動詞変化(第一、第二変化動詞)
- 第 4 回 項目 名詞変化(第一変化名詞)
- 第 5 回 項目 名詞変化(第二変化名詞) 形容詞変化
- 第 6 回 項目 前置詞動詞変化(第 3、第 4 変化動詞)
- 第 7 回 項目 人称代名詞未完了過去・直説法・能動相
- 第 8 回 項目 名詞変化(第 3 変化名詞(1)) 未来・直説法・能動相
- 第 9 回 項目 指示代名詞第 3 変化・形容詞変化
- 第 10 回 項目 完了・直説法・能動相名詞変化(第 3 変化名詞(2))
- 第 11 回 項目 関係代名詞過去完了・未来完了・直説法
- 第 12 回 項目 名詞変化(第 3 変化名詞(3)) 疑問文
- 第 13 回 項目 命令法・能動相第 3 変化名詞(4))
- 第 14 回 項目 受動相・直接法・現在・未来完了 過去完了
- 第 15 回 項目 中間試験
- 第 16 回 項目 副詞受動相・完了系時称
- 第 17 回 項目 形容詞と副詞の比較級と最上級
- 第 18 回 項目 名詞変化・第 4 変化名詞形容詞・副詞の不規則比較級・最上級
- 第 19 回 項目 命令法・受動相名詞変化・第 5 名詞変化
- 第 20 回 項目 分詞不規則動詞
- 第 21 回 項目 数詞絶対的奪格
- 第 22 回 項目 不定法(1) 不定法(2)
- 第 23 回 項目 接続法・現在非人格動詞及び非人称用表現
- 第 24 回 項目 接続詞の形容詞不定代名詞接続法・未完了過去 Supinum
- 第 25 回 項目 Gerundium Gerundivum
- 第 26 回 項目 接続法・完了・過去完了ギリシア系名詞の変化
- 第 27 回 項目 接続詞と従属文名詞的な目的文
- 第 28 回 項目 副詞的な目的文傾向・結果文
- 第 29 回 項目 間接疑問文比較文
- 第 30 回 項目 年度末試験

- 成績評価方法 (総合) 前期 ラテン語の基礎的变化を身につけて、問題を訳させる。主として平素の努力を重視する。後期 テキストの練習問題を音読して、訳出する。後期末に最終試験を行う。主として平素の努力を重視する。
- 教科書・参考書 教科書：新ラテン文法, 松平千秋・国松吉之助 (共著), 東洋出版 / 参考書：羅和辞典 田中秀夫 (著) 研究社 (希望者のみ)

開設科目	書道	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	佐貫 陸子				

●授業の概要 本授業では実用書から芸術書まで応じられる書技を演習し、審美眼を養い、素質教育（一人一人の素質を高める）の有効な一手段として活用出来るようにする。／検索キーワード 書く。

●授業の一般目標 漢字五体（篆書・隸書・楷書・行書・草書）と仮名の美を学ぶ。特に楷書・行書は指導者レベルまで書写能力を高める。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：書体の変遷と筆法を理解する。思考・判断の観点：文字をデフォルメし、運筆のリズムを工夫して自分なりの表現を試みる。関心・意欲の観点：1年もしくは半年、1つの古典を追求してみる。態度の観点：ふだんから創作に役立つ詩文（詩、短歌、俳句、小説、歌詞）を理解しておく。技能・表現の観点：行書での部首の書き方を修得し、手本書きに応用する。

●授業の計画（全体）前期は漢字五体の基本を中心に実力を養い、後期は仮名の基本、漢字、仮名交じり書を学び、指導者として、自分で手本が書けるように技能を身につける。後期15週については前期授業中に説明する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第1回 項目 文房四宝、行書の基本事項 内容 後期シラバスについては前期授業時にお知らせします。

第2回 項目 行書の基本

第3回 項目 行書（蔵鋒について）

第4回 項目 行書（祭姪文原から学ぶ）

第5回 項目 行書（祭姪文原から学ぶ）

第6回 項目 篆書（基本点画） 行書（課題）

第7回 項目 篆書 篆刻（印稿）

第8回 項目 篆刻（印稿） 行書（空海の書）

第9回 項目 篆刻（印稿・布字） 行書（空海の書）

第10回 項目 篆刻（運刀）

第11回 項目 隸書（基本点画） 篆刻（運刀）

第12回 項目 草書

第13回 項目 楷書（背勢）

第14回 項目 楷書（向勢）

第15回 項目 楷書（方筆）

●教科書・参考書 教科書：特に指定しない。教材はプリントを配布する。／参考書：講義の中で適宜紹介する。

●メッセージ 根気が大切です。上手、下手ではなく、懸命な努力が魅力あるものに変えていくことを考えなおさなくては意味がありません。安易に書いても進歩しません。書を通じて何ものかを掴んでくれることを期待します。通年なので、油断しないで頑張ってください。書道ノートを作成し、毎回の講義内容を記録、整理しておくこと。

●連絡先・オフィスアワー 0836-58-5236

開設科目	生涯学習概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	北川健				

●授業の概要 生涯学習体系の論理と意義、その導入、体系化の経緯、進展の現状などを概説する。また生涯学習の公的支援を前提に、それに必要な知識・方法を伝える。あわせて社会教育の基本を教える。／  
検索キーワード 生涯学習支援

●授業の一般目標 (1) 生涯学習の論理と意義を理解する。(2) 生涯学習の体系と展開を知る。(3) 生涯学習展開の日本の特質をわきまえる。(4) 生涯学習支援に必要な基本的知識を備える。(5) 社会教育の基本を知り、これに即した判断を培う。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：生涯学習の基本的な事項について説明できる。思考・判断の観点：生涯学習の理念や体系に即した思考と判断ができる。関心・意欲の観点：生涯学習の支援にみずから取り組むことが出来る。態度の観点：生涯学習の意義を理解し、学習支援の意思と態度を持つ。技能・表現の観点：生涯学習支援の基本に即して能力を発揮できる

●授業の計画(全体) 配付資料をテキスト代わりとする。時に実際的な理解のため、OHP 投影写真も用いる。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 生涯学習論の登場と受容
- 第 2 回 項目 生涯学習の政策的推進
- 第 3 回 項目 生涯学習振興法の特質
- 第 4 回 項目 生涯学習体系の地域的編成
- 第 5 回 項目 大学での生涯学習対応
- 第 6 回 項目 職能上の再教育制度
- 第 7 回 項目 学習機会提供の拡大
- 第 8 回 項目 日本型生涯学習の特質
- 第 9 回 項目 生涯各期の学習傾向と課題
- 第 10 回 項目 学習支援の基本と方法
- 第 11 回 項目 参加体験学習と学習ボランティア
- 第 12 回 項目 社会教育と社会教育法 1
- 第 13 回 項目 社会教育と社会教育法 2
- 第 14 回 項目 生涯学習批判論からの指摘
- 第 15 回 項目 期末試験

●成績評価方法(総合) 1 毎回小テストを行い、出席を確認するとともに、理解度を把握する。2 期末試験の成績を基本に、1 を参考にして総合的に評価する。

●教科書・参考書 教科書：なし／参考書：別途指示

●メッセージ 「宿題・授業外レポート」は成績評価(全体 100 パーセント)のうち 5 パーセントとして評価する。「授業の態度・授業への参加度」は斟酌条件とする。

開設科目	博物館概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	坪郷英彦				
<p>●授業の概要 学芸員資格を目指す学生のために博物館の歴史、政策、仕事を概説する。市民参加型博物館の意味を理解し、自ら活動するための方向性を把握する。／検索キーワード 博物館・学芸員・展示・博物館法・文化財保護法</p> <p>●授業の一般目標 博物館は資料を収集・保管・展示し、一般の人々への利用に供し、調査研究するところと考え、具体的な内容について人文系博物館を中心に示していきます。大は国立の博物館のシステム、小さいところでは市町村立、私立の博物館・資料館のシステムまで様々ありますが、具体的事例を示しながら学芸員の役割について明らかにします。各博物館 や文部科学省のホームページにアクセスしながらより理解を深めたいと思います。</p> <p>●授業の到達目標／ 知識・理解の観点：博物館に関する基本的項目の説明ができる。 思考・判断の観点：法律、制度の基本を理解し行動や判断の基本とすることができる。 関心・意欲の観点：博物館活動の社会的役割を理解し、自らの専門との関連性を認識することができる。 態度の観点：学芸員社会的役割を理解し自らの行動と結びつけることができる。 技能・表現の観点：自らの企画を的確に表現できる。</p> <p>●授業の計画（全体） 次の5つの側面から講義を行う（1）博物館の歴史、（2）博物館に関する政策と法律、（3）博物館の機能、（4）博物館の仕事、学芸員の仕事、（5）博物館での企画と展示</p> <p>●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 博物館とは何か 内容 授業全体のガイダンス。博物館の仕事の流れを示す。</p> <p>第 2 回 項目 博物館の法律 内容 博物館法を読む。</p> <p>第 3 回 項目 博物館の歴史1 内容 ヨーロッパ・アメリカの博物館史 授業外指示 インターネットで博物館の検索を予習として行う。</p> <p>第 4 回 項目 博物館の歴史2 内容 日本の博物館前史</p> <p>第 5 回 項目 博物館の歴史3 内容 日本の博物館-明治から現代まで</p> <p>第 6 回 項目 行政の中の博物館1 内容 社会教育施設として 授業外指示 文部科学省・文化庁のホームページ検索の宿題</p> <p>第 7 回 項目 行政の中の博物館2 内容 博物館関連予算（国と地方公共団体）</p> <p>第 8 回 項目 文化財保護法と博物館 内容 文化財保護法を読む</p> <p>第 9 回 項目 地域振興と博物館 内容 伝産法、新農業基本法他との関連について</p> <p>第 10 回 項目 学校教育と博物館 内容 小中学校総合科目と学芸員の協力関係について 授業外指示 インターネットでの総合科目事例の検索の宿題</p> <p>第 11 回 項目 展示企画とデザイン 内容 学芸員に必要な企画力について 授業外指示 博物館のホームページデザインの分析宿題</p> <p>第 12 回 項目 博物館における情報管理 内容 情報のデジタル化と資料データの基本的扱い方</p> <p>第 13 回 項目 博物館の事例紹介 内容 北海道開拓記念館・国立民族学博物館・萩博物館他</p> <p>第 14 回 項目 博物館の新しい方向 内容 市民参加型博物館・エコミュージアム</p> <p>第 15 回 項目 全体のまとめ</p> <p>●成績評価方法（総合） 出席を重視する。中間と期末の2回のレポートを予定。この評点と出席によって総合的評価をする。</p> <p>●教科書・参考書 教科書：博物館学概論, 中村たかを編, 源流社, 1996 年／参考書：テーマに沿ってその都度紹介する。文献コピーを配布する。</p> <p>●メッセージ これからは学芸員に専門的能力とともに企画力、表現力、情報処理能力が求められています。積極的な授業態度を期待します。宿題でインターネット検索を行うので、情報コンセント接続に慣れておくことが望ましい。</p>					

●連絡先・オフィスアワー Email [hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:hide.tsu@yamaguchi-u.ac.jp) 電話 5239、研究室 213 オフィスアワー 木曜日 10：00～12：00

開設科目	博物館学各論 I	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	渡辺一雄				

●授業の概要 学芸員資格取得に必要な必修科目のひとつである「博物館資料論」を中心に講義する。「博物館資料論」は、博物館資料の収集・整理保管・展示等に関する知識・技術の習得を図るもので、講義では、併せて、博物館資料としての文化財を取りあげ、文化財保護のしくみやその取り扱いについてもふれる。／検索キーワード 学芸員 博物館 文化財

●授業の一般目標 博物館資料の取り扱いに関する知識・技術の習得を図る。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 博物館と学芸員 内容 授業のガイダンス 博物館と学芸員に関する復習
- 第 2 回 項目 博物館資料とは 内容 博物館資料の定義と意義
- 第 3 回 項目 収集と整理・保管 内容 資料の収集方針と取得 資料の記録 整理と収蔵
- 第 4 回 項目 保存 内容 展示室・収蔵庫の保存 環境
- 第 5 回 項目 修復 内容 伝統的修復技術と保存科学
- 第 6 回 項目 活用 I 内容 展示の意義と種類
- 第 7 回 項目 活用 II 内容 展示以外の活用
- 第 8 回 項目 調査・研究 内容 博物館における調査研究活動の意義
- 第 9 回 項目 博物館と情報 内容 情報機器・情報環境
- 第 10 回 項目 考古資料 内容 考古資料の特質と取り扱い
- 第 11 回 項目 民族資料 内容 民族資料の特質と取り扱い
- 第 12 回 項目 文書 内容 文書資料の特質と取り扱い
- 第 13 回 項目 文化財保護のしくみ I 内容 文化財の種類 文化財保護制度
- 第 14 回 項目 文化財保護のしくみ II 内容 博物館と文化財
- 第 15 回 項目 試験

●成績評価方法 (総合) 期末試験および授業態度（出席など）で評価する。

●教科書・参考書 教科書：博物館資料論, 樹村房；資料も配付する。／参考書：授業中に紹介する。

●連絡先・オフィスアワー watanabe@baiko.ac.jp



開設科目	博物館学各論 II	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	北川健				

●授業の概要 今日、博物館の先端的課題は「事業化（経営化）」と「学習化（参入受容）」「情報化」にある。その見地から「マネージメント」「教育普及」「行財政制度」など科目「博物館経営論」の諸項目、および「博物館情報論」の概要について講述する。また諸外国の博物館の社会的基盤を通覧することで、日本博物館の特質と将来などを考えるよすがとする。／検索キーワード 博物館学 学芸員

●授業の一般目標 (1) 博物館「経営論」「情報論」登場の意義を理解する。(2) 博物館の「生涯学習化」の進展について理解する。(3) 博物館の経営形態とその運営のあり方を知る。(4) 外国博物館の社会的基盤についても知る。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：博物館の経営や情報の基本的事項について知っている。思考・判断の観点：博物館について経営論や情報論と関連づけて考えることができる。関心・意欲の観点：博物館関係の情報や文献に関心を持ち、博物館への問題意識を持つ。態度の観点：展覧会を観覧したり、博物館でのボランティアも体験したりしている。技能・表現の観点：センスある短文やイラスト表現を伴った広報案などが企画できる。

●授業の計画（全体） 配付資料をテキスト代わりにして、実際的な認識を図るため、OHP による投影写真を多用する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 博物館の事業化と学習化（1）
- 第 2 回 項目 博物館の事業化と学習化（2）
- 第 3 回 項目 博物館の事業化と館職員（1）
- 第 4 回 項目 博物館の事業化と館職員（2）
- 第 5 回 項目 博物館の事業化と行財政制度（1）
- 第 6 回 項目 博物館の事業化と行財政制度（2）
- 第 7 回 項目 博物館の事業化と行財政制度（3）
- 第 8 回 項目 博物館の事業化と行財政制度（4）
- 第 9 回 項目 博物館のインフラ化と民営化（1）
- 第 10 回 項目 博物館のインフラ化と民営化（2）
- 第 11 回 項目 各国博物館の社会的基盤（1）
- 第 12 回 項目 各国博物館の社会的基盤（2） 授業外指示。
- 第 13 回 項目 博物館の情報と情報化（1）
- 第 14 回 項目 博物館の情報と情報化（2）
- 第 15 回 項目 期末試験

●成績評価方法（総合） 1 毎回「ワークシート」と称する小テストを行い、出席確認をするとともに理解度を把握する 2 中間時点で課題を出し、作成物の提出を求める場合もありうる。 3 期末テストを行い、その成績と 1, 2 を参考にして総合的に評価する。

●教科書・参考書 教科書： 使用しない／参考書： 別途紹介

●メッセージ 授業の参加度については斟酌条件とする。

開設科目	図書館概論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	加藤 宏文				

●授業の概要 新しい「学習指導要領」が示され、「生きる力」としての真の「学力」が、改めて問い直されようとしている。中で、その中核には、「総合的な時間」の設定に代表される「問題解決的学習」への指向が、顕著である。たとえば、環境問題・国際理解・福祉などを、学習者の主体的な活動を通して達成することが求められている。これらは、図書館、とりわけ学校図書館が他館とのネットワークのもと、「司書」の専門性を保証することを抜きには、考えられない。「学校図書館」に「司書」の孕み持つ問題を考え合っていく。／検索キーワード 学校図書館・司書

●授業の一般目標 「情報化社会」における光と影とを総合的に認識することを前提にして、「教育改革」の混迷の中で、学校経営や教育課程の改変が、学校図書館の本質に、どのような影響を与えようとしているのかを、まず理解する。その上で、「図書館の自由に関する宣言」・「学校図書館法」・「倫理綱領」等を踏まえて、「司書」の捉える具体的な問題点を整理し、学習者が主体的に展望を持つことを求める。

●授業の計画（全体） 1.「情報化社会」の意義について、考慮する。 2. 学校図書館司書教諭の諸問題について、考察する。 3.「図書館の自由に関する宣言」の精神を認識する。 4.「情報化社会」におけるプライバシーについて、認識する。 5. 多文化社会の中での「図書館」の意義役割について認識する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 「情報化社会」の光と影とを見据える。
- 第 2 回 項目 「教育改革」の中の学校経営を考える。
- 第 3 回 項目 「司書」を通して学校経営を考える。
- 第 4 回 項目 教育過程の変遷と学校図書館との関係を考える。
- 第 5 回 項目 「図書館の自由＜BR＞に関する宣言」＜BR＞は、「学校図書＜BR＞館法」に何を求＜BR＞めているのか。
- 第 6 回 項目 「学校図書館」経営の原点は、どこにあるのか。
- 第 7 回 項目 「学校図書館」経営の実際を考える。
- 第 8 回 項目 「学校図書館」にとって、ネット・ワークとは何か。
- 第 9 回 項目 情報公開とプライバシーとは、どう関わるのか。
- 第 10 回 項目 学校文化の創造拠点として、「学校図書館」は、何をなすべきか。
- 第 11 回 項目 国際化社会に生きる「学校図書館」とは何か。
- 第 12 回 項目 学校で、どのような「司書」になるのか。
- 第 13 回 項目 演習（1）
- 第 14 回 項目 演習（2）
- 第 15 回 項目 試験

●教科書・参考書 教科書：特に使用しない。／参考書：講義の中で、随時紹介していく。

●メッセージ 随時「理解」と展望との成果を「表現」することを求めつゝ「評価」を重ね、後半3次に亘り、論述を求める。遅刻者の入室は許可しない。

開設科目	図書館資料論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	加藤 宏文				

●授業の概要 情報化・国際化社会の「進歩」につれて、私たちは、分量と種類と速さにおいて、未曾有の「情報」(資料)にとり囲まれている。これらを収集・提供する側に立って、図書館には、どのような変革が求められているのか。その組織化を前提として、収集および提供には、どのような問題が生じつつあるのか。「IT革命」の実際を吟味する中で、人と人との関係から考察をする。／検索キーワード 資料・コレクション

●授業の一般目標 資料(情報)の歴史的なあり方を大観した上で、収集の実際に即してその構築の仕方、評価のあり方を理解する。その上で、提供とのかかわりにおいて、「図書館の自由」は現在、どのような現実に直面しているかをも吟味し、出版・流通界の激変にも対応できる理念と方法とを獲得する。

●授業の計画(全体) 1. 図書館にとって「資料」とは何であるのかを認識する。 2. 「資料」の類型とその収集の方法について、認識する。 3. 「資料」の収集・提供の自由について、認識する。 4. 特に学校図書館にとっての「資料」の収集提供について考察する。 5. 出版・流通界の変革の中での「資料」について考察する。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 図書館には、どんな仕事があるのか。
- 第 2 回 項目 情報は、どのように記録されてきたのか。
- 第 3 回 項目 資料には、どのような種類があるのか。
- 第 4 回 項目 資料の類型には、どのような特質があるのか。
- 第 5 回 項目 資料には、どのような収集法があるのか。
- 第 6 回 項目 コレクションは、どのように構築されるのか。
- 第 7 回 項目 コレクションには、どのような問題が生起するのか。
- 第 8 回 項目 コレクションは、どのように評価されつづけるのか。
- 第 9 回 項目 収集・提供に、「自由」はどのように関わるのか。BR
- 第 10 回 項目 収集・提供の「自由」は、どのような事例を生んできたのか。
- 第 11 回 項目 出版・流通界の変革は、収集・提供にどのような影響を与えているのか。
- 第 12 回 項目 学校図書館は、どのように収集・提供をしているのか。
- 第 13 回 項目 学校図書館は、どのような収集・提供を求められているのか。
- 第 14 回 項目 情報化・国際化は、収集と・提供との間に何をもたらしているのか。
- 第 15 回 項目 図書館で、何を使命として務めるのか。

●教科書・参考書 教科書：特に使用しない。／参考書：講義の中で、随時紹介していく。

●メッセージ 随時「理解」と展望との成果を「表現」することを求めつつ、「評価」を重ね、後半、数次に亘り、論述を求める。遅刻者の入室は、許可しない。

開設科目	生涯学習施設経営論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	大森 善一				

●授業の概要 生涯学習の振興、図書館サービスの充実を図る視点から図書館経営に係る組織、管理運営、予算、事業計画等企画立案ができるよう専門的な知識習得について解説する。

●授業の一般目標 図書館司書としての自覚と教養を高め、卒業後、図書館界において活躍できる人材を養成したい。

●授業の計画（全体） 図書館政策をまず行政面から解説し、図書館経営にかかわった実務経験に基き人事、組織、予算、事業計画等について解説する。また、図書館の経営とは教育機関としての特性に基づくサービスを果たすための諸条件とは何か。その諸条件の整備から生まれる効果が、どのような効率を地域社会にもたらすかを明らかにしようとする試みが大切である。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 図書館の現状と課題 内容 公共図書館の各年度別の活動実績とこれからの活動方針
- 第 2 回 項目 図書館経営の視点 内容 図書館経営とは何か図書館が教育機関としての専門性
- 第 3 回 項目 図書館と地方自治体 内容 行政組織の中における図書館
- 第 4 回 項目 地方自治体法規と図書館 内容 法令・条例・規則
- 第 5 回 項目 予算の編成と執行 内容 図書館予算の編成方法とその適正な予算執行
- 第 6 回 項目 図書館施設・設備の充実と物品管理 内容 施設の維持、物品の管理図書館資料の除籍
- 第 7 回 項目 図書館資料の収集整理、保存、提供 内容 選書、発注、受入、分類、目録、配架までの手順
- 第 8 回 項目 図書館資料の収集整理、保存、提供 内容 選書、発注、受入、分類、目録、配架までの手順
- 第 9 回 項目 図書館経営における館長の職責 内容 館長の役割と経営方針職員体制の確立
- 第 10 回 項目 職員の研修 内容 専門職としての位置づけ図書館職員の職責＜BR＞図書館ボランティアとのかかわり
- 第 11 回 項目 図書館サービスの評価と計画 内容 図書館サービスの現状分析図書館サービスの計画と実行
- 第 12 回 項目 図書館サービス計画の実行と評価 内容 計画実現のための条件づくり自己学習
- 第 13 回 項目 教育機関施設 内容 図書館、美術館、博物館、民族資料館等行政と地方議会とのかかわり
- 第 14 回 項目 図書館とコンピューター 内容 図書館除法ネットワークの構築
- 第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合） 期末試験及び出席日数によって評価する。出席が所定の日数に満たない者は不合格とする。

●教科書・参考書 教科書： 図書館経営論, 竹内紀吉, 東京書籍

開設科目	資料特論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	北川 健				

●授業の概要 図書館など公的な資料保存施設での近世文献資料の取扱い業務を前提に、書誌学や古文書学の初歩を学ぶとともに、主として和本の読み方や軸物資料の扱い方の基本を教える。読み方は変体仮名を主体に『女（おんな）大学』を読み始められる程度までを目標とする。

●授業の一般目標 1 近世文献資料の公的保存施設の役割を理解する。 2 近世文献資料にかかわる書誌学的な初歩知識をもつ。 3 近世文献資料にかかわる古文書学的な初歩知識をもつ。 4 近世文献資料の読み方について初歩的な練習をする。

●授業の到達目標／知識・理解の観点： 和本や古文書の基本的な事項について説明できる。 思考・判断の観点： 和本や古文書について基本的な扱い方があることをわきまえる。 関心・意欲の観点： 近世文献資料の内容を少しでも理解しようと初歩的にも取り組むことができる。 態度の観点： 近世文献資料の意義を理解し、これらを大切に扱おうとする態度をもつ。 技能・表現の観点： 変体仮名の基礎的な読み方ができる。

●授業の計画（全体） 配付資料をテキスト代わりとする。時に実際的な理解のため、OHP 投影写真やVTR も用いる。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 近世文献資料保存施設の法的根拠と機能
- 第 2 回 項目 近世文献資料取扱い業務の実際
- 第 3 回 項目 書誌学から見た和装本の体裁と様式（1）
- 第 4 回 項目 書誌学から見た和装本の体裁と様式（2）
- 第 5 回 項目 古文書学による古文書の見方の基本
- 第 6 回 項目 変体仮名の字源と読み方の基本（1）
- 第 7 回 項目 変体仮名による韻律文の読み方（1）
- 第 8 回 項目 変体仮名による韻律文の読み方（2）
- 第 9 回 項目 変体仮名による韻律文の読み方（3）
- 第 10 回 項目 御家流による草書体漢字の読み方
- 第 11 回 項目 近世の女性書簡（候文）の読み方（1）
- 第 12 回 項目 近世の女性書簡（候文）の読み方（2）
- 第 13 回 項目 貝原益軒『女大学』の一部を読む
- 第 14 回 項目 近世の歴史的用語と用字の読み方
- 第 15 回 項目 期末試験

●成績評価方法（総合）（1）毎回小テストを行い、出席を確認するとともに、理解度を把握する。（2）期末試験の成績を基本に（1）を参考にして総合的に評価する。 評価割合備考：期末試験は100～95%、小テストは場合により5%、出席は小テスト成績に含む。

●教科書・参考書 参考書： 別途指示。

●メッセージ 「小テスト・授業内レポート」及び「宿題・授業外レポート」の成績評価（全体100パーセント）の割合として各5パーセントとして考えます。 授業態度・授業への参加度は斟酌条件とします。

開設科目	図書館サービス論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	大森 善一				

●授業の概要 利用者と直接関わる図書館サービスの意義、その役割と活動状況の認識、資料の選択・収集・整理・提供のシステム等、図書館サービスの充実を図るため、その専門的な知識の習得について解説する。

●授業の一般目標 図書館司書としての自覚と教養を高め、卒業後、図書館界において活躍できる人材を養成したい。

●授業の計画（全体） 利用者と図書館の接点から解説し、図書館サービスの意義、利用者対象別等、具体的に説明し、図書館の最大の使命である図書館サービスの重要性について解説する。また、図書館に対する社会の要請も時代によって変化し、新しいサービスが生まれる。これら地域社会のニーズによって図書館サービスを充実させることが大切である。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 図書館の現状と課題 内容 公共図書館の各年度別の活動実績とこれからの活動方針
- 第 2 回 項目 図書館サービスの意義 内容 図書館の社会的な機能 図書館サービスの内容と種類
- 第 3 回 項目 図書館サービスと図書館資料 内容 図書館資料の種類 各種資料の特徴とサービス
- 第 4 回 項目 図書館資料の提供準備 内容 資料の選択、収集、整理、保存、提供のシステム
- 第 5 回 項目 図書館資料の提供準備 内容 資料の選択、収集、整理、保存、提供のシステム
- 第 6 回 項目 図書館資料の提供 内容 資料提供の意義 読書案内、予約、リクエスト、レファレンスサービスの重要性
- 第 7 回 項目 貸出と閲覧 内容 貸出の意義 閲覧とは何か 利用環境の整備
- 第 8 回 項目 複写サービスと著作権法 内容 複写サービスの意義 著作権法第 31 条にかかわる問題点
- 第 9 回 項目 利用者対象別と図書館サービス 内容 図書館と生涯教育とのかかわり 児童、一般人、高齢者、障害者へのサービス
- 第 10 回 項目 図書館サービスと著作権 内容 貸出と著作権の問題 視聴覚資料と著作権の問題
- 第 11 回 項目 教育、文化活動 内容 広報活動、集会事業
- 第 12 回 項目 図書館の相互協力 内容 図書館間の協力のあり方とその必要性
- 第 13 回 項目 図書館サービスの課題 内容 サービス変化の要因 生涯学習に適応したサービス
- 第 14 回 項目 図書館サービスと職員（司書）の意欲 内容 司書としてのプライド
- 第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合） 期末試験及び出席日数によって評価する。出席が所定の日数に満たない者は不合格とする。

●教科書・参考書 教科書：図書館サービス論, 前園主計編著, 東京書籍

開設科目	資料組織概説	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	加藤 宏文				

●授業の概要 情報化・国際化社会の「進歩」につれて、私たちは分量と種類と速さにおいて、未曾有の「情報」にとりまかされている。この混迷の中で、地域や民族の独自性を尊重しつつ、かつグローバルな価値を追求するためには、「情報」にどう対処するか、その具体的なスタンスや方法が、厳しく問われている。図書館における収集と提供の「自由」を活かすための資料の「組織」法の具体を考え合う。／検索キーワード 資料・組織

●授業の一般目標 資料が「組織」されなければならない理由を理解した上で、その制御の具体的なあり方に触れ、標準化のもたらす長短を考察する。さらに、具体的に各人の主題意識を確認した上で、「組織」の実態に迫りつつ、検索・分類・キーワード・件名などの関係を吟味し、その改善方法を獲得し合う。

●授業の計画（全体） 1. 情報化・国際化の中で「資料」とは何なのかを認識する。 2. 「資料」を「組織」することの意義を認識する。 3. 「書誌」による標準化がもたらす限界を認識する。 4. 「主題」によるアクセスへの対応の実際について実践する。 5. 自らの学習・研究生活の中で、「資料」「組織」の方法を改革する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 情報化・国際化社会において、「資料」とは何か。
- 第 2 回 項目 「資料」は、なぜ「組織」されるようになったのか。
- 第 3 回 項目 情報化技術は、「組織」化に何をもたらしたのか。
- 第 4 回 項目 「書誌」を制御する。
- 第 5 回 項目 「制御」の国際標準化は、何をもたらしたのか。
- 第 6 回 項目 「目録」は、どのように改善されてきたのか。
- 第 7 回 項目 情報化・国際化社会の中で、主題意識を確かにする。
- 第 8 回 項目 主題で情報を制御できるのか。
- 第 9 回 項目 情報を分類する。
- 第 10 回 項目 「分類」には、どんな工夫があるのか。
- 第 11 回 項目 主題検索・分類目録・キーワード・件名目録の関係を、吟味する。
- 第 12 回 項目 「シソーラス」は、専門分野をどう整理するのか。
- 第 13 回 項目 「非統制語」観は、どんな問題を提起するのか。
- 第 14 回 項目 データベースをネットワークに生かす。
- 第 15 回 項目 「資料」を「組織」したら、何が可能になるのか。

●メッセージ 随時、「理解」と展望との成果を「表現」することを求めつゝ「評価」を重ね、後半数時に亘って、「組織」の実際を工夫することを求める。遅刻者の入室は許可しない。

開設科目	情報サービス概説	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	大森 善一				

●授業の概要 図書館業務推進の中で資料提供、情報サービスは重要な領域として値する。特に図書館における情報サービスの意義、方法、情報源について学習する。またレファレンスサービス、情報検索サービス等について総合的に解説する。

●授業の一般目標 図書館司書として自覚と教養を高め、卒業後、図書館界において活躍できる人材を養成したい。

●授業の計画（全体） 図書館における情報サービスの意義を明らかにし、レファレンスサービス等についても総合的に解説する。また参考図書を選択収集、検索の知識と資料提供の実際を解説する。レファレンスサービスとは何かを明にし、その業務内容、情報源の種類もあわせて解説する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 図書館の現状と課題 内容 公共図書館の各年度別の活動実績とこれからの活動方針
- 第 2 回 項目 情報サービスの意義 内容 情報サービスの内容とその必要性
- 第 3 回 項目 情報サービスと図書館 内容 情報サービスとレファレンスサービス 図書館とのかかわり
- 第 4 回 項目 情報サービス業と図書館サービス 内容 情報の利用 情報ニーズの種類 書誌サービス
- 第 5 回 項目 図書館におけるレファレンスサービス 内容 直接サービスと間接サービス レファレンスサービスの業務内容
- 第 6 回 項目 情報源とレファレンス・コレクション 内容 情報源とその書類 館内・外の情報源レファレンスブックの選択収集
- 第 7 回 項目 レファレンス質問とレファレンスプロセス 内容 レファレンス質問の意義 質問者と応答者のかかわり方 回答状の制約
- 第 8 回 項目 質問の受付と内容の確認 内容 質問受付票への記録 口頭、電話、文書
- 第 9 回 項目 探索方略と質問の分析 内容 探索方略の意義と検討及び方式
- 第 10 回 項目 探索の手順と情報源の入手 内容 探索の一般的な手順 未解決の問題
- 第 11 回 項目 回答の提供と事後処理 内容 回答の適切さ 回答サービス後の事務処理
- 第 12 回 項目 レファレンス質問とその解決資料 内容 レファレンスブックからの情報源の検索 総記、哲学、宗教、歴史、社会科学、自然科学
- 第 13 回 項目 レファレンス質問とその解決資料 内容 工学、技術、産業、芸術、スポーツ、語学、文学
- 第 14 回 項目 図書館間の情報サービス相互利用の活用 内容 図書館間の情報入手により質問者への回答サービスを模索する。
- 第 15 回 項目 まとめ

●成績評価方法（総合） 期末試験及び出席日数によって評価する。 出席が所定の日数に満たない者は不合格とする。

●教科書・参考書 教科書： 問題解決のためのレファレンスサービス, 長沢雅男, 日本図書館協会



開設科目	情報機器論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	村田孝子				

●授業の概要 本授業では、文系にふさわしいコンピュータの基礎知識を得るとともに、それをどのように活用していったら良いかということ学ぶ。／検索キーワード コンピュータの構造、ハードウェア、ソフトウェア、データ表現、文字処理、オペレーティング・システム

●授業の一般目標 (1) コンピュータを扱う上で最低限知っておかなくてはならない情報処理概論(文系向きに) (2) 図書館や博物館の中で、どのように役立てていくかを主体的に考えることができる。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 ガイダンス 内容 半年を通じて行わなければならない手順などの手順説明 重要!! 授業外指示 このガイダンス時に出席のなかった者は履修を認めません。

第 2 回 項目 図書館・博物館とコンピュータ

第 3 回 項目 コンピュータの基礎知識 内容 ハードウェアについて

第 4 回 項目 コンピュータの基礎知識 内容 ハードウェアについて

第 5 回 項目 コンピュータの基礎知識 内容 情報の表現方法

第 6 回 項目 コンピュータの基礎知識 内容 情報の表現方法

第 7 回 項目 コンピュータの基礎知識 内容 文字コードについて

第 8 回 項目 テスト実施

第 9 回 項目 コンピュータの基礎知識 内容 オペレーティング・システム

第 10 回 項目 コンピュータの基礎知識 内容 オペレーティング・システム

第 11 回 項目 ネットワークの仕組み 内容 インターネットの仕組み

第 12 回 項目 ネットワークの仕組み 内容 インターネットの仕組み

第 13 回 項目 テストの実施

第 14 回 項目 図書館・博物館での情報機器の活用

第 15 回 項目 テストの実施

●教科書・参考書 教科書: Webですべて提供／参考書: その都度紹介

●メッセージ 情報処理に関する基礎知識という内容ですが、コンピュータの操作に関する内容ではありません。

●連絡先・オフィスアワー 授業支援システムの中の「質問」を使用して下さい。

開設科目	レファレンスサービス演習	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	松本 敬吉				

●授業の概要 レファレンスサービスは、図書館利用者の情報要求に応じ、適切な情報ないし情報源を提供、あるいはそれらの入手方法について指導・援助するサービスです。本講では、主要な参考図書やデータベースの実際を解説します。また、附属図書館所蔵のそれらを利用し、参考質問の回答演習を行います。有用なホームページ・データベースの実際も学習し、参考書誌の作成演習も行います。／検索キーワード 情報リテラシー、参考業務、参考図書、情報検索、インターネット検索

●授業の一般目標 1. 各種レファレンス・ツール（電子情報を含む）を知り、その活用方法を理解する。2. 参考質問（例題）に回答し、レファレンスツールの理解を深める。3. 参考書誌を作成する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 図書館のレファレンスサービスについて
- 第 2 回 項目 主要参考図書の解説
- 第 3 回 項目 主要図書館のホームページの実際
- 第 4 回 項目 主要データベースの実際
- 第 5 回 項目 インターネット検索の実際
- 第 6 回 項目 課題演習（レポート作成）
- 第 7 回 項目 課題演習（レポート作成）
- 第 8 回 項目 課題演習（レポート作成）
- 第 9 回 項目 課題演習（レポート作成）
- 第 10 回 項目 課題演習（レポート作成）
- 第 11 回 項目 参考業務の実際
- 第 12 回 項目 課題演習回答の評価
- 第 13 回 項目 課題演習回答の評価
- 第 14 回 項目 レファレンス三題噺
- 第 15 回 項目 定期試験

●成績評価方法（総合）成績評価方法—定期試験、宿題／授業外レポート

●教科書・参考書 教科書：情報源としてのレファレンス・ブックス6 訂版, 長沢雅男, 日本図書館／参考書：情報と文献の検索 第3版, 長沢雅男, 丸善；大学生と図書館 第3版, 日本図書館研究会；文科系学生のインターネット検索術, 大串夏身, 青弓社

●メッセージ あなたが興味をもつ主題について、あるいはその主題の周辺について、先人が調査研究を行い、情報を発信しています。それらを把握した上で更に発展させるために情報リテラシーを高めてください。研究の重複をできるだけ避けたいものです。履修上の注意 司書資格を取得しても、図書館員になれるチャンスはあまりありません。大学生活は限られています。自分の専門分野を深めるための時間を十分にとられることを希望します。ただ、情報化社会、特に大学においては「情報」に関する知識は必須です。卒業後の人生において、情報リテラシーを身につけておくことは無題にならないと考えます。

●連絡先・オフィスアワー e-mail kmatu@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp TEL 083-972-6952

開設科目	情報検索演習	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	村田孝子				

●授業の概要 コンピュータやネットワーク技術、情報記録媒体の発展は、図書館活動に多大な影響を与えています。また、従来の検索方式に加えて CD-ROM による検索、通信回線利用のオンライン検索、インターネット利用による情報検索と多様化してきています。このような現状の中で、多くの情報からの的確な情報を探し出すテクニックである「情報検索」が最近とみに重要視されてきました。この授業では、「情報を検索する」意味やその手段を学んでいきます。そして、図書館業務の中での「情報検索の役割」がどのような位置にあるのかを学んでいきたいと思っています。／検索キーワード 知的活動、情報検索、検索技術、コンピュータ、ネットワーク

●授業の一般目標 情報検索では、キーワードの設定が非常に重要です。そのキーワードについての基礎知識と効率的な使い方学ぶことを目標としています。また、調べるコツのようなものを習得する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 この授業のガイ＜BR＞ダンス（授業の＜BR＞方針、授業支援＜BR＞システムの使い＜BR＞方） 授業外指示 受講登録を行う＜BR＞ので、第 1 週目＜BR＞に欠席の者は履＜BR＞修できません。

第 2 回 項目 情報検索の必要性

第 3 回 項目 インターネットでの情報検索

第 4 回 項目 情報の分類と種類

第 5 回 項目 演習問題とその解説および小テスト実施

第 6 回 項目 データベースの基礎知識

第 7 回 項目 データベースの基礎知識

第 8 回 項目 キーワードの概念

第 9 回 項目 キーワードの概念

第 10 回 項目 検索に要する技術

第 11 回 項目 検索に要する技術

第 12 回 項目 演習問題とその解説および小テスト実施

第 13 回 項目 図書館での情報検索

第 14 回 項目 情報検索の動向

第 15 回 項目 総合テスト

●成績評価方法（総合）小テスト：50% 電子ノートの提出：40% 出席：10%

●教科書・参考書 教科書：Web 上で提供／参考書：授業内で指示

●メッセージ この授業は、ノートテキングを重要視しています。また、単元の区切りごとにテストを行います。情報処理に関する基礎知識を必須としていますので、1 年次に必ず操作に関する基礎知識をマスターしておいてください。出席管理、小テスト、レポート提出管理等は全てコンピュータで行います。質問や連絡したいことがあったら、授業内で利用する授業支援システムを使用して下さい。

●連絡先・オフィスアワー 授業支援システムの「質問」コーナーを使ってください。

開設科目	資料組織演習	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	4 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教員	松本敬吉				

●授業の概要 前期に資料目録法演習を、後期に資料分類法演習を行います。 資料目録演習法では主として「日本目録規則」に基づいて、各種の図書館資料についてそれぞれの記述・標目・配列を演習します。「書架配架法」や「主題牽引法」(件名目録法、シソーラス)についても開設します。／検索キーワード  
資料目録法、資料分類法、件名目録法、シソーラス

●授業の一般目標 1. 日本目録規則(記述・標目・配列)を理解・修得する。 2. 日本十進分類法を理解し修得する。 3. 主題検索法を理解する。

●授業計画(授業単位)／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 日本目録規則
- 第 2 回 項目 記述に関する総則
- 第 3 回 項目 タイトルと責任表示の記述
- 第 4 回 項目 版、資料の特性、出版・頒布、形態等の記< BR >述
- 第 5 回 項目 シリーズ、注記、標準番号等の記述
- 第 6 回 項目 標目総則およびタイトル標目
- 第 7 回 項目 著者標目、件名標目、分類標目
- 第 8 回 項目 和書の日録作成演習
- 第 9 回 項目 和書の日録作成演習
- 第 10 回 項目 和書の日録作成習
- 第 11 回 項目 洋書の日録作成演習
- 第 12 回 項目 逐次刊行物の目録作成演習
- 第 13 回 項目 目録の機械化
- 第 14 回 項目 排列
- 第 15 回 項目 定期試験
- 第 16 回 項目 NDC の構成
- 第 17 回 項目 形式区分
- 第 18 回 項目 地理区分、海洋区分
- 第 19 回 項目 言語区分、言語共通区分、文学共通区分
- 第 20 回 項目 一般分類規定
- 第 21 回 項目 特殊分類規定(人文科学)
- 第 22 回 項目 特殊分類規定(人文科学)
- 第 23 回 項目 特殊分類規定(社会科学)
- 第 24 回 項目 特殊分類規定(社会科学)
- 第 25 回 項目 特殊分類規定(自然科学)
- 第 26 回 項目 特殊分類規定(自然科学、総記)
- 第 27 回 項目 図書館記号法・別置法
- 第 28 回 項目 件名目録法
- 第 29 回 項目 シソーラス
- 第 30 回 項目 定期試験

●成績評価方法(総合) 定期試験、宿題／授業外レポート

●教科書・参考書 教科書：資料組織演習, 吉田憲一編, 日本図書館協会；日本目録規則(改訂2版), , 日本図書館協会, 1997年；日本十進分類法(第九版), , 日本図書館協会；基本件名標目標(第4版), , 日本図書館協会；「日本目録規則」「日本十進分類法」「基本件名標目表」は図書館の「三種の神器」です。特に「日本十進分類法」講義時に使用しますので必ず入手してください。(生協にて販売)／参考

書：資料組織法（第5版），志保田務、高鷲忠美，第一法規；和書目録法入門，柴田正美編，日本図書館協会；大学生と図書館（第3版），，日本図書館研究会；英米目録規則（第2版），，日本図書館協会

- メッセージ 司書資格を取得しても、図書館員になれるチャンスはあまりありません。大学生活は限られています。自分の専門分野を深めるための時間を十分にとらえることを希望します。ただ、情報社会、特に大学において「情報」に関する知識は必須です。人生において、情報リテラシーを身につけておくことは無駄にならないと考えます。

- 連絡先・オフィスアワー e-mail kmatu@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp TEL 083-972-6952

開設科目	専門資料論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	前期
担当教員	島中 弘				

●授業の概要 今日のような変化の激しい社会では、適切で有効な情報を検索する能力は不可欠である。情報資源によって「情報にアクセスし、検索する方法」を知ることが重要になっている。図書館で提供できる情報は、記録された資料に基づく情報である。／検索キーワード 情報リテラシーをもつ人のための文献情報活用法

●授業の一般目標 図書館で扱う情報資源（資料）やツールが多様化し、それを「使いこなす」ためのスキルや知識も多様化している。必要な情報を必要な形で正確・適切・迅速に提供することにある。学習や問題解決に活用し得るような情報資源をベースにした学習プロセスが、効率的に展開できることを期待したい。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 生涯学習と情報リテラシー、そして図書館
- 第 2 回 項目 図書・学術雑誌の定義
- 第 3 回 項目 専門資料の意義、生産、種類、性格
- 第 4 回 項目 人文科学の概念と特性
- 第 5 回 項目 社会科学の概念と特性
- 第 6 回 項目 自然科学の概念と特性
- 第 7 回 項目 工学・技術の概念と特性
- 第 8 回 項目 人文科学情報の種類と特性
- 第 9 回 項目 社会科学情報の種類と特性
- 第 10 回 項目 自然科学情報の種類と特性
- 第 11 回 項目 工学・技術情報の種類と特性
- 第 12 回 項目 人文科学の主要な一次資料と二次資料
- 第 13 回 項目 社会科学の主要な一次資料と二次資料
- 第 14 回 項目 自然科学、工学・技術の主要な一次資料と二次資料
- 第 15 回 項目 専門資料とメディアの多様化

●成績評価方法（総合）成績評価方法－宿題／授業外レポート、授業態度や授業への参加度、出席

●教科書・参考書 教科書：『専門資料論』改訂版（新・図書館学シリーズ；8）、戸田光昭ほか、樹村 房、2002年10月、1900円／参考書：『専門資料論』（新・現代図書館学講座；9）、中森強、東京書籍、1998.1 『年刊参考図書解説目録 1990-2005』、日外アソシエーツ編・刊、各年版

●メッセージ (1) 遅刻・欠席をしないように健康管理に充分留意すること。(2) 出席カードを配付して、出席状況を把握する。(3) 授業内容が広範囲にわたるので、授業中の説明・解説を理解し易くするため予習・復習を実行すること。

●備考 集中授業

開設科目	児童サービス論	区分	講義	学年	配当学年なし
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教員	佐々木 鶴代				

●授業の概要 公共図書館における児童を対象とする各種サービス、児童資料、児童サービスの運営について総合的に解説する。特に児童資料については、できるだけ多くの資料に触れて適資料を選ぶ眼を養う。ヤングアダルトサービスについても解説する。理解を助けるため VTR を適宜使用する。／検索キーワード 児童図書館 児童サービス

●授業の一般目標 1. 児童サービスの基本理念と実際の業務、技術を学習することにより、公共図書館における「児童サービスとは何か」基本的な事項を理解する。 2. 児童資料についての理解を深める。

●授業の到達目標／知識・理解の観点：児童サービスについて総合的に説明できる。思考・判断の観点：児童資料の選択ができる。各児童に適したサービスができる。関心・意欲の観点：児童と公共図書館についての関心を広げる。態度の観点：児童と公共図書館について主体的に考える。技能・表現の観点：児童書の書評が書ける。考えを文章化できる。

●授業の計画（全体） ・授業は、教科書を使用し、講義形式で行い、適宜 VTR を視聴する。 ・必要に応じ児童図書を持参し紹介する。 ・毎回、授業に関する事項を記述し、提出してもらう。疑問点は次回説明する。

●授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

第 1 回 項目 オリエンテーション 教科書販売（書店が教室で販売する。） 内容 授業の目標と進め方 授業に挑む態度 成績評価の方法

第 2 回 項目 1. 児童サービスの意義 内容 1-1 児童サービスの重要性 1-2 児童サービスの概要 1-3 児童サービスの歴史 1-4 児童図書館員の専門性

第 3 回 項目 2. 児童の成長と発達段階 内容 赤ちゃんから、高校生までの発達段階をたどる。授業外指示 公共図書館で赤ちゃん絵本に目を通してみる。

第 4 回 項目 3. 児童図書の特性と選択方針、基準 内容 3-1 絵本 3-2 創作児童文学 授業外指示 公共図書館から各種絵本を借りて目を通してみる。

第 5 回 項目 3. 児童図書の特性と選択方針、基準 内容 3-3 昔話その他の伝承文学 3-4 詩 授業外指示 児童文学、昔話、詩の本を読んでみる。

第 6 回 項目 3. 児童図書の特性と選択方針、基準 内容 3-5 ノンフィクション 3-6 知識の本、レファレンスサービス 3-7 その他の資料 授業外指示 ノンフィクション 知識の本 レファレンスブックスを読んでみる。

第 7 回 項目 4. ヤングアダルトのための資料 内容 4-1 ヤングアダルトサービスについて 4-2 ヤングアダルトのための資料 授業外指示 公共図書館にヤングアダルトコーナー又はティーンズコーナーがあるかみてる。

第 8 回 項目 5. 児童サービスの実際と技術 内容 5-1 書評とブックリストの作成方法 5-2 児童サービスの実際を知るためのビデオ視聴

第 9 回 項目 5. 児童サービスの実際と技術 内容 5-3. ストーリーテリング 5-4 読みきかせ 5-5 ブックトーク 授業外指示 公共図書館で行われている「お話会」「お話の部屋」…等見学して見る。

第 10 回 項目 5. 児童サービスの実際と技術 内容 5-6 ブックトークの実際を知るためのビデオ視聴

第 11 回 項目 6. 児童サービスの運営 内容 6-1 資料の収集、整理、管理 6-2 資料提供 6-3 フロアワーク 授業外指示 公共図書館では児童資料がどのように配架されているかみてる。

第 12 回 項目 6. 児童サービスの運営 内容 6-4 レファレンスサービス 6-5 集会、行事、展示、PR 6-6 フロアワーク

第 13 回 項目 6. 児童サービスの運営 内容 6-7 連携・協力を理解するための「調べ学習」支援のビデオ視聴

第14回 項目 全体のまとめ

第15回 項目 試験 内容 最終授業時間に B-4 一枚に記述式試験を行う。

- 成績評価方法 (総合) ・毎回、B6 用紙又は A5 用紙に授業に関する事項について記述し、提出する。 ・最終授業時間に B4 一枚に記述式の試験をする。 ・児童書に関するレポートを提出する。(書評の書き方は授業時に説明する。) 以上を総合的に評価する。 なお、出席が所定の回数に満たない者には、単位を与えない。
- 教科書・参考書 教科書： 児童サービス論, 堀川照代 編著, 日本図書館協会出版, 1998 年; 講義の中で紹介します。図書館から借りて読み、参考にしてください。
- メッセージ 幼児期からヤングアダルトまでを対象とする資料(絵本・文学・ノンフィクション・調べ学習のための情報源……等)が多く出版されています。できるだけ多く、実際に手に取って見ることを希望します。今まで気付かなかった面白さや楽しさを発見できるでしょう。
- 備考 隔年開講